

KANIDA UNI

平成13年度

# 講義概要 神田外語大学

- 国際コミュニケーション学科
- 国際言語文化学科

OF  
INTERNATION

# 目 次

## 国際コミュニケーション学科

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 1. 外国語科目 .....              | 1   |
| 1) 英語科目 .....               | 1   |
| 2) 日本語科目 .....              | 4   |
| <br>                        |     |
| 2. 基礎科目 .....               | 7   |
| <br>                        |     |
| 3. 研究科目 .....               | 68  |
| 1) ヒューマン・コミュニケーション科目 .....  | 68  |
| 2) 言語コミュニケーション科目 .....      | 94  |
| 3) コンピュータ・コミュニケーション科目 ..... | 107 |
| 4) 国際研究科目 .....             | 119 |
| 5) 日本研究科目 .....             | 135 |

## 国際言語文化学科

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 1. 外国語科目 .....     | 165 |
| 1) 英語科目 .....      | 165 |
| 2) 日本語科目 .....     | 168 |
| 3) 地域言語科目 .....    | 171 |
| <br>               |     |
| 2. 基礎科目 .....      | 175 |
| <br>               |     |
| 3. 研究科目 .....      | 242 |
| 1) 地域研究科目 .....    | 242 |
| 2) 国際研究科目 .....    | 258 |
| 3) 日本研究科目 .....    | 283 |
| <br>               |     |
| 平成13年度休講科目 .....   | 313 |
| 平成13年度集中講義科目 ..... | 313 |

# 国際コミュニケーション学科

## 1. 外国語科目

### 1) 英語科目

|                    |  |      |
|--------------------|--|------|
| Freshman English I |  | 4 単位 |
|                    |  | 1 年  |
|                    |  | 前期   |

The Freshman English course is an integrated skills course which aims to develop students' overall proficiency. The course requires a lot of interaction in the classroom. The studying is based on thematic units. Each unit includes a variety of activities and assignments which aim to improve English skills.

|                     |  |      |
|---------------------|--|------|
| Freshman English II |  | 4 単位 |
|                     |  | 1 年  |
|                     |  | 後期   |

The Freshman English course is an integrated skills course which aims to develop students' overall proficiency. The course requires a lot of interaction in the classroom. The studying is based on thematic units. Each unit includes a variety of activities and assignments which aim to improve English skills.

|                        |       |
|------------------------|-------|
| <b>R e a d i n g I</b> | 2 单 位 |
|                        | 1 年   |
|                        | 前 期   |

The Reading class focuses on the development of reading skills, strategies and vocabulary. The reading materials are mainly non-fiction texts dealing with world issues. Extensive reading outside the classroom will also be required.

|                         |       |
|-------------------------|-------|
| <b>R e a d i n g II</b> | 2 单 位 |
|                         | 1 年   |
|                         | 後 期   |

The Reading class focuses on the development of reading skills, strategies and vocabulary. The reading materials are mainly non-fiction texts dealing with world issues. Extensive reading outside the classroom will also be required.

|                        |       |
|------------------------|-------|
| <b>W r i t i n g I</b> | 2 単 位 |
|                        | 1 年 期 |
|                        | 前 期   |

The students study the structure of English paragraphs and essays. The second half of the course deals with the writing of research papers.

|                         |       |
|-------------------------|-------|
| <b>W r i t i n g II</b> | 2 単 位 |
|                         | 1 年 期 |
|                         | 後 期   |

The students study the structure of English paragraphs and essays. The second half of the course deals with the writing of research papers.

## 2) 日本語科目

|             |                      |       |
|-------------|----------------------|-------|
| 日 本 語 基 礎 I | たか さき みちよ<br>高 崎 三千代 | 4 単 位 |
|             |                      | 1～4年  |
|             |                      | 前 期   |

留学生が大学で学習・生活するために必要な聴解の技術を養成することを目的とする。日本語の発話を聞き取る際に問題となる点を説明しながら、講義を聞いたり情報収集をする訓練を具体的に積んでいく。必要に応じ、円滑なやり取りや効果的なノートの取り方など、「話す」「書く」活動も行なう。

評価方法：出席、参加態度、宿題、定期試験

テキスト名：未定

|              |                      |       |
|--------------|----------------------|-------|
| 日 本 語 基 礎 II | たか さき みちよ<br>高 崎 三千代 | 4 単 位 |
|              |                      | 1～4年  |
|              |                      | 後 期   |

留学生が大学で学習・生活するために必要な聴解の技術を養成することを目的とする。日本語の発話を聞き取る際に問題となる点を説明しながら、講義を聞いたり情報収集をする訓練を具体的に積んでいく。必要に応じ、円滑なやり取りや効果的なノートの取り方など、「話す」「書く」活動も行なう。授業内容は春学期とほぼ同じ内容。

評価方法：出席、参加態度、宿題、定期試験

テキスト名：未定。

|             |              |       |
|-------------|--------------|-------|
| 日 本 語 基 礎 Ⅲ | あおき<br>青木ひろみ | 4 単 位 |
|             |              | 1～4年  |
|             |              | 前 期   |

留学生が日本の大学で授業を受けるために必要な長文の読解、及び要約の技術を養うことを目的とする。この授業では、読解のストラテジーを身に付けながら、話し言葉とは異なる文法、文体、表現について学ぶ。また、書かれたものから情報を収集、整理し、答案や課題として提出されるレポートについてまとめられるよう練習を重ねていく。授業では留学生の希望も取り入れていく。

評価方法：出席、参加態度、課題、小テスト、定期試験

テキスト名：(未定) 初回の授業で留学生と相談のうえで決める。

|             |              |       |
|-------------|--------------|-------|
| 日 本 語 基 礎 Ⅳ | あおき<br>青木ひろみ | 4 単 位 |
|             |              | 1～4年  |
|             |              | 後 期   |

留学生が日本の大学で授業を受けるために必要な長文の読解、及び要約の技術を養うとともに、自律学習ができるようになることを目的とする。留学生それぞれの必要に応じて、新聞記事や専門書などから情報を収集したうえで、自分の考えをまとめ小論文が書けるよう練習を重ねる。また、短編小説、エッセーなどから日本人の生活や感情表現についても考えていく。授業では留学生の希望も取り入れていく。

評価方法：出席、参加態度、課題、小テスト、定期試験

テキスト名：(未定) 初回の授業で留学生と相談のうえで決める。

# 日本語総合講座 A・B

ほり うち こ  
堀 内 みね子

|       |
|-------|
| 4 単 位 |
| 1～4 年 |
| 前期・後期 |

留学生が日本の大学で講義を受け、研究を進めていくために必要な日本語力を総合的に養うことを目的とする。専門書を読み、講義を聴き、授業やゼミで発表したりする技能を伸ばすことを中心にして、必要な手順を具体的に踏みながら進めていく。最終的に各自が選んだテーマについて調査し、レポートを作成し研究発表を行いたい。

評価方法：出席、自主的参加態度、宿題、定期試験、研究発表

テキスト名：未定（初回授業で発表）

## 2. 基礎科目

|           |      |
|-----------|------|
| 基礎演習－1～27 | 2 単位 |
|           | 1 年  |
|           | 前期   |

本演習では、演習形式を通じて、大学における学修・研究の基礎の習得を目指します。具体的には、テキストの読み方、文献の検索の仕方、データの処理法、発表に対する準備や心構え、レポート作成の方法、大学における研究生活のあり方等の基礎的・実践的オリエンテーションを図ると共に、様々な専門分野の教員が分担することによって多彩且つ広い学問的関心を引き起こし、知的・学問的オリエンテーションを行うことをねらいとします。

以上の目的に基づき、各教員が自らの専門を生かした教育内容を独自に組み立てて授業を行うこととなります。

※ 2単位必修。4単位まで履修可。前期必修となる演習はクラスを指定しますが、後期の演習は自由選択クラスとなります。

|         |            |      |
|---------|------------|------|
| 基礎演習－28 | ふな だ きょう こ | 2 単位 |
|         | 舟 田 京 子    | 1 年  |
|         |            | 後 期  |

最近、随分身近に感じるようになったアジア。しかしまだアジアを深く知る機会が少ない。そこで本演習ではアジア、特に東南アジアを中心とした文化、歴史、社会に的を定めて学習する。

その方法として、インターネットで世界中からどの程度インドネシア、マレーシア等の東南アジア諸国に関する知識を得ることができるか、実体験してもらい、その中から各自がテーマを決め、発表してもらおう。その後、その発表についてディスカッションを行う。またその発表内容にディスカッション後の変更、訂正、追加等を行い、レポートとしてまとめ提出してもらおう。アジアを中心とする国際関係にも目を向けたい。

評価方法：出席、授業態度、発表内容、レポートを総合的に判断し、評価する。

テキスト名：なし。

|           |  |       |
|-----------|--|-------|
| 基礎演習 — 29 | ふじ<br>藤<br>た<br>田<br>とも<br>知<br>こ<br>子 | 2 単 位 |
|           |  | 1 年 期 |
|           |  | 後 期   |

### 口頭発表とレポートの作成

言語に興味をもつ人のための基礎演習です。

岡本夏木 (1982) 『子どもとことば』(岩波新書) をテキストとし、分担を決めて、内容を要約・解説してもらいます。その上で学生が中心となって討論し、そこから自分が興味をもつ問題を見つけだし、学期末にレポートとしてまとめます。

評価方法：口頭発表、討論への参加度、および、レポートにより総合的に評価します。

テキスト名：岡本夏木 (1982) 『子どもとことば』岩波新書

|           |                              |       |
|-----------|------------------------------|-------|
| 基礎演習 — 30 | たか<br>高<br>ぎ<br>木<br>こう<br>耕 | 2 単 位 |
|           |                              | 1 年 期 |
|           |                              | 後 期   |

教科書中心の学習をしてきた高校生までの教育とは違い、大学生は多数の書籍や新聞・雑誌、ホームページなどから情報を入手し、自分の意見を構築していかなければならない。授業の中では、あふれる情報の中からどのようにして必要な情報だけを選択し、どのように整理し、どのように「自分の意見」としてまとめていくかというテクニックを、講師の指導の下訓練していく。

取り扱うテーマは、「異文化体験」、「発展途上国事情」を中心とするが、基本的には各受講生が自分で選ぶものとする。

評価方法：出席状況、レポート、発表による総合的な評価

テキスト名：必要に応じて参考文献を紹介する

|            |                |       |
|------------|----------------|-------|
| 基礎演習 - 3 1 | いとう けい<br>伊藤 敬 | 2 単 位 |
|            |                | 1 年 期 |
|            |                | 後 期   |

## 人間の社会的形成

ヘレン・ケラーの『私の生涯』を基にして、私たちが社会の中でひとりの人間として多様な人々との関わりを通してどのように形成されていくかを考察しようとする。時代と社会の相違を認識しながら、現在の自分を振り返ってみる。三重苦といわれるヘレン・ケラーから、われわれは思いがけない多くの観点や事柄を気づかされるに違いない。それを明らかにすることを目標とする。

評価方法：レポート提出。出欠席を考慮する。

テキスト名：ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳 『わたしの生涯』 角川文庫 角川書店

注意事項：受講生は20人までとする。

|            |                      |       |
|------------|----------------------|-------|
| 基礎演習 - 3 2 | みな がわ こう いち<br>皆川 厚一 | 2 単 位 |
|            |                      | 1 年 期 |
|            |                      | 後 期   |

①論文／レポートの作成方法の指導。②資料収集の方法。地域研究に必要なフィールドワークの基本的技術（写真撮影、録音等）の説明。③学生各自に自由なテーマを選ばせ、小規模な演習を課す。

評価方法：演習の結果を評価する。出欠席を考慮する。

テキスト名：テキスト無し。

|            |                    |       |
|------------|--------------------|-------|
| 基礎演習 — 3 3 | ひ つかつ し<br>樋 笠 勝 士 | 2 単 位 |
|            |                    | 1 年 期 |
|            |                    | 後 期   |

自分の意見や考えを他人に分かるように表現することは、大学の研究において、例えばゼミやレポート、そして(卒業)論文などにおいて重要であるのみならず、広く一般的に他人とのコミュニケーションにおいても当然深く関わるものである。この基礎演習では、このようなコミュニケーションについての広い見地から、自分の見解を(主観的に自己本位的にではなく)客観的に論理的に表現できるようになることを目指す。そのために、政治・社会・文化・芸術などの様々な分野の事例を素材にして、それに対して自分独自の「言説」を作る練習をしたい。

評価方法：成績の評価は、出席率・平常の学習態度・提出物などを総合的に判断する。

テキスト名：なし

|         |                    |           |
|---------|--------------------|-----------|
| 歴史学 I A | さい とう とおる<br>齋 藤 融 | 2 単 位     |
|         |                    | 1 ~ 4 年 期 |
|         |                    | 前 期       |

#### 日本古代史〈武士の発生から武士政権の成立〉

日本における中世国家の形成とは、律令制国家の解体の過程でもある。古代的社会が変質し、新たな秩序の担い手として武士が歴史の舞台に登場する。その具体的な様相を概観して日本史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：武士とは何か／律令国家の軍事制度／蝦夷征討／平将門の乱／藤原純友の乱／平忠常の乱／前九年・後三年の役／保元の乱・平治の乱／源平合戦／鎌倉幕府

評価方法：論述試験、平常点

テキスト名：保立 道久『岩波ジュニア新書 平安時代』岩波書店  
五味 文彦『岩波ジュニア新書 武士の時代』岩波書店

|            |            |          |       |
|------------|------------|----------|-------|
| 歴 史 学 II A | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位 |
|            |            |          | 1～4 年 |
|            |            |          | 後 期   |

### 日本中世史〈武士政権の展開〉

治承寿永の内乱を経て源頼朝は鎌倉幕府を開き、ここに本格的な武士政権が誕生する。東国政権から出発して徐々に京都の公家政権から実権を奪って全国政権としての実質を備えるようになるが、中世社会の具体的な様相を概観して日本中世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：鎌倉幕府の組織／承久の乱／執権政治／得宗専制政治／元寇／鎌倉新仏教／倒幕運動／建武新政／南北朝の動乱／室町幕府

評価方法：論述試験、平常点

テキスト名：五味 文彦『岩波ジュニア新書 武士の時代』岩波書店

|           |            |          |       |
|-----------|------------|----------|-------|
| 歴 史 学 I B | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位 |
|           |            |          | 1～4 年 |
|           |            |          | 前 期   |

### 日本近世史〈江戸幕府の成立〉

日本における近世国家の形成は、中世的秩序の解体によって開始された。中世的社会が応仁の乱などを契機に群雄割拠・下剋上の社会に移行し、混乱の中で新たな秩序が形成されていく。その具体的な様相を概観して日本近世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：応仁の乱／戦国大名／織田信長と豊臣秀吉／関ヶ原／江戸幕府の成立／大坂の陣／島原の乱と鎖国／元禄時代／新井白石の時代

評価方法：論述試験、平常点

テキスト名：朝尾 直弘『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑧ 天下一統』小学館  
 深谷 克己『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑨ 土農工商の世』小学館

|            |            |          |         |
|------------|------------|----------|---------|
| 歴 史 学 II B | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位   |
|            |            |          | 1 ~ 4 年 |
|            |            |          | 後 期     |

### 日本近世史〈幕藩体制の展開〉

日本における近世の国制は幕藩体制と称され、戦乱の終息と鎖国によって比較的安定した時代であった。商品貨幣経済の浸透により自給自足制が崩れていき、様々な矛盾を内包しつつ体制の維持を模索する。その具体的な様相を概観して日本近世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：享保の改革／田沼意次時代／寛政の改革／外国船の来航／化政文化／天保の改革／黒船来航／安政の大獄／大政奉還

評価方法：論述試験、平常点

テキスト名：竹内 誠『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑩ 江戸と大坂』小学館  
 青木美智男『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑪ 近代の予兆』小学館  
 石井 寛治『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑫ 開国と維新』小学館

|           |         |          |         |        |         |
|-----------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 I C | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単 位   |
|           |         |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |         |          |         |        | 前 期     |

### 20世紀世界史概観

20世紀の世界全体の歴史を記述した一冊の歴史書を読み進める形式の授業である。取り上げる本は、エリック・ホブズボウム (Eric Hobsbaum) の著書『極端な時代』(“AGE OF EXTREMES”)。「短い20世紀 1914～1991」の副題を持つこの大著を読んで、世界現代史と20世紀の人類について総合的理解を持つことの無謀な挑戦を敢えて試みたい。文字通り現代世界をまるごと相手にして格闘するので教師も学生も大仕事だが、その“大変さ”を逆に生かして興味の続く授業の形を工夫したい。前期の授業では二つの世界戦争が中心になる。

評価方法：レポート、期末試験などを組み合わせて評価する。

テキスト名：テキストについては授業での指示を待つこと。

|            |                        |           |
|------------|------------------------|-----------|
| 歴 史 学 II C | やま りょう けん じ<br>山 領 健 二 | 2 単 位     |
|            |                        | 1 ~ 4 年 期 |
|            |                        | 後 期       |

**20世紀世界史概観**

20世紀の世界全体の歴史を記述した一冊の歴史書を読み進める形式の授業である。取り上げる本は、エリック・ホブズボウム (Eric Hobsbaum) の著書『極端な時代』(“AGE OF EXTREMES”)。「短い20世紀 1914～1991」の副題を持つこの大著を読んで、世界現代史と20世紀の人類について総合的理解を持つことの無謀な挑戦を取って試みたい。文字通り現代世界をまるごと相手にして格闘するので教師も学生も大仕事だが、その“大変さ”を逆に生かして興味の続く授業の形を工夫したい。後期の授業では20世紀後半の社会と文化の激変が中心になる。

評価方法：レポート、期末試験などを組み合わせて評価する。

テキスト名：テキストについては授業での指示を待つこと。

|           |                   |           |
|-----------|-------------------|-----------|
| 歴 史 学 I D | かつら よし き<br>桂 芳 樹 | 2 単 位     |
|           |                   | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                   | 前 期       |

**<ルネサンス史> XV世紀前半**

現代ヨーロッパ世界の基本的原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。北イタリア3都市国家の発展と初期資本主義の形成／フィレンツェの古典ギリシア文献学受容／書記官文化・市民的実践倫理としての初期人文主義／フランスの後期百年戦争と「中世の秋」／「聖なる狂気」：ジャンヌ・ダルクと魔女現象／ヴェネツィアの地中海貿易とムスリム文化の流入／プレスター・ジョン伝説とポルトガル・エンリケ航海王子の海洋探険／フィレンツェのメディチ家支配とルネサンス芸術の革新／ルネサンス精神の精華：サンタ・マリア大聖堂／ルネサンス教皇権の確立と宗教的協和運動の行方：コンスタンツ、バーゼル公会議／東西両教会統一フィレンツェ公会議：ビザンツ・ヘレニズム文明との遭遇／写本蒐集と古代思想の復活：プラトン主義、新プラトン主義、ヘルメス主義、教父哲学／新たな問題意識：「人間の尊厳」「宇宙における人間の位置」／ニコラウスV世の世界政策とローマの都市計画

評価方法：期末試験、平常点、出席状況など総合する。定期試験には教科書持ち込み可。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注意事項：内容的には通年授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|            |          |         |        |         |
|------------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 II D | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位   |
|            |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|            |          |         |        | 後 期     |

### ＜ルネサンス史＞ XV 世紀前半

現代ヨーロッパ世界の基本的な原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。北イタリア 3 都市国家の発展と初期資本主義の形成／フィレンツェの古典ギリシア文献学受容／書記官文化・市民的実践倫理としての初期人文主義／フランスの後期百年戦争と「中世の秋」／「聖なる狂気」：ジャンヌ・ダルクと魔女現象／ヴェネツィアの地中海貿易とムスリム文化の流入／プレスター・ジョン伝説とポルトガル・エンリケ航海王子の海洋探険／フィレンツェのメディチ家支配とルネサンス芸術の革新／ルネサンス精神の精華：サンタ・マリア大聖堂／ルネサンス教皇権の確立と宗教的協同運動の行方：コンスタンツ、バーゼル公会議／東西両教会統一フィレンツェ公会議：ピザンツ・ヘレニズム文明との遭遇／写本蒐集と古代思想の復活：プラトン主義、新プラトン主義、ヘルメス主義、教父哲学／新たな問題意識：「人間の尊厳」「宇宙における人間の位置」／ニコラウス V 世の世界政策とローマの都市計画

評 価 方 法：期末試験、平常点、出席状況など総合する。定期試験には教科書持ち込み可。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。人数制限は行わない。授業中、携帯電話、I モードの使用厳禁。

|           |          |         |        |         |
|-----------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 I E | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位   |
|           |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |          |         |        | 前 期     |

### ＜ルネサンス史＞ XV 世紀後半

現代ヨーロッパ世界の基本的な原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。1453 年の東ローマ帝国の滅亡と百年戦争の終結／国際的危機対応のためのニコラウス V 世・コジモ主導によるイタリア五大国体制の構築／ルネサンスの技術革新：航海技術、印刷術、銃砲／初期ルネサンスを導いた各界指導者の交代と時代精神の転換／市民的人文主義から超越論的人文主義へ／フィレンツェ・プラトン・アカデミーの設立／宗教的普遍運動とナショナリズムの擡頭／スイス誓約同盟、ブルゴーニュ戦争、スペイン統一、フランスの中央集権化／ヴェネツィア・トルコをめぐる国際危機／争乱の 70 年代：パッツィの乱とシクストゥス戦争／黄金の 80 年：ロレンツォ豪華公時代の芸術と文化／新プラトン主義・ヘルメス主義の制覇：フィチーノとピコ／芸術の内面化、「根源的形象界」の図像としての芸術／ルネサンス宇宙論と占星術の発展／地理上の発見／「イタリアの平和」の終焉：シャルル VIII 世のイタリア侵略／イタリア・ルネサンス文化の全ヨーロッパ的光被。

評 価 方 法：筆記試験、平常点、出席状況などにより総合評価する。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年の授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。人数制限は行わない。授業中、携帯電話、I モードの使用厳禁。

|            |          |         |        |         |
|------------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 II E | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位   |
|            |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|            |          |         |        | 後 期     |

＜ルネサンス史＞ XV 世紀後半

現代ヨーロッパ世界の基本的な原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。1453年の東ローマ帝国の滅亡と百年戦争の終結／国際的危機対応のためのニコラウスV世・コジモ主導によるイタリア五大国体制の構築／ルネサンスの技術革新：航海技術、印刷術、銃砲／初期ルネサンスを導いた各界指導者の交代と時代精神の転換／市民的人文主義から超越論的人文主義へ／フィレンツェ・プラトン・アカデミーの設立／宗教的普遍運動とナショナリズムの擡頭／スイス誓約同盟、ブルゴーニュ戦争、スペイン統一、フランスの中央集権化／ヴェネツィア・トルコをめぐる国際危機／争乱の70年代：パッツィの乱とシクストゥス戦争／黄金の80年：ロレンツォ豪華公時代の芸術と文化／新プラトン主義・ヘルメス主義の制覇：フィチーノとピコ／芸術の内面化、「根源的形象界」の凶像としての芸術／ルネサンス宇宙論と占星術の発展／地理上の発見／「イタリアの平和」の終焉：シャルルⅧ世のイタリア侵略／イタリア・ルネサンス文化の全ヨーロッパ的光被。

評価方法：筆記試験、平常点、出席状況などにより総合評価する。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注意事項：内容的には通年の授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|         |        |         |         |        |         |
|---------|--------|---------|---------|--------|---------|
| 哲 学 I A | ひ<br>樋 | かさ<br>笠 | かつ<br>勝 | し<br>士 | 2 単 位   |
|         |        |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|         |        |         |         |        | 前 期     |

人間は皆孤独である。決して他人の心は見えないし、言語などを使って可能な限り内面を伝達しようと（あるいは聞き取ろうと）しても、完全に同じものを共有することは不可能である。その上「私」からしか世界は見えない。どのようにしても客観的な立場、第三者的な立場、自分の価値観を離れた立場に立つことはできない。どのように考えても常に「私」が存在し、つきまとい、しかもその「私」というフィルターを通じてしか世界は見えてこないからである。このように考えてくると、「社会」や「友人」や「恋人」や「言語」や「コミュニケーション」や「同じ経験」といったものは一体何のために成立し、或いは、どうして成立しているのであろうか。もしかしたら、その成立は幻想なのであるか。もしそうなら、どうして幻想という資格で成立しているのであろうか。或いは、もしかしてそれは、幻想ではなくて、そのような「一致」や「共有」を実現しうる（または、実現の可能性を信じられる）論拠をもっているのであろうか。

このような問題を皆で考えてゆきたいと思う。授業は人数が少なければゼミ形式をとる予定である。

評価方法：試験で判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

|          |                |           |
|----------|----------------|-----------|
| 哲 学 II A | ひ 桶 かつ 笠 勝 し 士 | 2 単 位     |
|          |                | 1 ~ 4 年 期 |
|          |                | 後 期       |

前期の問題意識を前提にして、人間の絶対的孤独やその克服の可能性等の問題を、具体的なテキストを読むことで、解釈学的に探究してゆきたい。できれば、学生諸君の問題意識を共有するために、ゼミ形式やディスカッションを取り入れて、一方的な講義にならないようにしたい。

評 価 方 法：出席状況、平常の学習態度、提出物、試験等で総合的に判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

注 意 事 項：原則として、「哲学 I A」を履修し、単位を取得した者のみに受講資格があるものとする。

|         |                |           |
|---------|----------------|-----------|
| 哲 学 I B | ふる た ぎょう 古 田 暁 | 2 単 位     |
|         |                | 1 ~ 4 年 期 |
|         |                | 前 期       |

今日のように価値観が多様化し、文化が一国、一地域に限られず、世界が正に Village となりつつある時代において、最も必要とされているのは、効率や即効性ではない、多面的な判断である。知識の断片の集積ではなく、総合的判断力と大局観の把握である。明瞭な解答がない問題についても思考を重ねる論理の追求である。

このような知のあり方を提供するのが哲学であろう。I、IIともプラトンの作品を読みたい。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：追って報らせる。

|          |         |        |          |         |
|----------|---------|--------|----------|---------|
| 哲 学 II B | ふる<br>古 | た<br>田 | ぎょう<br>暁 | 2 単 位   |
|          |         |        |          | 1 ~ 4 年 |
|          |         |        |          | 後 期     |

今日のように価値観が多様化し、文化が一国、一地域に限られず、世界が正に Village となりつつある時代において、最も必要とされているのは、効率や即効性ではない、多面的な判断である。知識の断片の集積ではなく、総合的判断力と大局観の把握である。明瞭な解答がない問題についても思考を重ねる論理の追求である。

このような知のあり方を提供するのが哲学であろう。I、IIともプラトンの作品を読みたい。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：追って報らせる。

|         |        |         |         |        |         |
|---------|--------|---------|---------|--------|---------|
| 哲 学 I C | ひ<br>樋 | かさ<br>笠 | かつ<br>勝 | し<br>士 | 2 単 位   |
|         |        |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|         |        |         |         |        | 前 期     |

「哲学とは何か」という問いを、「教養とは何か」という問いに絡ませて考えてみたい。それを、以下のような講義の構成で進めていきたい。

- 1) イントロダクション：「知への愛」としての哲学
- 2) 哲学の外側：広義の哲学としての教養活動（パイディア）
- 3) 哲学と教養と恋：プラトンの場合
- 4) 哲学と教養と学問：アリストテレスの場合
- 5) 大学の成立と教養：「大学」とは何か

評価方法：試験で判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

|          |                |         |
|----------|----------------|---------|
| 哲 学 II C | ひ 桶 かつ 笠 勝 し 士 | 2 単 位   |
|          |                | 1 ~ 4 年 |
|          |                | 後 期     |

「哲学とは何か／教養とは何か」という問いを掲げて、具体的な思想の理解を通じて、できるだけこれに答えることを目指す。前期の概説を踏まえて、後期は特殊講義を行う。また、テキストを読みながら哲学の行為の現場を理解し、自分でもその実践に自然に入れるように自己鍛練する。従って、履修者には積極的な参加意識をもつことが要求される。

評 価 方 法：出席状況・授業態度・試験等総合的に判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

注 意 事 項：科目の性質上、「哲学 I B」を履修し単位を修得した者のみに受講資格があるものとする。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 I A | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 近代の「方向づけ」

われわれは日々、意識するしないにかかわらず、さまざまな「方向づけ」を受けつつ人間関係を営み、振る舞いを行なっている。本講義では、近代（現代）社会において機能している方向づけ・倫理について論じることしたい。取り上げるテーマは、「自由主義的個人主義」「近代家族」「競争社会」「自然」などである。

評 価 方 法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント、および「それから」（夏目漱石、角川文庫版）。

|            |                       |           |
|------------|-----------------------|-----------|
| 倫 理 学 II A | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位     |
|            |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|            |                       | 後 期       |

### ひとを「理解する」とはどういうことか

本講義では、「所有関係」と「他者理解」、また「恋愛」と「友情」を主題として取り上げ、これらにおける「言語」の機能や「時間性」のあり方を考察する。その際、知覚世界の論理（メロディや色彩の現われ方）について論じ参考とする。

評価方法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント。

|           |                       |           |
|-----------|-----------------------|-----------|
| 倫 理 学 I B | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位     |
|           |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                       | 前 期       |

### 近代の「方向づけ」

われわれは日々、意識するしないにかかわらず、さまざまな「方向づけ」を受けつつ人間関係を営み、振る舞いを行なっている。本講義では、近代（現代）社会において機能している方向づけ・倫理について論じることにはしたい。取り上げるテーマは、「自由主義的個人主義」「近代家族」「競争社会」「自然」などである。

評価方法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント、および「それから」（夏目漱石、角川文庫版）。

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 II B | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

ひとを「理解する」とはどういうことか

本講義では、「所有関係」と「他者理解」、また「恋愛」と「友情」を主題として取り上げ、これらにおける「言語」の機能や「時間性」のあり方を考察する。その際、知覚世界の論理（メロディや色彩の現われ方）について論じ参考とする。

評価方法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 I C | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 後 期     |

倫理学はきわめて古い学問である。しかし、一方でそれは現在の人々の問題を取り扱わなければいけない。また、倫理学は学問である以上、きちんと学んでいけば、すべての人間に了解されうる真理の表現でなければいけない。しかし、一方で倫理学は、時代も違えば、文化も違う、つまり生き方の違う社会に生きている個々の人の問題に答えなければならない。人間の生き方は、社会によって定められているが、一方では、各個人の問題である。

このように矛盾を含んだ問題を扱うためには、どのような知の在り方が求められるのだろうか。倫理学はわれわれにどのようなことを教えてくれるのか。倫理学は21世紀にも存在を許される学問なのか。近代、現代の重要な思想家の思想に学びつつ、現代の倫理について考える。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。必要に応じ、資料を配布する。

注意事項：授業の形態は基本的には講義。

授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|               |        |         |         |         |         |
|---------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 宗 教 学 I A ・ B | や<br>矢 | うち<br>内 | よし<br>義 | あき<br>顯 | 2 単 位   |
|               |        |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|               |        |         |         |         | 前 期     |

### 宗教現象の諸相

宗教学は、文化現象として、個人の諸々の行動や社会の場に現れている宗教を、客観的な立場から研究する学問である。もちろん、多種多様な宗教現象を網羅することは不可能に近いが、本講義では、諸宗教に見出される平行現象を取り上げ、宗教比較のための基本的観点を明らかにする。講義は以下のように進められる予定である。

- 1 宗教とは何か 2 聖なるもの 3 神と神々 4 神話と儀礼 5 清浄性の規定

評 価 方 法：成績の評価は、出席、試験ないしレポートを総合的に判断して評価する。

テキスト名：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

|                |        |         |         |         |         |
|----------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 宗 教 学 II A ・ B | や<br>矢 | うち<br>内 | よし<br>義 | あき<br>顯 | 2 単 位   |
|                |        |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|                |        |         |         |         | 後 期     |

### 世界の諸宗教

宗教学は、文化現象として、個人の諸々の行動や社会の場に現れている宗教を、客観的な立場から研究する学問である。もちろん、多種多様な宗教現象を網羅することは不可能に近いが、本講義では、個々の宗教をできるだけ取り上げ、それらの歴史的発展形態をたどることによって、諸宗教への理解を与えるようにする。取り上げる宗教は以下の通りである。

- 1 古代オリエントの宗教（メソポタミア・エジプト） 2 古代イスラエルの宗教  
3 古代ギリシアの宗教 4 古代インドの宗教（ヴェーダの宗教・仏教）  
5 キリスト教

評 価 方 法：成績の評価は、出席、試験ないしレポートを総合的に判断して評価する。

テキスト名：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

|             |                   |         |
|-------------|-------------------|---------|
| 文 学 I A ・ B | いい だ いさむ<br>飯 田 勇 | 2 単 位   |
|             |                   | 1 ～ 4 年 |
|             |                   | 前 期     |

### 「古事記」の神話

「古事記」を取りあげ、日本神話を概観する。日本最古の古典である「古事記」には、スサノヲの命によるヤマタノヲロチ退治や因幡の白兔の話などが載っていて、この書物を読むとだれでもどこか懐かしい思いをいだくだろう。しかし、その懐かしい話が、「古事記」という書物に、このようなかたちで記載されていることを知っている人は、かなり少ないに違いない。まず、「古事記」という書物にじかに触れ、存在のそのままを知ってほしい。また、「古事記」には、古典の始発の書物として、文学の様々な問題を考えるヒントがたくさんある。例えば、神話と伝説や昔話との違い、神話の主人公と小説の主人公の違いなども、「古事記」から学ぶことができることがらである。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：角川文庫「古事記」

|              |                   |         |
|--------------|-------------------|---------|
| 文 学 II A ・ B | いい だ いさむ<br>飯 田 勇 | 2 単 位   |
|              |                   | 1 ～ 4 年 |
|              |                   | 後 期     |

### 万葉の恋歌

文学Ⅱの講義では、特に「万葉集」の恋歌を中心に取りあげる。万葉の恋歌を読み、古代の日本人が、恋というもの、男女関係というものを、どのように考えてきたかなどを、文化史的に概観したい。ある意味で、恋や男女関係に関する、日本的な考え方のルーツを、「万葉集」の恋歌の有り様に求められないこともない。また、古代の官僚は、恋や女性についてどのような考え方をもっていたのだろうか。これなども、興味深い問題であり、万葉恋歌を読むことによって、ある程度わかる問題である。万葉の恋歌を丁寧に読み解きながら、日本の恋の文化について思いをめぐらしてみよう。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：教材は講義時に配布する。

|             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 文 学 I C ・ D | いの<br>井<br>うえ<br>上<br>まさ<br>正<br>あつ<br>篤 | 2 単 位 |
|             |  | 1～4年  |
|             |  | 前 期   |

「愛」、「罪」、「死」、「実存」等をキーワードに、青春小説の名作を鑑賞する。小説の細やかな読み込みと、人生を文学的、哲学的に深く考察することを体得されたい。映画化・ドラマ化された作品はそのビデオも鑑賞する。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度およびレポート（詳細は掲示）を総合的に判断して判定する。

テキスト名：サ ガ ン『悲しみよこんにちは』（新潮文庫）  
 石川 達三『青春の蹉跎』（新潮文庫）  
 その他 未定

|              |  |       |
|--------------|--|-------|
| 文 学 II C ・ D | いの<br>井<br>うえ<br>上<br>まさ<br>正<br>あつ<br>篤 | 2 単 位 |
|              |  | 1～4年  |
|              |  | 後 期   |

「愛」、「罪」、「友情」、「死」、「実存」等をキーワードに、夏目漱石の長編小説を鑑賞する。小説の細やかな読み込みと、人生を文学的、哲学的に深く考察することを体得されたい。映画化・ドラマ化された両作品のビデオも鑑賞する。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度およびレポート（詳細は掲示）を総合的に判断して判定する。

テキスト名：夏目漱石『それから』（岩波文庫）  
 夏目漱石『こころ』（岩波文庫）  
 その他 未定

## 美術交流史＜西洋に触発される日本の美術＞

江戸時代後半は、徳川太平の世に富を蓄えた町人階級を中心に唐物（輸入品）の人气が高まった時期である。西洋への門戸は長崎一港とはいえ、オランダのカピタンの江戸参府、中国通信使など、江戸庶民は外国の刺激に事欠かなかった。蘭学とは西洋の学問一般を意味し、その情報は学者だけでなく、美術制作者たちにも大きな刺激を与えた。錦絵と呼ばれる多色刷り木版画の開発には、蘭学者平賀源内が一役かっていると言われている。浮世絵の名流、歌川一門は、西洋の線遠近法を取り入れて、浮き上がって見える「浮絵（うきえ）」で名をなした歌川豊春を始祖とする。葛飾北斎、歌川広重、幕末から明治にかけて西洋画を学ぼうとした者たちの足跡をたどり、東西の美学の交流を考える。

評価方法：学期末に筆記試験を行う。出欠席を考慮する。

テキスト名：特に定めないが、以下のような参考書を授業の進みにそって参照することが望ましい。

〔日本美術史〕辻惟雄監修（美術出版社）

〔西洋美術史〕高階秀爾監修（美術出版社）

〔日本美術館〕小林忠など監修（小学館 1998年）

〔日本の美術〕肉筆浮世絵シリーズ、江戸絵画シリーズ、明治の洋画シリーズ（至文堂）

〔浮世絵の鑑賞基礎知〕小林忠、大久保純一（至文堂 1996年）

〔大江戸視覚革命〕タイモン・スクリーチ（作品社 1996年）

〔開かれた鎖国〕片桐一男（講談社現代新書 1997年）

〔黄昏のトクガワ・ジャパン〕ヨーゼフ・クライナー編著（NHK books 日本放送出版協会 1996年）

〔絵画の東方オリエンタリズムからジャポニスムへ〕稲賀繁美（名古屋大学出版会 1999年）

## 美術交流史＜日本に触発される西洋－ジャポニスム＞

19世紀のヨーロッパは、産業革命の進展に伴う鉄道などの輸送手段の拡大や万国博覧会の開催などによって、外国からの情報がどっと流れ込み、美術も多方面な刺激を受けた。中でも1854年に開国した日本は、1828年に禁制の地図を持ち出そうとして国外追放になった長崎出島の商館勤務医シーボルトの帰国後の積極的な宣伝活動も手伝って、単なるエキゾチシズムを越えた大いなる刺激を西洋の造形美術家たちに及ぼした。ジャポニスムと称されるそうした動向を、日本美術が並んだ様々な万国博覧会や浮世絵の美学に触発されるフランスの画家たちの例を通して紹介する。

評価方法：学期末に筆記試験を行う。出欠席を考慮する。

テキスト名：特に定めないが、以下のような参考書を、授業の進みにそって随時参照することが望ましい。

[西洋美術史] 高階秀爾 監修 (美術出版社)

[日本美術館] 小林忠など監修 (小学館 1998年)

[黄昏のトクガワ・ジャパン] ヨーゼフ・クライナー編著 (NHK books 日本放送出版協会 1996年)

[図説万国博覧会史 1851～1942] 吉田光邦編 (思文閣出版 1985年)

[西洋美術館] 青柳正規など監修 (小学館 1999年)

[ジャポニスム－幻想の日本] 馬淵明子 (ブリュッケ 1997年)

[絵画の東方オリエンタリズムからジャポニスムへ] 稲賀繁美 (名古屋大学出版会 1999年)

|             |                 |       |
|-------------|-----------------|-------|
| 美術史 I C ・ D | よしむらとしこ<br>吉村稔子 | 2 単位  |
|             |                 | 1～4 年 |
|             |                 | 前期    |

### 東洋の仏教美術

東洋諸地域（南アジア、東南アジア、中央アジア、中国、韓国、日本）の仏教美術について概説します。各地域の仏教美術の代表的作例をとりあげ、その伝播と変遷の様相について理解を深めることを目標とします。スライド、ビデオによる作品鑑賞をまじえつつ講義をすすめます。

評価方法：レポート（400字詰原稿用紙10枚程度）。出欠席を考慮します。

テキスト名：前田耕作監修『[カラー版] 東洋美術史』美術出版社

|               |                  |       |
|---------------|------------------|-------|
| 言語学入門 I A ・ B | かなおかひでろう<br>金岡秀郎 | 2 単位  |
|               |                  | 1～4 年 |
|               |                  | 前期    |

### 言語記号とは何か

記号の体系である言語の基本的な特色を解説し、言語学の基礎を習得する。

1. 記号とは何かを日常的な事例を挙げつつ説明する。
2. 言語記号の特色を考える。日本語・英語のほか、方言・漫画等を例に見る。
3. 音声・音素とは何かを解説する。
4. 言語と文化の関係を考察。異文化の実例として遊牧的牧畜文化とモンゴル語の関係を取り挙げる。

評価方法：1. 定期試験（平常授業に実施。日程は講義中するので要注意。受験しない者はいかなる理由があっても不可）  
2. 平常点（出席・授業態度等）

テキスト名：田中春美他著『言語学のすすめ』大修館書店  
金岡秀郎著『モンゴルを知るための60章』明石書店

注意事項：定期試験には本人の写真（プリクラ不可）を貼付すること。教室内では携帯電話・PHSの電源を切ること。当然ながら授業中の私語・飲食禁止。

|           |    |    |    |    |       |
|-----------|----|----|----|----|-------|
| 言語学入門ⅡA・B | かな | おか | ひで | ろう | 2 単位  |
|           | 金  | 岡  | 秀  | 郎  | 1～4 年 |
|           |    |    |    |    | 後 期   |

**言語学と比較思想**

I履修者の言語学理解をより広くし、今世紀の人文科学との交流を考察する。

1. 言語学史のひとつとして比較言語学を略説する。
2. 上記1. を踏まえ、20世紀の人文科学における比較の思想を学ぶ。特に比較神話学・比較宗教学の誕生を言語学との関連で考察する。自然科学との思想史上の交流にもふれる。

- 評価方法：1. 定期試験（条件はIA・Bと同じ）  
2. 平常点（出席・授業態度等）

テキスト名：田中春美他著「言語学のすすめ」大修館書店  
金岡秀郎著「モンゴルを知るための60章」明石書店

注意事項：IA・B履修者に限る。定期試験には本人の写真（プリクラ不可）を貼付すること。教室内では携帯電話・PHSの電源を切ること。当然ながら授業中の私語・飲食禁止。

|         |    |   |    |   |       |
|---------|----|---|----|---|-------|
| 言語学入門ⅠC | ふじ | た | とも | こ | 2 単位  |
|         | 藤  | 田 | 知  | 子 | 1～4 年 |
|         |    |   |    |   | 前 期   |

外国語を学ぶ私たちは絶えず新しい知識を吸収し、話す、読む、書くなどのいろいろな実践を行っています。そうした営みと平行して、言語はどのような仕組みをもち、人間にとってどんな意味をもっているのか考えてみることも大切です。外国語を自らのものにしようと日々努力している私たちにとって、言語とは人間にとって何なのか知ろうとすることが、外国語学習にも新しい視点と刺激を与えるのです。扱う項目は以下の通りです。

- 1) 世界の言語
- 2) 言語の分類
- 3) 歴史・比較言語学
- 4) 動物のコミュニケーション
- 5) 言語の機能
- 6) 記号としての言語
- 7) 文字とは何か
- 8) 言語の音声、音声学と音韻論

「入門」なので1-2年次での履修をお勧めします。

評価方法：筆記試験により評価。

テキスト名：プリント配布。参考文献はそのつど指示します。

|           |          |         |         |       |
|-----------|----------|---------|---------|-------|
| 言語学入門 I D | いずみ<br>泉 | くに<br>邦 | ひさ<br>寿 | 2 単位  |
|           |          |         |         | 1～4 年 |
|           |          |         |         | 前 期   |

この講義では人間の「ことば」について、その機能と構造はもちろんのこと、人間の認知能力とのかかわりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していきたいと  
 思います。ただし、あくまでも身近な具体的事例を分析することを重んじます。扱う分野は音声から  
 意味・語用論、社会言語学までを一応の対象としますが、すべてをまんべんなく取り上げるのでは  
 なく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進めるつもりです。ことばの研究がふつうに考  
 えられているより広い地平へと通じていることを知ってもらうこともこの授業の目標のひとつです。

前期のこの授業では、世界の言語状況、ことばの機能、記号としての言語の特徴などの一般的な特徴  
 について見たあと、音韻、形態、統語の構造を概観する予定です。

評価方法：定期試験、出席状況、課題等を総合して決めます。

テキスト名：鈴木孝夫『教養としての言語学』『ことばと文化』、両方とも岩波新書。

|            |          |         |         |       |
|------------|----------|---------|---------|-------|
| 言語学入門 II D | いずみ<br>泉 | くに<br>邦 | ひさ<br>寿 | 2 単位  |
|            |          |         |         | 1～4 年 |
|            |          |         |         | 後 期   |

この講義では人間の「ことば」について、その機能と構造はもちろんのこと、人間の認知能力とのか  
 かわりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していきたいと  
 思います。ただし、あくまでも身近な具体的事例を分析することを重んじます。扱う分野は音声から  
 意味・語用論、社会言語学までを一応の対象としますが、すべてをまんべんなく取り上げるのでは  
 なく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進めるつもりです。ことばの研究がふつうに考  
 えられているより広い地平へと通じていることを知ってもらうこともこの授業の目標のひとつです。

後期のこの授業では、主として意味論、語用論、社会言語学の諸問題を概観します。

評価方法：定期試験、出席状況、課題等を総合して決めます。

テキスト名：鈴木孝夫『教養としての言語学』『ことばと文化』、両方とも岩波新書。

|           |                 |         |
|-----------|-----------------|---------|
| 社 会 学 I A | かとうじょうじ<br>加藤譲治 | 2 単 位   |
|           |                 | 1 ~ 4 年 |
|           |                 | 前 期     |

### 個人が先か、社会が先か

社会学の基礎理論を学生諸君に理解してもらうことを意図している。いわば社会学入門の授業である。社会学は「社会を扱う」学であるが、その社会とは自分と他者が、個人と個人が切り結ぶ相互作用または関係性をさす。その関係性は多くの場合、規範や制度という形をとって私たちの前に立ち現われる。その社会が、あるいは現代社会が、いかなる特徴を持ち、そしてどんな変化に晒されているかを一緒に勉強していきたい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：『ソシオロジー事始め』中野秀一郎、有斐閣

注意事項：出席重視

|            |                 |         |
|------------|-----------------|---------|
| 社 会 学 II A | かとうじょうじ<br>加藤譲治 | 2 単 位   |
|            |                 | 1 ~ 4 年 |
|            |                 | 後 期     |

### 現代社会はどこへ行くのか

私たちは何らかの組織や集団に所属して生活している。そうした組織や集団、たとえば家族、学校、企業などがそれであり、もう少し範囲を広げると都市とか国家、さらには国際社会まで含むのだが、それらの現代的特点を社会学的視点から分析する。現代社会は、モダンからポストモダンへと大きな社会変動に遭遇している。ここでは現代社会の問題を多面的にかつ判り易く講義する。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：『ソシオロジー事始め』中野秀一郎、有斐閣

注意事項：受講条件とはしないが、加藤担当の「社会学Ⅰ」を受講しておくことが望ましい。

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| 社 会 学 I B | やま ぎし み ほ<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ~ 4 年 |
|           |                      | 前 期     |

### 日常生活の社会学

社会学の課題は、人間、社会、日常生活、人々の世界体験を理解することにある。この講義では、社会学の基本的なものの見方、考え方を学習しながら、具体的な日常生活の理解を目指したい。人々の関係、コミュニケーション、文化をキーワードに、誕生から死まで、人生のさまざまな場面にアプローチし、さまざまな人々との出会いと交わりのなかで、人生を旅することの意味を探究する。

学生の皆さんには、社会学の知識を身につけながら、自らが生きる社会や自分自身の生活について再考し、積極的に問題に立ち向かう力を身につけて欲しいと考えている。衣食住に始まり、家族関係、友人関係、メディアと人間の関わりなどさまざまなテーマが社会学の視野に入ってくるのである。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることがあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健・山岸美穂『日常的世界の探究 風景／音風景／音楽／絵画／旅／人間／社会学』慶應義塾大学出版会，1998

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

注意事項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|            |                      |         |
|------------|----------------------|---------|
| 社 会 学 II B | やま ぎし み ほ<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位   |
|            |                      | 1 ~ 4 年 |
|            |                      | 後 期     |

### 現代社会論

現代はいかなる時代なのか。現代社会は、高齢社会、国際社会、情報社会など、さまざまな仕方で理解されるが、私たちの日常生活や人々の関係は、時代の移り変わりのなかで、どのように変貌しているのか。どのような事が「社会問題」になっているのか。

この講義では、具体的に、私たちの時代を読み解く出来事をとりあげると共に、文学、絵画、写真、音楽、映画、建築などにも注目しながら、人間・社会・日常生活の舞台で人々が展開するドラマにアプローチし、私たちが生きている時代と社会に対する理解を深めたい。出席者の皆さんにも意見を求めながら、これからの時代の人間の生き方について共に考察したいと思う。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることがあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健・山岸美穂『日常的世界の探究 風景／音風景／音楽／絵画／旅／人間／社会学』慶應義塾大学出版会，1998

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

注意事項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

時間と空間の社会学

社会学の課題は、人間、社会、日常生活を理解することにある。

ここでは、人々の〈時間〉、〈空間〉体験に注目し、社会学の基本的なものの見方を学習しながら、人間の生活体験、世界体験を探究する。情報化の進展は私たちに何をもたらしているのか。旅することは、人間にとってどのような意味をもっているのか。居住空間や学校空間は、今日、どのように変貌しているのか。

人生を旅することの意味を、時間、空間体験を手がかりに考察し、さまざまな人々が世界のなかで共に生きることの意義と意味を考察する。社会学の視点から日々の平凡な出来事にアプローチする時、〈現実〉はこれまでとは異なる相貌で立ち現れるのである。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることもあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 309，1978

山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会誌』日本放送出版協会，NHK ブックス 853，1999

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時にプリント、ビデオを使用する。

注意事項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|            |               |         |
|------------|---------------|---------|
| 社 会 学 II C | やま<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位   |
|            |               | 1 ~ 4 年 |
|            |               | 後 期     |

### 感性、身体、音の社会学

本講義では、人々の〈感性〉と〈身体〉、ならびに、人々の音体験と人々によって体験された音風景に注目しながら、人間・社会・日常生活・現代の時代様相についての理解を深める。

現代は、効用性や合理性が重視され、経済的価値が尊重され、機械技術の進歩によって、自然の人間化が進み、人間の感性が次第に弱体化し、想像力の衰退が不安な出来事として感じられるようになったことが指摘される時代である。こうした時代において、感性を豊かに躍動させ、想像力を柔軟に展開させていくためにも、私たちにとっては、感性及び身体という視点から、人間の存在様相やリアリティを問い直すことが重要なのである。

具体的な出来事に注目しながら、生きることを問い直したい。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることもあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 309，1978  
山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 853，1999

注意事項：自らの身体を通して、さまざまな音を聴き、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| 社 会 学 I D | あん どう きくお<br>安 藤 喜久雄 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ~ 4 年 |
|           |                      | 前 期     |

社会の基礎的単位としての人間の行為の分析、検討から始める。次いで人間の行為を規制する規範や価値をはじめ、相互行為、対人関係、コミュニケーション、社会化など社会学における基本的概念の検討を通して社会と個人とのかわりについて考える。授業ではできるだけ具体的事実にして説明し、理解を深めるよう努める。

評価方法：受講生が少ない場合はレポートと出席点の両方で評価する。

テキスト名：『社会学概論』安藤 喜久雄・児玉 幹夫編，学文社，¥2,100

|            |                      |         |
|------------|----------------------|---------|
| 社 会 学 II D | あん どう きくお<br>安 藤 喜久雄 | 2 単 位   |
|            |                      | 1 ~ 4 年 |
|            |                      | 後 期     |

社会学の主要な対象である家族、地域、組織（官公庁、企業など）、国家などについてこれまでの研究成果をふまえて社会的視点より解説する。それとともに上記の各分野において、現在、どのようなことが問題になっているかを明らかにし、それを通して現代社会の当面している課題について理解を深めるよう心掛けるつもりである。

評価方法：受講生が少ない場合はレポートと出席点の両方で評価する。

テキスト名：『社会学概論』安藤 喜久雄・児玉 幹夫編，学文社，¥2,100

|             |                       |           |
|-------------|-----------------------|-----------|
| 法 学 I A ・ C | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位     |
|             |                       | 1 ~ 4 年   |
|             |                       | 前 期 ・ 後 期 |

#### 日常生活のなかの法

普通に暮らしている限り、多くの人は、裁判所に出かけることもなく、法律を意識することもほとんどないだろう。とすると、法律に関わるということは特別のことなのだろうか。しかし、どんなに頑張っても3年で大学を卒業することはできない。それは、学校教育法という法律が入学資格や修業年限を定めているからである。普段の買い物で価格に5%上乗せさせられるのも消費税法の規定による。現在どのくらいの数の法律があるかを言える人はいないのではないかとと思われるほど、日常生活の隅々にまで法的規制の網がかかっているのである。アルバイト現場など具体的な場面から法の存在意義と問題点を考えていく。

評価方法：筆記試験またはレポート

テキスト名：野崎和義編『人権論入門』日中出版

参考図書：西村健一郎他『判例法学』

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|          |                       |         |
|----------|-----------------------|---------|
| 法 学 II A | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|          |                       | 1 ~ 4 年 |
|          |                       | 後 期     |

### 人の一生と日本の法

人が誕生するとまず出生届けをしなければならない。しかし、届けられた親子関係が実際と違う場合もあるし、保護者との関係で親権剥奪という事態もある。少し大きくなると、親は子供を学校に入れる義務を負う。学校に行かない子どもも増えているが、なぜ全員が学校に行かなければならないのだろうか。さらに成長すると就職、結婚なども法的な規制を受ける。人生の最後になっても死亡届け(場合によっては検死)が必要だし、相続のことを考えると死んでも法と無縁ではいけない。生涯の節目ごとに関わってくる具体的な法を通して、法の意義と限界について考える。

評価方法：筆記試験またはレポート

テキスト名：浦田賢治他『いま日本の法は』日本評論社

参考図書：西村健一郎他『判例法学』

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法(岩波)、デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法(三省堂)か判例基本六法(岩波)を勧めたい。

|         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| 法 学 I B | もり した し ろう<br>森 下 史 郎 | 2 単 位   |
|         |                       | 1 ~ 4 年 |
|         |                       | 前 期     |

本講義は、法学の基礎知識を理解することをテーマにして、法と法学への道では主として、法の解釈と適用を、刑法では、犯罪と刑罰というテーマで、犯罪とは、刑罰とは何か、非行と少年法、安楽死とプライバシー、正当防衛と緊急避難、残虐刑と死刑等の問題を、また労働法では、労働契約、労働条件、解雇、不当労働行為、争議行為等を基本判例を紹介しながら検討する予定。

評価方法：定期試験で評価

テキスト名：『法学』森泉 章 有斐閣ブックス

『判例法学』西井/西村編 有斐閣ブックス

|          |                       |         |
|----------|-----------------------|---------|
| 法 学 II B | もり した し ろう<br>森 下 史 郎 | 2 単 位   |
|          |                       | 1 ~ 4 年 |
|          |                       | 後 期     |

本講義は、民法、憲法の基本問題の理解にテーマを置いて授業を進め、民法では、私的自治と契約の自由、過失責任と不法行為、内縁、婚姻、離婚、嫡出子、人工受精といった様々な問題を抱えている家族法、親族法、遺言、遺留分、法定相続等の相続法を対象に、憲法では、プライバシー権利、法の下での平等、表現の自由、人身の自由を検討する予定。

評価方法：定期試験で評価

テキスト名：『法学』森泉 章 有斐閣ブックス  
『判例法学』西井／西村編 有斐閣ブックス

|           |                   |         |
|-----------|-------------------|---------|
| 政 治 学 I A | なが い ひろし<br>永 井 浩 | 2 単 位   |
|           |                   | 1 ~ 4 年 |
|           |                   | 前 期     |

### 現代日本政治論 I

日本は現在、大きな転換点に立たされている。戦後の発展を支えてきた経済成長が行きづまると同時に、それと車の両輪をなしてきた平和憲法の空洞化が進んできているからだ。民主政治の出発、日米安保体制、55年体制の成立、高度成長とバブルの崩壊、自民党一党支配の終焉、政治改革と行政改革、「国際貢献」論とPKO参加、日米ガイドライン、沖縄基地問題など戦後政治の重要テーマを学ぶなかで、21世紀の日本が進むべき進路をみんなで考えてみよう。そのために、新聞・雑誌などの政治記事に関心をもち、それを読み解く力を養いたい。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

注意事項：「政治学Ⅰ」の次に「Ⅱ」を受講するのがのぞましい。

新聞、雑誌、テレビなどのニュースを通じて、日々の政治の動きに関心をはらうようにこころがけてほしい。

|            |                   |         |
|------------|-------------------|---------|
| 政 治 学 II A | なが い ひろし<br>永 井 浩 | 2 単 位   |
|            |                   | 1 ~ 4 年 |
|            |                   | 後 期     |

### 現代日本政治論 II

日本の経済大国化にともなって、国際社会に果たすべき本の役割がさまざまに論じられている。だが国際関係の担い手は、国家・政府だけではなく企業、NGO（非政府組織）、自治体、市民など多様化してきている。また、内外問わず既成のモデルが通用しない時代になっている。そこで、日本をとりまく国際環境の変化をふまえながら、米国とアジア諸国を中心とした政治・経済問題、戦争責任と未来志向、ODA（政府開発援助）外交、環境問題、在日外国人問題、NGO（非政府組織）の役割などを学び、それをつうじて、わたしたち一人ひとりが21世紀の国際社会のあるべきモデルづくりにいかにかかわっていくべきかを考えてみたい。

評 価 方 法：期末のレポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特に指定しないが、参考書として入江昭『新・日本の外交』（中公新書）、五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣）。その他は授業中に適宜紹介する。

注 意 事 項：「政治学 I」を受講したあとに「II」をとるのがのぞましい。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 政 治 学 I B | あき もと とみ お<br>秋 本 富 雄 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 欧米諸国のデモクラシー

20世紀後半の交通・通信技術の発展によって、かつてなく国際社会は身近になった。その結果、先進民主諸国のなかでも、国ごとにデモクラシーの有り様がいかに異なるかを、具体的に見聞きする機会も増えている。この講義では、比較政治学的なアプローチから、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、EUを中心に、政府、議会、選挙、政党、圧力政治過程などのテーマを取り上げ、各国の民主政治の考え方、制度、ダイナミクスについての、理解を深めていきたい。講義を通じて、各国の政治をより正確に見据え、我が国のデモクラシーの現状と問題点を考えるための力を、養ってもらうことを目標としていきたい。

評 価 方 法：原則として定期試験による評価。また、授業への貢献度も積極的に評価していきたい。

テキスト名：開講時に指示。

注 意 事 項：折に触れ、講義項目に関連する時事的トピックについても取り上げていく予定なので、積極的な参加を望みたい。

|            |         |         |         |        |       |
|------------|---------|---------|---------|--------|-------|
| 政 治 学 II B | あき<br>秋 | もと<br>本 | とみ<br>富 | お<br>雄 | 2 単 位 |
|            |         |         |         |        | 1～4年  |
|            |         |         |         |        | 後 期   |

### デモクラシーの世紀を越えて

この講義では、先進民主諸国が直面している様々な政治的課題や問題点を取り上げて考察する。講義の前半は、大衆社会、メディア、都市化、積極政治などのテーマを中心に、20世紀初頭から21世紀にかけてのデモクラシーの変動状況について理解を深めていく。講義の後半では、世紀の変わり目の今日、民主的社会を維持発展させていくうえで、新たなる取り組みを求められている問題—住民投票、デポリューション、ジェンダー、高齢化、環境、情報ネットワークなど—について、政治学的な考え方を紹介しながら、論点を明らかにしていきたい。

評価方法：原則として定期試験による評価。また、授業への貢献度も積極的に評価したい。

テキスト名：開講時に指示。

注意事項：折に触れ、授業内容に関連する時事的トピックについても取り上げていく予定なので、授業の項目・進度に若干変更の出る可能性もある。

|               |        |         |         |         |       |
|---------------|--------|---------|---------|---------|-------|
| 経 済 学 I A ・ B | こ<br>小 | すげ<br>菅 | のぶ<br>伸 | ひこ<br>彦 | 2 単 位 |
|               |        |         |         |         | 1～4年  |
|               |        |         |         |         | 前期・後期 |

### マクロ経済学を中心に

国内総生産（GDP）のしくみとその決定メカニズム、経済成長と景気循環、物価とインフレ地温、対外経済取引と国際収支・為替レートなどマクロ経済学の基本的な概念、分析手段等について解説する。経済学的な考え方を身につけ、現実の経済を見る目を養うことにより、新聞等で目にする機会の多い景気の動きや経済政策の解説記事等を十分に理解できるようになることを目標にする。

評価方法：筆記試験（小論文、講義内容への感想等）

テキスト名：未定（簡明な教科書を用いる。）、適宜資料を配布する。

注意事項：経済学Ⅰ（前期）→ 経済学Ⅱ（後期）の順に受講しても、逆に、経済学Ⅱ（前期）→ 経済学Ⅰ（後期）の順でもよい。また、前期あるいは後期に経済学Ⅰ、Ⅱをまとめて受講することも可能であり、経済学Ⅰあるいは経済学Ⅱを単独受講してもよい。

|          |                 |       |
|----------|-----------------|-------|
| 経済学Ⅱ A・B | こすげのぶひこ<br>小菅伸彦 | 2 単位  |
|          |                 | 1～4年  |
|          |                 | 後期・前期 |

### ミクロ経済学を中心に

(1) 経済理論や経済政策の歴史の変遷、(2) 需要と効用、企業と生産、消費者余剰と生産者余剰、市場と価格メカニズム、競争と独占、外部経済と外部不経済などミクロ経済学の基本的な概念、主な学説の基本内容等について解説する。経済学的な考え方を身につけ、現実の経済を見る目を養うことを目的とし、規制緩和の意味や、経済と環境のかかわり等についても理解できるようなることを目標にする。

評価方法：筆記試験（小論文、講義に対する感想など）

テキスト名：未定（簡明な教科書を用いる。）

注意事項：経済学Ⅰ（前期）→ 経済学Ⅱ（後期）の順に受講しても、逆に、経済学Ⅱ（前期）→ 経済学Ⅰ（後期）の順でもよい。また、前期あるいは後期に経済学Ⅰ、Ⅱをまとめて受講することも可能であり、経済学Ⅰあるいは経済学Ⅱを単独受講してもよい。

|        |                 |      |
|--------|-----------------|------|
| 心理学Ⅰ A | たはらしゅんじ<br>田原俊司 | 2 単位 |
|        |                 | 1～4年 |
|        |                 | 前期   |

### 臨床心理学入門

本講義では、心理的に不適応を起こし、悩み苦しんでいる人々に対して、心理学や関連諸科学の知識を用いて社会的・心理的に適応できるように援助するための基礎知識を学習することを目的としている。具体的には、①ICD-10（国際疾病分類第10版1993年、WHO）やDSM-IV（精神障害の診断統計マニュアル第4版1994年、アメリカ精神医学会）に基づく神経症、精神分裂病、鬱病、精神遅滞、自閉症、学習障害、多動性障害精などの精神（発達）障害の臨床像と診断基準、②面接法、行動観察法、心理テスト法による心理アセスメント、について理解を深める。

評価方法：出席（20%）、課題・実技（40%）、試験（40%）の総合により評価する。

テキスト名：田原俊司（編著）『いじめ相談室』八千代出版  
伊藤隆二・松本恒之（編）『現代心理学25章』八千代出版

注意事項：受講対象は、実技をとともうため、人数を60名程度に制限する。

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 心 理 学 II A | た はら しゅん じ<br>田 原 俊 司 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

### カウンセリング入門

本講義では、心理的に不適応を起こし、悩み苦しんでいる人々に対して、心理学や関連諸科学の知識を用いて社会的・心理的に適応できるように援助するための基礎知識を学習することを目的としている。具体的には、心理学Ⅰの知見に基づき、クライアント中心療法、ゲシュタルト療法、論理情動療法、マイクロカウンセリング等の心理療法について理解を深める

評 価 方 法：出席（20%）、課題・実技（40%）、試験（40%）の総合により評価する。

テキスト名：伊藤隆二・松本恒之（編）『現代心理学 25 章』八千代出版  
田原俊司（編著）『いじめ相談室』八千代出版

注 意 事 項：受講対象は、心理学Ⅱあるいは教育心理学を履修済みの学生のみ受講可能である。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 心 理 学 I B ・ C | や べ ふ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

### 認知心理学入門

人間を一種の情報処理システムと見なす認知心理学の観点から、環境の認知、記憶、思考過程について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大山 正（編）『実験心理学』 東京大学出版会

注 意 事 項：定員 60 名（抽選）

認知心理学の全体的理解のためには、通年で履修することが望ましい。

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 心 理 学 II B ・ C | や べ ふ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 認知心理学入門

人間を一種の情報処理システムと見なす認知心理学の観点から、環境の認知、記憶、思考過程について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大山 正（編）『実験心理学』 東京大学出版会

注 意 事 項：定員 60 名（抽選）

認知心理学の全体的理解のためには、通年で履修することが望ましい。

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| 心 理 学 I D | や べ ふ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ~ 4 年 |
|           |                      | 前 期     |

### 社会心理学入門

社会心理学入門であるが、主として集団における個人の行動や個人間の相互作用などの集団現象に関する領域について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大坊 郁夫・安藤 清志（編）『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版

|                |                 |         |
|----------------|-----------------|---------|
| 心 理 学 II D ・ E | や べ ぶ 矢 部 富 美 枝 | 2 単 位   |
|                |                 | 1 ~ 4 年 |
|                |                 | 後 期     |

### 社会心理学入門

社会心理学入門であるが、主として環境が人間の心理や行動に及ぼす影響や人間と環境の相互作用など環境に関する領域について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大坊 郁夫・安藤 清志（編）『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版

|             |                     |           |
|-------------|---------------------|-----------|
| 教 育 学 A ・ B | あ ず ま 東 と し の り 敏 徳 | 2 単 位     |
|             |                     | 1 ~ 4 年   |
|             |                     | 前 期 ・ 後 期 |

教育ほど人の一生の中で重要なことは数少ない。その意味で私たちは教育について、学校教育はもちろん、様々な角度から考えなくてはならない。本講義ではまず、人が成長していく中で教育の果たす役割について考える。それはとりもなおさず、「教育とは何か」という問いにつながる。この問いは歴史上多くの人々により答えられてきた。その足跡を辿ることで教育に関わる本質的な知識を獲得することができる。また授業では教育に関する身近なトピックを取り上げ、討議することで上の問いを考えていく。なお教職課程履修者はこの科目を履修しておくことが望ましい。

### 到達目標

今日の教育が持つ問題点を構造的に理解することを目標とする。その理解を得るため、授業は受講者各自の教育に対する考え方をつきあわせつつ行う。

評 価 方 法：評価は授業中のレポート、テスト、および平常の授業の出欠席の状況などを勘案して行う。

テキスト名：東 敏徳著『教育って何だろう』（ユージン伝 1995）

|           |                        |       |
|-----------|------------------------|-------|
| 文化人類学ⅠA・B | み たむら しげ たか<br>三田村 成 孝 | 2 単 位 |
|           |                        | 1～4 年 |
|           |                        | 前 期   |

Iでは北海道アイヌ民族の文化について学んでいく。近年、自然との共存がいわれているが、自然民族としてのアイヌ民族は、狩猟採集民として自然とともに生きてきた。ただそうした生き方も、明治以降は日本化の流れの中で農耕民として生きることを強制され、急速に変化を遂げ今日に至っている。講義では、アイヌ文化復興の試みとともに、本来かれらの営んできた生活を再構成しながら、自然、文化、民族について学んでいく。

評価方法：筆記試験。

テキスト名：なし。参考文献は授業の中で紹介する。

|           |                        |       |
|-----------|------------------------|-------|
| 文化人類学ⅡA・B | み たむら しげ たか<br>三田村 成 孝 | 2 単 位 |
|           |                        | 1～4 年 |
|           |                        | 後 期   |

IIでは沖縄の文化に焦点をあてて見ていく。沖縄は、明治になるまで琉球王国として独自の文化をはぐくんできた。その中には中国文化の影響、日本文化の古い姿などが随所に見出される。講義ではそうした点に注意しながら沖縄文化について学んでいく。

評価方法：筆記試験。

テキスト名：なし。参考文献は授業の中で紹介する。

|               |                  |         |
|---------------|------------------|---------|
| 文化人類学 I C ・ D | あ べ つかさ<br>安 倍 宰 | 2 単 位   |
|               |                  | 1 ~ 4 年 |
|               |                  | 前 期     |

## ヒトの一生

文化人類学は120年程前に成立した若い学問である。世界には私たちの理解を越えた数多くの文化がある。そのような文化を「理解」しようとするのがこの講義の目的である。本講義では「ヒトの一生」をテーマとして文化人類学の基本を概観する。

- I ヒトはなぜ文化を持つのか —— 「文化」とは何か
- II ヒトはなぜお申いをするか —— 「死」の人類学
- III 子供はなぜ「お子様」か —— 「誕生」の人類学
- IV 「一人前」とは何か —— 「成人」の人類学
- V 「古い」の人類学
- VI 女性の人類学 —— 異質性と文化
- VII 身体と文化
- VIII ヒトと世界観

評価方法：学期末に試験を行い判断する。「一発」に自信の無い者は“保険”として自主的にレポートを提出すること（強制ではない）。詳細は講義中に話す。

テキスト名：テキストに相当するものはない。文化人類学の全体像を知るためには以下に示すうち一冊を通読すれば足りるだろう。

『文化人類学を学ぶ』 蒲生正男他、有斐閣選書

『文化人類学』 村武精一他、有斐閣

『文化人類学15の理論』 綾部恒夫他、中公新書

参考書は随時紹介する。一冊でも多く読みこなしてほしい。

注意事項：出席が“単位”のための重要な鍵になる。

## 「他者」の文化人類学

文化人類学Ⅰの内容を受け、ヒトが異なった文化に接触したときにどのような事が生じるかを講義する。我々とは異質な世界をもつ人達にとっての異質な人々という込み入った世界を考えて行く。

- I 「鬼」—— 異質な者の象徴
- II 都市の人類学
- III ヒトと交換
- IV 婚姻と交換
- V 二元的世界観
- VI 「民族」が創造される時 —— エスニシティ
- VII フィールドワークという方法

評価方法：学期末に試験を行い判断する。「一発」に自信の無い者は“保険”として自主的にレポートを提出すること（強制ではない）。詳細は講義中に話す。

テキスト名：テキストに相当するものはない。文化人類学の全体像を知るためには以下に示すうち一冊を通読すれば足りるだろう。

『文化人類学を学ぶ』 蒲生正男他、有斐閣選書

『文化人類学』 村武精一他、有斐閣

『文化人類学15の理論』 綾部恒夫他、中公新書

参考書は随時紹介する。一冊でも多く読みこなしてほしい。

注意事項：出席が“単位”のための重要な鍵になる。

|           |         |        |         |         |      |
|-----------|---------|--------|---------|---------|------|
| 文化人類学 I E | よし<br>吉 | だ<br>田 | みつ<br>光 | ひろ<br>宏 | 2 単位 |
|           |         |        |         |         | 1～4年 |
|           |         |        |         |         | 前期   |

### 異文化・他者の文化人類学的理解：基本的アプローチ

文化人類学の基本的なパースペクティブ、概念、方法論、問題点等を検証する。異文化を理解するために、どのような文化人類学的アプローチがあるか、どのようにしてデータを収集するか、そこにはどのような問題点があるのだろうか。以下のような根本的な項目を検証し文化人類学的理解や視点を学んでいく：1) 文化相対主義、2) 自民族中心主義、3) 全体論的視点、4) 文化の概念、5) Etic/Emicの分析概念、6) 文化の象徴性、7) 方法論としてのフィールドワーク、8) 実証主義と解釈主義。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はなし。以下のような入門書等を使用。適宜コピーを配付。

- Kottak, C. Phillip. 1997. *Mirror for Humanity: A Concise Introduction to Cultural Anthropology*.
- Schultz, Emily A., and Robert H. Labenda. 1995. *Cultural Anthropology: A Perspective on the Human Condition*.

|            |         |        |         |         |      |
|------------|---------|--------|---------|---------|------|
| 文化人類学 II E | よし<br>吉 | だ<br>田 | みつ<br>光 | ひろ<br>宏 | 2 単位 |
|            |         |        |         |         | 1～4年 |
|            |         |        |         |         | 後期   |

### 異文化・他者の文化人類学的理解：社会構造とアイデンティティ

文化人類学的視点によるエスノグラフィー（英文のものが中心）を紹介しながら、以下のトピックを中心に、異文化／他者理解のためにどのような分析がなされ、問題点があるかを検証する：1) ジェンダーの視点；2) アイデンティティ形成と反抗；3) 感情表現の文化的意味；4) 消費欲求の社会性、政治性など。基本的な理論的概観をする一方で、具体的な例として、地域的には、日本、アメリカ、ミクロネシア、北アフリカなど多くの地域からのものを扱い、文化人類学への興味を深め、異文化理解の在り方を探る。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はなし。以下のようなものを使用。コピーを適宜配付する。その他随時紹介。

- Lutz, A. Catherine. 1988. *Unnatural Emotions: Everyday Sentiments on a Micronesian Atoll and their Challenge to Western Theory*.
- McCracken, Grant. 1991. *Culture and Consumption: New Approaches to the Symbolic Character to Consumer Goods and Activities*.
- Schultz, Emily A., and Robert H. Labenda. 1995. *Cultural Anthropology: A Perspective on the Human Condition*.

|             |                          |         |
|-------------|--------------------------|---------|
| 憲 法 I A ・ B | あ お や ま は る き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|             |                          | 1 ~ 4 年 |
|             |                          | 前 期     |

### 人権論

強盗の（金を出せという）命令と税務署の（金を払えという）要求とはどこが違うのだろうか。それは後者の要求が「法律」に基づいているという点で違うわけだが、それでは、人はなぜ「法律」に従わなければならないのか。それは、憲法の規定に基づいて正式に制定された法律だからである。では、憲法にどうしてそんな力があるのだろうか。私たちは現在の憲法の制定に立ち会ったわけではないのに、そんな昔の憲法に現在の我々が拘束されるのはどういうわけだろうか。この問題が、憲法における人権論の要諦である。この点を日本国憲法に即して考えていく。

評価方法：筆記試験

テキスト名：棟居快行『憲法フィールドノート』日本評論社

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|              |                          |         |
|--------------|--------------------------|---------|
| 憲 法 II A ・ B | あ お や ま は る き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|              |                          | 1 ~ 4 年 |
|              |                          | 後 期     |

### 国家機構論

憲法という「法律」は他の法令と少し違ったところがある。一言でいえば、憲法が立法者を決め、その作る法律に正統性を与えるものだからである。つまり、何が正統な「立法権者」であるかを決めているのが憲法なのである。もちろん、拘束力をもった判決を下す権限をだれがもつのかを決めているのも憲法である。法学的に言えば、そうした諸権限の総体、連鎖が「国家」なのであり、憲法は国家を構成するものなのである。しかし、国家あってこそその憲法であり、国家が憲法を作るのだという議論も根強く残っている。日本国憲法に即しながら、憲法と国家の関係を考える。

評価方法：筆記試験

テキスト名：樋口陽一『憲法と国家』岩波新書

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|         |   |         |
|---------|---|---------|
| 憲 法 I C | もり<br>森<br>した<br>下<br>し<br>史<br>ろう<br>郎 | 2 単 位   |
|         |   | 1 ~ 4 年 |
|         |   | 前 期     |

本講義は、主として憲法の人権論に焦点をあて、近代憲法の成立過程で確立したものとされる様々な自由権—法の下の平等、信教の自由、表現の自由、財産権を保障する経済的自由等—を、また、現代情報化社会の下で多様な問題を抱えているプライバシーの権利を検討する予定。

評 価 方 法：定期試験で評価

テキスト名：『法学、憲法』森下他共著 敬文堂  
『新版憲法判例』池田、阿部編 有斐閣双書

|          |   |         |
|----------|---|---------|
| 憲 法 II C | もり<br>森<br>した<br>下<br>し<br>史<br>ろう<br>郎 | 2 単 位   |
|          |   | 1 ~ 4 年 |
|          |   | 後 期     |

本講義は、現代的人権とされる社会権—人間らしく生きる権利の保障としての生存権、能力に応じて、等しく教育を受ける権利、働く意思と能力のある人への勤労権、労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権—を、また、公権力の不当な逮捕、監禁、拷問等をうけない自由としての人身の自由を中心に、憲法改正論争の争点となっている戦争放棄、戦力不保持と自衛隊の問題、国民主権の原理、人権論を支える平等主義の諸原則と矛盾する象徴天皇制の問題をも視野にいれて、進める予定。

評 価 方 法：定期試験で評価

テキスト名：『法学、憲法』森下他共著 敬文堂  
『新版憲法判例』池田、阿部編 有斐閣双書

|         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| 経 営 学 I | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|         |                       | 1 ~ 4 年 |
|         |                       | 前 期     |

### 人はなぜ働くのか

現代は企業社会であると言っていい。企業の目的は特定の財とサービスを社会に提供することによって利潤を獲得することにある。そこに貫徹する論理は経済合理性である。企業で働く従業員は生身の人間である。人間の働く動機は社会性や公正性にある。企業と従業員との間にある緊張関係を、いかに調整できるかが良い経営の条件である。人事労務管理の思想的変遷を学習し、今日の問題を考える分析視点を明らかにする。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：『人事労務管理の思想』津田真徹、有斐閣

注意事項：出席重視

|          |                       |         |
|----------|-----------------------|---------|
| 経 営 学 II | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|          |                       | 1 ~ 4 年 |
|          |                       | 後 期     |

### 「働き方」が変わる

わが国企業社会も、また勤労者の働き方も、今日大きな転換期を迎えている。そのことに焦点を合わせて授業をすすめたい。従来型の組織人モデルと新しい働き方であるプロフェッショナルモデルとを対比させて、その可能性と問題点を明らかにしたい。このことは「日本的経営」の評価と検討につながる問題でもある。これからの時代の「働き方」を学生諸君と一緒に考えてみたい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：教材はそのつど配布ないし指定する。

注意事項：受講条件とはしないが、「経営学Ⅰ」の受講を望む。

|             |                        |      |
|-------------|------------------------|------|
| 統計学 I A · B | しば はら のぶ ゆき<br>芝 原 信 幸 | 2 単位 |
|             |                        | 1～4年 |
|             |                        | 前期   |

本講義において、まず、現実の統計データの記述に関する基本事項から出発し、データ解析の基本と考えられる回帰分析までを講義したい。

講義に際しては、統計解析の背後にある、統計理論を学び取っていくことを主眼とするが、統計学は実践上の学問であり、統計理論に裏付けられた実践も、統計学に課せられた課題でもある。従って、実践演習を多く取り入れた授業内容となろう。また、必要上、パソコンを用いた授業となるが、パソコン初心者前提とした授業を心がけるつもりである。

評価方法：試験、レポート、平常の学習態度を総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。(定員40名程度)

|              |                        |      |
|--------------|------------------------|------|
| 統計学 II A · B | しば はら のぶ ゆき<br>芝 原 信 幸 | 2 単位 |
|              |                        | 1～4年 |
|              |                        | 後期   |

前期の統計学 I から、さらに、一歩進み、得られた統計情報から、対象となる事柄の推定、あるいは、検定、予測等の科学的判断のツールとしての統計手法に重点を置いた講座である。

本講座では、確率を根底に置き、統計的に判断をしていく手法を説明していくことにする。授業において、統計学の理論的側面をある程度満喫していくことになろう。また、その理論的側面を理論のみで終わらせないように、コンピュータを用いての実践演習を併用した授業となる。また、語学教育等へ応用として、分散分析も紹介してみたい。

評価方法：試験、レポート、平常の学習態度を総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：※講座の性質上、原則として、統計学 II の履修者は、統計学 I の履修者に限定する。  
※パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。(定員40名程度)

|           |                     |         |
|-----------|---------------------|---------|
| 生 物 学 I A | てら だ みなこ<br>寺 田 美奈子 | 2 単 位   |
|           |                     | 1 ~ 4 年 |
|           |                     | 前 期     |

### 生物と環境とのかかわり

新聞やテレビのニュースの中には、環境問題に関するものが毎日のように報道されている。また、現在の国際問題の理解や解決には多くの環境問題に関する知識が不可欠とされるようになってきた。特に地球環境問題の多くは、人間活動によって環境と生物の関わり合い方のバランスにくるいが生じたことによっておこっている。この授業では、生物と環境とのかかわりについて、基本的、一般的な関係を理解してもらうことを目的としている。授業は、出来るだけ多くのビデオ教材やスライド使いながら講義を中心に進める。

|      |     |             |      |               |
|------|-----|-------------|------|---------------|
| 講義計画 | 1 回 | 生物と環境のかかわり① | 7 回  | 生物と水環境        |
|      | 2 回 | 生物と環境のかかわり② | 8 回  | 様々な水環境と生物の生活  |
|      | 3 回 | 生物と環境のかかわり③ | 9 回  | 生物と大気環境       |
|      | 4 回 | 生物と温度環境     | 10 回 | 生物と土壌環境       |
|      | 5 回 | 様々な温度環境と生物  | 11 回 | 気候と植生         |
|      | 6 回 | 生物と光環境      | 12 回 | いろいろな気候と生物の生活 |

評価方法：定期試験の点 90% 平常点 10% で評価する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

|            |                     |         |
|------------|---------------------|---------|
| 生 物 学 II A | てら だ みなこ<br>寺 田 美奈子 | 2 単 位   |
|            |                     | 1 ~ 4 年 |
|            |                     | 後 期     |

### 生態系と環境問題

新聞やテレビのニュースの中には、環境問題に関するものが毎日のように報道されている。また、現在の国際問題の理解や解決には多くの環境問題に関する知識が不可欠とされるようになってきた。地球環境問題の多くは、生物と環境のかかわりについての有効な概念である生態系のしくみと深くかかわっている。この授業では、先ず生態系の概念を確実に理解してもらい、さらに現在おこっているいくつかの環境問題について、生態系のしくみと関連づけながら、出来るだけ最新のビデオ教材やスライド使い講義を中心に進める。

#### 講義計画

|     |                |      |                 |
|-----|----------------|------|-----------------|
| 1 回 | 環境問題と生態系       | 7 回  | 環境汚染と生物濃縮       |
| 2 回 | 生態系の概念         | 8 回  | 生態系における生物群—分解者  |
| 3 回 | エネルギーと物質の流れ    | 9 回  | 海や湖沼の富栄養化       |
| 4 回 | 生態系における生物群—生産者 | 10 回 | 熱帯林の破壊と地球環境     |
| 5 回 | 植物生産と食糧問題      | 11 回 | 環境にかかわる国際機関・条約① |
| 6 回 | 生態系における生物群—消費者 | 12 回 | 環境にかかわる国際機関・条約② |

評価方法：定期試験の点 90% 平常点 10% で評価する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

注意事項：生物学 I A を履修していることが望ましい。

|           |                         |           |
|-----------|-------------------------|-----------|
| 生 物 学 I B | てら だ み な こ<br>寺 田 美 奈 子 | 2 単 位     |
|           |                         | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                         | 前 期       |

**生物と環境のかかわりくキャンパスの自然観察とビデオテープによる>**

この授業では、生物と環境とのかかわりについて、主に観察や簡単な実習など実際に目や手の感覚を使って調べることによって理解してもらうことを目的としている。授業は、二つのテーマを進める。

①キャンパス周辺の生物を教材にして、身近な生物と環境の観察および測定を中心に授業を進める。②地球上のいくつかの特徴的な環境に生息する生物の生活について、ビデオテープやスライドを教材にして生物と環境の関わり合いについての理解を深める。

主な内容を以下にあげると

- ・ キャンパス周辺の生えている植物の観察
- ・ キャンパス周辺の野鳥の声とその観察
- ・ 植物の構造（葉・花・果実）と簡単な分類
- ・ 熱帯の環境と生物の生活
- ・ 乾燥地の環境と生物の生活
- ・ 寒帯、亜寒帯の環境と生物の生活
- ・ 日本列島の環境と生物
- ・ 葛西臨海水族園見学

などを予定している。

**評価方法：**観察や実習を中心とするので、出席点を重視する。毎回レポート等の提出物を要求する。

**テキスト名：**必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

**注意事項：**観察や実習を行うための器具や準備の必要上受講者の人数を50名に限定する。人数調整は抽選による。

|            |                     |         |
|------------|---------------------|---------|
| 生 物 学 II B | てら だ みなこ<br>寺 田 美奈子 | 2 単 位   |
|            |                     | 1 ~ 4 年 |
|            |                     | 後 期     |

**生態系と環境問題<簡単な実習とビデオテープ学習による>**

この授業では、生態系と環境問題とのかかわりについて、主に観察や簡単な実習など実際に目や手の感覚を使って調べることによって理解してもらうことを目的としている。IIでは、環境問題の理解の基礎となる生態系のしくみについての理解を深めてもらった後、出来る限り観察および測定を中心に授業を進める。また、現在おこっている環境問題について生態系のしくみと関連づけながら、ビデオテープやスライドを教材にして授業をすすめてゆく。

主な内容を以下にあげると

- ・キャンパス周辺の植物生産量の測定
- ・キャンパス周辺の水の汚染度の測定
- ・落葉の分解過程の観察
- ・食物連鎖と生物濃縮（ビデオ）
- ・熱帯林の破壊と地球環境（ビデオ）
- ・キャンパスに酸性雨は降っているか
- ・野鳥観察実習

などを予定している。

**評価方法：**観察や実習を中心とするので、出席点を重視する。毎回レポート等の提出物を要求する。

**テキスト名：**必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

**注意事項：**観察や実習を行うための器具や準備の必要上受講者の人数を70名に限定する。人数調整は抽選による。

|   |   |   |                |       |
|---|---|---|----------------|-------|
| 化 | 学 | I | おぐらひさこ<br>小倉久子 | 2 単 位 |
|   |   |   |                | 1～4 年 |
|   |   |   |                | 前 期   |

### 生活化学

「化学」と聞いただけでアレルギーをおこす人はいませんか。でも、私たちの生活はあらゆるところで化学の恩恵を受けているのです。化学Ⅰでは化学の苦手な人のために、身近な生活の中からテーマを取り上げて、その中から「化学」を取り出して説明します。

昨年度の結果を踏まえて、今年度は前期は講義（おはなし）、後期は実験を中心に行います。

テーマ例

- ・ものが燃えるということ
  - ・お酒のはなし
  - ・ミネラルと栄養
  - ・石鹼と洗剤
  - ・シルクとナイロン
  - ・ダイオキシン
  - ・原子の構造、周期表（最小限の理論）
- など

評価方法：筆記試験およびレポート

テキスト名：必要に応じてプリントを配るので、テキストは特に使用しない。

|   |   |    |                |       |
|---|---|----|----------------|-------|
| 化 | 学 | II | おぐらひさこ<br>小倉久子 | 2 単 位 |
|   |   |    |                | 1～4 年 |
|   |   |    |                | 後 期   |

### 実験 生活化学

化学Ⅱでは身近な化学を実感としてとらえて貰うために、簡単な実験を行いながら、化学的な視点を養うことを目的とします。

テーマ例

- ・ものが溶ける。
  - ・酸性、アルカリ性
  - ・生活排水と水質汚濁
  - ・洗剤の分析
  - ・食品添加物しらべ
- など

評価方法：レポートと筆記試験

テキスト名：必要に応じてプリントを配るので、テキストは特に使用しない。

注意事項：実験が主となるので、8割以上出席して、実験レポートを提出すること。

|          |           |          |      |
|----------|-----------|----------|------|
| 自然科学概論ⅠA | おざわ<br>小沢 | まこと<br>誠 | 2 単位 |
|          |           |          | 1～4年 |
|          |           |          | 前期   |

### 離散・組合せ幾何入門

離散幾何学とは点や図形の配置の（ある意味での）最適化問題、極値問題に関する幾何学です。離散幾何学の中でも有限個の点や図形の配置などを扱う場合は組合せ幾何と呼ばれます。

自然科学概論Ⅰでは可視性問題を扱います。次のような問題が可視性問題です。

「美術館の内部すべてを監視するために必要な防犯カメラの最小台数はいくつか？」（美術館問題）  
「すべての壁が鏡になっている部屋の勝手に選んだ1点で電灯を灯すと部屋全体に明かりが行き渡る。」（ミラー・ルーム予想）

他の可視性問題として要塞問題／刑務所問題／警備問題／照明問題などがあります。

これらの問題を学び、数学的直観性と論理性を身に付けることを目標とします。

評価方法：筆記試験。出欠席とレポートを考慮します。

テキスト名：秋山仁／R.L.Graham『離散数学入門』[改訂版] 朝倉書店

|          |           |          |      |
|----------|-----------|----------|------|
| 自然科学概論ⅡA | おざわ<br>小沢 | まこと<br>誠 | 2 単位 |
|          |           |          | 1～4年 |
|          |           |          | 後期   |

### 離散・組合せ幾何入門

離散幾何学とは点や図形の配置の（ある意味での）最適化問題、極値問題に関する幾何学です。離散幾何学の中でも有限個の点や図形の配置などを扱う場合は組合せ幾何と呼ばれます。

自然科学概論Ⅱでは最短ネットワーク問題と詰め込み問題を扱います。

次のような問題が最短ネットワーク問題です。

「 $n$ 個の都市に、どの2つの都市も往来可能となるように高速道路を設計しようと思う。ただし、道路の長さが1 km違っただけで工事にかかるコストには大きな差が生じるので、高速道路をどのように設計すればよいだろうか？」

詰め込み問題では次のような問題を考えます。

「 $2 \times 1000$ の長方形内に単位円を出来るだけ詰め込みたい。いくつまで詰め込むことが出来るか？」

これらの問題を学び、数学的直観性と論理性を身に付けることを目標とします。

評価方法：筆記試験。出欠席とレポートを考慮します。

テキスト名；秋山仁／R.L.Graham『離散数学入門』[改訂版] 朝倉書店

## 人類は自然をどのように理解してきたか

人類はおよそ200万年の昔より、宇宙や地球の自然現象と闘いながら、これを理解し、利用するなかで、今日の科学技術文明を築きあげてきた。さまざまな発明発見は、人類の生活と自然観を変革した知的遺産である。科学技術の本質とは何か。とかく、遠ざけられがちな科学技術を人間、社会との相補的發展から、その本質にせまりたい。自然科学にたいする新しい視点となろう。

1. 自然科学について知る意義。自然の形成（地球46億年）
2. 人類と技術の誕生—サルとヒトとの違い、脳の発達、火、道具
3. 合理的自然観のはじまり—ピラミッド、アリストテレスの自然学
4. 科学革命—ローマ、アラビア錬金術、ダ・ヴィンチの解剖図、飛行機、天動説から地動説へ、錬金術から原子分子の発見 生命研究の新展開
5. 日本独自の自然観、科学技術と世界との比較

評価方法：レポート提出、筆記試験の総合評価

テキスト名：『科学史概論』渋谷一夫その他 ムイスリ出版  
随時プリントを配布する。

参考文献：『図説科学技術の歴史』平田寛 朝倉書店  
『科学の歴史』大沼正則 青木書店

注意事項：VTR映像の際メモをとること、配布の資料をよく読むこと。

|            |         |         |         |        |         |
|------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 自然科学概論ⅡB・C | とく<br>徳 | もと<br>元 | こと<br>琴 | よ<br>代 | 2 単 位   |
|            |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|            |         |         |         |        | 後 期     |

### 現代における科学技術の発展と人間社会

21世紀を目前にした現在、科学技術はますますそのあり方を問われている。産業革命期以降の急速な科学技術の発展を分析するなかで、人類と自然との真の共存とは何かにたいする展望、突破口を見出したい。

1. 科学技術の現代的課題とはなにか。

- (1) 豊かな現代生活と戦争・平和、環境、生命めぐる現状と問題点
- (2) 最先端の科学技術の到達段階、現代の物質観・自然観、日本と世界
- (3) なぜ科学史を学ぶのか。科学者、企業、政治、大衆、国際競争

2. 産業革命から現代への科学技術の発展をどう見るか。

- (1) 紡績と機械に始まる大量生産、大量消費、火薬、染料、ナイロン、エレクトロニクス、コンピュータ、石炭、石油、原子力開発
- (2) X線と放射能、キュリー夫妻、核兵器、毒ガス、ダイオキシン、遺伝子工学、脳死、臓器移植、クローン技術
- (3) 科学技術は現代の人間と社会にいかなる意義があるのか。

評価方法：レポート提出、筆記試験の総合評価

テキスト名：『科学史概論』渋谷一夫その他 ムイスリ出版  
随時プリントを配布する。

参考文献：『図説科学技術の歴史』平田寛 朝倉書店  
『病気の社会史』立川昭二 NHKブックス

注意事項：VTR映像の際メモをとること、配布の資料をよく読むこと。

|   |              |       |
|---|--------------|-------|
| <h1 style="margin: 0;">身 体 運 動 文 化 論</h1> | とみ まつ きょう いち | 2 単 位 |
|   | 富 松 京 一      | 1～4年  |
|   |              | 後 期   |

## 身体性と文化

身体は自然の一部としてヒトと文化を結ぶ座であるという認識から講義は進む。ヒトのもつ身体性(身体的特性)は文化を考える上において重要なことである。現代社会で指摘されている身体性の欠落は私たちの日常にどのような影響を与えているか考えてみる。その材料として身体部位のもつ格言、諺を手掛かりにする。あるいは振る舞い、作法、呼吸、姿勢などの身体所作や歩行、走、跳、投などの運動を手掛かりに文化との関係を考える。

評 価 方 法：出席重視。レポート提出多数有り

テキスト名：ハンドアウトの用意有り。授業内指示

|   |            |           |
|---|------------|-----------|
| <h1 style="margin: 0;">健 康 科 学 論 A ・ B</h1> | かわ はら や よい | 2 単 位     |
|   | 河 原 弥 生    | 1～4年      |
|   |            | 前 期 ・ 後 期 |

## 運動と生活習慣病

近年、日常生活における身体活動の減少が生活習慣病(成人病)の罹患率を高めていると言われている。この運動不足と深く関わる生活習慣病を防ぐためには、日常生活における運動習慣が重要となる。

そこで本講では、生活習慣病について、また、運動が身体にもたらす効果について理解し、日常生活での運動の生かし方を学ぶことを目的としている。

### 講義内容

- 1、生活習慣病
- 2、運動が身体機能にもたらす効果
- 3、運動の生活習慣病に対する効果
- 4、運動不足の害

評 価 方 法：授業中に行う小テスト、学期末に提出するレポートを総合的に判断して評価する

テキスト名：授業中にプリントを配布する

|                      |         |         |         |         |       |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ（バスケットボール）A・B | たか<br>高 | はし<br>橋 | ただ<br>禎 | ひろ<br>宏 | 2 単位  |
|                      |         |         |         |         | 1～4年  |
|                      |         |         |         |         | 前期・後期 |

### スポーツ（バスケットボール）を楽しむ

バスケットボールというスポーツを通して、自らが積極的に取り組み、スポーツの楽しさを体感するとともに、友人とのコミュニケーション能力を高め、生涯にわたってスポーツに関われるように余暇享受能力を高める。授業はゲームを主体とし、ゲームの中で基礎技術を高める。

- ①バスケットボールの特性とルールを学び、バスケットボールの楽しさを知る。
- ②生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。
- ③友人とのコミュニケーション能力を高める。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況（3分の2以上）
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装で受講すること。  
又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

|              |         |         |          |         |      |
|--------------|---------|---------|----------|---------|------|
| 体育・スポーツ（卓球）A | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単位 |
|              |         |         |          |         | 1～4年 |
|              |         |         |          |         | 前期   |

### 卓球を楽しむ

ヒトがスポーツを楽しむための最低条件として技術の獲得が上げられる。スポーツの技術とは身のこなしに他ならない。ここでは卓球を通して技術としての身のこなし方を学習し卓球を楽しくプレイすることを学ぶ。また、楽しくプレイするためには人間関係を始め多くの成立条件があることを実践の中で確認する。

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウトしたものを配布。

注意事項：運動できる服装で参加すること。

|              |          |        |         |         |      |
|--------------|----------|--------|---------|---------|------|
| 体育・スポーツ（卓球）B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位 |
|              |          |        |         |         | 1～4年 |
|              |          |        |         |         | 後 期  |

### 生涯スポーツ、レクリエーションスポーツ、健康スポーツとしての卓球

卓球は幼児から高齢者に至るまで、また男女問わず、誰にでも自分の年齢や体力に合わせて楽しむことのできるスポーツである。その点から「生涯スポーツ・レクリエーションスポーツ・健康スポーツ」として、最も適したスポーツといえる。この授業では、卓球の基本的技術を習得し、さらに戦術、ゲーム運びのノウハウを体験、最終的にダブルスによる試合までこなせるようにする。卓球というスポーツ実践を通して、「スポーツをする楽しさ」「スポーツが身体にもたらす効果」等を学び、健康の維持・増進のためのスポーツを自らの生活に取り入れることのできる能力を身につける。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：必要に応じてプリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数を30名とし、希望者が多い場合は、抽選とする。

|                    |          |        |         |         |       |
|--------------------|----------|--------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ（フットボール）A・B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位  |
|                    |          |        |         |         | 1～4年  |
|                    |          |        |         |         | 前期・後期 |

### ミニサッカーの実践とフットボールの発展過程

サッカーとラグビーという2つの近代スポーツの原型は、イングランドで行われていた非常に野蛮で激しい古典的民族スポーツ、フットボール (Football) から生まれた。本講義名はそこからとったものであり、実技と講義の統合形態の授業からフットボール (Football) を検証しようとするものである。

- ① サッカーの競技実践（ミニサッカー等のゲーム）を中心に行い、ゲームの中からサッカーの楽しさと奥深さを学ぶ。
- ② ラグビーのゲーム構成とルールを学び、ラグビーの楽しさを学ぶ。
- ③ フットボールの発展過程と歴史的背景について学び、現代スポーツとの対比を試みる。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：雨天時においての講義では、随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数制限があるので注意すること。

|                         |          |        |         |         |       |
|-------------------------|----------|--------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ (フライングディスク) A・B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位  |
|                         |          |        |         |         | 1～4年  |
|                         |          |        |         |         | 前期・後期 |

### フライングディスクスポーツ入門

フライングディスクとはfrisbee（これは商品名であり本来はディスクという）を使ったスポーツの総称である。フライングディスクはその発展の過程でいろいろな種目が考案され、今日、国際組織において公認されている種目は10種目にもなる。

- ①様々なディスクの投げ方を学び、楽しみ方を知る。
- ②フライングディスクスポーツの競技実践（約6種目）を行う。
- ③雨天時においてはフライングディスクの発展過程及びディスクスポーツ（10種目）の競技理解のための講義を行う。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：雨天時における講義では、随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数制限があるので注意すること。

|                      |         |        |          |       |
|----------------------|---------|--------|----------|-------|
| 体育・スポーツ (ソフトボール) A・B | よし<br>吉 | だ<br>田 | あつし<br>敦 | 2 単位  |
|                      |         |        |          | 1～4年  |
|                      |         |        |          | 前期・後期 |

ソフトボールの起源は、19世紀のアメリカにあると言われていています。1933年に第一回全米ソフトボール選手権が開催され、翌年にソフトボール規則合同委員会によってその標準規則が決められました。それ以後、ソフトボールは、競技性の高いスポーツとして、幅広い層の人達が楽しくプレーできるスポーツとして、発展してきました。この授業では、ソフトボールの技術（投げる、捕球する、打つ）を主体的に学習し「みんながうまくなること」を目指し、受講者の人数の多少に関係なく、その主体的学習を通して、スポーツの文化的本質の認識の獲得を到達目標としています。

評価方法：以下の各要素を総合して評価します。1. 出席状況（3分の2以上）、2. 授業での実践（わかる、できる、コミュニケーション）、3. 授業についての感想文（スポーツの文化的本質の認識・獲得）

テキスト名：ソフトボールの用具（バット、ボール、グローブ）は、大学で準備されています。雨天時には講義を行います。テキストは特にありません。

注意事項：スポーツのできる服装に必ず着替えてください。ジーパン姿での受講は原則的に認めません。靴もスポーツシューズ及びスニーカー等を用意して下さい。

|                      |    |    |    |    |       |
|----------------------|----|----|----|----|-------|
| 体育・スポーツ (バドミントン) A・B | たか | ほし | ただ | ひろ | 2 単 位 |
|                      | 高  | 橋  | 禎  | 宏  | 1～4年  |
|                      |    |    |    |    | 前期・後期 |

### スポーツ (バドミントン) を楽しむ

バドミントンというスポーツを通して、仲間とともに友好的なコミュニケーションスキルを高め、スポーツに対する好意的な態度を養うことによって、生涯にわたってスポーツや運動に積極的に関わっていきけるような余暇享受能力を高める。そのために、ゲームを主体にして基礎技能を高める。

- ①バドミンントンの特性とルールを学び、バドミンントンの楽しさを知る。
- ②生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。
- ③仲間とともにスポーツを行う楽しさを知る。

評 価 方 法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況 (3分の2以上)
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注 意 事 項：バドミントンシューズ (室内シューズ) 及び運動にふさわしい服装で受講すること。  
又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

|                   |   |   |    |    |       |
|-------------------|---|---|----|----|-------|
| 体育・スポーツ (テニス) A・B | と | い | ひろ | のぶ | 2 単 位 |
|                   | 土 | 井 | 浩  | 信  | 1～4年  |
|                   |   |   |    |    | 前期・後期 |

スポーツを自ら積極的に楽しむとともに、スポーツの楽しさに自分がどれだけ寄与できるのかを、硬式テニスを通して実践的に学んでいく。授業は、基本的な技術の習得が必要な初心者優先的に展開する。中・上級者は、初心者への援助を率先し、助言能力を高め、他のために行う楽しさや喜ぶ感性を高めていきたい。しかし基本的な学習は雨天時の室内授業時を中心とし、コート使用可能時には、できるだけ早くダブルスのゲームができるようにする。

評 価 方 法：成績の評価は、出席点を重視し、授業中の学習への取り組み方を見て評価する。なお、運動の服装についても、授業態度の一つとして評価される。運動技能や基礎体力などの良否は評価の対象にはならない。

テキスト名：なし

注 意 事 項：運動にふさわしい服装で受講すること。テニスシューズを着用すること。

|              |         |         |          |         |         |
|--------------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 体育・スポーツ（カヌー） | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単 位   |
|              |         |         |          |         | 1～4 年 期 |
|              |         |         |          |         | 前 期     |

### カヌーを楽しむ

スポーツにおいて共生という概念に最も近づけるのがカヌーではないか。環境問題が叫ばれる今日、自然認識と現状把握は共生への出発点ではないか。カヌーを自由に操作する技術を習得し河川や海を体感する。

評 価 方 法：出席重視、実技テスト、レポート。

テキスト名：プリントアウト：カヌーテキスト

注 意 事 項：平時の授業と夏期期間の集中合宿の授業形態です。また、実習にかかる費用は実費です。

|                  |         |         |          |         |         |
|------------------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 体育・スポーツ（登山・キャンプ） | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単 位   |
|                  |         |         |          |         | 1～4 年 期 |
|                  |         |         |          |         | 前 期     |

### 近郊の山々を歩く

歩くことは様々なことを私たちに提供してくれる。安全にひとつの山を踏破するにはその山がいかに低いものであってもそれなりの準備が必要である。装備、用具、歩行・登山技術、気象、医療、交通、費用等様々である。このような基本的な準備を学習した上で実践にはいる。

評 価 方 法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：登山・キャンプテキスト

注 意 事 項：平時の授業と夏期期間の集中合宿の授業形態です。また、実習にかかる費用は実費です。

|                           |          |      |
|---------------------------|----------|------|
| <b>体育・スポーツ(スクーバダイビング)</b> | いちのせよしゆき | 2 単位 |
|                           | 市 瀬 良 行  | 1～4年 |
|                           |          | 前 期  |

**スクーバダイビング入門<Cカード取得講習>**

本講義はスクーバダイビングを初めて体験する学生を対象に、そのスポーツ経験を通じて自分自身の身体とそれがおかれている環境について考えていこうとするものである。

- ①体育・スポーツ的プログラム (Cカード取得講習)  
「潜水技術」「潜水マナー」「潜水知識」「安全潜水の基本」等の実践学習。
- ②自然環境理解のためのプログラム  
スクーバダイビングを通じて自然の大切さ、素晴らしさを体感する。
- ③生活プログラム  
宿泊実習を通じて(分担・協力・コミュニケーション・自己責任)を学ぶ。

**評価方法:**授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

**テキスト名:**実施要項、教材、プリントを配布する。

**注意事項:**授業内容の充実と安全性を考え受講人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。  
また、夏期休暇を利用して宿泊形態をとるので別途費用が必要となる。  
本講義においてCカード(ダイビングライセンス)を申請することができる。

|                        |          |      |
|------------------------|----------|------|
| <b>体育・スポーツ(サイクリング)</b> | いちのせよしゆき | 2 単位 |
|                        | 市 瀬 良 行  | 1～4年 |
|                        |          | 前 期  |

**生涯スポーツとしてのサイクリング**

本講義は自然の中でサイクリングというスポーツ活動の体験を通して、自分自身の身体とそれがおかれている環境について、考えていこうとするものである。

- ①体育・スポーツ的プログラム  
「走行技術」「走行マナー」「地図読み」「緊急時の対処」等の実践学習。
- ②自然環境理解のためのプログラム  
「東京湾から太平洋へ」海に囲まれた千葉県の自然環境を理解し、水域を考える。
- ③生活プログラム  
宿泊実習を通じて(分担・協力・コミュニケーション・自己責任)を学ぶ。

**評価方法:**授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

**テキスト名:**実施要項及びプリントを配布する。

**注意事項:**サイクリング自転車は大学で用意するが、乗車時には運動着・運動靴を着用すること。また、夏期休暇を利用して宿泊形態をとるので別途費用が必要となる。尚、授業内容の充実と安全性を考え人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。

|                      |          |        |         |         |       |
|----------------------|----------|--------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ (フィットネス) A・B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位  |
|                      |          |        |         |         | 1～4年  |
|                      |          |        |         |         | 前期・後期 |

### 運動と健康

フィットネスでは、大学キャンパス内において可能な種目を取り上げ、それらのスポーツ実践を通して体力の評価、運動処方等を学び、健康の維持・増進のためのスポーツを自らの生活に取り入れることのできる能力を身につける。

#### ①体育・スポーツの実践

「トレーニング」「屋内種目」「屋外種目」等の実践学習。

#### ②体育・スポーツの理論 (からだ気づき)

「体力の評価」「身体運動がもたらす効果」「運動処方」等の理論学習

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数を30名とし、希望者が多い場合は、抽選にて決定する。

|                     |         |         |          |         |      |
|---------------------|---------|---------|----------|---------|------|
| 体育・スポーツ (オリエンテーリング) | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単位 |
|                     |         |         |          |         | 1～4年 |
|                     |         |         |          |         | 後 期  |

### 秋の野山を楽しく歩く

オリエンテーリングとは地図とコンパスのゲームである。未知なる自然を地図を頼りに地図上に示されたポイントを見つけながら目的地までの早さを競うゲームです。地図を読む技術、方向を決定する技術、冷静な判断力等が要求される現代的なゲームといえます。ここでは、これらの技術の習得と実践を試みます。

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：オリエンテーリング

注意事項：後期平常授業と祝祭日利用の授業です。

|              |                           |       |
|--------------|---------------------------|-------|
| 体育・スポーツ（スキー） | とみ まつ きょう いち<br>冨 松 京 一 他 | 2 単 位 |
|              |                           | 1～4 年 |
|              |                           | 後 期   |

### ブリティッシュヒルズで楽しむスキー

冬の代表的スポーツであるスキーを安全に、楽しく学ぶ。参加者全員がそれぞれの技術に応じて山頂から下まで降ることを目指す。（滑降距離：2000 m）

それぞれの技術を教えることができるようにする。（教え合い、学び合い）

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：スキーテキスト

注意事項：後期平常授業と春期の休みを利用しての集中授業です。実習費は実費です。

技術レベル別練習では土井浩信、河原弥生、市瀬良行の諸先生方が小人数制で指導に当たります。

|              |                        |       |
|--------------|------------------------|-------|
| 体育・スポーツ（ゴルフ） | いちの せ よし ゆき<br>市 瀬 良 行 | 2 単 位 |
|              |                        | 1～4 年 |
|              |                        | 前 期   |

### 生涯スポーツとしてのゴルフ

本講義は自然の中で行うゴルフというスポーツ実践を通して、そのスポーツの楽しみ方を学ぶと共に、自分自身の身体について考えていこうとするものである。

#### ①体育・スポーツ的プログラム

「基礎技術」「歴史と発展」「ルールとマナー」「自然との対話」等の実践及び理論学習。

#### ②生活プログラム

宿泊実習を通じて（分担・協力・コミュニケーション・自己責任）を学ぶ。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：実施要項及びプリントを配布する。

注意事項：平常授業時の練習とゴルフコースの実践授業を行う。従って、ゴルフコースのプレーフィアなど別途費用が必要となる。尚、授業内容の充実を考え、人数を15名以内とし、希望者が多い場合は抽選とする。詳細については初回授業時に説明する。

|                       |         |        |          |       |
|-----------------------|---------|--------|----------|-------|
| 体育・スポーツ (ウォーク&ラン) A・B | よし<br>吉 | だ<br>田 | あつし<br>敦 | 2 単位  |
|                       |         |        |          | 1～4年  |
|                       |         |        |          | 前期・後期 |

「走っている時、何を考えていますか?」。私が現役時代によく他の人から質問された言葉であり、一流のランナーにもよくインタビュアーが質問する言葉です。このさいはっきりと答えておきましょう。調子のいい時は「どこでスパートしようかな」であり、悪い時は「苦しい。でもゴールまではがんばれ」と考えていました。一流のランナーもあまりかわらないと思います。しかし、「人はなぜ走るのですか?」、この言葉に対する答えはいまだに見つかっていません。受講者皆さんと一緒に考えたいと思っています。さて、「歩くこと」と「走ること」は人間の「自然的」行為だと思われがちですが、この二つの行為は「文化的」でもあるのです。この授業では、この二つの行為を実践するだけでなく、講義の中で生理的、歴史的(競技史的)、文化的に考察することを目的としています。

評価方法：以下の各要素を総合して評価します。1. 出席状況(3分の2以上)、2. 授業での実践(わかる、できる)、3. 授業についてのレポート

テキスト名：必要に応じてプリントを配布する。

注意事項：スポーツのできる服装に必ず着替えてください。ジーパン姿での受講は原則的に認めません。ジョギングシューズ及びウォーキングシューズ等、走ることのできるシューズを用意して下さい。

|                          |         |         |         |         |       |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ (筋力トレーニング基礎) A・B | たか<br>高 | はし<br>橋 | ただ<br>禎 | ひろ<br>宏 | 2 単位  |
|                          |         |         |         |         | 1～4年  |
|                          |         |         |         |         | 前期・後期 |

### 自分の身体を知る

トレーニングやダイエットの知識は、メディア等のあらゆる情報から得ることができる。しかし、現実には知識の認識不足や誤ったトレーニングにより、効果が得られないケースも見られる。

そこで本講義では、筋力トレーニングの基礎知識を学び、自分にあったトレーニングプログラムを作成し、実践による身体変化や自分の身体の見直しをはかることを目的とする。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況(3分の2以上)
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：室内シューズ及び運動にふさわしい服装で受講すること。

又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、受講人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。

## 体育・スポーツ (バレーボール) A・B

たか はし ただ ひろ  
高 橋 禎 宏

2 単 位

1～4 年

前期・後期

### スポーツ (バレーボール) を楽しむ

「スポーツを楽しむ」をキーワードに受講者がスポーツを楽しむことを前提に授業を展開する。そして、楽しむという過程の中で、自らが積極的に授業に取り組み、友人とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。

授業はゲームを主体とし、基礎技術を高めると同時にバレーボールの特性とルールを学び、バレーボールの楽しさを知る。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況 (3分の2以上)
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：バレーボールシューズ (室内シューズ) 及び運動にふさわしい服装で受講すること。  
又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

### 3. 研究科目

#### 1) ヒューマン・コミュニケーション科目

|                |                           |         |
|----------------|---------------------------|---------|
| コミュニケーション論 I A | ユディット ヒダシ<br>JUDIT HIDASI | 2 単位    |
|                |                           | 1 ~ 4 年 |
|                |                           | 前 期     |

#### interaction by communication

This is an introductory course to cover the main principles and concepts of communication, in particular those of human communication. This is a one-year course. In the first term we will cover

- the definition of communication,
- the process of communication as a means of human interaction,
- theory of attribution,
- verbal and non-verbal communication,
- codes and channels in communication.

The course aims at presenting different communication theories based on linguistic and psychological approaches. During the course study sheets, exercises and discussion will be used to enhance the awareness of communication competence.

評価方法 : Attendance and class participation, homeworks and reports with special emphasis on presentations.

テキスト名 : Joseph P. Forgas: *Interpersonal Behaviour. The Psychology of Social Interaction.* Pergamon Books Ltd. 1985 (or any later edition)  
Handouts, study sheets

注意事項 : The course is run in English, but interaction, presentation by students is also possible in Japanese. Written works to be submitted in English.

|              |              |      |
|--------------|--------------|------|
| コミュニケーション論ⅡA | ユディット ヒダシ    | 2 単位 |
|              | JUDIT HIDASI | 1～4年 |
|              |              | 後 期  |

The course aims at exploring the relationships among language, communication and culture. Critical issues related to language acquisition will be discussed. An array of perspectives in analyzing the role of language in comparative communication settings will be presented. Moving from interpersonal to intergroup communication contexts communication strategies will be presented through case-studies. The fascinating, multifaceted aspects of communication as

- encoding and decoding,
- dimensions for assessing communicative differences,
- linguistic relativity,
- speech and the communal function,
- linguistic strategies for persuasive discourse, etc. will be discussed.

評価方法：Attendance and class participation, homeworks and presentations.

テキスト名：S.Ting-Toomey F.Korzenny (ed.) Language, communication and culture, Sage Publ. 1989 (selected chapters: 2.3.4.7.11.12.) ISBN 0-8039-3450-5 (pbk.)  
Handouts

注意事項：The course is run in English, but interactions and presentations also accepted in Japanese. Written contributions to be submitted in English.

|              |           |      |
|--------------|-----------|------|
| コミュニケーション論ⅠB | あお ぬま さとる | 2 単位 |
|              | 青 沼 智     | 1～4年 |
|              |           | 前 期  |

コミュニケーションについて論じてみよう

この科目は、私たちが日常経験するコミュニケーションという行為、現象について分析し、論じ、理解を深めることを目的とする。コミュニケーションとは単に「情報伝達」や「会話」ではない。それではいったい何なのか？それをテキスト、ビデオ教材等を元に学生諸君と共に考えていきたい。なお本科目は基本的には「講義科目」ではあるが、授業内レポート、グループ発表などといった形で学生諸君にも出来る限り発言の機会を与えていく予定である。授業に出席・参加せず、期末テストを受けたのみの学生諸君の評価は「不可能」であり、単位を与えることはできないことを覚えておいて欲しい。

評価方法：授業内レポート、グループ発表、期末試験

テキスト名：第一回目の授業の際に指示する。

## コミュニケーション論ⅠC

こばやし としお  
小林 登志生

|       |
|-------|
| 2 単位  |
| 1～4 年 |
| 前 期   |

本講義では、コミュニケーション学とは何かについて基本的な学習をテキストに沿って行う。学期を通して人間のコミュニケーション行動の様々なレベルと場およびチャンネル、現代の社会や国際関係とコミュニケーション、情報化社会におけるコミュニケーション形態の変容等について学ぶ。テキストの他に各自の日常生活の中に豊富に在る様々な人との関係、事象も教材として活用し、コミュニケーションが自己の確立、対人関係、社会関係、文化形成等に果たす役割、機能についてわかりやすく講義し、広く自分の周辺の世界を見る目を養うための学習をする。

評価方法：1. クラスにおける積極的な参加と貢献  
2. レポート類の提出  
3. 試験成績

テキスト名：大田信夫他著「コミュニケーション学入門」 大修館書店

## コミュニケーション論ⅡC

こばやし としお  
小林 登志生

|       |
|-------|
| 2 単位  |
| 1～4 年 |
| 後 期   |

この授業では、クラスを小グループに分けⅠでの学習内容に基づき具体的なトピックを選択し、コミュニケーションの様々な問題・課題について、学生主体のグループ・プレゼンテーションを中心にⅠの学習内容をさらに深く考察し研究する。

評価方法：1. クラスにおける積極的な参加  
2. グループ発表における貢献度  
3. レポート類の提出  
4. 試験成績

テキスト名：未定

参考図書：クラスで指示する。

注意事項：本クラスを受講するためには、「コミュニケーション論Ⅰ」をとっていることを条件とする。

|              |           |       |
|--------------|-----------|-------|
| コミュニケーション論ⅠD | やま ぎし み ほ | 2 単 位 |
|              | 山 岸 美 穂   | 1～4年  |
|              |           | 前 期   |

### 日常生活とコミュニケーション

人間・社会・日常生活・時代を理解する上で、コミュニケーションの意味、意義、方法、時代におけるコミュニケーションの変容を理解することは重要である。

本講義では、自分自身とのコミュニケーション、対人コミュニケーション、電話コミュニケーション、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特徴などに注目しながら、社会生活の場面と人間を具体的に理解する。人はなぜ、化粧をしたり、アクセサリーをつけたりするのか。現代人のコミュニケーションをめぐる、どのような問題が指摘されているのか。

学生のグループ発表やディスカッションも採り入れ、活発な講義を展開したい。

**評価方法：**定期試験ないしはレポートを中心に評価する。ただし、講義の双方向性を重視し、出席も評価する。

**テキスト名：**山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHKブックス309，1978  
 山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会誌』日本放送出版協会，NHKブックス853，1999  
 その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

**注意事項：**日頃から、新聞・雑誌等の、講義に関連の深い記事に注目したり、街で人間観察を行いながら、コミュニケーションについて考える姿勢を大事にしていきたい。

|              |           |       |
|--------------|-----------|-------|
| コミュニケーション論ⅡD | やま ぎし み ほ | 2 単 位 |
|              | 山 岸 美 穂   | 1～4年  |
|              |           | 後 期   |

### 現代社会のコミュニケーション

日常生活の場面と、人々が日々、生活の場面で展開するドラマに注目しながら、コミュニケーションの意味・意義・問題点について考察する。

本講義では、特に、集団・組織のコミュニケーション、コミュニティ・コミュニケーション、マス・コミュニケーション、国際コミュニケーションなどを検討する。情報化の進展による人々の日常生活の変容は、「コミュニケーション論Ⅰ」に引き続き、重要なテーマである。また、芸術とコミュニケーションの関係も探究する。私たちがこれからの時代及び社会をいかに創造していくことができるのか、ということコミュニケーションの視点から、出席者の皆さんと共に考えたい。

**評価方法：**定期試験ないしはレポートを中心に評価する。講義の双方向性を重視し、出席も評価する。

**テキスト名：**山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHKブックス309，1978  
 山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会誌』日本放送出版協会，NHKブックス853，1999  
 その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

**注意事項：**日頃から、新聞・雑誌等の、講義に関連の深い記事に注目したり、街で人間観察を行いながら、コミュニケーションについて考える姿勢を大事にしていきたい。

|                 |         |        |         |        |       |
|-----------------|---------|--------|---------|--------|-------|
| コミュニケーション論Ⅰ E・F | まえ<br>前 | だ<br>田 | なお<br>尚 | こ<br>子 | 2 単 位 |
|                 |         |        |         |        | 1～4 年 |
|                 |         |        |         |        | 前 期   |

「コミュニケーション論」とは（概論）

ふだん人は、とくに考えることなく、難なくコミュニケーションを行なっている。では、そうした日常生活のコミュニケーションが学問・研究の対象として見つめ直され、「コミュニケーション論」という体裁をとると、どのような姿となって私たちの前に現れるのだろうか。このコースでは、学問としてのさまざまな「コミュニケーション論」が、日常のコミュニケーションのどのような事柄を、どのような方法によって、また何を問題視しているのかということについて概観していく。その際、「できあいの理論」を暗記するというのではなく、さまざまな方向性をもつ理論を各自の体験に引きつけて一つひとつ吟味していくことを目指している。したがって、出席者には、ディスカッションや発表などを通して、積極的に授業に参加することが求められる。

評価方法：出席状況、授業への積極的な参加、レポートなどを総合的に評価する。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。授業の中で随時参考資料を紹介する。

|                 |         |        |         |        |       |
|-----------------|---------|--------|---------|--------|-------|
| コミュニケーション論Ⅱ E・F | まえ<br>前 | だ<br>田 | なお<br>尚 | こ<br>子 | 2 単 位 |
|                 |         |        |         |        | 1～4 年 |
|                 |         |        |         |        | 後 期   |

「コミュニケーション論」とは（実習）

「コミュニケーション論Ⅰ」で学んだことに基づいて、個々人の心の中に、コミュニケーションにまつわる何らかの問題意識を点火することを目指している。具体的には、「コミュニケーション論」で扱う種々のトピックの中から、各々関心のあるテーマを選び、自ら調べ発表し、レポートにまとめるという作業を行なっていく。このとき、選んだテーマと自分とのかかわりについて常に意識をしながら考えることが重要となる。「コミュニケーション論Ⅰ」と同様、出席者には積極的にディスカッションに参加することが求められる。

評価方法：出席状況、授業への積極的な参加、レポートなどを総合的に評価する。

テキスト名：授業の中で参考文献を紹介する。

注意事項：前期の「コミュニケーション論Ⅰ」を履修していること。

|                         |        |             |        |       |
|-------------------------|--------|-------------|--------|-------|
| <b>異文化コミュニケーション論Ⅰ A</b> | ベ<br>白 | ソ<br>ン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位 |
|                         |        |             |        | 2～4 年 |
|                         |        |             |        | 前 期   |

**メディア映像における異文化のイメージ**

映画、テレビなどの映像メディアに映り出される異文化へのイメージ、ステレオタイプ、またその使い方の意味を読み取り、分析、理解する。この授業ではアメリカ、ヨーロッパ、アジア、日本などのフィルムや、テレビ番組、CMを観ながら、みんなで議論を進めることにする。ここで扱う異文化の問題とは、異なるエスニシティにかかわるだけではなく、少数集団やジェンダーの問題などを含めた広い意味でとらえられる。私たちが意識的・無意識的に持っている異文化に対するイメージがどのように作られてきたか、またどのように人々に共有されているのかを見つめ直すことによって、異文化への新たな理解の第一歩を目指す。

**評価方法：**授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

**テキスト名：**特定の教科書は用いない。参考文献のリストを配る。

**注意事項：**この授業は「異文化コミュニケーションⅡ」に連続的につながるものである。

|                         |        |             |        |       |
|-------------------------|--------|-------------|--------|-------|
| <b>異文化コミュニケーション論Ⅱ A</b> | ベ<br>白 | ソ<br>ン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位 |
|                         |        |             |        | 2～4 年 |
|                         |        |             |        | 後 期   |

**メディア映像における異文化のイメージ**

「異文化コミュニケーションⅠ」の授業に続くものとして、映画、テレビなどの映像メディアに映り出される異文化へのイメージ、ステレオタイプ、またその使い方の意味を読み取り、分析、理解する。この授業の目標としては、まず、重なる実践によって、映像メディアに対するリテラシー能力を高めること。

第2に、個人の課題を中心に問題意識の分析、意見のまとめ、発表、ディベートの能力を高める事とする。

**評価方法：**授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

**テキスト名：**特定の教科書は用いない。

**注意事項：**原則として「異文化コミュニケーション論Ⅰ」の受講者に限る。

## 異文化コミュニケーション論ⅠB

わ だ じゅん  
和 田 純

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 2 ~ 4 年 |
| 前 期     |

異文化コミュニケーションの本質は、「自文化」「他文化」をいかに認識するかということに帰着する。言葉を換えれば、文化における「異質性」「同質性」を理解するための自分の回路を、自分の中にいかに築き上げるかが、異文化コミュニケーションの本質として問われなければならない。異文化と接触する際の摩擦をいかに克服するかといった対処法的なものだけでは不十分なのである。

その観点から、本講義では、「異質性」「同質性」を理解する自分自身の回路構築をめざし、その出発点として、

- (1) 世界を見る視点を変える（目から鱗を落とす）、
  - (2) 歴史や社会の文脈から日本・日本人を考え直す、
  - (3) グローバリゼーションの流れの中で、日本の国際的な位置と課題を考え直す、
- ことから始め、日本および日本人に関わる「自己認識」の形成をはかる。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価。

テキスト名：河合隼雄監修・「21世紀日本の構想」懇談会著「日本のフロンティアは日本のなかにある―自立と協治で築く新世紀」講談社、2000年

注意事項：Ⅰを履修しなければⅡは履修できない。

## 異文化コミュニケーション論ⅡB

わ だ じゅん  
和 田 純

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 2 ~ 4 年 |
| 後 期     |

Ⅰにおいて、日本および日本人に関わる「自己認識」を深めた上で、本講義では、文化は接触を通じて相互に影響しあい、文化は絶えず変容していくものであることを、歴史を踏まえながら、グローバルな視点から考える。

「統合」と「分散」が世界的規模で同時進行するグローバリゼーション、メディアの個人化を急速に推し進めるIT（情報技術）革命—こうした、かつて人類の経験したことのない大きな流れの中で、文化接触、文化交流、異文化コミュニケーションなどの概念は再考を求められている。

本講義では、戦争・植民地支配といった歴史的な負の遺産から、今日的な国際交流や移民などまで、様々な具体的な事例を取り上げ、文化接触、文化変容というダイナミズムを考える。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価。

テキスト名：講義に沿って随時プリント等を配布する。

注意事項：Ⅰを履修しなければⅡは履修できない。

|                 |                          |       |
|-----------------|--------------------------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅠC | サウクエンファン<br>SAU KUEN FAN | 2 単位  |
|                 |                          | 2～4 年 |
|                 |                          | 前期    |

**接触場面での日本人と外国人**

本講義は社会言語学の視点から日本人と外国人とのコミュニケーションについて概説する。はじめに、母語場面と接触場面の概念を導入し、例をもとにさまざまな言語現象を分析する。次に、接触場面研究で重要な社会文化問題、社会言語問題、言語問題を取り上げ、日本人と外国人とのコミュニケーションの特徴を考察する。

評価方法：グループ・プロジェクト、小テスト、出席・授業参加で評価する。

テキスト名：プリント教材

注意事項：受講希望者が20名を越える場合は、試験による人数調整を行う。講義は主に日本語で行うが、プリント教材は英語のものが中心になる。

|                 |                          |       |
|-----------------|--------------------------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅡC | サウクエンファン<br>SAU KUEN FAN | 2 単位  |
|                 |                          | 2～4 年 |
|                 |                          | 後期    |

**接触場面での言語管理**

本講義では、日本人と外国人とのコミュニケーションにおいて、表面化した問題だけではなく、表面化していない問題を含め、「言語管理」という言語計画の理論を用いて考察することを目的とする。具体的には、日本人が外国人とコミュニケーションをする際、どのような接触の規範を持ち、自らの規範からどのように逸脱に気づき、気づかれた逸脱をどのように評価し、調整するかのプロセスを分析していく。

評価方法：グループ・プロジェクト、レポート、出席・授業参加で評価する。

テキスト名：プリント教材

注意事項：受講希望者が20名を越える場合は、試験による人数調整を行う。講義は主に日本語で行うが、プリント教材は英語のものが中心になる。

**innovative cross-cultural communication**

The course aims at exploring the building blocks of intercultural communication by introducing its basic concepts touching upon

- aspects of cultural diversity,
- cross-cultural psychology,
- multicultural education,
- intercultural relations,
- international communication settings,
- intercultural encounters of different kinds.

It points out the critical issues one might face and expect at crosscultural interactions. At the same time the course also strives at giving guidance to avoiding miscommunication in intercultural settings by raising awareness of intercultural competence.

評価方法：Attendance and class participation, interactive contribution, presentations.

テキスト名：Milton J. Bennett (ed.): **Basic Concepts of Intercultural Communication, Selected Readings**, Intercultural Press, 1998 ISBN 1-877864-62-5

注意事項：The course is run in English, but interaction including presentations is also welcome in Japanese. Written contributions are however to be submitted in English.

**The art of crossing cultures**

Cross-cultural adaptation based on psychological and communication theory is verified by the personal experience of the individual who takes the challenge to act in intercultural setting. Case-studies of this sort help to understand and analyze the mental process one undergoes in encountering another culture. The course aims to raise awareness of this process by demonstrating methods of learning how to anticipate differences and master alternative reactions rather than withdrawing. Examples of crosscultural experience and intercultural communication are taken from a wide variety of cultures.

評価方法：Attendance and class participation, presentations.

テキスト名：Craig Storti: *The Art of Crossing Cultures*, Intercultural Press, 1990, ISBN 0-933662-85-8

Handouts

注意事項：The course is run in English, but interactions including presentations are also welcome in Japanese. Written contributions are however to be submitted in English.

## interpersonal interactions

This is a course to cover the main principles and concepts of interpersonal communication. During the semester term we will cover

- ・ the process of interpersonal communication,
- ・ communication skills in context,
- ・ the components of interpersonal communication in a social context
- ・ popular models of interpersonal communication,
- ・ men and women from a communicative perspective
- ・ new technologies in interactive communication

The course aims at presenting the importance of interactive and interpersonal skills. During the course study sheets, exercises and discussion will be used to enhance interpersonal communication competence.

評価方法 : Attendance and class participation, homeworks and reports with special emphasis on presentations.

テキスト名 : Peter Hartley: Interpersonal Communication (2nd ed.) , Routledge, London and New York, 1999 ISBN 0-415-18107-0 (pbk)  
Handouts, study sheets

注意事項 : The course is run in English, but interaction, presentation by students is also possible in Japanese. Written works to be submitted in English.

|                 |         |         |          |      |
|-----------------|---------|---------|----------|------|
| レトリカルコミュニケーション論 | あお<br>青 | ぬま<br>沼 | さとの<br>智 | 2 単位 |
|                 |         |         |          | 1～4年 |
|                 |         |         |          | 後 期  |

レトリカルなレンズでコミュニケーションを考えてみよう

この科目は「レトリック」というキーワードを通して、私たちの日常的なコミュニケーションについて分析し、論じ、理解を深めることを目標とする。ここでいうレトリックとは、単なることばの「あや」や「形式」ではなく、「説得」「討議」「権力」「暴力」「思想」「テツガク」といったさまざまな「もの・こと」を指す。本科目は基本的には「講義科目」ではあるが、授業内レポート、グループ発表などといった形で学生諸君にも出来る限り発言の機会を与えていきたい。授業に出席・参加せず、期末テストを受けたのみの学生諸君の評価は「不可能」であり、単位を与えることはできないことを覚えておいて欲しい。

評価方法：授業内レポート、グループ発表、期末試験

テキスト名：第一回目の授業の際に指示する。

|                   |         |         |         |        |      |
|-------------------|---------|---------|---------|--------|------|
| 非言語コミュニケーション論 I A | とう<br>東 | やま<br>山 | やす<br>安 | こ<br>子 | 2 単位 |
|                   |         |         |         |        | 1～4年 |
|                   |         |         |         |        | 前 期  |

非言語コミュニケーション〈概論〉

非言語コミュニケーションとは、顔の表情・視線・手振り・身振り・姿勢・相手との距離・縄張り意識・空間概念・時間概念・声の質や調子・服装等、様々な言葉によらない伝達手段によるコミュニケーションを指す。この授業では、これら多岐にわたる非言語コミュニケーションの諸相について概観する。欧米文化圏のみでなく、アジアやその他の文化圏も考察すると同時に、地域差・年齢差・男女差・個人差に関する討議も行う。授業は、学生参加型で行われる為、学生は、テキスト及び関連図書を読み、観察眼を磨き、積極的に授業に参加することが期待される。

評価方法：以下の各項目の総合評価とする。

1. 発表
2. 個人レポート
3. 出席状況（出席重視）

テキスト名：『ボディー・トーク』デズモンド・モリス著、三省堂

参考文献：開講時に参考文献リストを配布。

注意事項：「非言語コミュニケーション論Ⅱ」を履修希望のものは、この「I」を履修し単位を取得する必要がある。第一回目の授業で80名を越えた場合は、講義概要の説明後、抽選を行い受講者を決定する。その際、各学科及び各学年が平均的に受講できるように配慮する。第一回目の授業に欠席した者は受講不可。

|                 |                       |         |
|-----------------|-----------------------|---------|
| 非言語コミュニケーション論ⅡA | とう やま やす こ<br>東 山 安 子 | 2 単 位   |
|                 |                       | 1 ~ 4 年 |
|                 |                       | 後 期     |

### 非言語コミュニケーション〈調査方法〉

「非言語コミュニケーションⅠ」で培った、基本的な非言語コミュニケーションに関する知識と観察眼を基に、関心あるテーマを選び、グループでプロジェクトに取り組んでもらう。講義は、非言語研究の調査方法や研究成果について概説する。学生はプロジェクト案の提出・調査の実施・中間発表を経て、最終的にプロジェクトに関するレポートを仕上げることを課題とする。授業は学生参加型で行われるため、積極的な姿勢が望まれ、プロジェクトでは各自が責任を果たし、グループに積極的に貢献・協力することが要求される。

評 価 方 法：以下の各項目の総合評価とする。

1. グループ・プロジェクトの中間発表
2. グループ・プロジェクトのレポート
3. 出席状況（出席重視）

テキスト名：随時プリントを配布する。

注 意 事 項：履修は、「非言語コミュニケーションⅠ」の単位を取得した学生に限る。初回の説明を必ず聞いた上で、履修を決めること。

|                 |                       |         |
|-----------------|-----------------------|---------|
| 非言語コミュニケーション論ⅠB | ます もと とも こ<br>栞 本 智 子 | 2 単 位   |
|                 |                       | 1 ~ 4 年 |
|                 |                       | 前 期     |

「コミュニケーション」というと、言葉で伝えるメッセージとう印象を受けがちである。しかし、私達の日常生活では半分以上のメッセージを言語以外の「非言語」的な方法で受け取っている。非言語とは、顔の表情、手振り、服装、姿勢、時間・空間の概念等、言語以外の様々な伝達手段を意味する。このコースでは、非言語コミュニケーションが私達の行動にどのように影響しているのかを学び、非言語コミュニケーションへの洞察を深めていく。

評 価 方 法：授業への参加度（出席は必要不可欠）、レポート、発表、試験

テキスト名：「しぐさのコミュニケーション：人は親しみをどう伝えあうか」大坊郁夫著、サイエンス社、1998年度出版

注 意 事 項：このコースでは、授業中の実験や宿題を通じて、自分で実際に観察、経験することを重視し、各々の授業への貢献度を期待する。（定員25名）

|                 |         |         |         |        |         |
|-----------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 非言語コミュニケーション論ⅡB | ます<br>榊 | もと<br>本 | とも<br>智 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|                 |         |         |         |        | 1～4 年 期 |
|                 |         |         |         |        | 後 期     |

非言語コミュニケーションIで学んだ基礎概念を基本にして研究を行う。学期の初めは、非言語コミュニケーションに関連する文献を紹介していく。同時にグループを決め、一学期間を通じて、研究プロジェクトに取り組んでいく。研究プロジェクトは、定期的な経過報告と最終発表・レポートを課題とする。発表においては、研究内容をより高めるために、他のグループとの意見交換を活発にすることが望まれる。

評価方法：授業への参加度（出席は必要不可欠）、研究論文の紹介（英文文献を含む）、レポート、グループ研究発表

テキスト名：参考文献リストを参照

参考テキスト：「しぐさのコミュニケーション：人は親しみをどう伝えあうか」大坊都夫著、サイエンス社、1998年度出版

注意事項：非言語コミュニケーションIを履修していることが望ましい。履修していない者は、担当講師の許可と参考テキストを講義開始前に読むことが必要。

|                   |         |         |        |         |
|-------------------|---------|---------|--------|---------|
| メディア・コミュニケーション論ⅠA | ベク<br>白 | ソン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位   |
|                   |         |         |        | 1～4 年 期 |
|                   |         |         |        | 前 期     |

私たちが日常的に接したり、利用したりしているメディア、たとえばテレビ、新聞、雑誌、ラジオ、広告などの歴史、特性、社会的な機能を検証する。そしてそのようなメディアを通してのコミュニケーションのあり方について議論する。また、このクラスではマスメディアだけではなく、より小規模な集団や仲間の、あるいはよりパーソナルなコミュニケーションの手段として用いられるメディアについて考えてみたい。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：特定の教科書は用いない。参考文献のリストを配る。

|                   |        |        |        |       |
|-------------------|--------|--------|--------|-------|
| メディア・コミュニケーション論ⅡA | ベ<br>白 | ソ<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位 |
|                   |        |        |        | 1～4 年 |
|                   |        |        |        | 後 期   |

私たちが日常的に接したり、利用したりしているメディア、たとえばテレビ、新聞、雑誌、ラジオ、広告などの歴史、特性、社会的な機能を検証する。そしてそのようなメディアを通してのコミュニケーションのあり方について議論する。また、このクラスではマスメディアだけではなく、より小規模な集団や仲間の、あるいはよりパーソナルなコミュニケーションの手段として用いられるメディアについて考えてみたい。この授業は「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」での課題を引継ぎながら、メディアの変化とそれに媒介されるコミュニケーションの模様について議論する。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：特定の教科書は用いない。参考文献のリストを配る。

注意事項：「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」の受講者であることが望ましい。

|                   |        |          |            |       |
|-------------------|--------|----------|------------|-------|
| メディア・コミュニケーション論ⅠB | こ<br>小 | ばやし<br>林 | としお<br>登志生 | 2 単 位 |
|                   |        |          |            | 1～4 年 |
|                   |        |          |            | 前 期   |

高度情報化時代を迎えた今日、情報の役割や機能およびその伝達手段となる様々なメディアについて議論が高まっている。本講義ではコミュニケーションにおけるメディアについての基本概念を学び、テキストに基づき国際関係とコミュニケーションの諸問題について理論、歴史、政策に焦点をあて授業を進める。21世紀のボーダレス時代に向かってグローバルなコミュニケーションのシステムおよび様々なテクノロジーとヒューマン・ファクターに係わる諸問題についてのクラス討論を通して広く世界を見る目を養うことを目標とする。

評価方法：1. クラスにおける積極的な参加  
2. グループ発表における貢献度  
3. レポート類の提出  
4. 試験成績

テキスト名：「グローバル・コミュニケーション—新世界秩序を迎えたメディアの挑戦」

参考図書：クラスで指示

注意事項：本講義は授業を効果的に進めるために受講生の数を30名に制限する。受講する学生にはこれまでに何等かのコミュニケーションの講義を受講した学生を求める。

|                   |                  |              |
|-------------------|------------------|--------------|
| メディア・コミュニケーション論ⅡB | こばやしとしお<br>小林登志生 | 2 単位         |
|                   |                  | 1～4 年<br>後 期 |

本講義では、高度情報化社会、ボーダレス時代におけるマルチメディア・テクノロジーという現代のキーワードに焦点をあて、先端情報・通信技術が従来のヒューマン・コミュニケーションにどのような影響を及ぼすかについて掘り下げた授業を進める。特に新たな世界秩序構築に向けての様々な国際社会におけるメディアの果たす役割・機能とコミュニケーションとの関わりについて考察することを目標とする。本クラスは、学生の関心トピックを選定しクラス内で模擬研究会・ミニ国際会議の形式で受講学生自身の積極的な貢献を基に学生主体の討論を中心に進めて行く。

評価方法：「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」と同様

テキスト名：菊川健編 「教育メディア科学」 オーム社

注意事項：本講義を受講する学生は前期の「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」を受講している学生に限定する。Ⅱ受講者はさらに日常の内外時事問題等について情報収集を怠らず授業に臨むことを要求する。その成果が十分クラスに活かされない場合は最終的な評価に影響することを覚悟すること。

|                   |                 |              |
|-------------------|-----------------|--------------|
| メディア・コミュニケーション論ⅠC | たけいちひでお<br>武市英雄 | 2 単位         |
|                   |                 | 1～4 年<br>後 期 |

#### メディアの特徴

われわれは今日、メディアとの接触なしに毎日を過ごすことはほとんど不可能に近い。それならば、主体性ある受け手として接触する必要がある。メディアの情報に振り回されない賢い受け手である。そのためには、まずメディアとはどのような特徴をもっているかを学んでいこう。メディアを通じた報道では現実とどう違うのか知る必要がある。さらにニュースの特色やメカニズムについても学んでいく。

評価方法：書評、テスト、出席状況などによる総合評価

テキスト名：春原昭彦ほか「ゼミナール日本のマス・メディア」日本評論社  
 ハワード・フレデリック「グローバル・コミュニケーション」松柏社  
 清水英夫ほか「マス・コミュニケーション概論」学陽書房

注意事項：「メディア・コミュニケーション論ⅠC」を履修する人は必ず「メディア・コミュニケーション論ⅡC」も同時に履修すること。

## ジャーナリズムと現代社会

Ⅱでは、Ⅰのテーマをさらに一歩進めて、メディアの‘しにせ’である新聞報道の特性について考察していく。これをふまえて各種メディアの総合的な活動としてのジャーナリズムが今日どのような意味合いをもっているかを解明していく。さらに大きな枠組みとしての国際報道がメディアの報道姿勢によって、各国の人びとにどのようなイメージを与えるかを考えてみる。グローバル化時代のメディアの使命を模索する。

評価方法：書評、テスト、出席状況などによる総合評価

テキスト名：春原昭彦ほか『ゼミナール日本のマス・メディア』日本評論社  
ハワード・フレデリック『グローバル・コミュニケーション』松柏社  
清水英夫ほか『マス・コミュニケーション概論』学陽書房

注意事項：「メディア・コミュニケーション論ⅡC」を履修する人は必ず「メディア・コミュニケーション論ⅠC」も同時に履修すること。

## インターネットを通じた国際理解と誤解

インターネットは国境・文化を越えるメディアである。

この急速に発展してきたメディアを通じて生じる、国家間・異文化間の理解と誤解について、実際にWWWのブラウジングとメールのやりとりをおこないながら、実践的に学ぶを目標とする。

受講者には、みずから情報を求める積極性、インターネット上で事実上の標準言語となってしまう英語に対する積極性が求められる。また、ある程度、WWWやメールに慣れていることが望ましい。

教員とともに各自が積極的に参加することで、「インターネットを媒介とする国境を越えた誤解と理解」について発見し、考察し、議論していく。なお、この講義概要を書いている現在から、実際に講義がおこなわれるまで、半年以上ある。インターネットは現在も急速に変化しつづけているので、若干の講義内容の変更がありえる。

評価方法：平常点（課題提出状況、出席状況）による。

テキスト名：特にテキストの指定はしない。必要に応じてプリント資料の配布をおこなう。  
また、ウェブ上にも閲覧できる資料を置く予定である。

注意事項：平成12年度の「メディア・コミュニケーション論ⅠB」を履修していることが望ましい。  
また、パソコンを使用する関係上、事前登録の時点で履修人数を72人（3号館3F第1CPU室で学生が使用可能なコンピュータの台数の1.5倍）に制限する。

|                |        |        |          |       |
|----------------|--------|--------|----------|-------|
| 組織コミュニケーション論ⅠA | わ<br>和 | だ<br>田 | じゅん<br>純 | 2 単 位 |
|                |        |        |          | 2～4 年 |
|                |        |        |          | 前 期   |

人の活動に組織は不可欠である。そして、組織は、そこに参加する人々のコミュニケーションのあり方によって、有用で生産的な仕組みにもなれば、束縛するだけの非生産的な仕組みともなる。人が組織を使いこなすのか、組織に人が従属するのか、結局は、組織内で組織を構成する人々の関係のあり方と、組織内と組織外の人々の関係のあり方が全てを決していくこととなる。個人の自己実現も、組織の存在意義も、そうした関係性に左右されていると言ってよい。

本講義では、国家や自治体といった「政府」、営利目的の組織である「企業」、非営利で公的利益の実現をめざす「非営利組織」(NGO・NPO・財団・ボランティア組織など)の三つのセクターにおける使命、達成目標の設定、意志決定、実行、評価などのプロセスを比較検討するなかから、そこにおけるコミュニケーションのあり方とその反映としての組織のあり方を考える。

基本テーマは、何が「公益」で、どういうプロセスを経て、誰が、それを決め、実現し、他人といかに共有していくのかという点におき、実社会の実例を通じて考える。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価

テキスト名：山本正ほか『「官」から「民」へのパワーシフトー誰のための「公益」か』TBSブリタニカ

注意事項：Ⅱを履修する場合、Ⅰも履修していることが望まれる。

|                |        |        |          |       |
|----------------|--------|--------|----------|-------|
| 組織コミュニケーション論ⅡA | わ<br>和 | だ<br>田 | じゅん<br>純 | 2 単 位 |
|                |        |        |          | 2～4 年 |
|                |        |        |          | 後 期   |

Ⅰで比較検討した国家や自治体といった「政府」、営利目的の組織である「企業」、非営利で公的利益の実現をめざす「非営利組織」(NGO・NPO・財団・ボランティアなど)の三つのセクターのなかから、Ⅱでは、これから益々重要性を増し、社会の活性化に最も必要性が高いと考えられる「非営利組織」に重点を置き、その組織運営の基本的なあり方を考える。

日本の社会では、「非営利組織」はまだ発展途上にあり、外国のモデルをそのまま移植するだけでは乗り越えられない問題も多い。ここでも、何が「公益」で、誰がそれを決め、他人とそれをいかに共有するかが一貫したテーマとなるが、できればグループ発表やディスカッションなども取り入れ、内外のNGO・NPOなどの実例や実際の担い手の体験等を材料に、発想の転換をはかっていきたい。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価

テキスト名：未定(授業開始時に指定する)

注意事項：Ⅱを履修する場合、Ⅰも履修していることが望まれる。

|                |  |       |
|----------------|--|-------|
| 組織コミュニケーション論ⅠB | なが<br>お<br>てる<br>や<br>長<br>尾<br>昭<br>哉 | 2 単 位 |
|                |  | 2～4 年 |
|                |  | 前 期   |

企業経営の眼から見たコミュニケーション

最近の経営学はコミュニケーションというテーマを必ず取り上げる事になっている。また、広い意味の経営学の一分野として、経営情報論という領域がある。今回の講義では、こうした研究の一端を紹介し、あわせて、語用論と対話システム論の境界にあるいくつかの主題について、最近の理論研究の状況に話を進めたい。

評価方法：講義中にテストを行う。

テキスト名：テキストは講義開始時に指示する。

|                |                                |       |
|----------------|--------------------------------|-------|
| 組織コミュニケーション論ⅡB | たか<br>さき<br>のぞむ<br>高<br>崎<br>望 | 2 単 位 |
|                |                                | 2～4 年 |
|                |                                | 後 期   |

組織と人間

組織におけるコミュニケーションは、家庭や社交における自己完結的なコミュニケーションとは異なって、組織存立のための課題達成的なコミュニケーションである。そのため、その発受信者のタテの関係、同位者、非公式集団の間の横の関係が織りなす複雑な組織コミュニケーションの中に人間が置かれている。

本講では、まず組織の中のコミュニケーションの構造と問題から始め、組織コミュニケーションの環境、組織コミュニケーションのレベルと集団内の過程等、現代の人間と組織の中でのコミュニケーションを考究する。

評価方法：レポート方式。出欠席を考慮する。

テキスト名：原岡 一馬・若林 満 編著「組織コミュニケーション」 福村出版

|                |              |      |
|----------------|--------------|------|
| コミュニケーション論特講 A | ユディット ヒダシ    | 4 単位 |
|                | JUDIT HIDASI | 3～4年 |
|                |              | 前期   |

### Space and Time in Cultures

The course aims at presenting a comprehensive study of E.T.Hall's concept of communication. His interpretation of culture as communication is best understood by the pervasive influence of the Bloch silent language. Taking selected chapters of his main works, one gets insight into his theory of space use that is how space differs from culture to culture and what impact it has on human relations. He also examines the manner in which culture binds humans to deeply ingrained attitudes and behaviours. Finally his complex analysis of the variation of perception and the use of time among cultures gives hints to corresponding implications for society and for communication on the whole.

評価方法：Attendance and class participation, presentations.

テキスト名：The Basic Works of Edward T.Hall, (The Silent Language 1959, 1981; The Hidden Dimension 1966,1982; Beyond Culture 1976, 1981; The Dance of Life 1983),- treated as one book, Anchor/Doubleday, 1999 Stock No. C-503  
Handouts

注意事項：The course is run in English, but interactions and presentations also welcome in Japanese. Written contributions should be submitted however in English.

|                |           |      |
|----------------|-----------|------|
| コミュニケーション論特講 B | たか さき のぞむ | 4 単位 |
|                | 高 崎 望     | 3～4年 |
|                |           | 後期   |

### 先進情報化企業のケース・スタディ

最近ITによるコミュニケーションの導入の成否が、ビジネスの盛衰に大きな影響を与えている。言語やゼスチュア等旧来のコミュニケーションに代わって、インターネットや業種破壊により、急成長するビジネスやその動向に乗り遅れて挫折する企業も見られる。

本講では、各種ビジネスのコミュニケーション態様をケース・スタディに採用し、就職問題ともからめてビジネスとコミュニケーションの相関性とビジネス評価の手法をフリー・ディスカッション方式により学ぶ。

評価方法：レポート方式。出欠席を考慮する。

テキスト名：講師がその都度配布する。

注意事項：就職相談にも応じるため、20名以内とする。

|                     |         |         |          |       |
|---------------------|---------|---------|----------|-------|
| 国際ビジネス・コミュニケーション論ⅠA | たか<br>高 | さき<br>崎 | のぞむ<br>望 | 2 単 位 |
|                     |         |         |          | 2～4 年 |
|                     |         |         |          | 前 期   |

**グローバル化と経営情報**

最近、経済の急激なグローバル化と各国企業の海外相互進出や多国籍協業・国際コングロマリットの増大によって、国際ビジネスは大きく変貌しつつある。これにともない、国際ビジネス・コミュニケーションも大きな成長と急激な情報システムの革新を遂げつつある。新ビジネス・コミュニケーションのメディアとして、コンピュータ、インターネットやバーチャル通信回線などがビジネスに浸透しつつある。

本講は、まずビジネス内の新システムを学ぶとともに、日米欧のビジネス・コミュニケーションの比較分析を豊富なケース・スタディによって行う。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：工藤 市兵衛 他 『経営情報教科書』 同友館

|                     |         |         |          |       |
|---------------------|---------|---------|----------|-------|
| 国際ビジネス・コミュニケーション論ⅡA | たか<br>高 | さき<br>崎 | のぞむ<br>望 | 2 単 位 |
|                     |         |         |          | 2～4 年 |
|                     |         |         |          | 後 期   |

**コミュニケーションの新メディア**

本講は、「国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ」の続論としての役割を果たしつつ、一方独立して初めから考究することもできるよう配慮したものである。

すなわち、急激に増大・発展・変革しつつある国際ビジネス・コミュニケーションにおいて用いられる情報システムや電子商取引、インターネット、ビジネス用語など、企業において急速にコミュニケーションの主流となりつつあるグローバル・メディアについて、ケース・スタディを活用して考究し、新しい国際ビジネス・コミュニケーションの動向を学んで就職にも活用できることを目指すものである。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：高崎 望 『マルチメディアの現実』 経済界

This course focuses on the importance of intercultural communication competence for effective international business relationships. The course will sensitize students to important intercultural issues that can facilitate or frustrate international business transactions and will examine various communication strategies and protocols essential for effective international business. As well, the course will enable students to ask the right questions in a multicultural environment and provide a forum in which to address how Japanese culture plays out in international business communication. Themes explored will include international negotiation and decision making, intercultural conflict resolution, communication styles, and cultural value differences. Students will interview international business managers and/or other employees of internationally oriented businesses. As well, students will work in teams to research one aspect of international business communication and prepare an in-class presentation.

評価方法 : The final grade is based upon class participation and attendance (20%), individual interview report (25%), IBC research & reaction summaries (25%), in-class group presentation & reflection paper (30%).

テキスト名 : Handouts and individual student research.

**Japanese and/or English. Unless otherwise specified, written work must be in English. This is a communication course, not a language course.**

注意事項 : Previous courses on intercultural communication would be helpful, but not required

This course focuses on the importance of intercultural communication competence for effective international business. The course will sensitize students to important intercultural and international management issues that can facilitate or frustrate international business transactions and will examine various communication strategies and protocols essential for effective international business. The course will enable students to ask the right questions in a multicultural environment and provide a forum in which to address the global challenges of intercultural cooperation. Themes explored will include multicultural team development, the dimensions of organizational and national culture, managing cultural diversity, and cross-cultural transitions. In teams, students will select an organization involved in international business communication to conduct an on-site visit and compile an organizational portfolio. Each team will be responsible to prepare and deliver a professional, in-class presentation of the organization. As well, each student is to select an IBC topic and read five related, current events articles over the semester and prepare a 1-2 page reaction summary for each.

**評価方法** : The final grade is based upon class participation and attendance (20%), organizational portfolio (30%), IBC research & reaction summaries (25%), in-class group presentation & reflection paper (25%).

**テキスト名** : Handouts and individual/group research.

Japanese and/or English. Unless otherwise specified, written work must be in English. This is a communication course, not a language course.

**注意事項** : International Business Communication I is a prerequisite for this course. Third and fourth year students who have not taken IBC I may enroll in this course with instructor approval.

|             |          |          |         |
|-------------|----------|----------|---------|
| 社 会 調 査 法 I | ツェン<br>農 | クワン<br>光 | 2 単 位   |
|             |          |          | 1 ~ 4 年 |
|             |          |          | 前 期     |

### 社会調査の基礎 (1) - 社会調査の設計から実施まで

社会調査とは何かを理解した上、その基礎技術を身につけることが本講義の目的である。社会調査を成功させる重要条件といえば、まず調査票の作成であろう。しかし、調査票の科学的構成が決して尋きたいことを質問するだけの簡単なものではなく、調査対象や調査テーマをいかに決めるか、理論仮説をいかに組み立てるか、調査票の言語問題をどう考えるか、質問の関係をいかに合わせるか、などの問題を解決しなければならない。すなわち、多くの社会事象を理解するために専門的な知識や訓練が必要である。本講義は、社会調査の設計から実施までの流れをできるだけ具体的な事例に基づいて説明したい。

- ① 社会調査の調査設計
- ② サンプルングの方法
- ③ 理論仮説の立て方
- ④ 質問の作成と組合せ
- ⑤ 予備調査とパイロード調査
- ⑥ 社会調査の実施問題

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 学習態度
2. レポート
3. 出席状況

テキスト名：授業の進行に合わせてプリントを配り、参考書を指示する。

社会調査の基礎 (2) - コンピュータと調査データの解析

現在、コンピュータの普及によって社会調査においてもその応用が多くなっているため、昔は手間を取った調査データの解析も簡単に出来るようになる。本講義では、まず調査票の整理という準備段階から始める。そしてコンピュータソフト SPSS を利用してデータベースを作成し、データ解析することへ進む。もっぱらコンピュータの知識や統計学の知識を勉強することだけではなく、むしろ実際に基づいてコンピュータや社会統計の知識を応用することが授業の目的である。実践的練習によってコンピュータになじみ、社会統計の基礎知識を身に付けるように指導したい。授業の具体的な内容は次の通りである。

- ① 調査票の整理
- ② データベースの作成
- ③ 調査データの整理とチェック
- ④ SPSS というソフトの使用法
- ⑤ 調査データの分析
- ⑥ 調査報告書の作成

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

- 1. 学習態度
- 2. レポート
- 3. 出席状況

テキスト名：授業の進行に合わせてプリントを配り、参考書を指示する。

## 2) 言語コミュニケーション科目

|                  |                                  |         |
|------------------|----------------------------------|---------|
| 英語パブリック・スピーキング A | スティーヴン レン シャ ウ<br>STEVEN RENSHAW | 4 単 位   |
|                  |                                  | 1 ~ 4 年 |
|                  |                                  | 前 期     |

This course concentrates on developing skills in effectively presenting yourself and your ideas in public settings in English. From this course, you should learn how to organize your ideas appropriately for various speaking situations and present them confidently in English to others. The course will consist primarily of delivering speeches. These will include the following:

- I. Introductions and Self Expression
- II. Speaking to Inform
- III. Persuasive Speaking
- IV. Speaking to Entertain

Class activities will include lectures on how to prepare speeches, discussion of appropriate topics, presentation of speeches, and "post speech" discussion of each speech given. While topics should be chosen according to individual interest, special attention will be placed on developing the ability to communicate about your own culture publicly in English.

**評価方法** : Since giving presentations and participating in presentations of others in class is essential, your grade will be based on attendance, active participation, and completion of all speeches and public presentations. There will be no written examinations.

**テキスト名** : **Textbook to be announced. Lectures and activities will be supplemented by hand-outs and other material supplied by the instructor.**

**注意事項** : Maximum Class Size: 25

You should have at least a C-Level of English Proficiency (500 on TOEFL or similar score on Equivalent Exam).

Schedules, special notices, class information, and other material will be available online at the following URL:

<http://www2.gol.com/users/stever/pubspeak.htm>

Please check this page regularly. It is i-mode compatible and can be reached by ordinary browser or any internet compatible mobile device.

|                   |            |       |
|-------------------|------------|-------|
| 英語パブリック・スピーキングB・C | ベ ス バ リ ー  | 4 単 位 |
|                   | BETH BARRY | 1～4年  |
|                   |            | 前期・後期 |

The goal of this course is to help you become better thinkers and communicators. To do that you will have opportunities to give speeches and receive feedback on your performance. Also, you will study communication theories. Instruction will cover topics such as choosing and narrowing topics, structure of speeches, organization, supporting ideas, argument and critical thinking, and audience analysis.

評価方法：Attendance, classroom discussion, speech outlines, speech presentations and critiques will be evaluated. Quizzes as needed to check for understanding and progress. No final exam.

テキスト名：To be announced the first day of class.

注意事項：Those who wish to register MUST meet the C-level of English Language Proficiency (TOEFL 600, TOEFL 500 or STEP Jun-Ikkyu).

|                     |                     |       |
|---------------------|---------------------|-------|
| 英 語 デ ィ ベ ー ト A ・ B | ジ ョ セ フ イ ン ダ イ モ ー | 4 単 位 |
|                     | JOSEPH INDAIMO      | 1～4年  |
|                     |                     | 前期・後期 |

### Introduction to Public Debating

What we will be dealing with in this course is the basic theory and practice of argumentation and debate. There are a lot of language skills involved in these two activities, including : preparation, anticipation, presentation, quick thinking, summation and differentiating weak arguments from strong arguments. The course will provide you with opportunities to (1) learn about and improve these skills (2) be familiar with the basic principles and rules of critical, argumentative communication and (3) apply such knowledge to practical argumentative situations through in-class debating participation. Classes will focus on group discussions and lectures about the theory of these three points, and practical participation in organised debates. All students must participate in the practice debates and will gain experience in debating both sides of the topic.

評価方法：Class reports, library research and debate preparation, informal and formal debate performance.

テキスト名：To be announced in the first week of the semester.

|                       |         |         |         |        |         |
|-----------------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 英語スモールグループ・コミュニケーションA | ます<br>榊 | もと<br>本 | とも<br>智 | こ<br>子 | 4 単 位   |
|                       |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                       |         |         |         |        | 前 期     |

Some people love working in a group and other people are frustrated with group work.

Working in groups and teams is important and unavoidable in life.

In this course we learn

- ・ basic group and team concepts
- ・ how and why group experiences may both satisfy and frustrate you and other members of your groups
- ・ how to become aware of how communication operates in groups
- ・ how to work in a group effectively through exercises
- ・ how to identify conflicts and work together to solve them

評価方法 : Attendance and class participation, group projects, presentations, test.

\*Most of your grade will be based on group projects. In principle, each person in the group will receive the same grade for the group projects.

Thus it is important that you establish trust and create a cooperative climate.

テキスト名 : Lumsden, G. & Lumsden, D. (2000). *Communicating in groups and teams: Sharing leadership.*

CA : Belmont, Wadsworth.

注意事項 : Class size: 25 students, English language proficiency (TOEIC 600, TOEFL 500, or STEP Jun-Ikkyu)

|                       |                                  |           |
|-----------------------|----------------------------------|-----------|
| 英語スモールグループ・コミュニケーションB | スティーヴン レン シャ ウ<br>STEVEN RENSHAW | 4 単 位     |
|                       |                                  | 1 ~ 4 年 期 |
|                       |                                  | 後 期       |

This course concentrates on theory and pragmatic application of communication principles in small groups. From this course, you should develop an understanding and an ability to effectively participate in groups in a variety of cultural settings but most especially in those which have an English speaking base. Topics will include: group formation, development of goals, group maintenance, group power structures, leadership, goal completion, and group dissolution. By applying principles learned in class, you should increase your ability to understand, work in, lead, and evaluate English speaking groups. Class activities will include lectures and discussion of small group theory and (perhaps most importantly) actual participation in a group project from formation to dissolution.

**評価方法** : Since participation with others in class is essential, 50% of your grade will be based on attendance and active participation in the group project. The other 50% of your grade will be based on quality and timely completion of written group assessments, exams on lecture material, and other assignments.

**テキスト名** : Textbook to be announced. Lectures and activities will be supplemented by handouts and other material supplied by the instructor.

**注意事項** : Maximum Class Size: 25  
 You should have at least a C-Level of English Proficiency (500 on TOEFL or similar score on Equivalent Exam).  
 Schedules, special notices, class information, and other material will be available online at the following URL:  
<http://www2.gol.com/users/steve/smallgrp.htm>  
 Please check this page regularly. It is i-mode compatible and can be reached by ordinary browser or any internet compatible mobile device.

|                      |                        |       |
|----------------------|------------------------|-------|
| 英語オーラルインタープリテーションA・B | はら おか しょう こ<br>原 岡 笙 子 | 4 単 位 |
|                      |                        | 2～4 年 |
|                      |                        | 前期・後期 |

音声学で演習した母音・子音レベルについての理論と実践を基に、本講では実際のコミュニケーションの場で最も重要な役割を果たすと思われるイントネーションを習得することを到達目標とする。

英語発音の型など理論面の理解と演習を基に、詩、ドラマや小説のなかの英語を通して、音声表現と意味のかかわりを考察すると同時に、より効果的に正確に相手を説得する英語の音声表現法を習得する。

評 価 方 法：理論と演習に関するレポート70%、平常点20%、出席点10%

注 意 事 項：「音声学」を履修済みであり、更にC基準（TOEIC 600点、TOFEL 500点、英検準1級）の学生のみを対象とする。

|           |                              |       |
|-----------|------------------------------|-------|
| 英語談話分析A・C | ロバート デシルバ<br>ROBERT DE SILVA | 4 単 位 |
|           |                              | 2～4 年 |
|           |                              | 前期・後期 |

Discourse is concerned with the study of the relationship between language and the contexts in which it is used. It describes and analyzes spoken language, such as conversations, classroom interaction, and formal speeches. In addition, it studies the ways written texts (newspaper articles, letters, instructions, stories, etc.) are organized. The aim of this course is to come to a better understanding of natural spoken and written English discourse. Contrasts with Japanese discourse will also be considered.

評 価 方 法：Written homework.

One test.

One report.

Attendance.

テキスト名：Textbook: (Undecided)

注 意 事 項：This course is taught entirely in English.

|               |                   |           |
|---------------|-------------------|-----------|
| 英 語 談 話 分 析 B | セ オ ド ア ロ ジ ャ ー ズ | 4 単 位     |
|               | THEODORE RODGERS  | 2 ~ 4 年 期 |
|               |                   | 前 期       |

**Asian American Literature As Diaspora Literature**

This course looks at how language units larger than the sentence are organized and how these units relate to the functions of language and the contexts in which language-based communication occurs.

Pledges, poems, prayers and parodies are among the many purposes to which language is put. Discourse analysis looks at how written texts as well as verbal communication (talks) are organized to suit the purposes of language users. We will look also at how gender and status affects the forms and functions to which language is put.

The aim of the course is to develop a better understanding of how spoken and written discourse works in English and to be able to apply that understanding in practical situations.

- 評価方法：Written homework 50%  
 One oral report 20%  
 One test 10%  
 Participation in class discussion 20%

テキスト名：Tannen, Deborah. *That's Not What I Meant*. Ballantine Books, 1986 Plus handouts.

|                   |           |           |
|-------------------|-----------|-----------|
| 日 英 翻 訳 法 [ 時 事 ] | そ ね か ず こ | 4 単 位     |
|                   | 曾 根 和 子   | 2 ~ 4 年 期 |
|                   |           | 後 期       |

時事問題に関する日英翻訳法を学ぶ。国内や国際問題で注目を集めている出来事に関するニュース記事、論評を教材に、政治経済、文化、社会、科学技術等の各分野における日英翻訳の実践演習を行う。講義よりも演習に重きを置き、履修者は毎回与えられた課題の翻訳文を提出する。なお、英語通訳法と関連はあるが、使用教材、演習の形式が全く異なるので英語通訳法と並行して履修しても内容が重複することはない。

評価方法：毎授業終了時に提出する翻訳文、および毎回の小テストにより随時評価を行う。期末テストで総合評価を行う。出席を重視する。

テキスト名：日本語・英語の新聞及び雑誌記事等

注意事項：受講資格は「時事英語」を履修済でTOEIC760点、TOEFL560点、英検1級の何れかを取得している2～4年生（履修希望者は1回目の授業の際に、スコア又は合格証のコピーを必ず提出すること）

|                   |                      |           |
|-------------------|----------------------|-----------|
| 英 日 翻 訳 法 〔 時 事 〕 | そ ね か ず こ<br>曾 根 和 子 | 4 単 位     |
|                   |                      | 2 ~ 4 年 期 |
|                   |                      | 前 期       |

時事問題に関する英日翻訳法を学ぶ。国内や国際問題で注目を集めている出来事に関するニュース記事、論評を教材に、政治経済、文化、社会、科学技術等の各分野における英日翻訳の実践演習を行う。講義よりも演習に重きを置き、履修者は毎回与えられた課題の翻訳文を提出する。なお、英語通訳法と関連はあるが、使用教材、演習の形式が全く異なるので英語通訳法と並行して履修しても内容が重複することはない。

評 価 方 法：毎授業終了時に提出する翻訳文、および毎回の小テストにより随時評価を行う。期末テストで総合評価を行う。出席を重視する。

テキスト名：日本語・英語の新聞及び雑誌記事等

注 意 事 項：受講資格は「時事英語」を履修済で、TOEIC680点、TOEFL530点、の何れかを取得している2～4年生（履修希望者は、1回目の授業の際に、スコアのコピーを必ず提出すること）

|             |                      |           |
|-------------|----------------------|-----------|
| 英 語 通 訳 法 I | そ ね か ず こ<br>曾 根 和 子 | 4 単 位     |
|             |                      | 2 ~ 4 年 期 |
|             |                      | 前 期       |

日英（英日）通訳法の基礎理論を学び異文化コミュニケーションの理解に努める。ラジオ、テレビ、の英語放送、英語スピーチおよび英語を使用した会議の録音テープを教材に、LL設備を使用した実技演習を通じ、政治、経済、文化、社会、スポーツ、科学技術等の各分野における「逐次通訳法」の基礎を習得させる。

評 価 方 法：用語等のテスト、通訳パフォーマンスの評価を随時行う。期末テストで履修状態の総合評価を行う。

テキスト名：講師作成のスタディ・ガイド（授業の際配布）及び録音テープ等

注 意 事 項：定員は30名（多数の場合は、4年生を優先し、選抜試験を行う）。

受講資格は、「時事英語」を履修済でTOEIC760点、TOEFL560点、英検1級の何れかを取得している2～4年生（履修希望者は、1回目の授業の際に、スコア、又は合格証のコピーを必ず提出すること）。

|             |                     |           |
|-------------|---------------------|-----------|
| 英 語 通 訳 法 Ⅱ | そ ね かず こ<br>曾 根 和 子 | 4 単 位     |
|             |                     | 2 ~ 4 年 期 |
|             |                     | 後 期       |

「英語通訳法」で習得した知識、技能を基礎に、優れた通訳者としての資質育成を図る。広範囲な分野における高度な内容の教材を用い、LL設備を使用し「逐次通訳法」の能力の向上を目指すとともに、英語及び日本語ニュースを中心として、簡単な「同時通訳法」の基礎を理解させる。講義全般を通じ、通訳者としての一般的な知識、教養を習得させる。

評 価 方 法：用語等のテスト、通訳パフォーマンスの評価を随時行う。期末テストで履修状態の総合評価を行う。

テキスト名：講師作成のスタディ・ガイド（授業の際配布）及び録音テープ等。

注 意 事 項：定員は30名。受講資格は「英語通訳法Ⅰ」を履修済の学生。

|                 |                      |           |
|-----------------|----------------------|-----------|
| 日本語プレゼンテーションA・D | よこ た さと み<br>横 田 智 美 | 4 単 位     |
|                 |                      | 1 ~ 2 年 期 |
|                 |                      | 前 期 ・ 後 期 |

この講座は、自分の意見や収集した情報などを日本語で明確かつ効果的に聴き手に伝える口語表現力の養成をねらいとする。授業では、スピーチの展開の仕方、情報提示方法、さらには対人コミュニケーションの基本などを学びながら、様々なテーマの口頭発表を通してスピーチの基礎的な技能修得を目指す。多数の聴衆の前でスピーチをすることに苦手意識を持っている学生に、特に受講してもらいたい。

授業は主として実習形式でおこなう。受講者には、スピーチ発表のために必要な情報を収集するなどの事前準備が求められるとともに、一人一人のスピーチに対して学生間で相互評価を行うなど、主体的な授業参加が望まれる。

評 価 方 法：出席状況、レポート（個人・グループ）、スピーチ発表（個人・グループ）などを総合して評価する。

テキスト名：授業開始時に指定する。

注 意 事 項：受講希望者が24名を超える場合は、小論文をもとに人数調整を行う。

## 日本語プレゼンテーション B

うす い なお と  
白 井 直 人

|         |
|---------|
| 4 単 位   |
| 1 ~ 2 年 |
| 前 期     |

この講座では多くの聴衆を前に効果的に自分の意見を発表していく能力を養うことを目的とする。授業の主な内容は、1)パブリック・スピーキングの理論に関する講義とディスカッション、2)即興スピーチの実践、3)プリベアード・スピーチ（事前に準備を行なうスピーチ）の実践。スピーチの実践では特に情報を分析したうえで、自らの見解を述べるスピーチを中心に様々なトピックで行なう予定である。大学においては授業など様々な場面で意見発表を行なうことが要求されるので、その準備としてこの講座をとらえられたい。なお、受講者にはスピーチ作成のために図書館などにおけるリサーチが要求される。

評価方法：クラスディスカッションへの参加、スピーチ・パフォーマンス、スピーチの原稿などを総合的に評価する。

テキスト名：プリントを配付する。

## 日本語プレゼンテーション C

あお めま さとる  
青 沼 智

|         |
|---------|
| 4 単 位   |
| 1 ~ 2 年 |
| 前 期     |

### 「話し方教室」を超えて

本科目は、公共の場におけるコミュニケーションの理論を学びまたそれを「模擬的」に実践することにより、批判的思考力、分析能力、プレゼンテーション能力など知的市民生活の基礎となるコミュニケーション能力の育成を目的とする。具体的には状況および聴衆に合わせた効果的なスピーチ、合意形成のプロセスとしてのディスカッション、資料に基づいた討議、議論などについて学習する。受講者には図書館等での情報収集やグループワークなど授業時間外にも多くの時間を割くことが要求される。

評価方法：レポート、個人発表、グループ発表などを総合的に評価する。

テキスト名：第一回目の授業にて指示する。

注意事項：受講希望者が25人を超過する場合は、第一回目の授業時間に試験による人数調整を行う。第一回目の授業に出席しなかったものは原則として履修を認めない。

|                        |                          |       |
|------------------------|--------------------------|-------|
| 日本語スモールグループ・コミュニケーションA | サウクエンファン<br>SAU KUEN FAN | 4 単 位 |
|                        |                          | 1～4年  |
|                        |                          | 前 期   |

### 日本語による会話参加と意味交渉

本講義はスモール・グループのセッティングにおける日本人のコミュニケーション・システムを概観し、検討する。授業では、特に会話参加と意味交渉に注目し、談話開始と終結、話順取り、あいづち、話題変更、聞き返しなどのシグナルを取り上げ、第二言語としての日本語習得との関係を考察する。

評価方法：小テスト、レポート、出席・授業参加により評価する。

テキスト名：プリント教材

注意事項：本コースは講義と演習の形式で週2回の授業を実施する。受講希望者が25名を越える場合は、留学生、4年生、3年生、2年生の順で選考する。なお、留学生の場合、日本語能力検定試験2級合格相当の日本語力が望ましい。

|                        |                       |       |
|------------------------|-----------------------|-------|
| 日本語スモールグループ・コミュニケーションB | ます もと とも こ<br>栞 本 智 子 | 4 単 位 |
|                        |                       | 1～4年  |
|                        |                       | 後 期   |

このコースでは、スモールグループ・コミュニケーションの基礎理論を学び、グループプロジェクトを通じて実践していく。日本の文化環境で行われるスモールグループ・コミュニケーションの性質を認識し、文化によるコミュニケーションの仕方の違いが、どのようにグループに影響するのかも、同時に検討していく。

評価方法：クラス討論、グループプロジェクトレポート、発表、テスト

テキスト名：未定

注意事項：\*学期を通して、幾つかのグループプロジェクトをこなしていく。グループの一員として、クラスの出席は不可欠。(定員：25名)

|             |         |         |          |       |
|-------------|---------|---------|----------|-------|
| 日本語ディベートA・C | あお<br>青 | ぬま<br>沼 | さとる<br>智 | 4 単 位 |
|             |         |         |          | 1～2年  |
|             |         |         |          | 前期・後期 |

### ディベートの基礎を学ぼう

教育ディベートの入門コース。日本語によるディベートの実践を通じて、批判的思考力、分析能力、プレゼンテーション能力など知的市民生活の基礎となるアーギュメンテーション能力の育成を目的とする。受講者には図書館等での情報収集やグループワークなど授業時間外にも多くの時間を割くことが要求される。また、ディベート大会・模範ディベートの見学など学外での学習も機会があれば取り入れていきたい。

評価方法：即興ディベート、正式ディベート、レポート、小テストなどを総合的に評価する。

テキスト名：第一回目の授業にて指示する

注意事項：受講希望者が25人を超過する場合は、第一回目の授業時間に試験による人数調整を行う。  
第一回目の授業に出席しなかったものは原則として履修を認めない。

|           |         |        |         |        |       |
|-----------|---------|--------|---------|--------|-------|
| 日本語ディベートB | うす<br>臼 | い<br>井 | なお<br>直 | と<br>人 | 4 単 位 |
|           |         |        |         |        | 1～2年  |
|           |         |        |         |        | 後 期   |

様々な社会的問題をテーマにしたディベートの実践を通じて、大学および知的日常生活に必要なとされる批判的思考力・態度、討論を前提とするプレゼンテーション能力の育成をめざす。クラスルームでは基本的なディベート理論のレクチャー・ディスカッション、ディベートの実践練習を行なう。なお、受講者には議論構築のために図書館などにおけるリサーチおよびグループワークが要求される。

評価方法：クラスディスカッションへの参加、ディベート・パフォーマンス、レポートを総合的に評価する。

テキスト名：プリントを配付する。

|             |                              |         |
|-------------|------------------------------|---------|
| 社 会 言 語 学 A | ソ ニ ア イ ー グ ル<br>SONIA EAGLE | 4 単 位   |
|             |                              | 2 ~ 4 年 |
|             |                              | 前 期     |

### Sociolinguistics

In this course stress is placed on discovering and understanding the social or cultural component of language and the rule governed nature of language behavior. The course presents an overview of the field of sociolinguistics, including language evolution, children's language, the Sapir-Whorf hypothesis, speech acts, pragmatics, phatic communication, kenesics, pidgins, Creoles and lingua franca. Dialect studies including those related to social class, gender, age and region are reviewed. Also outlined are discourse rules, written and spoken, including intercultural variations. Field methods and studies in sociolinguistics will be examined. A consideration of bilingualism, multilingualism and national language planning will be included.

評価方法：1. Midterm and/or Final Exams

2. Written book report on Japanese sociolinguistics studies from article or book written in Japanese. The report will be in English based on prescribed format. Oral presentation if class size permits.
3. Class attendance and participation.

テキスト名：Chaika, Elaine Language: The Social Mirror Heinle and Heinle Boston 1994

|             |                                      |         |
|-------------|--------------------------------------|---------|
| 社 会 言 語 学 B | ひ び や    じ ゅ ん    こ<br>日 比 谷   潤   子 | 4 単 位   |
|             |                                      | 2 ~ 4 年 |
|             |                                      | 集 中 講 義 |

人間は言語を用いて意思を伝達している。円滑なコミュニケーションのためには、言語は均質である方が望ましい。しかし現実には、地理方言、年齢・性別・職業などの社会的要因によることばの違い等、言語にはさまざまな変異（バリエーション）が存在する。この授業では、過去40年間に主として日本語と英語を対象として行われた研究成果を概観しながら、言語変異の諸相について検討していく。

評価方法：レポート・出席

テキスト名：中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子「社会言語学概論」くろしお出版 1997

|             |         |         |        |         |         |
|-------------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 意 味 ・ 語 用 論 | とく<br>徳 | なが<br>永 | み<br>美 | さと<br>暁 | 4 単 位   |
|             |         |         |        |         | 2 ~ 4 年 |
|             |         |         |        |         | 後 期     |

言語が、我々の思考を深め、他者とのコミュニケーションの手段として使用されるということは、その使用される言語について話し手と聞き手の間に共通した知識がなければならない。その知識とは文構造の規則や語彙の意味、そしてその語や文が使用される適切な語用規則であろう。このクラスでは、まず言語の「意味」とは何か、ということについて考えながら、意味分析の手法を学ぶ。そして、コミュニケーションの手段としての言語を考える場合の「意味論」の限界と、語用論との境界線について考える。このクラスでは、学生は深く思考することが求められる。

評価方法：成績の評価は、出席、課題提出、発表、クラスディスカッションへの参加、プロジェクトペーパーなどを総合的に判断して判定する。

テキスト名：① Yule, George. 1996. *Pragmatics*. Oxford University Press

②その他、プリントにて配布

### 3) コンピュータ・コミュニケーション科目

|              |    |    |    |   |         |
|--------------|----|----|----|---|---------|
| コンピュータ入門 A・B | なか | やま | みき | お | 2 単 位   |
|              | 中  | 山  | 幹  | 夫 | 1～4 年 期 |
|              |    |    |    |   | 前       |

#### コンピュータとネットワークの仕組み

コンピュータとネットワークにより暮らしやビジネスが変わりつつある。変化の激しい情報社会に惑わされず積極的に力を発揮するには、使う立場での情報技術（IT）の理解、グローバルな視野と他文化への寛容性、オリジナリティのある情報発信力、柔軟な発想と実践的な力が求められている。

本講義はコンピュータリテラシー習得のための基礎として位置付けられる。情報技術を人と社会の側から見つめ、仕組みと基本的用語を習得し、ITのビジネス/社会/生活への影響を考察しつつ、IT社会で加害者や被害者にならないための情報モラル習得を目標とする。内容は次の通り。

1. コンピュータとネットワークの歴史 2. IT革命で変わる社会と生活 3. インターネットと情報モラル 4. ハードウェアとソフトウェアの仕組み 5. マルチメディアとデータベース 6. コンピュータと人とのインタフェース 7. 組込み型コンピュータ 8. ビジネス最前線

評価方法：出席状況、授業中に実施する小テスト、期末試験、レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：随時プリントを配るので特に指定しない。参考図書は以下。

藤田英時『パソコン基本のきほん早わかり』ナツメ社  
 伏木田勝信『最新 情報・通信のしくみ』技術評論社  
 情報倫理教育研究グループ『インターネットの光と影』北大路書房  
 松原聡『IT革命が見る見るわかる』サンマーク出版

注意事項：コンピュータの使用経験を前提としていないため、受講に際して予備知識は必要ない。

|           |         |         |         |         |         |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| コンピュータ入門C | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単 位   |
|           |         |         |         |         | 1 ~ 4 年 |
|           |         |         |         |         | 後 期     |

### コンピュータとネットワークの仕組み

コンピュータとネットワークにより暮らしやビジネスが変わりつつある。変化の激しい情報社会に惑わされず積極的に力を発揮するには、使う立場での情報技術（IT）の理解、グローバルな視野と他文化への寛容性、オリジナリティのある情報発信力、柔軟な発想と実践的な力が求められている。

本講義はコンピュータリテラシー習得のための基礎として位置付けられる。情報技術を人と社会の側から見つめ、仕組みと基本的用語を習得し、ITのビジネス/社会/生活への影響を考察しつつ、IT社会で加害者や被害者にならないための情報モラル習得を目標とする。内容は次の通り。

1. コンピュータとネットワークの歴史 2. IT革命で変わる社会と生活 3. インターネットと情報モラル 4. ハードウェアとソフトウェアの仕組み 5. マルチメディアとデータベース 6. コンピュータと人とのインタフェース 7. 組込み型コンピュータ 8. ビジネス最前線

評価方法：出席状況、授業中に実施する小テスト、期末試験、レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：随時プリントを配るので特に指定しない。参考図書は以下。

藤田英時『パソコン基本のきほん早わかり』ナツメ社  
 伏木田勝信『最新 情報・通信のしくみ』技術評論社  
 情報倫理教育研究グループ『インターネットの光と影』北大路書房  
 松原聡『IT革命が見る見るわかる』サンマーク出版

注意事項：コンピュータの使用経験を前提としていないため、受講に際して予備知識は必要ない。

|                  |    |    |    |    |       |
|------------------|----|----|----|----|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅠA・G | しば | はら | のぶ | ゆき | 2 単 位 |
|                  | 芝  | 原  | 信  | 幸  | 1～4 年 |
|                  |    |    |    |    | 前 期   |

情報の「表形式に表現することの有効性」と適用事例を学習し、表計算ソフトウェアの基本的な仕組みと特徴を理解し、その特徴に基づいて、情報加工の技術を、情報機器をを使って、実践していきける能力を身につけることを目的とする講座である。

授業の内容としては、表計算ソフト（Excel）を使用しての授業となる。また、Excel等の、マクロを組むための基本となる Visual Basic（VB）の基礎知識の程度まで授業内容を展開してみたい。

本講座は表計算ソフトに関しての初心者を前提としているので、受講に際し、パソコン、表計算ソフトに関しての予備知識は一切必要とはしない。

評価方法：数回のレポート、平常の学習態度、および、出席状況から総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。（定員40名程度）

|                  |    |    |    |    |       |
|------------------|----|----|----|----|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅡA・G | しば | はら | のぶ | ゆき | 2 単 位 |
|                  | 芝  | 原  | 信  | 幸  | 1～4 年 |
|                  |    |    |    |    | 後 期   |

コンピュータ・リテラシーⅠの内容をさらに一歩進めた内容となり、表計算ソフトウェアを完全に活用する能力を培うことを目的とする講座である。

授業内容は、表計算ソフトのマクロ機能を用いた活用事例の学習を中心として、マクロ機能を活用していくために、visual basic（特に、VBA：Visual Basic for Applications）と、そのプログラミングも解説してみたい。

評価方法：数回のレポート、平常の学習態度、および、出席状況から総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：※上記の授業内容から明らかなように、本講は、原則的には、表計算ソフト（Excel）の基本操作の修得者を前提としているため、コンピュータ・リテラシーⅠの履修者を主体とした講座である。

※パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限（初回授業において、抽選等）を行うことになろう。（定員40名程度）

|                      |         |         |         |         |      |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|------|
| コンピュータ・リテラシーⅠB・C・F・L | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単位 |
|                      |         |         |         |         | 1～4年 |
|                      |         |         |         |         | 前期   |

IT社会において、われわれの生活の中に情報機器を介したコミュニケーションが一層急速化している。本講義では、コンピュータの基本的な操作や基礎的な情報活用能力を身につけることを目的とする。講義形式で理論を説明し、それに基づいた演習問題を各自が実際に行い、自ら学ぶ力を養う。対象は、パソコン初心者の学生とする。講義内容予定は、以下の通りである。1. Windowsの構造とファイル操作 2. WordとExcel 3. 情報倫理と電子メール 4. インターネットと情報検索 5. ホームページ作成 6. プレゼンテーション (パワーポイント)

評価方法：出席状況とレポートによる評価。

実習形式なので、毎回必ず出席すること

テキスト名：教科書とオリジナルテキスト使用

毒島雄二 「初心者のためのコンピュータリテラシー」 共立出版

|                      |         |         |         |         |      |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|------|
| コンピュータ・リテラシーⅡB・C・F・L | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単位 |
|                      |         |         |         |         | 1～4年 |
|                      |         |         |         |         | 後期   |

本講義では、コンピュータ・リテラシーⅠで学習した事項の理解をさらに深めると共に、応用ソフトを活用して、問題解析能力を習得することを目的とする。パソコンに関する知識が初級程度である学生を対象としているが、コンピュータ・リテラシーⅠを履修済みであることが望ましい。学習ソフトは、表計算ソフトExcel、統計分析ソフトSPSS、プログラミングソフトVisual Basicである。講義内容予定は、以下の通りである。1. データ分析・グラフ作成 2. 需要予測・回帰分析 3. 分散分析 4. データベース

評価方法：出席状況とレポートによる評価

実習形式なので、毎回必ず出席すること

テキスト名：オリジナルテキスト使用

|                  |        |         |         |        |       |
|------------------|--------|---------|---------|--------|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅠD・E | ひ<br>日 | おき<br>置 | さき<br>咲 | お<br>夫 | 2 単 位 |
|                  |        |         |         |        | 1～4 年 |
|                  |        |         |         |        | 前 期   |

「ワード」で文章を作成する基本的な事項を演習し、「ワード」の基本をマスターすることを学習の目標とします。

演習では、①日本語入力システムの切り替え②はがきの裏面作成③表の作成④イラスト入り文章の作成⑤縦書き、横書きの混在した文書の作成⑥家庭新聞の作成などを行います。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度及び学期末の実技試験により判断して判定します。

テキスト名：授業時にプリントを配布する。

|                  |        |         |         |        |       |
|------------------|--------|---------|---------|--------|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅡD・E | ひ<br>日 | おき<br>置 | さき<br>咲 | お<br>夫 | 2 単 位 |
|                  |        |         |         |        | 1～4 年 |
|                  |        |         |         |        | 後 期   |

「エクセル」の貼り付け関数の使い方、表のグラフ化を例題演習で学習します。また、簡単な表計算処理をマクロ命令を組んで行う演習も行います。これらの演習により正確に貼り付け関数を使いこなせること、簡単なマクロ命令を組むことが出来ることを学習の目標とします。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度及び学期末の実技試験により判断して判定します。

テキスト名：「エクセル演習」、実教出版

|                    |         |         |         |         |         |
|--------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| コンピュータ・リテラシーⅠH・I・J | はし<br>橋 | もと<br>本 | あき<br>明 | ひろ<br>浩 | 2 単 位   |
|                    |         |         |         |         | 1 ~ 4 年 |
|                    |         |         |         |         | 前 期     |

情報処理は現代生活において必要不可欠のものになりつつある。特にパーソナルコンピュータの浸透とインターネットの普及は、経済活動上の大きな革命になると予想されている。本講義では最新のパーソナルコンピュータでインターネットを利用して以下を学び、到達目標とする。

- 1 コンピュータ操作とファイルシステムの概念の習得。
- 2 電子メールを教材として、メッセージ伝送の仕組みと操作方法だけでなく、ネットワークおよびネットワーク倫理についても研究する。
- 3 ワードプロセッサの仕組みと文書処理の科学
- 4 世界的な文書の規格XMLと実装としてのHTMLを学び、ホームページの作成を行う。

評価方法：試験を実施する他にレポート及出席などを総合評価する。

テキスト名：WWWで配布する。

橋本・現代情報処理入門・朝倉書店

注意事項：演習室のコンピュータの台数の制限のために人数を制限する。

受講人員は抽選（第1回目）で決定する。

|                    |         |         |         |         |         |
|--------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| コンピュータ・リテラシーⅡH・I・J | はし<br>橋 | もと<br>本 | あき<br>明 | ひろ<br>浩 | 2 単 位   |
|                    |         |         |         |         | 1 ~ 4 年 |
|                    |         |         |         |         | 後 期     |

情報処理は現代生活において必要不可欠のものになりつつある。特にパーソナルコンピュータで必要なネットワークの概念と文書処理ソフトウェア（WORD）を実例として文書処理の作法、技術の習得を目的とする。

1. ネットワークの基礎
2. 多言語処理の概念と実装
3. ワードプロセッサの仕組みと文書処理の科学文書を単純な文字部分（コンテキスト）と構造・書式と分解し、文書の種類ごとの特徴などを議論する。
4. 世界的な文書の規格XMLと実装としてのHTMLを学び、ホームページの作成を行う。

評価方法：試験を実施する他にレポート及出席などを総合評価する。

テキスト名：WWWで配布する。

橋本・現代情報処理入門・朝倉書店

注意事項：演習室のコンピュータの台数の制限のために人数を制限する。

受講人員は抽選（第1回目）で決定する。

# コンピュータ・リテラシー I K

なか やま みき お  
中 山 幹 夫

|           |
|-----------|
| 2 単 位     |
| 1 ~ 4 年 期 |
| 前 期       |

## 情報技術 (IT) を使いこなす

今ではコンピュータは科学技術系の道具という面より、むしろ情報技術をどう活用するののかという文化系的な意味合いが強くなってきている。そのため、コンピュータとネットワークを積極的に活用し、情報の内容 (コンテンツ) を使いこなす力が必要である。リテラシー習得には単にマニュアル通りのことができるだけでは十分ではなく、各自が課題と目的意識を持って取り組むことが大切である。

本講義では使う立場でコンピュータとネットワークの機能を理解し、課題解決を通して社会や企業の実態に即した実践的な力の習得を目標とする。講義では、コンピュータを自分自身のコンテンツの表現に使い、情報の収集とその質の判断、コンピュータ独特の文書作成のコツや情報整理術を学ぶ。

1. コンピュータとネットワークの基礎とネットワークエチケット
2. 操作環境のカスタマイズ
3. テキスト文章作成
4. ドライブ/フォルダ/ファイル/拡張子
5. インターネットと検索
6. フリーウェア/シェアウェアと圧縮解凍
7. 電子メール
8. Word
9. Excel

評 価 方 法 : 出席状況および各テーマでの課題レポートにより総合的に評価する。

テキスト名 : 毒島雄二『初心者のためのコンピュータリテラシー』共立出版、他適時プリント配布  
参考図書としては和田茂夫『メールのルール』オーエス出版  
島望『かんたん図解 Windows Me』技術評論社

注 意 事 項 : コンピュータ経験は必要ない。「コンピュータ入門」も受講することが望ましい。  
実習室使用の都合で受講希望者多数の場合は制限あり (初回授業にて抽選)。

## 情報技術 (IT) による情報発信力の強化

表現手段としてのITの活用により、人とコミュニケーションをより速く、より広く、より多彩にすることができる。それにはオリジナリティあるコンテンツと人の心に響く情報発信力が望まれる。

本講義ではコンピュータの理解を深め、特に情報発信力を高めることに主眼を置く。そのため幅広い応用ソフトに触れることで、ソフトの共通性の理解と適応力、ネットワークを利用した課題解決と情報発信、自分自身のコンテンツでのコンピュータ・プレゼンテーションする力を目標とする。

1. ネットワークセキュリティとインターネット関連法案 2. HTMLによるホームページ作成  
3. Power Point作成 4. Accessとデータベース管理 5. Visual Basic 6. ネットワークコンピューティングと情報共有化 7. マルティメディアとコンピュータプレゼンテーション

評価方法：出席状況および各テーマでの課題レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：随時プリントを配るので特に指定しない。参考図書は以下。他は授業で適宜紹介  
川名和子『はじめて作るホームページHTML編』技術評論社  
田中亘『できる Power Point 2000』インプレス  
町田奈美『かんたん図解 Access 2000 入門編』技術評論社  
笠原一浩『Visual Basic 6.0 入門 基礎編』ソフトバンクパブリッシング

注意事項：「コンピュータ・リテラシーⅠ」の事前受講が望ましい（またはWord/Excelが使えること）。

実習室使用の都合で受講希望者多数の場合は制限あり（初回授業にて抽選）。

|               |         |         |         |         |       |
|---------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| インターネット実習 A・B | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単位  |
|               |         |         |         |         | 1～4年  |
|               |         |         |         |         | 前期・後期 |

インターネットの活用分野は、教育、ビジネスに限らず、ますます拡大し、その果たす役割も多様化してきた。と同時に、問題点も発生してきている。本講義では、情報モラルとインターネット活用法を、講義と共に演習を通して理解習得することを目的とする。インターネット学習では、課題を設定し、インターネットで情報収集を行い、その課題の解決法を探る。ホームページ学習では、基本的な手法によるホームページ作成と各自のオリジナリティを活かしたホームページ作成をおこない、情報発信力を高める。講義内容予定は、以下の通りである。1. インターネット概要 2. ネットワークとエチケット 3. 電子メール 4. ホームページ作成

評価方法：作成ホームページの評価と試験  
 実習形式なので、毎回必ず出席すること。

テキスト名：教科書とオリジナルテキスト使用  
 河西 朝雄 「改訂新版 ホームページの制作」 技術評論社

|           |         |         |         |        |      |
|-----------|---------|---------|---------|--------|------|
| 情報ネットワーク論 | なか<br>中 | やま<br>山 | みき<br>幹 | お<br>夫 | 2 単位 |
|           |         |         |         |        | 1～4年 |
|           |         |         |         |        | 前期   |

進化する情報ネットワーク社会

情報ネットワークは、世界規模での巨大なインフラストラクチャーとして、生活や仕事のやり方を変えつつある。企業内のローカルエリアネットワークとインターネット、携帯などのモバイルネットワーク、光ファイバー高速広帯域網などの、高度情報ネットワークシステムは、従来の電話網時代の情報の「伝達」機能を超えて、情報の「処理」と「蓄積」の機能までも包含している。

本講義では社会的視点で情報ネットワークの役割を見つめ、その仕組みの理解、基本用語の習得、ネットワークの可能性と危険性、さらにサービスの現状への理解を目標とする。内容は次の通り。

1. 情報ネットワークの発展
2. 情報ネットワークの仕組み
3. ネットワークアーキテクチャと通信プロトコル
4. インターネットのしくみとTCP/IP
5. イントラネットの構成
6. インターネットサービスの実態
7. 移動通信ネットワークとモバイルコンピューティング
8. ネットワークセキュリティの仕組みと役割
9. 情報ネットワークの現状と未来

評価方法：出席状況、筆記試験、レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：小椋山賢二「社会基盤としての情報通信」共立出版、他適時プリント配布  
 参考図書としては白鳥則郎「コンピュータネットワーク」オーム社  
 大和総研「IT用語ハンドブック」翔泳社  
 鈴木康策「インターネットの素朴な質問」あさ出版  
 竹下隆史「マスタリングTCP/IP 入門編第2版」オーム社

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| メディアリテラシー | なか やま みき お<br>中山 幹 夫 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ~ 4 年 |
|           |                      | 後 期     |

### デジタル時代のメディアリテラシー

一般に学校では文字の読み書きを教えても、テレビやホームページの見方、電子メールの書き方は教えない。人々はメディアの波に受動的にさらされているのが現状である。かつて情報発信は一部のマスメディアという専門家の特権であったが、今や、インターネットにより各自がメディアの発信者になれる時代になってきている。一方で、無責任な情報発信も指摘されている。現代社会で主体的に生きるためには、読み書きのようにメディアを「使用」する能力に加えて、メディアを批判的、かつ建設的に「受容」する能力と、自分の感じた事や意見を自分の責任で「表現」する能力の総合としてのメディアリテラシーが重要である。この3つの能力は総合的な習得により、初めて力を発揮する。

本講義では、現代のデジタルメディアの現状を学び、メディアリテラシーの根幹であるメディアの「使用」「受容」「表現」の能力とは何かを理解し、講義と講義中の演習を通して習得していくことを目標とする。

評価方法：出席状況、筆記試験、レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：岩波書店『デジタル・メディア社会』水越伸、他適時プリント配布  
参考図書としては日本放送出版協会『日本のマスメディア』藤竹暁  
他は授業で適宜紹介する

|           |                    |         |
|-----------|--------------------|---------|
| 情報社会論 I A | たか さき のぞむ<br>高 崎 望 | 2 単 位   |
|           |                    | 1 ~ 4 年 |
|           |                    | 前 期     |

### 情報化社会の光と影

急激な情報革新により、世界は米国をトップとしていよいよ情報社会に変革・突入しつつある。インターネットや携帯端末の世界的普及が、日本社会をも革命的に情報化しつつあり、これは人類文明史における第三の大変革である。ところが本学においては、コンピュータ・リテラシーの修得やネットワークによる社会の大変革についての学習が十分とは言えず、就職時等に困苦を味わっている。

そこで本論では、来つつある情報社会とはいかなる社会かを、国際比較、異文化、言語学の観点から顧みつつその光と影を理論的・客観的に解明し、生活・文化・社会の変貌を具体的に考究しようとするものである。部外専門家の特別講義も行う。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：『コンピュータ社会の光と影』高崎 望、全学講演プリント 部外専門家特別講義

|         |         |         |          |       |
|---------|---------|---------|----------|-------|
| 情報社会論ⅡA | たか<br>高 | さき<br>崎 | のぞむ<br>望 | 2 単位  |
|         |         |         |          | 1～4 年 |
|         |         |         |          | 後 期   |

## 21世紀の情報文明

新世紀はITによるグローバルゼーションによって立つ新文明の世紀といわれているが、はたしてそれは如何なる様相を呈するものであろうか。またその中で、アジアなど古来からデジタル文明とは異なった永い伝統を持つ文化はどのようになるであろうか。

本講は、文明と文化の差異から始めて、文明の基準、その進化の系統、近代文明の分岐、西欧を端緒とする近代化の波の中で、情報文明が如何にして発展してきたか、その基本的な智価主義から生まれる21世紀の情報産業革命はどのようなものかを考究し、その中で追いつき成長型をとっている日本のチャンスを検討する。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：公文 俊平 『情報文明論』 NTT 出版

|           |         |        |          |       |
|-----------|---------|--------|----------|-------|
| 情報社会論ⅡB・C | なが<br>永 | い<br>井 | ひろし<br>浩 | 2 単位  |
|           |         |        |          | 1～4 年 |
|           |         |        |          | 後 期   |

## ジャーナリズム論

情報化時代をむかえ、新聞、テレビ、ラジオ、書籍、雑誌、さらにはインターネットなど多様なメディアから、たえず膨大な情報が吐き出されているが、いうまでもなくそれらの情報のすべてが正しいわけではない。そこで、ジャーナリズムという視点から、報道と人権、権力とメディア、メディア産業の巨大化を主要テーマに現在のメディアが直面する課題を検証することをつうじて、メディアと情報の問題点と民主主義社会の発展に果たすべきジャーナリズムの役割を考える。また、情報洪水におぼれないために、さまざまな情報を批判的に読み解く「メディア・リテラシー」の力と社会の動きを複眼的に観察する目を養いたい。

評価方法：期末試験またはレポート

テキスト名：テキストは特になし。参考文献や資料を授業中に適宜紹介する。

注意事項：新聞、テレビを自分でメディア・ウォッチするようところがけてほしい。

|             |    |    |    |   |         |
|-------------|----|----|----|---|---------|
| コンピュータと人間科学 | なか | やま | みき | お | 2 単 位   |
|             | 中  | 山  | 幹  | 夫 | 1 ~ 4 年 |
|             |    |    |    |   | 後 期     |

### 人間のためのコンピュータとネットワーク

コンピュータと人間、ネットワークと社会は互いに類似関係にある。そのため人がその認識や行動様式を誤ると人がコンピュータとネットワーク技術を使うのではなく、情報技術に人が使われ、人の精神活動に好ましくない影響を与える可能性もあると言える。ITが人と社会を変えてしまうと言われ技術面からの近未来予測も多く語られている。しかしそれでよいのだろうか。主体は人間である。人が人のために情報技術を使うためには、人を知り人を動かす力が求められる。

本講義では、人間と情報技術の関係を人間主体でとらえ、情報化社会の中での人の生き方と文化、社会問題についての理解を深め、IT時代のヒューマンリテラシー獲得を目標とする。

1. コンピュータと思考 2. 人間心理 (コンピュータストレスやアディクションはなぜ起きる)  
 3. コンピュータと言語 4. バーチャルリアリティ 5. ネットワーク犯罪と文化 6. ヒューマンマシンインターフェース (人にやさしい機械) 7. IT時代の意識改革/自己改革

評価方法：出席状況、筆記試験、レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので特に指定しない。参考図書は以下。

- 横井俊夫『言語メディアを物語る』共立出版、片方善治『サイバースペース』海文堂  
 下原勝憲『人工生命と進化するコンピュータ』工業調査会  
 館『バーチャルテックラボ』工業調査会、山田博『脳とコンピュータ』NTT出版  
 大須賀節雄『ヒューマンインタフェース』オーム社

|               |    |    |    |   |         |
|---------------|----|----|----|---|---------|
| コンピュータと国際ビジネス | なか | やま | みき | お | 2 単 位   |
|               | 中  | 山  | 幹  | 夫 | 1 ~ 4 年 |
|               |    |    |    |   | 後 期     |

### 組織改革とe-ビジネス

ピザの宅配に電話番号を言って、「いつものを」といえばシーフードピザがなぜ届くのだろうか。こんな身近にもITビジネスがある。従来ならば特別な客でない限り不可能であったが、今やITにより一人一人に対応するビジネス(one to one marketing)が可能になっている。かつての産業革命は生産重視で均一な大量生産を可能にしたが、今や、情報技術が情報コスト低下と効率化、ビジネススピードのupを進め、消費者指向と多様化へと向かっている。また、産業も従来の科学技術中心からサービス創造の時代へと移行しつつある。これはビジネスチャンスである反面、従来通りのビジネスに安住する側にとっては、存亡の危機でもある。

本講義では、IT先進国のアメリカに焦点をあてつつ、日本を含む各国における取組みも視野に入れ、学生自身も新規ビジネスについて考えることを通してITビジネスの現状と課題を探っていく。その中でITビジネス用語の理解、ビジネスの現状の把握、組織改革と意識改革の実態、企業内情報システムでの情報共有化と意志決定プロセスの変化、国際社会における文化と政治への影響を学び、各自が新規ビジネス創造のアイデアを考える力を育てることを目標とする。

評価方法：出席状況、筆記試験、レポートにより総合的に評価する。

- テキスト名：米国商務省著『デジタル・エコノミー 2000 米国商務省レポート』東洋経済  
 参考図書としてはラビ・カラコタ『e-ビジネス』ピアソン・エデュケーション  
 山田靖二『すぐわかるASP』かんき出版、山田仁『インターネットビジネス』JMAM

#### 4) 国際研究科目

|           |     |    |    |    |     |                |
|-----------|-----|----|----|----|-----|----------------|
| 地域・国際研究講座 | と 戸 | かど | かず | えい | 衛 他 | 2 単 位          |
|           |     |    |    |    |     | 1 ~ 4 年 期<br>前 |

##### 地域・国際研究の入門講座：21世紀世界を直視するために

地球レベルの問題群という縦糸、各地域・国に固有の問題群という横糸、この二つの糸が織り成す国際社会のモザイク模様……。[外国語学部]が英語ではFaculty of Foreign LanguagesではなくInternational Studiesになっているように、外国語を学ぶことは、この二つの糸から出来上がっている国際社会を理解することと表裏一体なのです。

さまざまな国際問題・地域問題について、毎回、異なる講師が異なるテーマを「わかりやすく解説します」。受講生は「日替わり(週替わり)定食」のように、異なるテーマを消化していかなければなりません、教師も1回限りの講義で勝負しなければならないので、双方がかなり緊張します(このようなスタイルをオムニバス形式の授業と呼びます)。いい意味での緊張感が、この講座の「隠し味」です。

本年度は、政治学・経済学・社会学・歴史学などの社会科学領域の学問体系を中心とする学際的な総合科学による切り口を縦糸、主要地域の実証的分析を横糸とする講座を展開します。民族紛争、国際平和、地球環境問題、資源食糧問題、IT革命、地域統合、南北問題、農村と都市、家族と社会などをキーワードとして、21世紀社会の潮流を読みぬくために学問的にはどのようなアプローチが可能なのか、世界の各地域では実際にどのような問題に直面しているのか、どのような取り組みが行われているのかについて考えていきます。

具体的な「メニュー(講義スケジュール)」は第1回講義時に説明します。

**評価方法**：毎回授業終了時に、出席表を兼ねたミニレポート(当日の講義の感想など：B5サイズ1枚程度)を提出します。期末に筆記試験を行います(詳細は授業で説明しますが、試験の課題は授業で扱った内容から自由に選択することが可能です)。出席・ミニレポート・筆記試験を総合して評価します。

**テキスト名**：基本的に毎回レジュメを配布し、それぞれのテーマに関する基本文献を提示します。

|             |                             |           |
|-------------|-----------------------------|-----------|
| 国 際 関 係 史 I | さか 阪<br>た 田<br>やす やす<br>恭 代 | 2 単 位     |
|             |                             | 1 ~ 4 年 期 |
|             |                             | 前 期       |

## 20世紀の国際政治史— 帝国主義と二つの世界大戦

本科目は国際関係を学ぶ学生のための現代史の講義である。21世紀に入った現在も、戦争と平和、核兵器、民主主義と人権、開発と貧困、環境問題、民族・宗教・地域紛争、ナショナリズム、IT革命とグローバル化への対応など、世界は様々な課題に直面している。世界とともに日本はどのように取り組んでいけばよいのか、それも大きな課題である。これらの問題には各々の歴史があり、現在は過去のうえに成り立っている。イギリスの外交官、そして著名な歴史家であり、国際政治学者でもあるE.H.カーは「歴史とは現在と過去の対話である」(『歴史とは何か』岩波新書)と述べたが、過去に対する認識なしに、現在そして未来について考えることはできない。本講義は、過去、とくに20世紀の国際関係に対する認識の一つの試みであり、その歴史の流れをつかみ、現在どのような状況にわれわれがおかれているのかについて考えるための一助となることを願う。

「国際関係史」では、現代国際政治の体系を成している西欧国際システムを軸に、戦争と平和をめぐる20世紀の歴史をみる。「国際関係史I」では、主権国家と西欧国際システム、19世紀末の帝国主義と植民地の世界、第一次世界大戦の発生と終結、戦間期、第二次世界大戦の発生と終結について講義する。詳細は初回授業にて説明する。

評価方法：(1) 期末試験(筆記試験)、(2) 課題、(3) 出席を考慮する。

テキスト名：石井修『国際政治史としての20世紀』有信堂。その他、随時紹介する。

注意事項：「国際関係史II」を続けて履修することを勧める。「国際関係史II」は、「国際関係史I」の履修を前提に講義を進めるので、事前に「国際関係史I」を履修していることが望ましい。

|  |            |         |
|--|------------|---------|
| <h1 style="margin: 0;">国 際 関 係 史 II</h1> | さ  た や す よ | 2 単 位   |
|  | 阪 田 恭 代    | 1 ~ 4 年 |
|  |            | 後 期     |

## 20世紀の国際政治史—冷戦と冷戦後

「国際関係史I」に引き続き、「国際関係史II」では、第二次世界大戦後の国際政治史、とりわけ冷戦システムの発生、展開、終結、そして冷戦後の世界ならびに諸問題について講義する。詳細は初回授業にて説明する。

評価方法：(1) 期末試験（筆記試験）、(2) 課題、(3) 出席を考慮する。

テキスト名：石井修『国際政治史としての20世紀』有信堂。その他、随時紹介する。

注意事項：「国際関係史II」は、「国際関係史I」の履修を前提に講義を進めるので、事前に「国際関係史I」を履修していることが望ましい。

|   |                 |         |
|---|-----------------|---------|
| <h1 style="margin: 0;">国 際 関 係 論 I A</h1> | た か す ぎ た だ あ き | 2 単 位   |
|   | 高 杉 忠 明         | 1 ~ 4 年 |
|   |                 | 前 期     |

現在の国際関係はきわめて複雑で、かつめまぐるしく変化している。とくに冷戦終結後、伝統的な主権国家に加えて国連や多国籍企業、NGO（非政府組織）、民族・宗教グループなど多くのアクターが国際関係にさまざまな影響を与えるようになってきた。また国際関係の主要な研究対象領域には冷戦期のようなパワー・ポリティックスや軍事・安全保障に関するものだけでなく、経済・社会問題、人口、食糧、環境破壊、第三世界の貧困、民族・地域紛争など広範な問題が登場してきた。

この授業ではこのように多層化し、複雑化する国際関係を理解するため、歴史・理論・政策という3つの側面に焦点を合わせ講義を進める。講義内容は国際関係論を学ぶために必要な基礎的概念の説明を中心に行われる。国際関係論Iで取り上げるテーマは、第二次大戦後の国際関係の歴史的側面—とくに冷戦の発生・展開・集結のプロセスとアメリカ外交という視点—を中心に講義を進める。

評価の基準等の詳細については最初の授業で説明する。

評価方法：講義内容ならびに教科書を熟読してまとめたノートと筆記試験とレポートを基礎に成績評価をします。

テキスト名：長谷川雄一、高杉忠明編、『現代の国際政治』、ミネルヴァ書房、1998年  
 小此木政夫、赤木完爾編、『冷戦期の国際政治』、慶應義塾大学出版会、1987年  
 W・ラフィーバー、『アメリカの時代』、芦書房、1992年  
 授業で適宜紹介する。

|         |  |       |
|---------|--|-------|
| 国際関係論ⅡA | たか<br>高<br>すぎ<br>杉<br>ただ<br>忠<br>あき<br>明 | 2 単 位 |
|         |  | 1～4 年 |
|         |  | 後 期   |

この授業は国際関係論Ⅰを履修し、単位を取得した学生のみが履修可能である。

国際関係論Ⅱでは国際関係研究の具体的なイシューと政策的側面に焦点を合わせて講義を進めてゆく。

具体的に取り扱うテーマは、国際関係の関するリアリストとリベラリスト的アプローチの相違、バランス・オブ・パワー、帝国主義、民族問題と国際関係、軍縮・軍備管理、南北問題、環境問題、人口問題、地域統合、世界各地域の政治的イシューと日本外交の現状と問題点などである。

評価の基準やレポート等の詳細については最初の授業で説明する。

評価方法：講義内容ならびに教科書を熟読してまとめたノートと筆記試験とレポートを基礎に成績評価をします。

テキスト名：長谷川雄一、高杉忠明編、『現代の国際政治』、ミネルヴァ書房、1998年  
小此木政夫、赤木完爾編、『冷戦期の国際政治』、慶應義塾大学出版会、1987年  
その他、授業で適宜紹介する。

注意事項：前期に国際関係論Ⅰを履修し、単位を取得した者のみがこの科目を履修できる。

|         |                               |       |
|---------|-------------------------------|-------|
| 国際関係論ⅠB | なが<br>永<br>い<br>井<br>ひろし<br>浩 | 2 単 位 |
|         |                               | 1～4 年 |
|         |                               | 後 期   |

### 戦争のない世紀をめざして

20世紀は戦争と革命の時代だったといわれる。では、21世紀は平和の時代となるだろうか。二つの世界大戦のあとに長く続いた米ソ冷戦がやっと終わり、人々は超大国の核戦争の恐怖から解放されたと思ったら、今度は世界各地で地域紛争が激化しはじめた。前途はけっして平坦ではないものの、グローバル化した世界のなかで多様な担い手たちが平和を築くさまざまな試みを続けている。冷戦から内戦の時代への動きをたどりながら、新しい世紀の平和を展望し、われわれ一人ひとりに何ができるかを考えてみよう。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素を加味する。

テキスト名：テキストは特になし。参考書は授業中に適宜紹介する。

注意事項：「国際関係論Ⅰ」のあとに「Ⅱ」を受講するのがのぞましい。  
新聞、雑誌、テレビの国際ニュースにせつするようこころがけてほしい。

|         |           |          |       |
|---------|-----------|----------|-------|
| 国際関係論ⅡB | ながい<br>永井 | ひろし<br>浩 | 2 単 位 |
|         |           |          | 1～4 年 |
|         |           |          | 前 期   |

**グローバル化する国際社会**

21世紀の世界を読み解くキーワードはグローバリゼーションである。モノ・カネ・ヒト・情報が自由に国境を越えて移動する時代となった。それは国際社会に何をもたらそうとしているのだろうか。グローバル化の進展とともに、マネーの暴走、貧富の格差、地球環境の悪化、労働力の移動など地球規模の問題の解決が急がれる一方、こうした問題にかかわる担い手は、従来の国・政府だけでなく多国籍企業、国際組織、NGO（非政府組織）、自治体、市民へと多様化してきている。安全保障や平和の内容も変わってきている。わたしたち一人ひとりが国際社会の一員としてどう生きたらよいのかを考えよう。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素を加味する。

テキスト名：「国際関係論Ⅰ」とおなじ。

注意事項：「国際関係論Ⅰ」を受講したのちに「Ⅱ」に進んでほしい。そのほか「Ⅰ」とおなじ。

|         |           |          |        |       |
|---------|-----------|----------|--------|-------|
| 国際社会論ⅠA | かとう<br>加藤 | じょう<br>譲 | じ<br>治 | 2 単 位 |
|         |           |          |        | 1～4 年 |
|         |           |          |        | 前 期   |

**国際社会とはいかなる社会か**

人々の日常生活において国際社会のしめる度合いが強まっている。そこで国際社会とはいかなる社会のことであり、どんな問題性をはらんでいるかについて勉強しようと思う。こうした問題を考えるための多角的な分析枠組みを紹介、検討する。また国際社会の world / globe や inter-national / trans-national といった多面性についても理解をすすめてほしい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：「新しい民族問題」梶田孝道、中央公論社

|         |                 |      |
|---------|-----------------|------|
| 国際社会論ⅡA | かとうじょうじ<br>加藤譲治 | 2単位  |
|         |                 | 1～4年 |
|         |                 | 後期   |

### 日本社会の国際化とは

日本社会の国際化をめぐる問題を考える。その具体的素材として日本の中の外国人労働者問題を、ここでは取り上げる。90年の入管法の改正以降、わが国ではかなりの外国人労働者が専門/単純の職業に合法/非合法の資格で働いている。これらの現状と問題点を国際比較の視点から多面的に考えていく。それらを「文化と文明」の切り口で再整理をすることで、日本社会の国際化の課題を明らかにしたい。

評価方法：授業中に課す小論文と試験の成績により評価する。

テキスト名：『外国人労働者と日本』梶田孝道、NHKブックス

注意事項：受講条件とはしないが、「国際社会論Ⅰ」の受講を望む。

|         |                 |      |
|---------|-----------------|------|
| 国際社会論ⅠB | いわいみさき<br>岩井美佐紀 | 2単位  |
|         |                 | 1～4年 |
|         |                 | 前期   |

### 農村開発—貧困解決のための社会開発のあり方（1）

途上国の貧困問題は、経済開発の進行と共に顕在化し、今日の最も緊急な課題の一つとして認識されている。途上国における貧困問題は、基本的に都市と農村の所得格差の拡大にともなって生じてきた社会的矛盾と大きな関係がある。貧困とは何かを社会学的に考察する際、アマルティア・センが提起した人間の「潜在能力」を充足させる条件の欠如と捉えることができる。すなわち、初等教育を受ける機会の喪失（非識字）、乳幼児死亡率や妊婦死亡率に表れる保健・公衆衛生環境の欠如などである。

社会開発とは、このような条件を整え、「潜在能力」を充足させることによって福祉の向上を目指す開発のことであり、息の長い持続可能なアプローチが必要とされる。

本講義では、主に東南アジアと南アジアにおける様々な貧困の表れ方を取り上げ、社会開発、特に絶対的貧困層が滞留する農村における開発が必要とされてきた背景や歴史的経緯について解説するとともに、農村開発についての理解を補完するための情報を提供する。

評価方法：平常の学習態度および期末の試験によって評価する。

ビデオ鑑賞に対するリアクションペーパーも評価の対象とする。

テキスト名：ロバート・チェンバース著 『第三世界の農村開発：貧困の解決—私たちにできること』、明石書店、1998年。

アマルティア・セン著 『福祉の経済学』、岩波書店、1999年。

|            |   |      |
|------------|---|------|
| 国際社会論 II B | いわ<br>岩<br>い<br>井<br>み<br>さ<br>き<br>美佐紀 | 2 単位 |
|            |   | 1～4年 |
|            |   | 後 期  |

農村開発—貧困解決のための社会開発のあり方 (2)

最近の社会開発プロジェクトの動向を見ると、従来インフラ整備や経済開発を中心に進められてきたODAなどの二国間援助や世界銀行など国際援助機関の開発援助も、近年は広範な領域に向けられ、社会開発プロジェクトにも力が注がれつつある。また一方で、多くのNGOも専門性を強めており、その活動は国際的にも大きな影響力をもち始めている。

この講義では、社会開発の中でもリプロダクティブヘルス(性および生殖に関する保健)、マイクロ・クレジットによる雇用創出などを取り上げ、貧困層の社会生活および福祉の向上を目指すプロジェクトの取り組みを検討する。社会開発のあり方を具体的に検討するために、主に東南アジアではベトナム、南アジアではバングラデシュにおけるプロジェクトの事例を取り上げる。

評価方法：平常の学習態度および期末の試験によって評価する。

ビデオ鑑賞に対するリアクションペーパーも評価の対象とする。

テキスト名：ロバート・チェンバース著 『第三世界の農村開発：貧困の解決—私たちにできること』、明石書店、1998年。

アマルティア・セン著 『福祉の経済学』、岩波書店、1999年。

注意事項：国際社会論Iを履修していることが望ましい。

|           |                                       |      |
|-----------|---------------------------------------|------|
| 国際経済論 I A | なか<br>仲<br>の<br>野<br>あ<br>き<br>ら<br>昭 | 2 単位 |
|           |                                       | 1～4年 |
|           |                                       | 前 期  |

国際経済の現状と国際経済・金融の基礎

グローバリゼーションが急進展する国際経済の現状と日本経済との関わりを入門レベルで講義する。また、グローバル市場における企業行動についても具体例を引用しつつ言及する。主要テーマは、①国際経済の現状と日本、②外国為替取引と為替レート、③国際収支と国際マクロ経済学、④南北問題、⑤経済統合、である。理論的知識の習得とともに、経済データの読み方に習熟することも重要な目標である。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配付するプリントと参考資料(和・英文文献)をもとに講義する。また、適宜参考テキストを指示する。

|                |           |          |         |
|----------------|-----------|----------|---------|
| 国 際 経 済 論 II A | なかの<br>仲野 | あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|                |           |          | 1 ~ 4 年 |
|                |           |          | 後 期     |

### 国際貿易の基本構造と貿易体制

ミクロ経済学の応用としての貿易の基礎理論とWTO（世界貿易機関）を柱とする国際貿易体制について講義する。また、国際貿易と密接な関係をもつ直接投資についても言及する。主要テーマは、①日本経済と貿易、②貿易の基礎理論、③産業内貿易の理論、④WTOと国際貿易体制、⑤直接投資、である。演習問題や課題の設定を通して受講者参加型の講義としたい。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配付するプリントと参考資料（和・英文文献）をもとに講義する。受講生は国際経済のテキストとともに、ミクロ経済学の基礎理論を自習することが望ましい。参考テキストは適宜指示する。

|               |               |         |         |
|---------------|---------------|---------|---------|
| 国 際 経 済 論 I B | こすげのぶ<br>小菅伸彦 | ひこ<br>彦 | 2 単 位   |
|               |               |         | 1 ~ 4 年 |
|               |               |         | 前 期     |

### 世界経済の動きとそのメカニズム

第2次世界大戦後の世界経済は第一次、二次石油ショック後、1980年代の停滞があったものの、自由な貿易と資金の移動を推進するIMF、GATT体制のもとで国際貿易の拡大を軸に総じて順調な成長を続けてきた。東西冷戦の終焉や貿易と資金移動を通じた相互依存関係の強まりにより近年、世界経済の一体化、グローバル化が急速に進行している。他方、最近のアジア通貨危機に見られるように金融と情報通信技術の発展による世界規模の資金移動が各国経済を翻弄するなど世界経済システムの脆弱性も目立ち始めている。発展途上国の2極分解など貧困問題解決への道は遠く、GATTを発展的に継承したWTOでも各国間の利害対立などきしみが目立ち始めている。さらに、今後の世界経済の成長に対し地球環境問題など深刻な制約も存在する。

本講義では戦後の世界経済のあゆみ、地域別の経済動向と課題等を紹介するとともに、これらの基礎にある貿易、投資、国際金融、為替レート等のメカニズムを学ぶ。さらに、21世紀に向けていっそう大きな課題となる地球環境問題、食糧・資源問題等について理解を深める。

評価方法：筆記試験(小論文、講義への感想文等)

テキスト名：宮崎勇、田谷禎三“世界経済図説”、岩波新書、2000、適宜補足資料を配布

|                       |   |    |    |    |       |
|-----------------------|---|----|----|----|-------|
| <b>国 際 経 済 論 II B</b> | こ | すげ | のぶ | ひこ | 2 単 位 |
|                       | 小 | 菅  | 伸  | 彦  | 1～4年  |
|                       |   |    |    |    | 後 期   |

**発展途上国理解のために(貧困の解消と持続的成長)**

近年、発展途上国とわが国のかかわりは貿易、投資などを通じて急速に深まり、特に東アジア、東南アジア地域と日本経済とのかかわりは北米地域との関係と肩を並べ、あるいはそれを上回るに至り、輸入品等を通じて発展途上国経済は私たちに日常、身近なものになっている。しかし、発展途上国経済は近代的市場経済と伝統的経済が混在、並存する経済であり、その経済発展は社会的、文化的、政治的要因にも強く依存し、先進工業国の経済的通念から一面的に見ようとすると理解を誤ることがある。

本講義では開発経済学の理論を織り交ぜながら、できる限り実例、データに即して発展途上国の停滞と成長、経済的離陸のための条件、経済的制約と経済発展、天然資源と人口成長、所得格差と貧困、教育と経済成長、ジェンターと開発政策、開発と環境、援助政策や、アジアの発展途上国の特性、発展途上国とわが国のかかわりなどについて学ぶ。

評価方法：出席率、筆記試験(小論文、講義への感想等)

テキスト名：宮崎勇、田谷禎三 “世界経済図説”、岩波新書、2000、適宜補足資料を配布

注意事項：国際経済論Iを受講してから受講することが望ましい。

|                      |   |   |     |       |
|----------------------|---|---|-----|-------|
| <b>国 際 経 済 論 I C</b> | な | の | あきら | 2 単 位 |
|                      | 仲 | 野 | 昭   | 1～4年  |
|                      |   |   |     | 前 期   |

**国際金融の原理と応用**

国際研究はもとより、国際ビジネスの実践のためにも不可欠な国際金融の原理と応用を学ぶ。主要テーマは、①国際決済と外国為替、②国際収支と国際貸借、③為替政策、④為替リスクとその対策、である。理論的な理解とともに、IMF(国際通貨基金)等が公表する国際金融統計の読み方に習熟することも目標のひとつとする。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：予備知識として、『図説 国際金融』(財経商詳報社、1998年)を用意することを期待するが、講義は配布するプリントと参考資料(和・英文文献)を中心に進める。

|         |           |          |      |
|---------|-----------|----------|------|
| 国際経済論ⅡC | なかの<br>仲野 | あきら<br>昭 | 2 単位 |
|         |           |          | 1～4年 |
|         |           |          | 後 期  |

### 国際金融市場と国際金融取引

国際研究はもとより、国際ビジネスの実践のためにも不可欠な国際金融取引の原理と実際を学ぶ。主要テーマは、①国際金融市場の歴史と現状、②国際金融取引の諸形態、③国際投資（直接投資と証券投資）、である。②ではプロジェクト・ファイナンス、リース、デリバティブ（金融派生商品）などのテーマも扱う。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストは指定しない。予備知識として、原信著『国際金融概論[新版]』（有斐閣、1997年）を用意することを期待するが、講義は配布するプリントと参考資料（和・英文文献）を中心に進める。

|        |         |        |         |        |      |
|--------|---------|--------|---------|--------|------|
| 国際経営論Ⅰ | なが<br>長 | お<br>尾 | てる<br>昭 | や<br>哉 | 2 単位 |
|        |         |        |         |        | 1～4年 |
|        |         |        |         |        | 前 期  |

### 国際化時代の企業経営とは

企業経営の環境は年と共に新しく、かつきびしくなって来ている。従来の経営システムは、マーケティングや原材料調達或いは金融・証券取引の国際化に、必ずしも適合してはいない。そこで企業経営の革新、経営者教育の改革が必要になっていることは広く認められている。このような社会事情を考慮しながら、今回の講義では、経営戦略と経営財務の基本を解説する。

評価方法：講義中にテストを行う。

テキスト名：長尾他著、「経営学がわかる本」、同文館、2000

|                     |                       |                         |
|---------------------|-----------------------|-------------------------|
| <b>国 際 経 営 論 II</b> | なが お て る や<br>長 尾 昭 哉 | 2 単 位<br>1 ~ 4 年<br>後 期 |
|                     |                       |                         |
|                     |                       |                         |

「国際経営論I」の講義に続けて、国際化時代の企業経営について更にいくつかの話題を取り上げる。今回の講義では、経営組織と経営倫理の基本を解説する。

評価方法：講義中にテストを行う。

テキスト名：長尾他著、「経営学がわかる本」、同文館、2000

|                            |                   |                         |
|----------------------------|-------------------|-------------------------|
| <b>国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ 論</b> | なか の あきら<br>仲 野 昭 | 2 単 位<br>1 ~ 4 年<br>前 期 |
|                            |                   |                         |
|                            |                   |                         |

### マーケティングの基礎と国際マーケティング

マーケティングとは、「個人や組織の目的を達成する交換を創造するため、アイデア・財・サービスの概念形成・価格・プロモーション・流通を計画・実行する過程である」(AMA1985年定義)。国際マーケティング論は以上の意味でのマーケティングのあり方をグローバルな視点で考察することを目標とする。主要なテーマは、①市場の国際化ないしはグローバルイゼーションとマーケティング、②国際マーケティング組織、④国際マーケティングの展開、⑤国際情報とビジネス、⑥国際マーケティングと法、⑥マーケティングリサーチの基礎、である。また、世界の有力企業を題材に事例研究を取り入れる。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配布するプリントと参考資料（和・英文文献）をもとに講義する。また、適宜参考テキストを指示する。

|             |                  |                  |         |
|-------------|------------------|------------------|---------|
| 多 国 籍 企 業 論 | な<br>か<br>の<br>野 | あ<br>き<br>ら<br>昭 | 2 単 位   |
|             |                  |                  | 1 ~ 4 年 |
|             |                  |                  | 後 期     |

### 多国籍企業の行動と基礎理論

多国籍企業論を企業経営の国際化という視点から、その歴史的展開、国際経営論的考察、経済理論的考察の3点から講義する。主要テーマは、①多国籍企業の概念と歴史、②多国籍企業の理論的アプローチ、③多国籍企業の経営管理、④多国籍企業を取り巻く国際環境の変化、である。とくに③について、世界の有力企業を題材に企業研究的なアプローチも加味する。また、一方通行の講義ではなく、受講者の参加による双方向型の講義とするため、種々の課題設定を行う予定である。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配布するプリントと参考資料（主に英文文献）をもとに講義する。また、適宜参考テキストを指示する。

|             |   |         |
|-------------|---|---------|
| 国 際 取 引 法 I | ふ<br>く<br>だ<br>も<br>り<br>と<br>し<br>福<br>田<br>守<br>利 | 2 単 位   |
|             |   | 1 ~ 4 年 |
|             |   | 前 期     |

国際ビジネス取引に関連する法律を学ぶ授業である。「国際取引法I」は基礎編で、各国のビジネスの背景の違い、国際化の意味、国際交渉、国際取引紛争の原因、法律の相違、契約意識の相違、権利意識の相違、訴訟観の相違、紛争解決の困難性などを概説する。英米契約書の翻訳や国際取引関係のニュースの発表を行ってもらう。リーガルマインドを養う授業でもある。

評価方法：学期末試験1回のみ。平常点。提出物。

テキスト名：『アメリカ商事法辞典』 福田 守利、 ジャパンタイムズ社。  
その他は最初の授業でいう。

注 意 事 項：出席を重要視する。3回以上の無断欠席は履修継続不可能となる。

|        |         |        |         |         |      |
|--------|---------|--------|---------|---------|------|
| 国際取引法Ⅱ | ふく<br>福 | だ<br>田 | もり<br>守 | とし<br>利 | 2 単位 |
|        |         |        |         |         | 1～4年 |
|        |         |        |         |         | 後 期  |

国際ビジネス取引に関連する法律を学ぶ授業である。「国際取引法Ⅱ」は「Ⅰ」より具体的なテーマを扱う。海外進出の事業形態、外国の裁判制度、製造物責任法、独占禁止法、知的所有権法、国際契約法(国際売買契約、合併契約、ライセンス契約、準拠法)、国際紛争の解決などの諸分野を説明する。英文契約書の翻訳や国際取引関係のニュースの発表を行ってもらおう。リーガルマインドを養う授業でもある。

評価方法：学期末試験1回のみ。平常点。提出物。

テキスト名：『アメリカ商事法辞典』 福田 守利、 ジャパンタイムズ社。  
 その他は最初の授業でいう。

注意事項：出席を重要視する。3回以上の無断欠席は履修継続不可能となる。

|      |         |         |     |      |
|------|---------|---------|-----|------|
| 国際法Ⅰ | たか<br>高 | むら<br>村 | ゆかり | 2 単位 |
|      |         |         |     | 1～4年 |
|      |         |         |     | 集中講義 |

近年の国際関係の緊密化、日常生活や労働の国際化は、国際法の知識をますます必要なものとしている。本講義では、国家、個人、国際機構、NGOなどのアクターの国際社会における行為を規律している国際法の基本的性格と基本原則について理解を深め、国際社会で起こる様々な出来事について法律的観点から理解し、検討する力をつけることを目的とする。

国際法の歴史、国際法の基本的性格(国内法と対比した国際法の特殊性)、国際法の最も主要なアクターである国家に関する諸規則、国際法の定立・適用・執行に関する規則などについて講義を行う。国際法が関連するその時々々の時事問題に関する検討も随時講義のなかで行う予定である。

評価方法：成績は、①学期末の筆記試験により評価する。ただし、②(筆記試験を補完するものとして)1ないし2回の小レポートによる評価を筆記試験に加点する(レポートの提出は自由)。

テキスト名：横田洋三編『国際法入門』有斐閣  
 参考文献については、講義中に紹介する。

注意事項：「国際法Ⅰ」と「国際法Ⅱ」は、段階履修ではないが、「国際法Ⅱ」は、「国際法Ⅰ」の履修を前提に講義を進めるので、「国際法Ⅱ」の受講を希望する人は、あらかじめ「国際法Ⅰ」を履修するのが望ましい。

|          |         |         |     |         |
|----------|---------|---------|-----|---------|
| 国 際 法 II | たか<br>高 | むら<br>村 | ゆかり | 2 単 位   |
|          |         |         |     | 1 ~ 4 年 |
|          |         |         |     | 後 期     |

近年の国際関係の緊密化、日常生活や労働の国際化は、国際法の知識をますます必要なものとして  
いる。本講義では、「国際法Ⅰ」の履修で得られた国際法の基本原則に関する理解を前提に、様々な分  
野で現在用いられている法規則について学び、国際社会で起こる様々な出来事について法律的観点か  
ら理解し、検討する力をつけることを目的とする。特に

①海、空、宇宙空間、南極などの空間に関する国際法の規則と制度

②安全保障、軍縮、人権の国際的保障、環境保護、開発援助といった、最近国際協力が求められて  
いる分野に適用される国際法の規則と制度

について講義を行う。国際法が関連するその時々の特時問題に関する検討も随時講義のなかで行う予  
定である。

評 価 方 法：成績は、①学期末の筆記試験により評価する。ただし、②（筆記試験を補完するもの  
として）1ないし2回の小レポートによる評価を筆記試験に加点する（レポートの提出は自  
由）。

テキスト名：横田洋三編『国際法入門』有斐閣

参考文献については、講義中に紹介する。

注 意 事 項：「国際法Ⅰ」と「国際法Ⅱ」は、段階履修ではないが、「国際法Ⅱ」は、「国際法Ⅰ」の履修  
を前提に講義を進めるので、「国際法Ⅱ」の受講を希望する人は、あらかじめ「国際法Ⅰ」  
を履修するのが望ましい。

|             |            |          |         |
|-------------|------------|----------|---------|
| 国 際 機 構 論 I | なかの<br>仲 野 | あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|             |            |          | 1 ~ 4 年 |
|             |            |          | 前 期     |

### 現在の国際社会と国際機構の位置および役割

国際社会のひとつの象徴的側面として国際機構の数と機能の増大という流れが観察される。これら国際機構が、国際社会においてどのような理念と機能を担い、国際社会の秩序形成と発展にいかなる貢献をしているのかを、国際連合のケースを中心に学ぶ。主要テーマは①国際社会の組織化と国際機構、②国際連合の成立と組織、③国際連合の機能と課題、④国連 NGO の役割と活動、である。国際連合の活動を通して、国際社会が直面する重要課題（国際的な貧富の格差拡大等）にも言及することとしたい。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストはとくに指定せず、配布するプリントと参考文献（主として英文文献）を中心に進める。参考文献は講義中に適宜紹介する。

|              |            |          |         |
|--------------|------------|----------|---------|
| 国 際 機 構 論 II | なかの<br>仲 野 | あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|              |            |          | 1 ~ 4 年 |
|              |            |          | 後 期     |

### 国際専門機関の理念と役割

国際機構論 I の続編として国際専門機関の理念と役割を学ぶ。主要テーマは、①経済的専門機関（IMF、IBRD、WTO 等）、②社会的文化的専門機関（ISO、ILO、UNESCO 等）、③地域協力の国際機構、である。これらのテーマを通して、国際機構の活動と企業行動との関わり（例えば ISO によるグローバル・スタンダードの形成や知的所有権保護問題と企業の対応）といった課題にも言及する。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストは指定せず、配布するプリントと参考文献（和・英文文献）を中心に進める。

# ビジネス・インターンシップ

寺 田 美奈子

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 2 ~ 3 年 |
| 通 年     |

近年、企業の国際化、産業構造の変化、あるいは社会経済の急激な変化に伴い、企業の雇用環境が急速に変わりつつあり、同時に求められる人材についても大きく変化してきている。こうした状況の中で、産学連携による人材育成の一環として「学生の職業観・職業意識」を促進するためのインターンシップ制度が重要視されている。

通年科目である本講義は以下の内容で構成されている。

- ①事前学習（前期）－ビジネスマナー講座（社会人の基本的心得について、職場でのマナーについて）、パソコン講座、実習先業界・企業研究（実習先の業界・企業に関する研究、社会実習目標シートの作成）。
- ②社会実習（夏期休暇中）－各実習先でのプログラムの実施、実習ノートの作成。
- ③事後学習（後期）－実習レポートの作成・提出、一般学生を対象とした「社会実習報告発表会」を実施し、各業界・企業での実習を通して学んだこと、会得したこと等について情報交換を行う。

評 価 方 法：事前学習における取り組み姿勢・態度、社会実習先での実習ノート、事後学習での実習レポートの内容などを加味し、総合的に評価する。

テキスト名：随時、プリントを配付する。

注 意 事 項：実習先が市役所等の公共機関、および製造・商社・旅行・ホテル・運輸・サービス等の民間企業となるため、実習生は基本的知識の習得はもちろんのこと、本学の代表であるという自己意識を持ち、受け入れ先企業の負担を増やさぬよう自己責任の意識を持つこと等、特に留意すること。

## 5) 日本研究科目

|               |         |         |          |           |
|---------------|---------|---------|----------|-----------|
| 日 本 語 学 概 論 A | いの<br>井 | うえ<br>上 | まさる<br>優 | 4 単 位     |
|               |         |         |          | 1 ~ 4 年 期 |
|               |         |         |          | 前 期       |

「日本語学」とは、「日本語」という個別言語を対象とした言語学研究である。本講義では、言語学の基本的な概念について解説しながら、「現代日本語とはどのような言語か」ということを、音声・文法・意味・語彙などの観点から概観する。また、ひとつの言語について理解するためには、他言語との比較対照が不可欠であるという観点から、方言や古典語、外国語との比較対照を随時おこなう。受講者は、常に自分の専攻言語、あるいは自分の母方言（母語）と比較しながら、「現代日本語とはどのような言語か」について、客観的な視点から考えてもらいたい。

評価方法：出席ならびに試験

テキスト名：伊坂淳一『ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房，1996年）

注意事項：出席者が100人をこえた場合は、第1回の授業で抽選をおこなう。

|               |          |         |        |           |
|---------------|----------|---------|--------|-----------|
| 日 本 語 学 概 論 B | いおり<br>庵 | いさ<br>功 | お<br>雄 | 4 単 位     |
|               |          |         |        | 1 ~ 4 年 期 |
|               |          |         |        | 後 期       |

### 日本語のしくみを考える

日本語の全体像を、音声・音韻、形態、統語、運用、方言など様々な角度から概観し、普段何気なく使っている日本語を客観的にとらえる力を養うことを目的とします。また、日本語学習者に対する日本語教育という観点から問題になりやすい部分についても適宜触れていく予定です。

評価方法：筆記試験、出席を総合して評価します。

テキスト名：(テキスト) 庵 功雄『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク

注意事項：それ以前の授業を前提として授業を進めるので、できるだけ毎回出席してください。

|             |                      |         |
|-------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 I A | た ば とし ゆき<br>田 端 敏 幸 | 4 単 位   |
|             |                      | 1 ~ 4 年 |
|             |                      | 前 期     |

### 日英対照音韻論

#### 日本語のデータを中心に音韻論の基本的な考え方を学ぶ

音韻論は言語の音声現象を理論的に考える分野である。理論研究は個別言語を単独で考えるよりも他言語と比較・対照させた方がより有意義な一般化が得られることが多い。音節のモーラ、アクセント等の現象から話を始めてどのような理論化ができるかを検討していきたい。英語音声学など、音声学の知識がある学生の受講が望ましい。簡単な音声学の解説はするが、原則的に、音声学を履修していない学生はその知識の欠落部分を自分で補わなければならない。テキストは日英対照という視点から書かれているので英語音韻論の知識があると理解がもっと深まる。

評 価 方 法：成績の評価は提出物・定期試験を総合的に判断して判定する。

テキスト名：窪菌晴夫著：「音声学・音韻論」くろしお出版

|             |                      |         |
|-------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 I B | き がわ ゆき お<br>木 川 行 央 | 4 単 位   |
|             |                      | 1 ~ 4 年 |
|             |                      | 後 期     |

音声はどのように形作られるのか、また、どのような音を私達は用いているのか、そしてその音が言語の中でどのように位置づけられるのかについての概説をする。扱う内容は、発音の原理、日本語の音声と音韻、日本語における音と文字、日本語のアクセント、日本語における音の変遷等。

評 価 方 法：出席などの平常点及び筆記試験で評価する。

テキスト名：教科書は用いないが、適宜プリントを配布する。

|              |                    |         |
|--------------|--------------------|---------|
| 日 本 語 学 II A | いわもとえのく<br>岩 本 遠 億 | 4 単 位   |
|              |                    | 1 ~ 4 年 |
|              |                    | 前 期     |

日本語文法の基礎的項目について、初級日本語を教える際に知っておかなければならないことを押さえながら、主に教科書に沿って概説する。ただし、基本構文同士がどのように関連づけられているかを、教科書を離れ、生成文法の成果を取り入れながら講ずることも予定している。

評価方法：ほぼ毎週の小テスト、期末テスト

テキスト名：『基礎日本後文法（改定版）』益岡隆志・田窪行則著  
くろしお出版（予定、変更の可能性あり）

|              |                  |         |
|--------------|------------------|---------|
| 日 本 語 学 II B | いのうえまさる<br>井 上 優 | 4 単 位   |
|              |                  | 1 ~ 4 年 |
|              |                  | 後 期     |

本講義では、現代日本語の文法的特徴について考える。とりあげる主なトピックは、「文の基本構造」「活用」「ヴォイス」「テンス・アスペクト」「モダリティ」「指示詞」などである。方言や古典語、外国語との比較対照も随時おこないながら、現代日本語の特徴を相対的な観点から考えたい。受講者には、「定説」にとらわれることなく、常に自分の専攻言語、あるいは自分の母方言（母語）と比較しながら、現代日本語の特徴について考えることを求める。

評価方法：出席ならびに試験

テキスト名：講義の際に指示する。

|               |                           |           |
|---------------|---------------------------|-----------|
| 日 本 語 表 現 法 I | い 出<br>の 野<br>けん 憲<br>じ 司 | 2 単 位     |
|               |                           | 1 ~ 4 年   |
|               |                           | 前 期 ・ 隔 週 |

誰が読んでもわかり、誤解を生じることのない文章を「よい文章」とし、論文・レポートを書くための基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。事実と意見を明確に区別し、順序よく、明解・簡潔に記述することを繰り返し練習する。

評 価 方 法：授業時のレポート及び定期試験により評価する。

テキスト名：教科書は特に使用しない。

参考図書は、随時指示をする。

注 意 事 項：原則として、隔週の開講となる。詳細については、第1回目に指示する。人数が多い場合には、調整することもある。

|                |                           |           |
|----------------|---------------------------|-----------|
| 日 本 語 表 現 法 II | い 出<br>の 野<br>けん 憲<br>じ 司 | 2 単 位     |
|                |                           | 1 ~ 4 年   |
|                |                           | 後 期 ・ 隔 週 |

1. 論文・レポートを作成する際の基本的知識を学ぶ。

- ・ 基本構成
- ・ 参考文献の収集方法
- ・ 注記の方法
- ・ その他

2. 実用的文書の作成方法を学ぶ

- ・ ビジネス文書の形式
- ・ 手紙文の書き方と作法
- ・ その他

3. 自由作文

評 価 方 法：授業時のレポート及び定期試験により評価する。

テキスト名：教科書は特に使用しない。

参考図書は、随時指示をする。

注 意 事 項：原則として、隔週の開講となる。詳細については、第1回目に指示する。人数が多い場合には、調整することもある。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 特 論 A | き がわ ゆき お<br>木 川 行 央 | 4 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

千葉県・東京都を中心とした地域の方言について考察する。方言の研究にはさまざまな方法があり、この地域の方言もいろいろな角度から研究されている。例えば、記述的な研究（音声・アクセント、文法、語彙）、言語地理学的研究、社会言語学的研究などである。この授業では、まず日本語の中でこの地域の言葉がどのような位置にあるのかを見た上で、いくつかのトピックをとりあげ、実際にどのようなものであるかを確認していく。さらに、方言の研究方法についても考えていく。

評価方法：自分で調査等を行なった結果をレポートとして提出してもらう。また出席など平常点も考慮する。

テキスト名：テキストは用いない。参考書は適宜指示する。

注意事項：「日本語学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 日 本 語 学 特 論 B | いわ もと え のく<br>岩 本 遠 億 | 4 単 位   |
|               |                       | 1 ~ 4 年 |
|               |                       | 後 期     |

日本語動詞の「行く」「来る」「走る」「入る」など空間的な動きを表す動詞は、それらに対応する英語の go, come, run, enter と同じ意味を持っているのであろうか。また文法的にもこれらの動詞は同じような振る舞いをするのであろうか。このコースでは空間移動や位置の概念の言語的表現が日本語と英語でどのように違うのかということから始め、概念的意味と文法の関係について日本語と英語を対照して概説する。

評価方法：テスト

テキスト名：ハンドアウト

|                 |               |         |
|-----------------|---------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I A | あおき<br>青木 ひろみ | 4 単 位   |
|                 |               | 2 ~ 3 年 |
|                 |               | 前 期     |

日本語を外国語として教える際に必要な基礎知識を総合的に得ることを目標とする。日本語の教科書から初級段階の学習項目、主に文法を取り上げて整理したうえで、日本語学習者への提示の仕方を意味、語用の立場からも考えて行く。また教科書分析を行い、その構成について学ぶ。

評 価 方 法：出席、授業への参加態度、課題、定期試験

テキスト名：未定（初回の授業で提示）

注 意 事 項：履修条件に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|                 |                  |         |
|-----------------|------------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I B | よしかわまさのり<br>吉川正則 | 4 単 位   |
|                 |                  | 2 ~ 3 年 |
|                 |                  | 前 期     |

#### 初級学習項目の分析

初級段階の主な学習項目（文法）を取り上げ、分析し整理する。そして、それらがどのように学習者に提示されているかを、日本語教科書から学ぶ。さらに、これらの作業をとおして教科書分析を行い、日本語教科書の構成を知る。

評 価 方 法：定期試験・レポート・出席状況を総合し、評価する。

欠席・遅刻の多い受講生は評価の対象としない。

テキスト名：未定

参 考 文 献：『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』文化外国語専門学校 凡人社

『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク

この他の参考文献は授業中に紹介する。

注 意 事 項：この講座の目的は、日本語教育の専門家を養成することである。毎回かなりの量の専門的知識を学ぶ。概論ではない。自分にとって必要な講座かどうかよく考えて履修すること。履修条件に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照すること。

|                 |        |        |         |        |         |
|-----------------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I C | す<br>須 | が<br>賀 | あき<br>章 | お<br>夫 | 4 単 位   |
|                 |        |        |         |        | 2 ~ 3 年 |
|                 |        |        |         |        | 前 期     |

## 日本語教育における「初級文法」

日本語を第二言語として教える際に必要な知識を学ぶ。

「日本語教授法Ⅰ」では、日本語教育における、いわゆる「初級文法」を中心に文法事項を取り上げ、整理し、また、それらが日本語クラスでどのように取り扱われるのかを見ていく。

授業形態は、半講義形式（一方的に聞くのではなく、学生が自分の意見も述べる）及びグループワークが中心となるが、後半には発表形式も取り入れる。

また、本科目は必ずしも「日本語教育実習」を履修することを条件にしていないが、授業内容は「日本語教育実習」履修予定者を対象としたものとなる。

評価方法：評価は、試験、課題、平常点（授業参加等）を総合して判定する。

詳細は講義初日の「授業ガイダンス」で説明する。

テキスト名：教科書は特に指定せず、その都度適当な参考文献を指示する。

コース全般に関する参考文献は以下の通り。

富田隆行著『文法の基礎知識とその教え方』凡人社

富田隆行著『基本表現50とその教え方』凡人社

各種日本語教科書

注 意 事 項：1. 「日本語学概論」、「日本語学Ⅰ」、「日本語学Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。

特に、上記3科目の内、1科目も履修していない場合は、原則として本科目の履修は認められない。履修の詳細に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

2. グループワーク、発表等に必要な資料を作成するため、履修者はコピーカードを購入しておくこと。

|                 |              |       |
|-----------------|--------------|-------|
| 日 本 語 教 授 法 Ⅱ A | あおき<br>青木ひろみ | 4 単 位 |
|                 |              | 2～4 年 |
|                 |              | 後 期   |

「日本語教育実習」を履修する予定でいる学生を対象とする。コースデザイン、シラバス、教授法、教案作成、教室活動などについて学ぶ。グループごとにマイクロティーチング(microteaching)を行う予定。教育実習につながる指導を行うので、全授業に出席できる学生の参加を望む。

評 価 方 法: 出席、授業への参加態度、課題、マイクロティーチング、レポート

テキスト名: 未定 (初回の授業で提示)

注 意 事 項: 履修条件に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|                 |                  |       |
|-----------------|------------------|-------|
| 日 本 語 教 授 法 Ⅱ B | よしかわまさのり<br>吉川正則 | 4 単 位 |
|                 |                  | 2～4 年 |
|                 |                  | 後 期   |

#### 教育計画の作成とその実践

日本語教育の教育計画立案・実施にあたって必要となる実践的な知識を身につけることを目標とする。コース・デザインの過程をたどりながら、日本語学習者・シラバス・教授法・学習活動・教材・教案などについて学んでいく。さらに、初級の学習項目のいくつかを取り上げ、それをどのように教えるかを考える。

評 価 方 法: レポート・出席状況により評価する。  
欠席・遅刻の多い受講生は評価の対象としない。

テキスト名: 『日本語教育の方法ーコース・デザインの実際ー』 田中望大修館書店

参 考 文 献: 『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』文化外国語専門学校 凡人社  
その他の参考書については授業中に紹介する。

注 意 事 項: この講座の内容は、コースデザインの手法と初級学習項目の指導に分かれる。初級学習項目の指導については、「日本語教授法Ⅰ」で学んだ知識が必要になる。受講を希望する者は、「日本語教授法Ⅰ」を復習しておくこと。履修条件に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照すること。

コースデザインと外国語教授法

日本語を第二言語として教える際に必要な実践的知識を学ぶ。

「日本語教授法Ⅱ」では、これまでに提唱された主な外国語教授法とその歴史的展開を理解した上で、日本語教育への応用を図ることを目標とする。

講義内容は、1. コース・デザインに関する基礎知識、2. 日本語教育におけるシラバスの基礎知識、3. 主要な外国語教授法の紹介、の3点が中心になる。

授業形態は、講義形式、半講義形式（一方的に聞くのではなく、学生が自分の意見も述べる）及び、受講者数によってはグループ・ワークを織りまぜていく。

また、本科目は必ずしも「日本語教育実習」を履修することを条件にしていないが、授業内容は「日本語教育実習」履修予定者を対象としたものとなる。

評 価 方 法：成績の評価は、授業中に行われる小テスト、課題、平常点（授業参加等）を総合して判定する。

テキスト名：教科書は特にないが、教材分析の際には以下の中から1点を授業中に指定する。

- ・山田あき子著『FUNDAMENTAL JAPANESE FOR EXPRESSION IDEAS』凡人社
- ・海外技術者研修協会編『日本語の基礎Ⅰ』スリーエーネットワーク
- ・国際交流基金日本語センター編『日本語初歩』凡人社
- ・水谷修・信子著『An Introduction to Modern Japanese』The Japan Times

また、コース全般に関する参考文献は以下の通り。

- ◎田中望著『日本語教育の法—コース・デザインの実際—』大修館書店
  - 名柄迪他著『外国語教授法の史的展開と日本語教育』アルク
  - 高見澤猛著『新しい外国語教授法と日本語教育』
- （「◎」は特に講義内容全般に関係する）

注 意 事 項：「日本語学概論」、「日本語学Ⅰ」、「日本語学Ⅱ」、「日本語教授法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。特に、上記4科目の内、2科目以上履修していない場合は、原則として、本科目の履修は認められない。履修の詳細に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|             |   |       |
|-------------|---|-------|
| 日本語教育実習 A・B | あお<br>青<br>よし<br>吉<br>まき<br>木<br>がわ<br>川<br>ひろみ<br>ひろみ<br>まさ<br>ま<br>正<br>則 | 1 単 位 |
|             |   | 3～4 年 |
|             |   | 通 年   |

日本語の授業運営について実践的に学ぶ。授業は週1コマであるが、毎週グループで教案を作成し、マイクロティーチング (microteaching) を行うので、課題の準備に十分な時間を必要とする。実習形態は、実習希望者数および外国人学習者の参加状況によって異なる。履修希望者が多い場合は4年生を優先する。授業の初めに、日本語および日本語教育に関する基礎知識を問う試験、面接を行う。

評価方法：出席、授業への参加態度、試験、課題、レポート

テキスト名：未定 (初回の授業で提示)

注意事項：「日本語教員養成プログラム」に関する必修科目は、全て履修済みであること。

|         |  |       |
|---------|--|-------|
| 近代日本文学論 | まつ<br>松<br>い<br>井<br>けい<br>佳<br>こ<br>子 | 2 単 位 |
|         |  | 1～4 年 |
|         |  | 前 期   |

#### 日本近代文学における「近代」と「反近代」のモメント

「西洋」との最初の出会い以来、日本人は世界認識をどのように変容させてきたのであろうか。日本社会の基層に本質的な変化が果たして起こったのであろうか。日本の「近代」の内実は、「近代」にとっての「他者性」をも視野に入れてつつ重層的に捉えられるべきものであろう。「近代」と「反近代」を二項対立図式としてではなく、切断されつつ重なりあうような相互関係・対話関係として捉え、近代的構制そのものの相対化を試みたい。明治時代、日本は啓蒙的理性主義 (合理主義)、科学主義および進歩主義を唱道する西洋近代に目標を定め「近代化」を急いだが、「日本的伝統」へのノスタルジアを残存させながらの苦難の道であった。この授業で取り上げる以下の近代日本の小説家や歌人たちは各々の作品のなかで「近代」と「反近代」(「近代」にとっての他者的存在) を切断面そして連続面としてあわせもっている。これをナイーブな「西洋」対「日本」という二元論に回収させることなく、日本近代 (反近代を内包する) の時空の内実を多角的視点から考察したい。

評価方法：レポートと学期末試験の総合評価とする。

テキスト名：授業で扱う作家は森鷗外、夏目漱石、永井荷風、幸田露伴、樋口一葉、与謝野晶子を予定しており、リーディング・リストは授業第一日目に配布する。

## 「戦争と文学：20世紀の記憶」

振り返ると20世紀は世界が戦争に満ち、そしてそれを自覚的に記憶／表象して次世代に伝えようとした時代であったと言えよう。戦争の記憶は決して戦争当事者だけの問題ではなく、戦争を知らない「わたしたち」がいま直面しているグローバル化やIT革命あるいは憲法改正問題といった社会問題にいかに対応すべきかを考える際にも、決して忘れてはならない歴史認識である。実際第二次世界大戦には何億の人々がこれに関わり、世界中の多くの人々がこの歴史的現象を観察したのである。

この授業では第二次世界大戦の集団的記憶が日本の文学作品のなかでどのように表象されているかを検証するとともに、これらの戦争文学が最近取り上げられている戦争論や戦争責任論について考察する際にどのような論点を提供してくれるかを考えてみたい。

歴史的背景を理解するためにドキュメンタリーやビデオを随時導入する予定である。

評価方法：レポートと学期末試験の総合評価とする。

テキスト名：井伏鱒二 『黒い雨』

大岡昇平 『野火』『レイテ戦記』

野間宏 『真空地帯』

高橋哲哉 『戦後責任論』

加藤典洋 『敗戦後論』『戦後の思考』

安彦一恵、魚住洋一、中岡成文編 『戦争責任と「われわれ」』

多木浩二 『戦争論』

西谷修 『戦争論』

|             |               |         |
|-------------|---------------|---------|
| 日 本 近 代 史 A | やま<br>山 領 健 二 | 2 単 位   |
|             |               | 1 ~ 4 年 |
|             |               | 前 期     |

### 20世紀日本の社会と文化

今日の日本と日本人はどこから来てどこへ行こうとしているのかを考えるために、100年前の日本に立ち戻って、時代の転変を示すさまざまな事実を想起こす作業に受講者を誘って見ようというのが、教師の側のねらいである。受講する学生諸君はテキストからの刺激を受けながら近代日本の歴史についての基礎的な知識を身につけ、自分たち自身の未来への展望を開く手掛かりを発見してもらいたい。

評価方法：レポートによる。

テキスト名：松山巖『世紀末の一年・一九〇〇年ジャパン』（朝日選書 635）朝日新聞社、1999年

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 近 代 史 B | エー<br>AYE チャン<br>CHAN | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 日本と東アジアの関係

日本の近代化は近隣のアジア諸国の人々のナショナリズム意識に大きな影響をあたえるとともに、各国の主権にとって脅威となった。中国と朝鮮半島の利権をめぐる帝国主義諸国が衝突と結託がくりかえすなかで、日本は19世紀末以来、この地域で独自の重要な役割を果たしてきた。講義では参考書と映像をまじえながら、日本と東アジアの政治関係の背景と異文化間の相互作用を重点的に見ていく。使用言語は英語と日本語。

評価方法：授業への参加、レポート提出、期末試験などで総合的に判断する。

テキスト名：授業中に適宜紹介する。

|           |         |          |         |        |         |
|-----------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 日 本 現 代 史 | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単 位   |
|           |         |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |         |          |         |        | 後 期     |

### 敗戦と日本人

20世紀日本の再出発の起点は、20世紀の半ば近く、2度目の世界戦争とその徹底的敗北による終結であった。その出発点における経験を新しい世紀に受け継ぐことを考えながら、政治、社会、思想、文化などさまざまな側面から照らし出し、確かめて行きたい。

聴講者一人一人が現代日本について一定の基礎知識と批判力とを身につけることを、授業の到達目標とする。

評価方法：レポートによる。

テキスト名：テキストは未定。授業の中で指示する。

注 意 事 項：前期に講義する「日本近代史」の授業を聴講しておくことが望ましい。

|                     |         |         |        |         |
|---------------------|---------|---------|--------|---------|
| 日 本 大 衆 文 化 論 A ・ B | ベッ<br>白 | ソン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位   |
|                     |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                     |         |         |        | 前 期     |

私たちは日常的に接している日本のテレビ、映画、雑誌、マンガ、新聞などのメディアを取り上げ、その歴史、社会的な仕組みと機能などを検討する。それらのメディアの意味を読み解き、それらの現状を把握した上で、私たちの生活や活動に役立つ新たな可能性を考えてみたい。学生たちはクラスでの講義やディスカッションを基盤にして、それぞれ自分が興味を持つテーマを決め、問題設定、分析、他分野との関連性の調査などを行なった上で、学期末にはレポートでまとめ、提出しなければならない。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：未定

|          |         |          |         |        |       |
|----------|---------|----------|---------|--------|-------|
| 日本近代思想史Ⅰ | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単位  |
|          |         |          |         |        | 1～4 年 |
|          |         |          |         |        | 前 期   |

### 近代日本の思想集団

近代日本の思想について一応の理解を得るために必要な基本的史実を学ぶ。その方法として、今年度は幕末から敗戦に至る約一世紀間の歴史に重要な足跡を残した幾つかの思想集団を選び、それぞれについて近代日本の歴史的文脈の中で講義する。概説の講義であるが、多様な思想家たちの思想と行動を集団の形成やコミュニケーションの過程、集団の歴史的役割等の観点から照射することにより、聴講者の歴史と思想に対する関心を触発したい。Ⅰの授業では幕末から明治末年を講義する予定である。

評価方法：授業中の小レポートと学期末のレポートとで評価する。

テキスト名：鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫別冊14）岩波書店。  
他に随時資料を配布する。

注意事項：後期の「日本近代思想史Ⅱ」を続けて履修することを勧める。

|          |         |          |         |        |       |
|----------|---------|----------|---------|--------|-------|
| 日本近代思想史Ⅱ | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単位  |
|          |         |          |         |        | 1～4 年 |
|          |         |          |         |        | 後 期   |

### 近代日本の思想集団

近代日本の思想について一応の理解を得るために必要な基本的史実を学ぶ。その方法として、今年度は幕末から敗戦に至る約一世紀間の歴史に重要な足跡を残した幾つかの思想集団を選び、それぞれについて近代日本の歴史的文脈の中で講義する。概説の講義であるが、多様な思想家たちの思想と行動を集団の形成やコミュニケーションの過程、集団の歴史的役割等の観点から照射することにより、聴講者の歴史と思想に対する関心を触発したい。Ⅱの授業では大正から昭和期に当たる1910年代以降を講義する予定である。

評価方法：授業中の小レポートと学期末のレポートとで評価する。

テキスト名：鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫別冊14）岩波書店。  
他に随時資料を配布する。

注意事項：前期の「日本近代思想史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

|           |                       |           |
|-----------|-----------------------|-----------|
| 日本倫理思想史ⅠA | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位     |
|           |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                       | 前 期       |

### 中世の倫理思想を学ぶ

平安時代末期から中世まで、日本人が生きることをどのように考えてきたかを学ぶ。時代順に重要な著述、思想家を取り上げ、日本の思想の基本的な用語、思想が成立していく過程を理解する。具体的には、仏教、神道、歴史思想などを取り扱う予定。ただし、従来の思想史の教科書によくあるような、仏教、神道といった領域別の学説史ではなく、時代の思想の特質、変化を考えていきたい。日本史にかんする知識は必須ではないが、基礎的な事項は知っている方が理解しやすい。

教科書は「日本倫理思想史ⅡA」と共通。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：『日本思想史入門』相良 亨 ベリカン社

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。<http://www.kuis.ac.jp/~kubota/>

|           |                       |           |
|-----------|-----------------------|-----------|
| 日本倫理思想史ⅡA | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位     |
|           |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                       | 後 期       |

### 近世の倫理思想を学ぶ

近世全般、すなわち江戸幕府の成立から、幕末までの日本の倫理思想を学ぶ。この時期は、新しい思想的な用語を生み出すというよりも、従来の思想的な用語に新しい意味を見出し、それによって自らの思想を表現する傾向がある。したがって、思想家のもちいる表現の表面的な意味だけではなく、その思想家の体系の中での意味を理解し、思想の比較を行う場合には、用語の比較ではなく、その体系を比較することが重要である。そのような態度によって、時代の特徴、そこに生きる人々の思想を学ぶ。具体的には儒学、武士の思想、国学、町民の思想、幕末の思想などを扱う予定。

本年度前期の「日本倫理思想史ⅠA」の履修は、この「ⅡA」履修の必要な条件ではないが、内容的には継続。教科書も「日本倫理思想史ⅠA」と共通。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：『日本思想史入門』相良 亨 ベリカン社

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。<http://www.kuis.ac.jp/~kubota/>

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史 I B | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

テーマは恋愛である。恋愛は個人と個人の私的な結び付き（ようするに、わたしはあの人が好きだということ）に過ぎないようにも思える。しかし、恋愛は二人の人間を結び付けることで、社会の基本的な単位を作るのだから、社会にとってきわめて重要な問題である。恋愛は個人的であると同時に社会的な事柄であるという矛盾した性格を持っている。だから、どの社会においても恋愛をどのように実現するかは、その社会のあり方を決定する基本的な要素なのである。このような恋愛の在り方は社会や時代によって変化することになる。この授業では、日本の社会が恋愛をどのように捉えてきたかをまなび、現代日本における恋愛の特徴を理解できるようにしたい。

基本的には昨年までの授業と同一。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。<http://www.kuis.ac.jp/~kubota/>

|              |                       |         |
|--------------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史 II B | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|              |                       | 1 ~ 4 年 |
|              |                       | 後 期     |

テーマは武士である。日本人にとって武士が支配者であるということは、それほど不思議ではない。武士が鎌倉時代以降19世紀まで、日本の権力をにぎっていたからである。しかし、武士の基本的な性格は戦う者であって、政治を行う者ではない。とすれば、戦闘者である武士が政治の当事者であるのは奇妙なことではないだろうか。じつは、日本を取り囲む東アジアの他の地域では、政治を行う者は基本的に官僚で、戦闘者ではなかった。武士の行政のもとにあった日本の社会が、確実に発展していったことも考えてみれば皮肉な現象だといわねばならない。武士の文化は、日本人の行為、判断の基準としても機能していたし、武士が存在しなくなった近代においても強い影響力をもっていた。この授業では、江戸時代以降を中心に、日本における武士の思想の果たした意味について学ぶ。

基本的には昨年度と同一内容。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。<http://www.kuis.ac.jp/~kubota/>

# 日本倫理思想史 I C・D

うお ずみ たか し  
魚 住 孝 至

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 前 期     |

## 道の修行

日本の芸道・武道では、一つの道を極めれば、その技芸を越えて万事に通ずる境に達するとする思想がある。この思想を典型的に示していると思われる宮本武蔵の『五輪書』、自らの弓道体験を基にして比較文化論的考察をしているヘリゲルの『弓と禅』、そして芸道・武道にも大きな影響を及ぼした禅の修行論を見ながら、身心の変容の中でどのような境が開かれてくるのか、修行の具体的なあり様に即して考えてみたい。

評価方法：講義後の感想、中間の小レポート、期末試験による。

テキスト名：宮本武蔵著『五輪書』（岩波文庫）、オイゲン・ヘリゲル述『日本の弓術』（岩波文庫）

# 日本倫理思想史 II C

うお ずみ たか し  
魚 住 孝 至

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 後 期     |

## 無常と美意識

常なるものはない。人生も無常である。この無常を自覚しながら、中世の隠者たちは、その中にかえってしみじみとした情趣と美を見出し、そこに一種の救いも見ていたようである。無常の自覚と独特の美を言い出した『徒然草』を考えた後、西行などの中世の隠者を慕い、庵と旅の生活の中で俳諧を深めて、その果てに「造化にしたがひて造化にかへれ」「高く悟りて俗へ帰れ」と言った松尾芭蕉の思想を論じたい。

評価方法：講義後の感想、中間の小レポート、期末試験

テキスト名：『徒然草』（旺文社文庫）  
『芭蕉紀行文集』（岩波文庫）  
『新訂おくのほそ道』（角川文庫）

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I A | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

### 日本の民俗宗教

日本には多くの宗教的慣習や行事が存在しているにもかかわらず、それらを「宗教」と意識することがなく、無宗教・無信仰者として自己をとらえている人が多い。これは、多くの日本人にとっての宗教が、自覚された信仰のレベルよりも習俗的および感覚的なレベルで機能していることを示している。

本講座では、仏教や神道といった宗教・宗派の枠を超えて成立している「生活態としての宗教」に注目し、その把握に努める。具体的には、冠婚葬祭、年中行事など日常生活に密着した宗教行事の資料やビデオを通じて、日本人の世界観や人生観への理解を深めることを目標とする。

評 価 方 法：平常の授業への出席・試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本の民俗宗教』宮家準、講談社学術文庫

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II A | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 日本の民俗宗教

日本の宗教Ⅰの継続として、「生活態としての宗教」の具体的な現象を通じて、日本人の世界観や人生観への理解を深めることを目標とする。まじない、神話や昔話、巡礼などに焦点をあてる。ビデオも多用する。

評 価 方 法：平常の授業への出席・試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本の民俗宗教』宮家準、講談社学術文庫

|               |         |        |         |        |         |
|---------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I B | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|               |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|               |         |        |         |        | 前 期     |

日本宗教史<中世まで>

宗教は日本文化を構成しているきわめて重要な領域であり、日本文化をその最深部において性格づけているといっても過言ではない。しかしその全体像を客観的にとらえて通観することはたやすいことではない。日本の宗教の立体的な全体像にすこしでも近づくために、本講では、日本の主要な宗教、宗教史上の重要な事件と運動、代表的な信仰および宗教観念を通じて、宗教がどのような機能を果たしてきたのか考察することを目的とする。日本宗教の基本的な諸問題を取り扱うが、とくに日本宗教が歴史的に培ってきた国際的なつながりを重視する。時代的には古代から始まり、仏教の伝来、神仏習合、中世までを通観する。

評 価 方 法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本仏教史』末木文美士、新潮文庫

|                |         |        |         |        |         |
|----------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II B | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|                |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                |         |        |         |        | 後 期     |

日本の宗教史<近世から近代へ>

I Bの継続として、近世から近代までの宗教運動を通観する。特に国家と宗教、民衆的宗教運動の展開を中心に考察する。

評 価 方 法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本仏教史』末木文美士、新潮文庫

注 意 事 項：Iを履修しておくほうが望ましい。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I C | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

### 現代日本と宗教

本講座では、近代から現代日本の宗教運動や事件を通観し、日本の近代化にともなっておこった社会変動と宗教がどのように連動したかを検討する。そしてそれを踏まえて現代日本において宗教とはどのように機能しているのか考察する。

特に近代日本の宗教においては避けられない国家と宗教運動の関係に焦点をあてる。

評価方法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『現代日本の宗教社会学』井上順孝編、世界思想社

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II C | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 現代日本と宗教

本講座ではICの継続として、日本社会における宗教の現在を検証してゆく。宗教をとらえることはいま非常に難しくなっており、現代人一般は日常生活で「信仰」の姿にふれること自体が少ない。しかし現代でも宗教はさまざまな形で突出している。むしろ拡散し多元化しているとも言われている。我々の社会のさまざまな問題とどのように宗教現象が連関しているか、考察してゆく。生命倫理、葬儀、死後の世界、性倫理、政治との関係などが焦点となる。

評価方法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『現代日本の宗教社会学』井上順孝編、世界思想社

注意事項：Iを履修しておくほうが望ましい。

|           |               |         |
|-----------|---------------|---------|
| 日 本 芸 道 史 | うお<br>魚 住 孝 至 | 2 単 位   |
|           |               | 1 ~ 4 年 |
|           |               | 後 期     |

### 芸道思想の成立

日本の芸道の展開について、簡単に見た上で、本格的な芸道論を展開した世阿弥の能芸論を問題にする。次いで、水墨画や枯山水の庭等の禅文化を見た上で、茶の湯の成立と展開を見てみたい。随時ビデオ・図録を利用する。

評 価 方 法：講義後の感想、中間のレポート、期末試験

テキスト名：世阿弥『風姿花伝』（岩波文庫）

|                   |               |         |
|-------------------|---------------|---------|
| 日 本 芸 能 史 I A ・ B | いけ<br>池 田 弘 一 | 2 単 位   |
|                   |               | 1 ~ 4 年 |
|                   |               | 前 期     |

日本の伝統芸能の流れを近世を中心にたどり、浄瑠璃・歌舞伎の特質を理解する。

- 1 「仮名手本忠臣蔵」の前半を教材の中心に置いて浄瑠璃を読み解く。
- 2 ビデオ・テープなどによって忠臣蔵の舞台を鑑賞する。
- 3 テキスト本文の書写と観劇報告の提出を求める。
- 4 伝統芸能における基礎的な知識と鑑賞力を身につける。

※ 聞いていれば済むという講座ではなく、指定した芸能の見学などが義務づけられる。欠席・遅刻についても厳しく、欠席5回を数えたもの、課題作品の提出のないものは不可とする。

評 価 方 法：以下の各要素を総合して評価する。1. 出席状況。2. 書写ノート。3. 期末に提出の観劇報告。

テキスト名：『校註 仮名手本忠臣蔵』土田 衛ほか、笠間書院  
随時プリントを配布する。

|           |         |        |         |         |      |
|-----------|---------|--------|---------|---------|------|
| 日本芸能史ⅡA・B | いけ<br>池 | だ<br>田 | こう<br>弘 | いち<br>一 | 2 単位 |
|           |         |        |         |         | 1～4年 |
|           |         |        |         |         | 後 期  |

「仮名手本忠臣蔵」後半を主たる教材として、浄瑠璃・歌舞伎の特質をとらえ、それが説明できるようにする。

- 1 テキスト本文を書写する。
  - 2 実際の舞台・演奏を見聞するという体験を求める。
  - 3 ビデオ・テープによって忠臣蔵の各場面を鑑賞し、それぞれでとらえた特質について話し合う。
  - 4 「仮名手本忠臣蔵」研究の結果を作品としてまとめ、提出する。
- ※ 欠席・遅刻についても厳しく、欠席が5回を数えたもの、課題作品の提出のないものは不可とする。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。1. 出席状況。2. 書写ノート。3. 期末に提出の「忠臣蔵」研究論文。

テキスト名：『校註 仮名手本忠臣蔵』土田 衛ほか、笠間書院  
随時プリントを配布する。

注意事項：「日本芸能史Ⅰ」を履修し、単位を得ていることを、履修の基本条件とする。

|         |         |        |         |         |      |
|---------|---------|--------|---------|---------|------|
| 日本文化論ⅠA | よし<br>吉 | だ<br>田 | みつ<br>光 | ひろ<br>宏 | 2 単位 |
|         |         |        |         |         | 1～4年 |
|         |         |        |         |         | 前 期  |

### 日本人のセルフ：文化人類学的検証

日本人のアイデンティティ形成を文化人類学的視点から検証する。これまでの日本人のアイデンティティの研究は、ベネディクトのもの以降、変遷してきている。どのような研究がなされてきたかを概観し、それらを批判的に考察を加えていく。以下のようなパースペクティブを紹介する。

- 1) 通文化的比較；
- 2) オリエンタリズムの視点による日本人像；
- 3) 文化相対主義的アプローチ；
- 4) 普遍主義的アプローチ；
- 5) 心理学的アプローチ；
- 6) 社会構造の分析；
- 7) 解釈主義的アプローチ

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はしない。英文による論文からの抜粋が中心。随時配布する。

参考図書例：Hendry, Joy. 1995. *Understanding Japanese Society*.  
Lebra, Takie Sugiyama. 1976. *Japaneses Patterns of Behavior*.  
Rosenberger, R. Nancy. Ed. 1992. *Japanese Sense of Self*.

## 日本人のセルフとグローバリゼーション

地球規模で広がる欧米化や近代化を、日本人はどのように吸収し、どのような文化を形成あるいは創造しているかを探る。近年の具体的な文化人類学的研究から、グローバル化と日本人のアイデンティティ形成の関係を探る。いかに個々の日本人がこれまでの文化を「操作」し、新しい要素を混交させ、それぞれのアイデンティティを創造しているかを論ずる。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はしない。英文による論文からの抜粋が中心。随時配付する。

参考図書例：Kondo, Dorinne. 1997. *About Face : Performing Race in Fashion and Theater.*

Tobin, J. Joseph. ed. 1992. *Re-Made in Japan : Everyday Life and Consumer Taste in a Changing Society.*

Ogasawara, Yuko. 1998. *Office Ladies and Salaried Men : Power, Gender and Work in Japanese Companies.*

Moeran, Brian and Lise Skov. eds. 1995. *Women, Media and Consumption in Japan.*

注意事項：クラスでは英語を中心として使用。留学生も加わるのでディスカッション形式のものにしていく。場合によっては人数制限を行う。

|             |         |         |         |        |         |
|-------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 日本文化論 I B・C | ふく<br>福 | はら<br>原 | とし<br>敏 | お<br>男 | 2 単 位   |
|             |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|             |         |         |         |        | 前 期     |

### 民間信仰

日本の伝統的な庶民生活文化（民俗文化）に焦点をすえて考え、日本文化についての理解を深める講義である。

日本文化の特色を理解することは、外国語を学ぶ者にとって、また国際社会において活躍しようとする者にとって必要不可欠な教養である。日本で生れ育ったことの共通点・最大公約数が、言語と食文化に関わる知識だけということではあまりに寂しい。

民俗文化とは、伝承・習俗・慣習・慣わしなど、学校教育という近代の教育システムの中で教えられるものではなく、先人から学び受け継いできた、日本人としての生活知識全般をいう。その内容は、通過儀礼（七五三や婚礼など）・年中行事（正月や七夕など）・昔話・民家・郷土食など広範囲にわたる。

日本の民俗文化の一端を知ることは、自らの身体に蓄積した歴史をふりかえることにもなる。

この講義では祭・祭礼文化を学ぶことによって日本の民俗文化を理解する。

評価方法：筆記試験。出欠席を特に重視する。

テキスト名：多岐にわたるので各講義時に指示する。

宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫 1000円）

注意事項：第1回目にそれぞれ受講者を50人に絞る。

|              |         |         |         |        |         |
|--------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 日本文化論 II B・C | ふく<br>福 | はら<br>原 | とし<br>敏 | お<br>男 | 2 単 位   |
|              |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|              |         |         |         |        | 後 期     |

### 民間信仰

日本の伝統的な庶民生活文化（民俗文化）に焦点をすえて考え、日本文化についての理解を深める講義である。

日本文化の特色を理解することは、外国語を学ぶ者にとって、また国際社会において活躍しようとする者にとって必要不可欠な教養である。日本で生れ育ったことの共通点・最大公約数が、言語と食文化に関わる知識だけということではあまりに寂しい。

民俗文化とは、伝承・習俗・慣習・慣わしなど、学校教育という近代の教育システムの中で教えられるものではなく、先人から学び受け継いできた、日本人としての生活知識全般をいう。その内容は、通過儀礼（七五三や婚礼など）・年中行事（正月や七夕など）・昔話・民家・郷土食など広範囲にわたる。

日本の民俗文化の一端を知ることは、自らの身体に蓄積した歴史をふりかえることにもなる。

評価方法：レポート。出欠席を特に重視する。

テキスト名：宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫 1000円）

注意事項：第1回目にそれぞれ受講者を50人に絞る

|             |         |         |         |        |         |
|-------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 日 本 美 術 史 I | よし<br>吉 | むら<br>村 | とし<br>稔 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|             |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|             |         |         |         |        | 前 期     |

**浄土教の絵画**

浄土信仰にもとづく絵画について概説します。日本の古代、中世の浄土図、来迎図、六道絵の代表的作例をとりあげ、思想的背景および同主題の中国絵画に言及しつつ、その思想や図様の伝播と変遷の様相について理解を深めることを目標とします。スライド、ビデオによる作品鑑賞をまじえつつ講義をすすめます。

評価方法：レポート（400字詰原稿用紙10枚程度）。出欠席を考慮します。

テキスト名：宮 次男『日本の美術 271 六道絵』至文堂  
 河原由雄『日本の美術 272 浄土図』至文堂  
 浜田 隆『日本の美術 273 来迎図』至文堂

|             |         |         |         |        |         |
|-------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 日 本 政 治 論 I | あき<br>秋 | もと<br>本 | とみ<br>富 | お<br>雄 | 2 単 位   |
|             |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|             |         |         |         |        | 前 期     |

**日本の政治権力構造**

20世紀から21世紀の変わり目のなかで、国内外の政治は様々な変動を経験しつつあります。しかし、私達の眼には、そのダイナミクスが見えにくいことも確かです。この講義では、政治学の基礎的知識および政治学的視座の習得を視野に入れながら、現代日本の民主政治の仕組みとその現実を、他の先進民主諸国との比較の視座から考察していきます。とりあげるテーマは、首相、内閣、議会（国会）、政党、選挙、世論とマス・メディアなどです。

評価方法：原則として定期試験による評価。授業への貢献度についても積極的に評価します。

テキスト名：開講時に指示します。

注意事項：折に触れ、時事的トピックについても、取り上げていく予定なので、授業の項目・進度に若干変更の出る可能性もあります。

|              |                       |         |
|--------------|-----------------------|---------|
| 日 本 政 治 論 II | あき もと とみ お<br>秋 本 富 雄 | 2 単 位   |
|              |                       | 1 ~ 4 年 |
|              |                       | 後 期     |

### 21 世紀日本のガバナンス

グローバル化、少子高齢化、地球温暖化など、私たちが今日直面している様々な政治課題は、従来の政治制度、あるいは政策決定や政策執行のシステムを越えた、多様な政治枠組みによる取り組みを求めています。なかでも、「統治と自治の統合の上に成り立つ概念」(緒方貞子氏)である「ガバナンス」という考え方は、福祉、環境、ジェンダー、教育などの政策分野において、不可欠のものとされています。この講義では、まず、日本の政策形成過程の現状を、諸外国との比較の視座から考察したのち、個々の政策分野における意思決定の現状と問題点を明らかにすることによって、21世紀日本のガバナンス像を、展望していきます。

評価方法：原則として定期試験による評価。授業への貢献度についても積極的に評価します。

テキスト名：開講時に指示します。

注意事項：本クラスは、「日本政治論Ⅰ」から継続した内容となるので、前期から続けて履修することを期待します。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 I A | うち だ しげ お<br>内 田 茂 男 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

日本経済は戦後、急速な発展を遂げた。敗戦後の混乱は乏しい資源を重点分野に投入するいわゆる傾斜生産方式で復興への基礎固めを行った。その後、農村部から大都市への大規模な人口移動が起こり、これを背景に高度成長が実現した。70年代初めにはアメリカに次ぐ世界第二の経済大国になった。しかし、そのころから、成長率が落ち始めた。80年代後半には、バブルを伴ったブームがあったが、現在はその後遺症に悩んでいる。以上、戦後日本経済が歩んだ足跡をたどりながら、経済構造の変化を、簡単な経済理論を利用して理解できるようにする。

評価方法：成績の評価は、原則として期末テストで行う。

テキスト名：教科書は、「ゼミナール日本経済入門2001年度版」(日本経済新聞社)

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 II A | うち だ しげ お<br>内 田 茂 男 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

今世紀最後の十年間の日本経済の成績は、あまりに悪い。半分以上の期間がゼロ成長ないしマイナス成長である。もちろん主要先進国では最悪である。今後についても楽観論は少ない。一体、日本経済に何が起きているのか。どう対応すればよいのか。財政、税制、社会補償制度、経済運営システムのありかたなどにふれながら日本経済の成長力を考える。日本経済の現状と見方についての理解力をつけることを目標とする。新聞記事を多用したい。

評 価 方 法：成績は期末テストで評価する。

テキスト名：教科書は「ゼミナル日本経済入門2001年度版」（日本経済新聞社）

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 I B | こ すげ のぶ ひこ<br>小 菅 伸 彦 | 2 単 位   |
|               |                       | 1 ~ 4 年 |
|               |                       | 前 期     |

戦後の日本経済のあゆみ

戦後の復興から「日本の奇跡」と言われた高度成長を経て米国と並ぶ経済大国となった日本は、現在、21世紀を目前にして多くの困難に直面している。これらの問題の中にはバブル崩壊後の金融不安、低成長と就職難、高齢化の急速な進行と年金問題など私たちの現在、将来の生活に直接かわるものも多い。

本講義では、戦後の成長と景気循環を時代を追いながら概観し、日本経済の現状と課題を長期的、国際的な視野で位置付けるとともに、景気循環や中長期的な経済の動きについての基本的な見方を学ぶ。

戦後復興と経済民主化/成長への助走/重化学工業化と高度成長/経済成長のひずみ/経済の国際化と黒字不均衡/石油ショックとインフレーション/省資源・省エネルギー化とエレクトロニクス化/円高とバブル/バブル崩壊と金融・財政の破綻/経済のグローバル化と情報化/21世紀への課題

評 価 方 法：筆記試験（小論文、講義への感想文等）

テキスト名：高橋乗宣編「経済白書で読む軌跡の50年」 日本実業出版社 1995年

注 意 事 項：日本経済論IIとは独立した講義なので単独受講でも良いし、I、IIの順で受講して、II、Iの順で受講しても良い。

|                |                          |         |
|----------------|--------------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 II B | こ 小<br>す 菅<br>の 伸<br>の 彦 | 2 単 位   |
|                |                          | 1 ~ 4 年 |
|                |                          | 後 期     |

### 現代の日本経済(各論)

日本経済論Ⅰでは総体としてみた日本経済の変遷を時代を追って学び、日本経済の現状と21世紀に向けての課題を整理するが、本講義では財政、金融、物価、貿易、国際収支と為替レート、産業構造と国土開発、公害と環境、就業構造、高齢化と年金・福祉、情報化、経済協力などの分野毎に掘り下げ、理解を深める。

また、新聞の経済記事や白書類等を適宜紹介、解説し、現実の経済問題への理解を深める。

評価方法：出席率、筆記試験（小論文、講義に対する感想等）

テキスト名：使用しない、適宜資料を配布。

注意事項：日本経済論Ⅰとは独立した講義なので単独受講でも良いし、Ⅰ、Ⅱの順で受講しても良いし、Ⅱ、Ⅰの順で受講しても良い。

|             |                             |         |
|-------------|-----------------------------|---------|
| 日 本 外 交 史 I | つる 鶴<br>た 田<br>かめ 亀<br>よし 良 | 2 単 位   |
|             |                             | 1 ~ 4 年 |
|             |                             | 前 期     |

### 明治開国から第二次世界大戦に至る間の日本外交

明治維新に至るまでの日本の対外関係史を概観した後、明治以降の日本の外交、とくに昭和期の第二次世界大戦に至る間の日本外交を中心に取上げる。各時期における日本の政府首脳や外交当局者の考え方、対応、さらに軍部の動向、世論など国内的な背景、一方、当時の欧米諸国の日本への対応、アジアへの進出状況など日本を取巻く外的な要因を含め、複雑にからみ合う内外事情を総合的にとらえて分析、考察する。

現在の外交にも結びつくような外交史における具体的なテーマを取上げ、討議等を含めて「考える力」「ものを見る目」を養い、国際的な分野での活躍も目指す学生にも役立つような活気ある授業にしたい。

評価方法：定期試験、途中一回の短いレポート提出、出席状況で評価。

テキスト名：未定（授業開始時に指示）

参考文献：「日本外交の軌跡」細谷千博著、NHKにブックス、日本放送協会刊  
「三訂『日本外交史概説』」池井優著、慶応通信刊

注意事項：日本外交史Ⅰから始め、その後Ⅱを履修するのが望ましい。

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 外 交 史 Ⅱ | つる た かめ よし<br>鶴 田 亀 良 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 後 期     |

### 戦後復興から現在に至る間の日本外交

第二次世界大戦後、日本はサンフランシスコ講和条約調印を経て、新憲法の下で「平和外交」を推進してきている。まず、アジア周辺諸国との「戦後処理」、ソ連（ロシア）、韓国、中国等との関係正常化、その間に新日米安保条約調印も行なわれた。さらに、日本の経済的發展に伴い主要先進国サミット等を通じてのグローバルな課題、国連改革の具体化、またASEAN、APECなどアジア太平洋地域協力への貢献等も求められている。

とくに、21世紀を迎えて、「アジア太平洋地域の安定と繁栄の確保」「平和と繁栄の世紀の構築」への寄与など日本は数多くの外交課題をかかえている。学生と共に日本外交のあり方をさぐり考察する。

評 価 方 法：定期試験、途中一回の短いレポート提出、出席状況で評価。

テキスト名：「戦後日本外交史」五百旗頭真編、有斐閣刊

参 考 文 献：「日本外交の軌跡」細谷千博著、NHK ブックス、日本放送協会刊

注 意 事 項：日本外交史Ⅰから始め、その後Ⅱを履修するのが望ましい。

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 社 会 論 Ⅰ | か どう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 日本社会の近代化はいかにすすめられたか

今日の日本社会が前近代、近代、ポスト近代の三重構造から成り立っているとの認識のもとに、ここでは日本の近代化が「後発国」ゆえの問題性をはらみつつも経済的成功をもたらした経過を、「近代化＝社会変動」論の観点から講義を行なう。また最近のアジア諸国の目覚ましい発展にもふれながら「開発独裁」論の検討もしてみたい。日本社会の明治維新から戦前期までを扱う。

評 価 方 法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：「日本の近代化と社会変動」富永健一、講談社学術文庫

注 意 事 項：「日本社会論Ⅱ」の受講を望む。

# 日 本 社 会 論 Ⅱ

か とう じょう じ  
加 藤 譲 治

2 単 位

1 ~ 4 年

後 期

## これからの日本を考える

戦後日本の半世紀を顧みつつ、21世紀日本社会の展望を試みたい。現代の日本は、経済大国として国際社会において高い評価をえているのだが、一方で深刻な不況に直面して社会に閉塞状況も出てきている。今日までの日本は戦後の国際環境に適合的な行動がとれていたといえるが、現在はシステム疲労をきたしているともみることができる。学生諸君が21世紀日本のビジョンを描くための材料を提供したい。

評 価 方 法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：『日本の近代化と社会変動』富永健一、講談社学術文庫

注 意 事 項：受講条件とはしないが、「日本社会論Ⅰ」の受講を望む。

# 國際言語文化學科

## 1. 外國語科目

### 1) 英語科目

|                    |  |      |
|--------------------|--|------|
| Freshman English I |  | 4 單位 |
|                    |  | 1 年  |
|                    |  | 前 期  |

The Freshman English course is an integrated skills class designed to help develop the overall proficiency of the students. It includes work on reading, writing, speaking and listening. Strategies for reading and communicating are introduced. The students' English skills are improved through a number of different interactive activities and assignments.

|                     |  |      |
|---------------------|--|------|
| Freshman English II |  | 4 單位 |
|                     |  | 1 年  |
|                     |  | 後 期  |

The Freshman English course is an integrated skills class designed to help develop the overall proficiency of the students. It includes work on reading, writing, speaking and listening. Strategies for reading and communicating are introduced. The students' English skills are improved through a number of different interactive activities and assignments.

|                             |                            |         |
|-----------------------------|----------------------------|---------|
| <b>Business English I D</b> | マ ー ク フレイザー<br>MARK FRASER | 2 単 位   |
|                             |                            | 1 ~ 4 年 |
|                             |                            | 前 期     |

Business English is an English language class for students planning to work in business in the future. The emphasis is on English as a means of international communication in a wide range of business settings. It covers such topics as making telephone calls, fixing appointments, and making plans.

※国際言語文化学科の学生のみ履修可。

|                              |                            |         |
|------------------------------|----------------------------|---------|
| <b>Business English II D</b> | マ ー ク フレイザー<br>MARK FRASER | 2 単 位   |
|                              |                            | 1 ~ 4 年 |
|                              |                            | 後 期     |

Business English is an English language class for students planning to work in business in the future. The emphasis is on English as a means of international communication in a wide range of business settings. It covers such topics as making telephone calls, fixing appointments, and making plans.

※国際言語文化学科の学生のみ履修可。

|                |                           |       |
|----------------|---------------------------|-------|
| Language Lab E | ブルース ホートン<br>BRUCE HORTON | 1 単位  |
|                |                           | 1～4 年 |
|                |                           | 後 期   |

Language lab aims to improve the students' overall pronunciation and listening comprehension skills. A main focus of the course is giving students practice with individual sounds, words and longer phrases and sentences. Class attendance is vital, and students will be expected to master the basic IPA phonetic symbols.

評価方法：Tentatively：class participation 40%, Examinations 60%

テキスト名：Judy Gilbert. Clear Speech. Cambridge University Press. 1993

※国際言語文化学科の学生のみ履修可。

## 2) 日本語科目

|             |         |         |            |         |
|-------------|---------|---------|------------|---------|
| 日 本 語 基 礎 I | たか<br>高 | さき<br>崎 | みちよ<br>三千代 | 4 単 位   |
|             |         |         |            | 1 ~ 4 年 |
|             |         |         |            | 前 期     |

留学生が大学で学習・生活するために必要な聴解の技術を養成することを目的とする。日本語の発話を聞き取る際に問題となる点を説明しながら、講義を聞いたり情報収集をする訓練を具体的に積んでいく。必要に応じ、円滑なやり取りや効果的なノートの取り方など、「話す」「書く」活動も行なう。

評価方法：出席、参加態度、宿題、定期試験

テキスト名：未定

|              |         |         |            |         |
|--------------|---------|---------|------------|---------|
| 日 本 語 基 礎 II | たか<br>高 | さき<br>崎 | みちよ<br>三千代 | 4 単 位   |
|              |         |         |            | 1 ~ 4 年 |
|              |         |         |            | 後 期     |

留学生が大学で学習・生活するために必要な聴解の技術を養成することを目的とする。日本語の発話を聞き取る際に問題となる点を説明しながら、講義を聞いたり情報収集をする訓練を具体的に積んでいく。必要に応じ、円滑なやり取りや効果的なノートの取り方など、「話す」「書く」活動も行なう。授業内容は春学期とほぼ同じ内容。

評価方法：出席、参加態度、宿題、定期試験

テキスト名：未定。

|             |                |         |
|-------------|----------------|---------|
| 日 本 語 基 礎 Ⅲ | あおき<br>青 木 ひろみ | 4 単 位   |
|             |                | 1 ~ 4 年 |
|             |                | 前 期     |

留学生が日本の大学で授業を受けるために必要な長文の読解、及び要約の技術を養うことを目的とする。この授業では、読解のストラテジーを身に付けながら、話し言葉とは異なる文法、文体、表現について学ぶ。また、書かれたものから情報を収集、整理し、答案や課題として提出されるレポートについてまとめられるよう練習を重ねていく。授業では留学生の希望も取り入れていく。

評価方法：出席、参加態度、課題、小テスト、定期試験

テキスト名：(未定) 初回の授業で留学生と相談のうえで決める。

|             |                |         |
|-------------|----------------|---------|
| 日 本 語 基 礎 Ⅳ | あおき<br>青 木 ひろみ | 4 単 位   |
|             |                | 1 ~ 4 年 |
|             |                | 後 期     |

留学生が日本の大学で授業を受けるために必要な長文の読解、及び要約の技術を養うとともに、自律学習ができるようになることを目的とする。留学生それぞれの必要に応じて、新聞記事や専門書などから情報を収集したうえで、自分の考えをまとめ小論文が書けるよう練習を重ねる。また、短編小説、エッセーなどから日本人の生活や感情表現についても考えていく。授業では留学生の希望も取り入れていく。

評価方法：出席、参加態度、課題、小テスト、定期試験

テキスト名：(未定) 初回の授業で留学生と相談のうえで決める。

|             |    |    |     |       |
|-------------|----|----|-----|-------|
| 日本語総合講座 A・B | ほり | うち | こ   | 4 単 位 |
|             | 堀  | 内  | みね子 | 1～4年  |
|             |    |    |     | 前期・後期 |

留学生が日本の大学で講義を受け、研究を進めていくために必要な日本語力を総合的に養うことを目的とする。専門書を読み、講義を聴き、授業やゼミで発表したりする技能を伸ばすことを中心にして、必要な手順を具体的に踏みながら進めていく。最終的に各自が選んだテーマについて調査し、レポートを作成し研究発表を行いたい。

評価方法：出席、自主的参加態度、宿題、定期試験、研究発表

テキスト名：未定（初回授業で発表）

### 3) 地域言語科目

|  |                                       |       |
|--|---------------------------------------|-------|
| <h2 style="margin: 0;">インドネシア語基礎Ⅰ</h2> | 舟 由 京 子<br>幡 川 厚 二<br>IMELDA COUTRIER | 5 単 位 |
|  |                                       | 1 年   |
|  |                                       | 前 期   |

インドネシア語は文字がアルファベットであり、音も子音と母音の組み合わせが多く発音しやすいので、インドネシア語を初めて本格的に学ぶ学生も楽しく且つ抵抗なく授業に臨むことができます。週5回のうち、3回を2名の日本人講師による文法説明、一回を外国人講師による会話と単語、そして一回を簡単な文法をふまえた上での講読という内容で進めます。学生が聞いているだけの授業では語学は上達しないので、講師より学生に多く発言してもらう工夫をし、基礎Ⅰ終了時には簡単な会話ができ、インドネシア人とコミュニケーションを取れる程度までの実力がつくよう授業を進めます。基礎レベルのインドネシア語では単語をしっかり覚えていけば会話がある程度できるので、特に単語の暗記に力を入れます。

評価方法：出席状況、授業中の態度、筆記試験を総合的に評価。

テキスト名：舟田京子『やさしい初歩のインドネシア語』南雲堂、その他

|  |                                       |       |
|--|---------------------------------------|-------|
| <h2 style="margin: 0;">インドネシア語基礎Ⅱ</h2> | 舟 由 京 子<br>幡 川 厚 二<br>IMELDA COUTRIER | 5 単 位 |
|  |                                       | 1 年   |
|  |                                       | 後 期   |

インドネシア語基礎Ⅰで学んだ内容を基に、より広く、深くインドネシア語を学びます。文法はこの基礎Ⅱで一応すべての説明を終えます。単語は日常会話で使用するもの他、雑誌などに登場する一段階上のものも覚えます。会話は日常会話ができる程度まで進める予定です。一般の講義ばかりでなく、インドネシア音楽を聴いたり、映画を見たり、耳からもインドネシア語を学び、またインドネシア語を通し、インドネシアの生活、社会、文化を紹介します。

評価方法：出席状況、授業中の態度、筆記試験を総合的に評価。

テキスト名：『やさしい初歩のインドネシア語』南雲堂  
 『やさしいインドネシア語の決まり文句』南雲堂、その他

|          |                                |       |
|----------|--------------------------------|-------|
| ベトナム語基礎Ⅰ | ホ ア ン アイン ティー<br>HOANG ANH THI | 5 単 位 |
|          | いわ い み さ き<br>岩 井 美佐紀          | 1 年   |
|          |                                | 前 期   |

ベトナム語は、6つの声調をもつ言語で、南北に長い国土には、様々な方言が存在する。授業では、北部の首都ハノイで話されている方言を中心に習得する。ベトナム語基礎Ⅰでは、まず発音練習を徹底的に行う。その後、基本文法を学ぶと同時に、それらを使った用例を多く学び、ベトナム語に「慣れる」ことを目指す。授業では、簡単な会話やニュースなどを織り込んだビデオ教材なども多用し、ベトナム語のスピード感、ニュアンスなども体得できるようにする。毎回、復習を欠かさないことが肝要である。

評価方法：毎回の小テスト、宿題の提出、および学期末試験。

テキスト名：未定。

|          |                                |       |
|----------|--------------------------------|-------|
| ベトナム語基礎Ⅱ | ホ ア ン アイン ティー<br>HOANG ANH THI | 5 単 位 |
|          | いわ い み さ き<br>岩 井 美佐紀          | 1 年   |
|          |                                | 後 期   |

ベトナム語基礎Ⅰに引き続き、基本文法を学習すると同時に、ベトナム語の運用能力をさらにアップさせることを目指す。会話における丁寧・尊敬語などの複雑な表現や、対人関係による多様な人称代名詞の使い分けを学び、どのような年齢層の人ともスムーズに会話できるような応用力を身につける。

また、辞書を用いることによって、語彙を増やし、「慣れる」ベトナム語から、自身の考えを述べたり意思表示ができるような「使える」ベトナム語に発展させる。

評価方法：毎回の小テスト、宿題の提出、および学期末試験。

テキスト名：未定。

|        |                         |       |
|--------|-------------------------|-------|
| タイ語基礎Ⅰ | 杉山 子<br>伊藤 斐<br>重寛 スパボン | 5 単位  |
|        |                         | 1 年 期 |
|        |                         | 前 期   |

タイ語の学習では、独自の文字が使われるので、初めの段階は文字と発音の基礎を集中的に学びます。簡単なあいさつができるようになった頃に、初級文法の学習とその応用である簡単な作文、会話の練習に進みます。文字の読み書き練習は、語彙を増やしながら徐々に進めていきます。基本的な日常会話、簡単な文の読み書きができるようになることがこの時期の目標です。

評価方法：出席状況、試験などにより総合的に評価。

テキスト名：佐藤正文・ワッター・ウティチャムノン共著『実用タイ語会話』泰日経済技術振興協会

|        |                         |       |
|--------|-------------------------|-------|
| タイ語基礎Ⅱ | 杉山 子<br>伊藤 斐<br>重寛 スパボン | 5 単位  |
|        |                         | 1 年 期 |
|        |                         | 後 期   |

中級文法の学習とともに語彙を増やし、基本構文を繰り返し練習することによって一步進んだ会話能力を身につけることをめざします。

また、読み書きの練習は、会話練習で習得したタイ語の読み書きを中心に進めます。手紙を書いたり、辞書を使いながらやや長いタイ語の文章を読解する練習もあわせて行います。

評価方法：出席状況、試験などにより総合的に評価。

テキスト名：佐藤正文・ワッター・ウティチャムノン共著『実用タイ語会話』泰日経済技術振興協会

|           |  |       |
|-----------|--|-------|
| ポルトガル語基礎Ⅰ |  | 5 単 位 |
|           |  | 1 年 期 |
|           |  | 前 期   |

**ポルトガル語の基礎運用力をつける**

ポルトガル語はブラジル、ポルトガルをはじめ、モザンビークやアンゴラといったアフリカ諸国などに住む約1億8000万の人々が公用語とする言語である。とりわけ最大規模のポルトガル語人口をもつ南米ブラジルのポルトガル語を学習することは、移民や投資など日本とブラジルの歴史的関係および近年における日系ブラジル人の出稼ぎ問題などを考えた場合、非常に重要かつ有意義である。本授業では文法や会話などポルトガル語の基礎運用能力を習得することはもとより、学生諸君にはブラジルの文化社会などにも関心をもつことが期待される。週5時間の授業内訳は、前期・後期を通じて文法を3時間、会話を1時間、講読・作文を1時間とする。授業の進め方、評価方法などは後日授業内でオリエンテーションを行う。授業への積極的な参加が重要である。

テキスト名：授業内で指定テキスト・辞書などを紹介する。

|           |  |       |
|-----------|--|-------|
| ポルトガル語基礎Ⅱ |  | 5 単 位 |
|           |  | 1 年 期 |
|           |  | 後 期   |

「ポルトガル語基礎Ⅰ」を参照のこと。

## 2. 基礎科目

|                |       |
|----------------|-------|
| 基礎演習 - 1 ~ 2 7 | 2 単 位 |
|                | 1 年 期 |
|                | 前 期   |

本演習では、演習形式を通じて、大学における学修・研究の基礎の習得を目指します。具体的には、テキストの読み方、文献の検索の仕方、データの処理法、発表に対する準備や心構え、レポート作成の方法、大学における研究生生活のあり方等の基礎的・実践的オリエンテーションを図ると共に、様々な専門分野の教員が分担することによって多彩且つ広い学問的関心を引き起こし、知的・学問的オリエンテーションを行うことをねらいとします。

以上の目的に基づき、各教員が自らの専門を生かした教育内容を独自に組み立てて授業を行うこととなります。

※ 2単位必修。4単位まで履修可。前期必修となる演習はクラスを指定しますが、後期の演習は自由選択クラスとなります。

|            |            |       |
|------------|------------|-------|
| 基礎演習 - 2 8 | ふな だ きょう こ | 2 単 位 |
|            | 舟 田 京 子    | 1 年 期 |
|            |            | 後 期   |

最近、随分身近に感じるようになったアジア。しかしまだアジアを深く知る機会が少ない。そこで本演習ではアジア、特に東南アジアを中心とした文化、歴史、社会に的を定めて学習する。

その方法として、インターネットで世界中からどの程度インドネシア、マレーシア等の東南アジア諸国に関する知識を得ることができるか、実体験してもらい、その中から各自がテーマを決め、発表してもらおう。その後、その発表についてディスカッションを行う。またその発表内容にディスカッション後の変更、訂正、追加等を行い、レポートとしてまとめ提出してもらおう。アジアを中心とする国際関係にも目を向けたい。

評価方法：出席、授業態度、発表内容、レポートを総合的に判断し、評価する。

テキスト名：なし。

|           |         |        |         |        |       |
|-----------|---------|--------|---------|--------|-------|
| 基礎演習 - 29 | ふじ<br>藤 | た<br>田 | とも<br>知 | こ<br>子 | 2 単 位 |
|           |         |        |         |        | 1 年 期 |
|           |         |        |         |        | 後 期   |

### 口頭発表とレポートの作成

言語に興味をもつ人のための基礎演習です。

岡本夏木 (1982)『子どもとことば』(岩波新書)をテキストとし、分担を決めて、内容を要約・解説してもらいます。その上で学生が中心となって討論し、そこから自分が興味をもつ問題を見つけだし、学期末にレポートとしてまとめます。

評価方法：口頭発表、討論への参加度、および、レポートにより総合的に評価します。

テキスト名：岡本夏木 (1982)『子どもとことば』岩波新書

|           |         |        |         |       |
|-----------|---------|--------|---------|-------|
| 基礎演習 - 30 | たか<br>高 | ぎ<br>木 | こう<br>耕 | 2 単 位 |
|           |         |        |         | 1 年 期 |
|           |         |        |         | 後 期   |

教科書中心の学習をしてきた高校生までの教育とは違い、大学生は多数の書籍や新聞・雑誌、ホームページなどから情報を入手し、自分の意見を構築していかなければならない。授業の中では、あふれる情報の中からどのようにして必要な情報だけを選択し、どのように整理し、どのように「自分の意見」としてまとめていくかというテクニックを、講師の指導の下訓練していく。

取り扱うテーマは、「異文化体験」、「発展途上国事情」を中心とするが、基本的には各受講生が自分で選ぶものとする。

評価方法：出席状況、レポート、発表による総合的な評価

テキスト名：必要に応じて参考文献を紹介する

|          |                |      |
|----------|----------------|------|
| 基礎演習－3 1 | いとう けい<br>伊藤 敬 | 2 単位 |
|          |                | 1 年  |
|          |                | 後 期  |

### 人間の社会的形成

ヘレン・ケラーの『私の生涯』を基にして、私たちが社会の中でひとりの人間として多様な人々との関わりを通してどのように形成されていくかを考察しようとする。時代と社会の相違を認識しながら、現在の自分を振り返ってみる。三重苦といわれるヘレン・ケラーから、われわれは思いがけない多くの観点や事柄を気づかされるに違いない。それを明らかにすることを目標とする。

評価方法：レポート提出。出欠席を考慮する。

テキスト名：ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳 『わたしの生涯』 角川文庫 角川書店

注意事項：受講生は20人までとする。

|          |                      |      |
|----------|----------------------|------|
| 基礎演習－3 2 | みな がわ こう いち<br>皆川 厚一 | 2 単位 |
|          |                      | 1 年  |
|          |                      | 後 期  |

①論文／レポートの作成方法の指導。②資料収集の方法。地域研究に必要なフィールドワークの基本的技術（写真撮影、録音等）の説明。③学生各自に自由なテーマを選ばせ、小規模な演習を課す。

評価方法：演習の結果を評価する。出欠席を考慮する。

テキスト名：テキスト無し。

|            |                            |      |
|------------|----------------------------|------|
| 基礎演習 - 3 3 | ひ 桶<br>かさ 笠<br>かつ 勝<br>し 士 | 2 単位 |
|            |                            | 1 年  |
|            |                            | 後 期  |

自分の意見や考えを他人に分かるように表現することは、大学の研究において、例えばゼミやレポート、そして(卒業)論文などにおいて重要であるのみならず、広く一般的に他人とのコミュニケーションにおいても当然深く関わるものである。この基礎演習では、このようなコミュニケーションについての広い見地から、自分の見解を(主観的に自己本位的にではなく)客観的に論理的に表現できるようになることを目指す。そのために、政治・社会・文化・芸術などの様々な分野の事例を素材にして、それに対して自分独自の「言説」を作る練習をしたい。

評価方法:成績の評価は、出席率・平常の学習態度・提出物などを総合的に判断する。

テキスト名:なし

|         |                       |       |
|---------|-----------------------|-------|
| 歴史学 I A | さい 齋<br>とう 藤<br>とおる 融 | 2 単位  |
|         |                       | 1~4 年 |
|         |                       | 前 期   |

#### 日本古代史〈武士の発生から武士政権の成立〉

日本における中世国家の形成とは、律令制国家の解体の過程でもある。古代的社会が変質し、新たな秩序の担い手として武士が歴史の舞台に登場する。その具体的な様相を概観して日本史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例:武士とは何か/律令国家の軍事制度/蝦夷征討/平将門の乱/藤原純友の乱/平忠常の乱/前九年・後三年の役/保元の乱・平治の乱/源平合戦/鎌倉幕府

評価方法:論述試験、平常点

テキスト名:保立 道久『岩波ジュニア新書 平安時代』岩波書店  
五味 文彦『岩波ジュニア新書 武士の時代』岩波書店

|            |            |          |         |
|------------|------------|----------|---------|
| 歴 史 学 II A | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位   |
|            |            |          | 1 ~ 4 年 |
|            |            |          | 後 期     |

### 日本中世史〈武士政権の展開〉

治承寿永の内乱を経て源頼朝は鎌倉幕府を開き、ここに本格的な武士政権が誕生する。東国政権から出発して徐々に京都の公家政権から実権を奪って全国政権としての実質を備えるようになるが、中世社会の具体的な様相を概観して日本中世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：鎌倉幕府の組織／承久の乱／執権政治／得宗専制政治／元寇／鎌倉新仏教／倒幕運動／建武新政／南北朝の動乱／室町幕府

評 価 方 法：論述試験、平常点

テキスト名：五味 文彦『岩波ジュニア新書 武士の時代』岩波書店

|           |            |          |         |
|-----------|------------|----------|---------|
| 歴 史 学 I B | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位   |
|           |            |          | 1 ~ 4 年 |
|           |            |          | 前 期     |

### 日本近世史〈江戸幕府の成立〉

日本における近世国家の形成は、中世的秩序の解体によって開始された。中世的社会が応仁の乱などを契機に群雄割拠・下剋上の社会に移行し、混乱の中で新たな秩序が形成されていく。その具体的な様相を概観して日本近世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：応仁の乱／戦国大名／織田信長と豊臣秀吉／関ヶ原／江戸幕府の成立／大坂の陣／島原の乱と鎖国／元禄時代／新井白石の時代

評 価 方 法：論述試験、平常点

テキスト名：朝尾 直弘『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑧ 天下一統』小学館  
 深谷 克己『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑨ 士農工商の世』小学館

|            |            |          |         |
|------------|------------|----------|---------|
| 歴 史 学 II B | さいとう<br>齋藤 | とおる<br>融 | 2 単 位   |
|            |            |          | 1 ~ 4 年 |
|            |            |          | 後 期     |

### 日本近世史〈幕藩体制の展開〉

日本における近世の国制は幕藩体制と称され、戦乱の終息と鎖国によって比較的安定した時代であった。商品貨幣経済の浸透により自給自足制が崩れていき、様々な矛盾を内包しつつ体制の維持を模索する。その具体的な様相を概観して日本近世史に対する理解を深めることを目的とする。

講義例：享保の改革／田沼意次時代／寛政の改革／外国船の来航／化政文化／天保の改革／黒船来航／安政の大獄／大政奉還

評 価 方 法：論述試験、平常点

テキスト名：竹内 誠『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑩ 江戸と大坂』小学館  
 青木美智男『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑪ 近代の予兆』小学館  
 石井 寛治『小学館ライブラリー 大系日本の歴史⑫ 開国と維新』小学館

|           |         |          |         |        |         |
|-----------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 I C | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単 位   |
|           |         |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |         |          |         |        | 前 期     |

### 20 世紀世界史概観

20世紀の世界全体の歴史を記述した一冊の歴史書を読み進める形式の授業である。取り上げる本は、エリック・ホブズボウム (Eric Hobsbaum) の著書『極端な時代』(“AGE OF EXTREMES”)。「短い20世紀 1914～1991」の副題を持つこの大著を読んで、世界現代史と20世紀の人類について総合的理解を持つとの無謀な挑戦を敢えて試みたい。文字通り現代世界をまるごと相手にして格闘するので教師も学生も大仕事だが、その“大変さ”を逆に生かして興味の続く授業の形を工夫したい。前期の授業では二つの世界戦争が中心になる。

評 価 方 法：レポート、期末試験などを組み合わせて評価する。

テキスト名：テキストについては授業での指示を待つこと。

|            |                        |         |
|------------|------------------------|---------|
| 歴 史 学 II C | やま りょう けん じ<br>山 領 健 二 | 2 単 位   |
|            |                        | 1 ~ 4 年 |
|            |                        | 後 期     |

### 20 世紀世界史概観

20世紀の世界全体の歴史を記述した一冊の歴史書を読み進める形式の授業である。取り上げる本は、エリック・ホブズボウム（Eric Hobsbaum）の著書『極端な時代』（“AGE OF EXTREMES”）。「短い20世紀 1914～1991」の副題を持つこの大著を読んで、世界現代史と20世紀の人類について総合的理解を持つとの無謀な挑戦を敢えて試みたい。文字通り現代世界をまるごと相手にして格闘するので教師も学生も大仕事だが、その“大変さ”を逆に生かして興味の続く授業の形を工夫したい。後期の授業では20世紀後半の社会と文化の激変が中心になる。

評 価 方 法：レポート、期末試験などを組み合わせて評価する。

テキスト名：テキストについては授業での指示を待つこと。

|           |                   |         |
|-----------|-------------------|---------|
| 歴 史 学 I D | かつら よし き<br>桂 芳 樹 | 2 単 位   |
|           |                   | 1 ~ 4 年 |
|           |                   | 前 期     |

### <ルネサンス史> XV 世紀前半

現代ヨーロッパ世界の基本的原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。北イタリア3都市国家の発展と初期資本主義の形成／フィレンツェの古典ギリシア文献学受容／書記官文化・市民的实践倫理としての初期人文主義／フランスの後期百年戦争と「中世の秋」／「聖なる狂気」：ジャンヌ・ダルクと魔女現象／ヴェネツィアの地中海貿易とムスリム文化の流入／プレスター・ジョン伝説とポルトガル・エンリケ航海王子の海洋探険／フィレンツェのメディチ家支配とルネサンス芸術の革新／ルネサンス精神の精華：サンタ・マリア大聖堂／ルネサンス教皇権の確立と宗教的協和運動の行方：コンスタンツ、バーゼル公会議／東西両教会統一フィレンツェ公会議：ビザンツ・ヘレニズム文明との遭遇／写本蒐集と古代思想の復活：プラトン主義、新プラトン主義、ヘルメス主義、教父哲学／新たな問題意識：「人間の尊厳」「宇宙における人間の位置」／ニコラウスV世の世界政策とローマの都市計画

評 価 方 法：期末試験、平常点、出席状況など総合する。定期試験には教科書持ち込み可。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。  
人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|            |          |         |        |         |
|------------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 II D | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位   |
|            |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|            |          |         |        | 後 期     |

### <ルネサンス史> XV 世紀前半

現代ヨーロッパ世界の基本的原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。北イタリア3都市国家の発展と初期資本主義の形成／フィレンツェの古典ギリシア文献学受容／書記官文化・市民的实践倫理としての初期人文主義／フランスの後期百年戦争と「中世の秋」／「聖なる狂気」：ジャンヌ・ダルクと魔女現象／ヴェネツィアの地中海貿易とムスリム文化の流入／プレスター・ジョン伝説とポルトガル・エンリケ航海王子の海洋探険／フィレンツェのメディチ家支配とルネサンス芸術の革新／ルネサンス精神の精華：サンタ・マリア大聖堂／ルネサンス教皇権の確立と宗教的協和運動の行方：コンスタンツ、パーゼル公会議／東西両教会統一フィレンツェ公会議：ビザンツ・ヘレニズム文明との遭遇／写本蒐集と古代思想の復活：プラトン主義、新プラトン主義、ヘルメス主義、教父哲学／新たな問題意識：「人間の尊厳」「宇宙における人間の位置」／ニコラウスV世の世界政策とローマの都市計画

評 価 方 法：期末試験、平常点、出席状況など総合する。定期試験には教科書持ち込み可。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。  
人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|           |          |         |        |         |
|-----------|----------|---------|--------|---------|
| 歴 史 学 I E | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位   |
|           |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |          |         |        | 前 期     |

### <ルネサンス史> XV 世紀後半

現代ヨーロッパ世界の基本的な原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。1453年の東ローマ帝国の滅亡と百年戦争の終結／国際的危機対応のためのニコラウスV世・コジモ主導によるイタリア五大国体制の構築／ルネサンスの技術革新：航海技術、印刷術、銃砲／初期ルネサンスを導いた各界指導者の交代と時代精神の転換／市民的人文主義から超越論的人文主義へ／フィレンツェ・プラトン・アカデミーの設立／宗教的普遍運動とナショナリズムの擡頭／スイス誓約同盟、ブルゴーニュ戦争、スペイン統一、フランスの中央集権化／ヴェネツィア・トルコをめぐる国際危機／争乱の70年代：パッツィの乱とシクストゥス戦争／黄金の80年：ロレンツォ豪華公時代の芸術と文化／新プラトン主義・ヘルメス主義の制覇：フィチーノとピコ／芸術の内面化、「根源的形象界」の図像としての芸術／ルネサンス宇宙論と占星術の発展／地理上の発見／「イタリアの平和」の終焉：シャルルVIII世のイタリア侵略／イタリア・ルネサンス文化の全ヨーロッパ的光被。

評 価 方 法：筆記試験、平常点、出席状況などにより総合評価する。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年の授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。  
人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|            |          |         |        |           |
|------------|----------|---------|--------|-----------|
| 歴 史 学 II E | かつら<br>桂 | よし<br>芳 | き<br>樹 | 2 単 位     |
|            |          |         |        | 1 ~ 4 年 期 |
|            |          |         |        | 後 期       |

＜ルネサンス史＞ XV 世紀後半

現代ヨーロッパ世界の基本的な原形が形成されたルネサンス時代の主要問題を扱う。1453年の東ローマ帝国の滅亡と百年戦争の終結／国際的危機対応のためのニコラウスV世・コジモ主導によるイタリア五大国体制の構築／ルネサンスの技術革新：航海技術、印刷術、銃砲／初期ルネサンスを導いた各界指導者の交代と時代精神の転換／市民的人文主義から超越論的人文主義へ／フィレンツェ・プラトン・アカデミーの設立／宗教的普遍運動とナショナリズムの擡頭／スイス誓約同盟、ブルゴーニュ戦争、スペイン統一、フランスの中央集権化／ヴェネツィア・トルコをめぐる国際危機／争乱の70年代：パッツィの乱とシクストゥス戦争／黄金の80年：ロレンツォ豪華公時代の芸術と文化／新プラトン主義・ヘルメス主義の制覇：フィチーノとピコ／芸術の内面化、「根源的形象界」の図像としての芸術／ルネサンス宇宙論と占星術の発展／地理上の発見／「イタリアの平和」の終焉：シャルルⅧ世のイタリア侵略／イタリア・ルネサンス文化の全ヨーロッパの光被。

評 価 方 法：筆記試験、平常点、出席状況などにより総合評価する。

テキスト名：『ルネサンス歴史年表 1400-1500』桂 芳樹著、エー・アンド・エー社

注 意 事 項：内容的には通年の授業なので前後期通じての受講が望ましいが、絶対的条件とはしない。  
人数制限は行わない。授業中、携帯電話、Iモードの使用厳禁。

|         |        |         |         |        |           |
|---------|--------|---------|---------|--------|-----------|
| 哲 学 I A | ひ<br>樋 | かさ<br>笠 | かつ<br>勝 | し<br>士 | 2 単 位     |
|         |        |         |         |        | 1 ~ 4 年 期 |
|         |        |         |         |        | 前 期       |

人間は皆孤独である。決して他人の心は見えないし、言語などを使って可能な限り内面を伝達しようとして（あるいは聞き取ろうとして）しても、完全に同じものを共有することは不可能である。その上「私」からしか世界は見えない。どのようにしても客観的な立場、第三者的な立場、自分の価値観を離れた立場に立つことはできない。どのように考えても常に「私」が存在し、つきまとい、しかもその「私」というフィルターを通じてしか世界は見えてこないからである。このように考えてくると、「社会」や「友人」や「恋人」や「言語」や「コミュニケーション」や「同じ経験」といったものは一体何のために成立し、或いは、どうして成立しているのであろうか。もしかしたら、その成立は幻想なのであろうか。もしそうなら、どうして幻想という資格で成立しているのであろうか。或いは、もしかしてそれは、幻想ではなくて、そのような「一致」や「共有」を実現しうる（または、実現の可能性を信じられる）論拠をもっているのであろうか。

このような問題を皆で考えてゆきたいと思う。授業は人数が少なければゼミ形式をとる予定である。

評 価 方 法：試験で判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

|          |                |         |
|----------|----------------|---------|
| 哲 学 II A | ひ 桶 かつ 笠 勝 し 士 | 2 単 位   |
|          |                | 1 ~ 4 年 |
|          |                | 後 期     |

前期の問題意識を前提にして、人間の絶対的孤独やその克服の可能性等の問題を、具体的なテキストを読むことで、解釈学的に探究してゆきたい。できれば、学生諸君の問題意識を共有するために、ゼミ形式やディスカッションを取り入れて、一方的な講義にならないようにしたい。

評価方法：出席状況、平常の学習態度、提出物、試験等で総合的に判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

注意事項：原則として、哲学 I A を履修し、単位を取得した者のみに受講資格があるものとする。

|         |                |         |
|---------|----------------|---------|
| 哲 学 I B | ふる 古 た 田 ぎょう 暁 | 2 単 位   |
|         |                | 1 ~ 4 年 |
|         |                | 前 期     |

今日のように価値観が多様化し、文化が一国、一地域に限られず、世界が正に Village となりつつある時代において、最も必要とされているのは、効率や即効性ではない、多面的な判断である。知識の断片の集積ではなく、総合的判断力と大局観の把握である。明瞭な解答がない問題についても思考を重ねる論理の追求である。

このような知のあり方を提供するのが哲学であろう。I、IIともプラトンの作品を読みたい。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：追って報らせる。

|          |                   |           |
|----------|-------------------|-----------|
| 哲 学 II B | ふる た ぎょう<br>古 田 暁 | 2 単 位     |
|          |                   | 1 ~ 4 年 期 |
|          |                   | 後 期       |

今日のように価値観が多様化し、文化が一国、一地域に限られず、世界が正に Village となりつつある時代において、最も必要とされているのは、効率や即効性ではない、多面的な判断である。知識の断片の集積ではなく、総合的判断力と大局観の把握である。明瞭な解答がない問題についても思考を重ねる論理の追求である。

このような知のあり方を提供するのが哲学であろう。I、IIともプラトンの作品を読みたい。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：追って報らせる。

|         |                      |           |
|---------|----------------------|-----------|
| 哲 学 I C | ひ かさ かつ し<br>樋 笠 勝 士 | 2 単 位     |
|         |                      | 1 ~ 4 年 期 |
|         |                      | 前 期       |

「哲学とは何か」という問いを、「教養とは何か」という問いに絡ませて考えてみたい。それを、以下のような講義の構成で進めていきたい。

- 1) イントロダクション：「知への愛」としての哲学
- 2) 哲学の外側：広義の哲学としての教養活動（パイディア）
- 3) 哲学と教養と恋：プラトンの場合
- 4) 哲学と教養と学問：アリストテレスの場合
- 5) 大学の成立と教養：「大学」とは何か

評価方法：試験で判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

|          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 哲 学 II C | ひ 桶 笠 勝 士 | 2 単 位   |
|          |           | 1 ~ 4 年 |
|          |           | 後 期     |

「哲学とは何か／教養とは何か」という問いを掲げて、具体的な思想の理解を通じて、できるだけこれに答えることを目指す。前期の概説を踏まえて、後期は特殊講義を行う。また、テキストを読みながら哲学の行為の現場を理解し、自分でもその実践に自然に入れるように自己鍛練する。従って、履修者には積極的な参加意識をもつことが要求される。

評 価 方 法：出席状況・授業態度・試験等総合的に判断する。

テキスト名：適当なテキストを教室にて指定する。

注 意 事 項：科目の性質上、「哲学ⅠB」を履修し単位を修得した者のみに受講資格があるものとする。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 I A | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 近代の「方向づけ」

われわれは日々、意識するしないにかかわらず、さまざまな「方向づけ」を受けつつ人間関係を営み、振る舞いを行なっている。本講義では、近代（現代）社会において機能している方向づけ・倫理について論じることしたい。取り上げるテーマは、「自由主義的個人主義」「近代家族」「競争社会」「自然」などである。

評 価 方 法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント、および『それから』（夏目漱石、角川文庫版）。

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 II A | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

### ひとを「理解する」とはどういうことか

本講義では、「所有関係」と「他者理解」、また「恋愛」と「友情」を主題として取り上げ、これらにおける「言語」の機能や「時間性」のあり方を考察する。その際、知覚世界の論理（メロディや色彩の現われ方）について論じ参考とする。

評価方法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 I B | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 近代の「方向づけ」

われわれは日々、意識するしないにかかわらず、さまざまな「方向づけ」を受けつつ人間関係を営み、振る舞いを行なっている。本講義では、近代（現代）社会において機能している方向づけ・倫理について論じることにはしたい。取り上げるテーマは、「自由主義的個人主義」「近代家族」「競争社会」「自然」などである。

評価方法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント、および「それから」（夏目漱石、角川文庫版）。

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 II B | み やけ まさ ずみ<br>三 宅 正 純 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

ひとを「理解する」とはどういうことか

本講義では、「所有関係」と「他者理解」、また「恋愛」と「友情」を主題として取り上げ、これらにおける「言語」の機能や「時間性」のあり方を考察する。その際、知覚世界の論理（メロディや色彩の現われ方）について論じ参考とする。

評 価 方 法：レポートあるいは筆記試験。聴講態度を考慮する。

テキスト名：プリント。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 倫 理 学 I C | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 後 期     |

倫理学はきわめて古い学問である。しかし、一方でそれは現在の人々の問題を取り扱わなければいけない。また、倫理学は学問である以上、きちんと学んでいけば、すべての人間に了解される真理の表現でなければいけない。しかし、一方で倫理学は、時代も違えば、文化も違う、つまり生き方の違う社会に生きている個々の人の問題に答えなければならない。人間の生き方は、社会によって定められているが、一方では、各個人の問題である。

このように矛盾を含んだ問題を扱うためには、どのような知の在り方が求められるのだろうか。倫理学はわれわれにどのようなことを教えてくれるのか。倫理学は21世紀にも存在を許される学問なのか。近代、現代の重要な思想家の思想に学びつつ、現代の倫理について考える。

評 価 方 法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。必要に応じ、資料を配布する。

注 意 事 項：授業の形態は基本的には講義。

授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|               |        |         |         |         |         |
|---------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 宗 教 学 I A ・ B | や<br>矢 | うち<br>内 | よし<br>義 | あき<br>顯 | 2 単 位   |
|               |        |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|               |        |         |         |         | 前 期     |

### 宗教現象の諸相

宗教学は、文化現象として、個人の諸々の行動や社会の場に現れている宗教を、客観的な立場から研究する学問である。もちろん、多種多様な宗教現象を網羅することは不可能に近いが、本講義では、諸宗教に見出される平行現象を取り上げ、宗教比較のための基本的観点を明らかにする。講義は以下のように進められる予定である。

- 1 宗教とは何か 2 聖なるもの 3 神と神々 4 神話と儀礼 5 清浄性の規定

評価方法：成績の評価は、出席、試験ないしレポートを総合的に判断して評価する。

テキスト名：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

|                |        |         |         |         |         |
|----------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 宗 教 学 II A ・ B | や<br>矢 | うち<br>内 | よし<br>義 | あき<br>顯 | 2 単 位   |
|                |        |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|                |        |         |         |         | 後 期     |

### 世界の諸宗教

宗教学は、文化現象として、個人の諸々の行動や社会の場に現れている宗教を、客観的な立場から研究する学問である。もちろん、多種多様な宗教現象を網羅することは不可能に近いが、本講義では、個々の宗教をできるだけ取り上げ、それらの歴史的発展形態をたどることによって、諸宗教への理解を与えるようにする。取り上げる宗教は以下の通りである。

- 1 古代オリエントの宗教（メソポタミア・エジプト） 2 古代イスラエルの宗教  
3 古代ギリシアの宗教 4 古代インドの宗教（ヴェーダの宗教・仏教）  
5 キリスト教

評価方法：成績の評価は、出席、試験ないしレポートを総合的に判断して評価する。

テキスト名：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

|             |             |          |         |
|-------------|-------------|----------|---------|
| 文 学 I A ・ B | いい だ<br>飯 田 | いさむ<br>勇 | 2 単 位   |
|             |             |          | 1 ～ 4 年 |
|             |             |          | 前 期     |

### 『古事記』の神話

『古事記』を取りあげ、日本神話を概観する。日本最古の古典である『古事記』には、スサノヲの命によるヤマタノヲロチ退治や因幡の白兔の話などが載っていて、この書物を読むとだれでもどこか懐かしい思いをいだくだろう。しかし、その懐かしい話が、『古事記』という書物に、このようなかたちで記載されていることを知っている人は、かなり少ないに違いない。まず、『古事記』という書物にじかに触れ、存在のそのままを知ってほしい。また、『古事記』には、古典の始発の書物として、文学の様々な問題を考えるヒントがたくさんある。例えば、神話と伝説や昔話との違い、神話の主人公と小説の主人公の違いなども、『古事記』から学ぶことができることがらである。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：角川文庫『古事記』

|              |             |          |         |
|--------------|-------------|----------|---------|
| 文 学 II A ・ B | いい だ<br>飯 田 | いさむ<br>勇 | 2 単 位   |
|              |             |          | 1 ～ 4 年 |
|              |             |          | 後 期     |

### 万葉の恋歌

文学Ⅱの講義では、特に『万葉集』の恋歌を中心に取りあげる。万葉の恋歌を読み、古代の日本人が、恋というもの、男女関係というものを、どのように考えてきたかなどを、文化史的に概観したい。ある意味で、恋や男女関係に関する、日本的な考え方のルーツを、『万葉集』の恋歌の有りに求められないこともない。また、古代の官僚は、恋や女性についてどのような考え方をもっていたのだろうか。これなども、興味深い問題であり、万葉恋歌を読むことによって、ある程度わかる問題である。万葉の恋歌を丁寧に読み解きながら、日本の恋の文化について思いをめぐらしてみよう。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：教材は講義時に配布する。

|             |         |         |         |         |         |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 文 学 I C ・ D | いの<br>井 | うえ<br>上 | まさ<br>正 | あつ<br>篤 | 2 単 位   |
|             |         |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|             |         |         |         |         | 前 期     |

「愛」、「罪」、「死」、「実存」等をキーワードに、青春小説の名作を鑑賞する。小説の細やかな読み込みと、人生を文学的、哲学的に深く考察することを体得されたい。映画化・ドラマ化された作品はそのビデオも鑑賞する。

評 価 方 法：成績の評価は、平常の学習態度およびレポート（詳細は掲示）を総合的に判断して判定する。

テキスト名：サ ガ ン『悲しみよこんにちは』（新潮文庫）  
 石川 達三『青春の蹉跎』（新潮文庫）  
 その他 未定

|              |         |         |         |         |         |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 文 学 II C ・ D | いの<br>井 | うえ<br>上 | まさ<br>正 | あつ<br>篤 | 2 単 位   |
|              |         |         |         |         | 1 ～ 4 年 |
|              |         |         |         |         | 後 期     |

「愛」、「罪」、「友情」、「死」、「実存」等をキーワードに、夏目漱石の長編小説を鑑賞する。小説の細やかな読み込みと、人生を文学的、哲学的に深く考察することを体得されたい。映画化・ドラマ化された両作品のビデオも鑑賞する。

評 価 方 法：成績の評価は、平常の学習態度およびレポート（詳細は掲示）を総合的に判断して判定する。

テキスト名：夏目漱石『それから』（岩波文庫）  
 夏目漱石『こころ』（岩波文庫）  
 その他 未定

## 美術交流史＜西洋に触発される日本の美術＞

江戸時代後半は、徳川太平の世に富を蓄えた町人階級を中心に唐物（輸入品）の人気が高まった時期である。西洋への門戸は長崎一港とはいえ、オランダのカピタンの江戸参府、中国通信使など、江戸庶民は外国の刺激に事欠かなかった。蘭学とは西洋の学問一般を意味し、その情報は学者だけでなく、美術制作者たちにも大きな刺激を与えた。錦絵と呼ばれる多色刷り木版画の開発には、蘭学者平賀源内が一役かかっていると言われている。浮世絵の名流、歌川一門は、西洋の線遠近法を取り入れて、浮き上がって見える「浮絵（うきえ）」で名をなした歌川豊春を始祖とする。葛飾北斎、歌川広重、幕末から明治にかけて西洋画を学ぼうとした者たちの足跡をたどり、東西の美学の交流を考える。

評価方法：学期末に筆記試験を行う。出欠席を考慮する。

テキスト名：特に定めませんが、以下のような参考書を授業の進みにそって参照することが望ましい。

〔日本美術史〕辻惟雄監修（美術出版社）

〔西洋美術史〕高階秀爾監修（美術出版社）

〔日本美術館〕小林忠など監修（小学館 1998年）

〔日本の美術〕肉筆浮世絵シリーズ、江戸絵画シリーズ、明治の洋画シリーズ（至文堂）

〔浮世絵の鑑賞基礎知〕小林忠、大久保純一（至文堂 1996年）

〔大江戸視覚革命〕タイモン・スクリーチ（作品社 1996年）

〔開かれた鎖国〕片桐一男（講談社現代新書 1997年）

〔黄昏のトクガワ・ジャパン〕ヨーゼフ・クライナー編著（NHK books 日本放送出版協会 1996年）

〔絵画の東方オリエンタリズムからジャポニスムへ〕稲賀繁美（名古屋大学出版会 1999年）

|          |                |      |
|----------|----------------|------|
| 美術史Ⅱ A・B | おきゆきこ<br>隠岐由紀子 | 2 単位 |
|          |                | 1～4年 |
|          |                | 後 期  |

美術交流史<日本に触発される西洋—ジャポニスム>

19世紀のヨーロッパは、産業革命の進展に伴う鉄道などの輸送手段の拡大や万国博覧会の開催などによって、外国からの情報がどっと流れ込み、美術も多方面な刺激を受けた。中でも1854年に開国した日本は、1828年に禁制の地図を持ち出そうとして国外追放になった長崎出島の商館勤務医シーボルトの帰国後の積極的な宣伝活動も手伝って、単なるエキゾチシズムを越えた大いなる刺激を西洋の造形美術家たちに及ぼした。ジャポニスムと称されるそうした動向を、日本美術が並んだ様々な万国博覧会や浮世絵の美学に触発されるフランスの画家たちの例を通して紹介する。

評価方法：学期末に筆記試験を行う。出欠席を考慮する。

テキスト名：特に定めないが、以下のような参考書を、授業の進みにそって随時参照することが望ましい。

[西洋美術史] 高階秀爾 監修 (美術出版社)

[日本美術館] 小林忠など監修 (小学館 1998年)

[黄昏のトクガワ・ジャパン] ヨーゼフ・クライナー編著 (NHK books 日本放送出版協会 1996年)

[図説万国博覧会史 1851～1942] 吉田光邦編 (思文閣出版 1985年)

[西洋美術館] 青柳正規など監修 (小学館 1999年)

[ジャポニスム—幻想の日本] 馬淵明子 (ブリュッケ 1997年)

[絵画の東方オリエンタリズムからジャポニスムへ] 稲賀繁美 (名古屋大学出版会 1999年)

|             |                 |       |
|-------------|-----------------|-------|
| 美術史 I C ・ D | よしむらとしこ<br>吉村稔子 | 2 単位  |
|             |                 | 1～4 年 |
|             |                 | 前 期   |

### 東洋の仏教美術

東洋諸地域（南アジア、東南アジア、中央アジア、中国、韓国、日本）の仏教美術について概説します。各地域の仏教美術の代表的作例をとりあげ、その伝播と変遷の様相について理解を深めることを目標とします。スライド、ビデオによる作品鑑賞をまじえつつ講義をすすめます。

評価方法：レポート（400字詰原稿用紙10枚程度）。出欠席を考慮します。

テキスト名：前田耕作監修『[カラー版] 東洋美術史』美術出版社

|               |                  |       |
|---------------|------------------|-------|
| 言語学入門 I A ・ B | かなおかひでろう<br>金岡秀郎 | 2 単位  |
|               |                  | 1～4 年 |
|               |                  | 前 期   |

### 言語記号とは何か

記号の体系である言語の基本的な特色を解説し、言語学の基礎を習得する。

1. 記号とは何かを日常的な事例を挙げつつ説明する。
2. 言語記号の特色を考える。日本語・英語のほか、方言・漫画等を例に見る。
3. 音声・音素とは何かを解説する。
4. 言語と文化の関係を考察。異文化の実例として遊牧的牧畜文化とモンゴル語の関係を取り挙げる。

評価方法：1. 定期試験（平常授業に実施。日程は講義中するので要注意。受験しない者はいかなる理由があっても不可）  
2. 平常点（出席・授業態度等）

テキスト名：田中春美他著『言語学のすすめ』大修館書店  
金岡秀郎著『モンゴルを知るための60章』明石書店

注意事項：定期試験には本人の写真（プリクラ不可）を貼付すること。教室内では携帯電話・PHSの電源を切ること。当然ながら授業中の私語・飲食禁止。

|           |    |    |    |    |      |
|-----------|----|----|----|----|------|
| 言語学入門ⅡA・B | かな | おか | ひで | ろう | 2 単位 |
|           | 金  | 岡  | 秀  | 郎  | 1～4年 |
|           |    |    |    |    | 後 期  |

### 言語学と比較思想

I 履修者の言語学理解をより広くし、今世紀の人文科学との交流を考察する。

1. 言語学史のひとつとして比較言語学を略説する。
2. 上記1. を踏まえ、20世紀の人文科学における比較の思想を学ぶ。特に比較神話学・比較宗教学の誕生を言語学との関連で考察する。自然科学との思想史上の交流にもふれる。

- 評価方法：1. 定期試験（条件はⅠA・Bと同じ）  
2. 平常点（出席・授業態度等）

テキスト名：田中春美他著「言語学のすすめ」大修館書店  
金岡秀郎著「モンゴルを知るための60章」明石書店

注意事項：ⅠA・B履修者に限る。定期試験には本人の写真（プリクラ不可）を貼付すること。教室内では携帯電話・PHSの電源を切ること。当然ながら授業中の私語・飲食禁止。

|         |    |   |    |   |      |
|---------|----|---|----|---|------|
| 言語学入門ⅠC | ふじ | た | とも | こ | 2 単位 |
|         | 藤  | 田 | 知  | 子 | 1～4年 |
|         |    |   |    |   | 前 期  |

外国語を学ぶ私たちは絶えず新しい知識を吸収し、話す、読む、書くなどのいろいろな実践を行っています。そうした営みと平行して、言語はどのような仕組みをもち、人間にとってどんな意味をもっているのか考えてみることも大切です。外国語を自らのものにしようとして日々努力している私たちにとって、言語とは人間にとって何なのか知ろうとすることが、外国語学習にも新しい視点と刺激を与えるのです。扱う項目は以下の通りです。

- 1) 世界の言語
- 2) 言語の分類
- 3) 歴史・比較言語学
- 4) 動物のコミュニケーション
- 5) 言語の機能
- 6) 記号としての言語
- 7) 文字とは何か
- 8) 言語の音声、音声学と音韻論

「入門」なので1～2年次での履修をお勧めします。

評価方法：筆記試験により評価。

テキスト名：プリント配布。参考文献はそのつど指示します。

|           |          |         |         |       |
|-----------|----------|---------|---------|-------|
| 言語学入門 I D | いづみ<br>泉 | くに<br>邦 | ひさ<br>寿 | 2 単位  |
|           |          |         |         | 1～4 年 |
|           |          |         |         | 前 期   |

この講義では人間の「ことば」について、その機能と構造はもちろんのこと、人間の認知能力とのかかわりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していきたいと思います。ただし、あくまでも身近な具体的事例を分析することを重んじます。扱う分野は音声から意味・語用論、社会言語学までを一応の対象としますが、すべてをまんべんなく取り上げるのではなく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進めるつもりです。ことばの研究がふつうに考えられているより広い地平へと通じていることを知ってもらうこともこの授業の目標のひとつです。

前期のこの授業では、世界の言語状況、ことばの機能、記号としての言語の特徴などの一般的な特徴について見たあと、音韻、形態、統語の構造を概観する予定です。

評価方法：定期試験、出席状況、課題等を総合して決めます。

テキスト名：鈴木孝夫『教養としての言語学』『ことばと文化』、両方とも岩波新書。

|            |          |         |         |       |
|------------|----------|---------|---------|-------|
| 言語学入門 II D | いづみ<br>泉 | くに<br>邦 | ひさ<br>寿 | 2 単位  |
|            |          |         |         | 1～4 年 |
|            |          |         |         | 後 期   |

この講義では人間の「ことば」について、その機能と構造はもちろんのこと、人間の認知能力とのかかわりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していきたいと思います。ただし、あくまでも身近な具体的事例を分析することを重んじます。扱う分野は音声から意味・語用論、社会言語学までを一応の対象としますが、すべてをまんべんなく取り上げるのではなく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進めるつもりです。ことばの研究がふつうに考えられているより広い地平へと通じていることを知ってもらうこともこの授業の目標のひとつです。

後期のこの授業では、主として意味論、語用論、社会言語学の諸問題を概観します。

評価方法：定期試験、出席状況、課題等を総合して決めます。

テキスト名：鈴木孝夫『教養としての言語学』『ことばと文化』、両方とも岩波新書。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 社 会 学 I A | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 個人が先か、社会が先か

社会学の基礎理論を学生諸君に理解してもらうことを意図している。いわば社会学入門の授業である。社会学は「社会を扱う」学であるが、その社会とは自分と他者が、個人と個人が切り結ぶ相互作用または関係性をさす。その関係性は多くの場合、規範や制度という形をとって私たちの前に立ち現われる。その社会が、あるいは現代社会が、いかなる特徴を持ち、そしてどんな変化に晒されているかを一緒に勉強していきたい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：『ソシオロジー事始め』中野秀一郎、有斐閣

注意事項：出席重視

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 社 会 学 II A | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

### 現代社会はどこへ行くのか

私たちは何らかの組織や集団に所属して生活している。そうした組織や集団、たとえば家族、学校、企業などがそれであり、もう少し範囲を広げると都市とか国家、さらには国際社会まで含むのだが、それらの現代的特徴を社会学的視点から分析する。現代社会は、モダンからポストモダンへと大きな社会変動に遭遇している。ここでは現代社会の問題を多面的にかつ判り易く講義する。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：『ソシオロジー事始め』中野秀一郎、有斐閣

注意事項：受講条件とはしないが、加藤担当の「社会学Ⅰ」を受講しておくことが望ましい。

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| 社 会 学 I B | やま ぎし み ほ<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ~ 4 年 |
|           |                      | 前 期     |

### 日常生活の社会学

社会学の課題は、人間、社会、日常生活、人々の世界体験を理解することにある。この講義では、社会学の基本的なものの見方、考え方を学習しながら、具体的な日常生活の理解を目指したい。人々の関係、コミュニケーション、文化をキーワードに、誕生から死まで、人生のさまざまな場面にアプローチし、さまざまな人々との出会いと交わりのなかで、人生を旅することの意味を探究する。

学生の皆さんには、社会学の知識を身につけながら、自らが生きる社会や自分自身の生活について再考し、積極的に問題に立ち向かう力を身につけて欲しいと考えている。衣食住に始まり、家族関係、友人関係、メディアと人間の関わりなどさまざまなテーマが社会学の視野に入ってくるのである。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることがあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健・山岸美穂『日常的世界の探究 風景／音風景／音楽／絵画／旅／人間／社会学』慶應義塾大学出版会，1998

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

注意事項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|            |                      |         |
|------------|----------------------|---------|
| 社 会 学 II B | やま ぎし み ほ<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位   |
|            |                      | 1 ~ 4 年 |
|            |                      | 後 期     |

### 現代社会論

現代はいかなる時代なのか。現代社会は、高齢社会、国際社会、情報社会など、さまざまな仕方で理解されるが、私たちの日常生活や人々の関係は、時代の移り変わりのなかで、どのように変貌しているのか。どのような事が「社会問題」になっているのか。

この講義では、具体的に、私たちの時代を読み解く出来事を取りあげると共に、文学、絵画、写真、音楽、映画、建築などにも注目しながら、人間・社会・日常生活の舞台で人々が展開するドラマにアプローチし、私たちが生きている時代と社会に対する理解を深めたい。出席者の皆さんにも意見を求めながら、これからの時代の人間の生き方について共に考察したいと思う。

評価方法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることがあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健・山岸美穂『日常的世界の探究 風景／音風景／音楽／絵画／旅／人間／社会学』慶應義塾大学出版会，1998

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時に、プリント、ビデオを使用する。

注意事項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|           |           |         |
|-----------|-----------|---------|
| 社 会 学 I C | やま ぎし み ほ | 2 単 位   |
|           | 山 岸 美 穂   | 1 ~ 4 年 |
|           |           | 前 期     |

## 時間と空間の社会学

社会学の課題は、人間、社会、日常生活を理解することにある。

ここでは、人々の〈時間〉、〈空間〉体験に注目し、社会学の基本的なものの見方を学習しながら、人間の生活体験、世界体験を探究する。情報化の進展は私たち何をもたらしているのか。旅することは、人間にとってどのような意味をもっているのか。居住空間や学校空間は、今日、どのように変貌しているのか。

人生を旅することの意味を、時間、空間体験を手がかりに考察し、さまざまな人々が世界のなかで共に生きることの意義と意味を考察する。社会学の視点から日々の平凡な出来事にアプローチする時、〈現実〉はこれまでとは異なる相貌で立ち現れるのである。

評 価 方 法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることもあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 309，1978

山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会誌』日本放送出版協会，NHK ブックス 853，1999

その他、適宜、参考文献を紹介したり、講義時にプリント、ビデオを使用する。

注 意 事 項：自らの身体を通して、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|            |               |       |
|------------|---------------|-------|
| 社 会 学 II C | やま<br>山 岸 美 穂 | 2 単 位 |
|            |               | 1～4 年 |
|            |               | 後 期   |

### 感性、身体、音の社会学

本講義では、人々の〈感性〉と〈身体〉、ならびに、人々の音体験と人々によって体験された音風景に注目しながら、人間・社会・日常生活・現代の時代様相についての理解を深める。

現代は、効用性や合理性が重視され、経済的価値が尊重され、機械技術の進歩によって、自然の人間化が進み、人間の感性が次第に弱体化し、想像力の衰退が不安な出来事として感じられるようになったことが指摘される時代である。こうした時代において、感性を豊かに躍動させ、想像力を柔軟に展開させていくためにも、私たちにとっては、感性及び身体という視点から、人間の存在様相やリアリティを問い直すことが重要なのである。

具体的な出来事に注目しながら、生きることを問い直したい。

評 価 方 法：定期試験を中心に評価する。ただし、双方向性の講義を目指し、講義時に感想を求めたり、問いを投げかけることもあるので、出席も重視する。

テキスト名：山岸健『日常生活の社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 309，1978  
山岸美穂・山岸健『音の風景とは何か サウンドスケープの社会学』日本放送出版協会，NHK ブックス 853，1999

注 意 事 項：自らの身体を通して、さまざまな音を聴き、世界及び社会を深く体験しながら、講義内容の理解を深めてもらいたい。

|           |                      |       |
|-----------|----------------------|-------|
| 社 会 学 I D | あん どう きくお<br>安 藤 喜久雄 | 2 単 位 |
|           |                      | 1～4 年 |
|           |                      | 前 期   |

社会の基礎的単位としての人間の行為の分析、検討から始める。次いで人間の行為を規制する規範や価値をはじめ、相互行為、対人関係、コミュニケーション、社会化など社会学における基本的概念の検討を通して社会と個人とのかかわりについて考える。授業ではできるだけ具体的事実にして説明し、理解を深めるよう努める。

評 価 方 法：受講生が少ない場合はレポートと出席点の両方で評価する。

テキスト名：『社会学概論』安藤 喜久雄・児玉 幹夫編，学文社，¥2,100

|            |                      |       |
|------------|----------------------|-------|
| 社 会 学 II D | あん どう きくお<br>安 藤 喜久雄 | 2 単 位 |
|            |                      | 1～4年  |
|            |                      | 後 期   |

社会学の主要な対象である家族、地域、組織（官公庁、企業など）、国家などについてこれまでの研究成果をふまえて社会学的視点より解説する。それとともに上記の各分野において、現在、どのようなことが問題になっているかを明らかにし、それを通して現代社会の当面している課題について理解を深めるよう心掛けるつもりである。

評価方法：受講生が少ない場合はレポートと出席点の両方で評価する。

テキスト名：『社会学概論』安藤 喜久雄・児玉 幹夫編，学文社，¥2,100

|             |                       |       |
|-------------|-----------------------|-------|
| 法 学 I A ・ C | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位 |
|             |                       | 1～4年  |
|             |                       | 前期・後期 |

#### 日常生活のなかの法

普通に暮らしている限り、多くの人は、裁判所に出かけることもなく、法律を意識することもほとんどないだろう。とすると、法律に関わるということは特別のことなのだろうか。しかし、どんなに頑張っても3年で大学を卒業することはできない。それは、学校教育法という法律が入学資格や修業年限を定めているからである。普段の買い物で価格に5%上乗せさせられるのも消費税法の規定による。現在どのくらいの数の法律があるかを言える人はいないのではないかと思われるほど、日常生活の隅々にまで法的規制の網がかかっているのである。アルバイト現場など具体的な場面から法の存在意義と問題点を考えていく。

評価方法：筆記試験またはレポート

テキスト名：野崎和義編『人権論入門』日中出版

参考図書：西村健一郎他『判例法学』

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|          |                       |         |
|----------|-----------------------|---------|
| 法 学 II A | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|          |                       | 1 ~ 4 年 |
|          |                       | 後 期     |

### 人の一生と日本の法

人が誕生するとまず出生届けをしなければならない。しかし、届けられた親子関係が実際と違う場合もあるし、保護者との関係で親権剥奪という事態もある。少し大きくなると、親は子供を学校に入れる義務を負う。学校に行かない子どもも増えているが、なぜ全員が学校に行かなければならないのだろうか。さらに成長すると就職、結婚なども法的な規制を受ける。人生の最後になっても死亡届け(場合によっては検死)が必要だし、相続のことを考えると死んでも法と無縁ではられない。生涯の節目ごとに関わってくる具体的な法を通して、法の意義と限界について考える。

評価方法：筆記試験またはレポート

テキスト名：浦田賢治他『いま日本の法は』日本評論社

参考図書：西村健一郎他『判例法学』

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法(岩波)、デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法(三省堂)か判例基本六法(岩波)を勧めたい。

|         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| 法 学 I B | もり した し ろう<br>森 下 史 郎 | 2 単 位   |
|         |                       | 1 ~ 4 年 |
|         |                       | 前 期     |

本講義は、法学の基礎知識を理解することをテーマにして、法と法学への道では主として、法の解釈と適用を、刑法では、犯罪と刑罰というテーマで、犯罪とは、刑罰とは何か、非行と少年法、安楽死とプライバシイ、正当防衛と緊急避難、残虐刑と死刑等の問題を、また労働法では、労働契約、労働条件、解雇、不当労働行為、争議行為等を基本判例を紹介しながら検討する予定。

評価方法：定期試験で評価

テキスト名：『法学』森泉 章 有斐閣ブックス

『判例法学』西井／西村編 有斐閣ブックス

|          |   |         |
|----------|---|---------|
| 法 学 II B | もり<br>森<br>した<br>下<br>し<br>史<br>ろう<br>郎 | 2 単 位   |
|          |   | 1 ~ 4 年 |
|          |   | 後 期     |

本講義は、民法、憲法の基本問題の理解にテーマを置いて授業を進め、民法では、私的自治と契約の自由、過失責任と不法行為、内縁、婚姻、離婚、嫡出子、人工受精といった様々な問題を抱えている家族法、親族法、遺言、遺留分、法定相続等の相続法を対象に、憲法では、プライバシー権利、法の下での平等、表現の自由、人身の自由を検討する予定。

評価方法：定期試験で評価

テキスト名：「法学」森泉 章 有斐閣ブックス  
「判例法学」西井／西村編 有斐閣ブックス

|           |                               |         |
|-----------|-------------------------------|---------|
| 政 治 学 I A | なが<br>永<br>い<br>井<br>ひろし<br>浩 | 2 単 位   |
|           |                               | 1 ~ 4 年 |
|           |                               | 前 期     |

### 現代日本政治論 I

日本は現在、大きな転換点に立たされている。戦後の発展を支えてきた経済成長が行きづまると同時に、それと車の両輪をなしてきた平和憲法の空洞化が進んできているからだ。民主政治の出発、日米安保体制、55年体制の成立、高度成長とバブルの崩壊、自民党一党支配の終焉、政治改革と行政改革、「国際貢献」論とPKO参加、日米ガイドライン、沖縄基地問題など戦後政治の重要テーマを学ぶなかで、21世紀の日本が進むべき進路をみんなで考えてみよう。そのために、新聞・雑誌などの政治記事に関心をもち、それを読み解く力を養いたい。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

注意事項：「政治学 I」の次に「II」を受講するのがのぞましい。

新聞、雑誌、テレビなどのニュースを通じて、日々の政治の動きに関心をはらうようにこころがけてほしい。

|            |                   |         |
|------------|-------------------|---------|
| 政 治 学 II A | なが い ひろし<br>永 井 浩 | 2 単 位   |
|            |                   | 1 ~ 4 年 |
|            |                   | 後 期     |

### 現代日本政治論 II

日本の経済大国化にともなって、国際社会に果たすべき本の役割がさまざまに論じられている。だが国際関係の担い手は、国家・政府だけではなく企業、NGO（非政府組織）、自治体、市民など多様化してきている。また、内外問わず既成のモデルが通用しない時代になっている。そこで、日本をとりまく国際環境の変化をふまえながら、米国とアジア諸国を中心とした政治・経済問題、戦争責任と未来志向、ODA（政府開発援助）外交、環境問題、在日外国人問題、NGO（非政府組織）の役割などを学び、それをつうじて、わたしたち一人ひとりが21世紀の国際社会のあるべきモデルづくりにいかにかかわっていくべきかを考えてみたい。

評 価 方 法：期末のレポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特に指定しないが、参考書として入江昭「新・日本の外交」（中公新書）、五百旗頭真「戦後日本外交史」（有斐閣）。その他は授業中に適宜紹介する。

注 意 事 項：「政治学 I」を受講したあとに「II」をとるのがのぞましい。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 政 治 学 I B | あき もと とみ お<br>秋 本 富 雄 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 前 期     |

### 欧米諸国のデモクラシー

20世紀後半の交通・通信技術の発展によって、かつてなく国際社会は身近になった。その結果、先進民主諸国のなかでも、国ごとにデモクラシーの有り様がいかに異なるかを、具体的に見聞きする機会も増えている。この講義では、比較政治学的なアプローチから、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、EUを中心に、政府、議会、選挙、政党、圧力政治過程などのテーマを取り上げ、各国の民主政治の考え方、制度、ダイナミクスについての、理解を深めていきたい。講義を通じて、各国の政治をより正確に見据え、我が国のデモクラシーの現状と問題点を考えるための力を、養ってもらうことを目標としていきたい。

評 価 方 法：原則として定期試験による評価。また、授業への貢献度も積極的に評価していきたい。

テキスト名：開講時に指示。

注 意 事 項：折に触れ、講義項目に関連する時事的トピックについても取り上げていく予定なので、積極的な参加を望みたい。

|            |                 |       |
|------------|-----------------|-------|
| 政 治 学 II B | あきもととみお<br>秋本富雄 | 2 単 位 |
|            |                 | 1～4年  |
|            |                 | 後 期   |

### デモクラシーの世紀を越えて

この講義では、先進民主諸国が直面している様々な政治的課題や問題点を取り上げて考察する。講義の前半は、大衆社会、メディア、都市化、積極政治などのテーマを中心に、20世紀初頭から21世紀にかけてのデモクラシーの変動状況について理解を深めていく。講義の後半では、世紀の変わり目の今日、民主的社会を維持発展させていくうえで、新たなる取り組みを求められている問題—住民投票、デポリューション、ジェンダー、高齢化、環境、情報ネットワークなど—について、政治学的な考え方を紹介しながら、論点を明らかにしていきたい。

評価方法：原則として定期試験による評価。また、授業への貢献度も積極的に評価したい。

テキスト名：開講時に指示。

注意事項：折に触れ、授業内容に関連する時事的トピックについても取り上げていく予定なので、授業の項目・進度に若干変更の出る可能性もある。

|               |                 |       |
|---------------|-----------------|-------|
| 経 済 学 I A ・ B | こすげのびひこ<br>小菅伸彦 | 2 単 位 |
|               |                 | 1～4年  |
|               |                 | 前期・後期 |

### マクロ経済学を中心に

国内総生産 (GDP) のしくみとその決定メカニズム、経済成長と景気循環、物価とインフレ—地温、対外経済取引と国際収支・為替レートなどマクロ経済学の基本的な概念、分析手段等について解説する。経済学的な考え方を身につけ、現実の経済を見る目を養うことにより、新聞等で目にする機会の多い景気の動きや経済政策の解説記事等を十分に理解できるようになることを目標にする。

評価方法：筆記試験（小論文、講義内容への感想等）

テキスト名：未定（簡明な教科書を用いる。）、適宜資料を配布する。

注意事項：経済学Ⅰ（前期）→ 経済学Ⅱ（後期）の順に受講しても、逆に、経済学Ⅱ（前期）→ 経済学Ⅰ（後期）の順でもよい。また、前期あるいは後期に経済学Ⅰ、Ⅱをまとめて受講することも可能であり、経済学Ⅰあるいは経済学Ⅱを単独受講してもよい。

|          |                 |       |
|----------|-----------------|-------|
| 経済学Ⅱ A・B | こすげのぶひこ<br>小菅伸彦 | 2 単位  |
|          |                 | 1～4年  |
|          |                 | 後期・前期 |

### ミクロ経済学を中心に

(1) 経済理論や経済政策の歴史の変遷、(2) 需要と効用、企業と生産、消費者余剰と生産者余剰、市場と価格メカニズム、競争と独占、外部経済と外部不経済などミクロ経済学の基本的な概念、主な学説の基本内容等について解説する。経済学的な考え方を身につけ、現実の経済を見る目を養うことを目的とし、規制緩和の意味や、経済と環境のかかわり等についても理解できるようなることを目標にする。

評価方法：筆記試験（小論文、講義に対する感想など）

テキスト名：未定（簡明な教科書を用いる。）

注意事項：経済学Ⅰ（前期）→ 経済学Ⅱ（後期）の順に受講しても、逆に、経済学Ⅱ（前期）→ 経済学Ⅰ（後期）の順でもよい。また、前期あるいは後期に経済学Ⅰ、Ⅱをまとめて受講することも可能であり、経済学Ⅰあるいは経済学Ⅱを単独受講してもよい。

|        |                 |      |
|--------|-----------------|------|
| 心理学Ⅰ A | たはらしゅんじ<br>田原俊司 | 2 単位 |
|        |                 | 1～4年 |
|        |                 | 前期   |

### 臨床心理学入門

本講義では、心理的に不応を起し、悩み苦しんでいる人々に対して、心理学や関連諸科学の知識を用いて社会的・心理的に適応できるように援助するための基礎知識を学習することを目的としている。具体的には、①ICD-10（国際疾病分類第10版1993年、WHO）やDSM-IV（精神障害の診断統計マニュアル第4版1994年、アメリカ精神医学会）に基づく神経症、精神分裂病、鬱病、精神遅滞、自閉症、学習障害、多動性障害などの精神（発達）障害の臨床像と診断基準、②面接法、行動観察法、心理テスト法による心理アセスメント、について理解を深める。

評価方法：出席（20%）、課題・実技（40%）、試験（40%）の総合により評価する。

テキスト名：田原俊司（編著）『いじめ相談室』八千代出版  
伊藤隆二・松本恒之（編）『現代心理学25章』八千代出版

注意事項：受講対象は、実技をとまなうため、人数を60名程度に制限する。

|            |                       |         |
|------------|-----------------------|---------|
| 心 理 学 II A | た はら しゅん じ<br>田 原 俊 司 | 2 単 位   |
|            |                       | 1 ~ 4 年 |
|            |                       | 後 期     |

**カウンセリング入門**

本講義では、心理的に不適応を起こし、悩み苦しんでいる人々に対して、心理学や関連諸科学の知識を用いて社会的・心理的に適応できるように援助するための基礎知識を学習することを目的としている。具体的には、心理学Iの知見に基づき、クライエント中心療法、ゲシュタルト療法、論理情動療法、マイクロカウンセリング等の心理療法について理解を深める。

評価方法：出席（20%）、課題・実技（40%）、試験（40%）の総合により評価する。

テキスト名：伊藤隆二・松本恒之（編）『現代心理学 25 章』八千代出版  
 田原俊司（編著）『いじめ相談室』八千代出版

注 意 事 項：受講対象は、心理学IIあるいは教育心理学を履修済みの学生のみ受講可能である。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 心 理 学 I B ・ C | や べ ふ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

**認知心理学入門**

人間を一種の情報処理システムと見なす認知心理学の観点から、環境の認知、記憶、思考過程について概観する予定である。

評価方法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大山 正（編）『実験心理学』 東京大学出版会

注 意 事 項：定員 60 名（抽選）

認知心理学の全体的理解のためには、通年で履修することが望ましい。

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 心 理 学 II B ・ C | や べ ぶ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ～ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 認知心理学入門

人間を一種の情報処理システムと見なす認知心理学の観点から、環境の認知、記憶、思考過程について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大山 正（編）『実験心理学』 東京大学出版会

注 意 事 項：定員 60 名（抽選）

認知心理学の全体的理解のためには、通年で履修することが望ましい。

|           |                      |         |
|-----------|----------------------|---------|
| 心 理 学 I D | や べ ぶ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|           |                      | 1 ～ 4 年 |
|           |                      | 前 期     |

### 社会心理学入門

社会心理学入門であるが、主として集団における個人の行動や個人間の相互作用などの集団現象に関する領域について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大坊 郁夫・安藤 清志（編）『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 心 理 学 II D ・ E | や べ ぶ み え<br>矢 部 富美枝 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 社会心理学入門

社会心理学入門であるが、主として環境が人間の心理や行動に及ぼす影響や人間と環境の相互作用など環境に関する領域について概観する予定である。

評 価 方 法：定期試験（出席も考慮する）

テキスト名：大坊 郁夫・安藤 清志（編）『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版

|             |                        |           |
|-------------|------------------------|-----------|
| 教 育 学 A ・ B | あ ず ま と し の り<br>東 敏 徳 | 2 単 位     |
|             |                        | 1 ~ 4 年   |
|             |                        | 前 期 ・ 後 期 |

教育ほど人の一生の中で重要なことは数少ない。その意味で私たちは教育について、学校教育はもちろん、様々な角度から考えなくてはならない。本講義ではまず、人が成長していく中で教育の果たす役割について考える。それはとりもなおさず、「教育とは何か」という問いにつながる。この問いは歴史上多くの人々により答えられてきた。その足跡を辿ることで教育に関わる本質的な知識を獲得することができる。また授業では教育に関する身近なトピックを取り上げ、討議することで上の問いを考えていく。なお教職課程履修者はこの科目を履修しておくことが望ましい。

### 到達目標

今日の教育が持つ問題点を構造的に理解することを目標とする。その理解を得るため、授業は受講者各自の教育に対する考え方をつきあわせつつ行う。

評 価 方 法：評価は授業中のレポート、テスト、および平常の授業の出欠席の状況などを勘案して行う。

テキスト名：東 敏徳著『教育って何だろう』（ユージン伝 1995）

|           |                        |      |
|-----------|------------------------|------|
| 文化人類学ⅠA・B | み たむら しげ たか<br>三田村 成 孝 | 2 単位 |
|           |                        | 1～4年 |
|           |                        | 前期   |

Iでは北海道アイヌ民族の文化について学んでいく。近年、自然との共存がいわれているが、自然民族としてのアイヌ民族は、狩猟採集民として自然とともに生きてきた。ただそうした生き方も、明治以降は日本化の流れの中で農耕民として生きることを強制され、急速に変化を遂げ今日に至っている。講義では、アイヌ文化復興の試みとともに、本来かれらの営んできた生活を再構成しながら、自然、文化、民族について学んでいく。

評価方法：筆記試験。

テキスト名：なし。参考文献は授業の中で紹介する。

|           |                        |      |
|-----------|------------------------|------|
| 文化人類学ⅡA・B | み たむら しげ たか<br>三田村 成 孝 | 2 単位 |
|           |                        | 1～4年 |
|           |                        | 後期   |

IIでは沖縄の文化に焦点をあてて見ていく。沖縄は、明治になるまで琉球王国として独自の文化をはぐくんできた。その中には中国文化の影響、日本文化の古い姿などが随所に見出される。講義ではそうした点に注意しながら沖縄文化について学んでいく。

評価方法：筆記試験。

テキスト名：なし。参考文献は授業の中で紹介する。

## ヒトの一生

文化人類学は120年程前に成立した若い学問である。世界には私たちの理解を越えた数多くの文化がある。そのような文化を「理解」しようとするのがこの講義の目的である。本講義では「ヒトの一生」をテーマとして文化人類学の基本を概観する。

- I ヒトはなぜ文化を持つのか —— 「文化」とは何か
- II ヒトはなぜお弔いをするか —— 「死」の人類学
- III 子供はなぜ「お子様」か —— 「誕生」の人類学
- IV 「一人前」とは何か —— 「成人」の人類学
- V 「老い」の人類学
- VI 女性の人類学 —— 異質性と文化
- VII 身体と文化
- VIII ヒトと世界観

評価方法：学期末に試験を行い判断する。「一発」に自信の無い者は“保険”として自主的にレポートを提出すること（強制ではない）。詳細は講義中に話す。

テキスト名：テキストに相当するものはない。文化人類学の全体像を知るためには以下に示すうち一冊を通読すれば足りるだろう。

「文化人類学を学ぶ」 蒲生正男他、有斐閣選書

「文化人類学」 村武精一他、有斐閣

「文化人類学15の理論」 綾部恒夫他、中公新書

参考書は随時紹介する。一冊でも多く読みこなしてほしい。

注意事項：出席が“単位”のための重要な鍵になる。

## 「他者」の文化人類学

文化人類学Ⅰの内容を受け、ヒトが異なった文化に接触したときにどのような事が生じるかを講義する。我々とは異質な世界をもつ人達にとっての異質な人々という込み入った世界を考えて行く。

- I 「鬼」—— 異質な者の象徴
- II 都市の人類学
- III ヒトと交換
- IV 婚姻と交換
- V 二元的世界観
- VI 「民族」が創造される時 —— エスニシティ
- VII フィールドワークという方法

評価方法：学期末に試験を行い判断する。「一発」に自信の無い者は“保険”として自主的にレポートを提出すること（強制ではない）。詳細は講義中に話す。

テキスト名：テキストに相当するものはない。文化人類学の全体像を知るためには以下に示すうち一冊を通読すれば足りるだろう。

- 『文化人類学を学ぶ』 蒲生正男他、有斐閣選書
  - 『文化人類学』 村武精一他、有斐閣
  - 『文化人類学 15 の理論』 綾部恒夫他、中公新書
- 参考書は随時紹介する。一冊でも多く読みこなしてほしい。

注意事項：出席が“単位”のための重要な鍵になる。

|           |         |        |         |         |      |
|-----------|---------|--------|---------|---------|------|
| 文化人類学 I E | よし<br>吉 | だ<br>田 | みつ<br>光 | ひろ<br>宏 | 2 単位 |
|           |         |        |         |         | 1～4年 |
|           |         |        |         |         | 前期   |

**異文化・他者の文化人類学的理解：基本的アプローチ**

文化人類学の基本的なパースペクティブ、概念、方法論、問題点等を検証する。異文化を理解するために、どのような文化人類学的アプローチがあるか、どのようにしてデータを収集するか、そこにはどのような問題点があるのだろうか。以下のような根本的な項目を検証し文化人類学的理解や視点を学んでいく：1) 文化相対主義、2) 自民族中心主義、3) 全体論的視点、4) 文化の概念、5) Etic/Emicの分析概念、6) 文化の象徴性、7) 方法論としてのフィールドワーク、8) 実証主義と解釈主義。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はなし。以下のような入門書等を使用。適宜コピーを配付。

Kottak, C. Phillip. 1997. *Mirror for Humanity: A Concise Introduction to Cultural Anthropology.*

Schultz, Emily A., and Robert H. Labenda. 1995. *Cultural Anthropology: A Perspective on the Human Condition.*

|            |         |        |         |         |      |
|------------|---------|--------|---------|---------|------|
| 文化人類学 II E | よし<br>吉 | だ<br>田 | みつ<br>光 | ひろ<br>宏 | 2 単位 |
|            |         |        |         |         | 1～4年 |
|            |         |        |         |         | 後期   |

**異文化・他者の文化人類学的理解：社会構造とアイデンティティ**

文化人類学的視点によるエスノグラフィ（英文のものが中心）を紹介しながら、以下のトピックを中心に、異文化／他者理解のためにどのような分析がなされ、問題点があるかを検証する：1) ジェンダーの視点；2) アイデンティティ形成と反抗；3) 感情表現の文化的意味；4) 消費欲求の社会性、政治性など。基本的な理論的概観をする一方で、具体的な例として、地域的には、日本、アメリカ、ミクロネシア、北アフリカなど多くの地域からのものを扱い、文化人類学への興味を深め、異文化理解の在り方を探る。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はなし。以下のようなものを使用。コピーを適宜配付する。その他随時紹介。

Lutz, A. Catherine. 1988. *Unnatural Emotions: Everyday Sentiments on a Micronesian Atoll and their Challenge to Western Theory.*

McCracken, Grant. 1991. *Culture and Consumption: New Approaches to the Symbolic Character to Consumer Goods and Activities.*

Schultz, Emily A., and Robert H. Labenda. 1995. *Cultural Anthropology: A Perspective on the Human Condition.*

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 憲 法 I A ・ B | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 人権論

強盗の（金を出せという）命令と税務署の（金を払えという）要求とはどこが違うのだろうか。それは後者の要求が「法律」に基づいているという点で違うわけだが、それでは、人はなぜ「法律」に従わなければならないのか。それは、憲法の規定に基づいて正式に制定された法律だからである。では、憲法にどうしてそんな力があるのだろうか。私たちは現在の憲法の制定に立ち会ったわけではないのに、そんな昔の憲法に現在の我々が拘束されるのはどういうわけだろうか。この問題が、憲法における人権論の要諦である。この点を日本国憲法に即して考えていく。

評価方法：筆記試験

テキスト名：棟居快行『憲法フィールドノート』日本評論社

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|              |                       |         |
|--------------|-----------------------|---------|
| 憲 法 II A ・ B | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位   |
|              |                       | 1 ~ 4 年 |
|              |                       | 後 期     |

### 国家機構論

憲法という「法律」は他の法令と少し違ったところがある。一言でいえば、憲法が立法者を決め、その作る法律に正統性を与えるものだからである。つまり、何が正統な「立法権者」であるかを決めているのが憲法なのである。もちろん、拘束力をもった判決を下す権限をだれがもつのかを決めているのも憲法である。法学的に言えば、そうした諸権限の総体、連鎖が「国家」なのであり、憲法は国家を構成するものなのである。しかし、国家あってこそその憲法であり、国家が憲法を作るのだという議論も根強く残っている。日本国憲法に即しながら、憲法と国家の関係を考える。

評価方法：筆記試験

テキスト名：樋口陽一『憲法と国家』岩波新書

注意事項：小型版でよいから「六法」を用意すること。コンパクト六法（岩波）、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）などがある。少々高くなるが、授業以外の所でも役立つことがあるはずなので、判例のついた、コンサイス判例六法（三省堂）か判例基本六法（岩波）を勧めたい。

|         |         |         |        |         |         |
|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 憲 法 I C | もり<br>森 | した<br>下 | し<br>史 | ろう<br>郎 | 2 単 位   |
|         |         |         |        |         | 1 ~ 4 年 |
|         |         |         |        |         | 前 期     |

本講義は、主として憲法の人権論に焦点をあて、近代憲法の成立過程で確立したものとされる様々な自由権一法の下での平等、信教の自由、表現の自由、財産権を保障する経済的自由等を、また、現代情報化社会の下で多様な問題を抱えているプライバシーの権利を検討する予定。

評 価 方 法：定期試験で評価

テキスト名：『法学、憲法』森下他共著 敬文堂  
『新版憲法判例』池田、阿部編 有斐閣双書

|          |         |         |        |         |         |
|----------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 憲 法 II C | もり<br>森 | した<br>下 | し<br>史 | ろう<br>郎 | 2 単 位   |
|          |         |         |        |         | 1 ~ 4 年 |
|          |         |         |        |         | 後 期     |

本講義は、現代的人権とされる社会権一人間らしく生きる権利の保障としての生存権、能力に応じた、等しく教育を受ける権利、働く意思と能力のある人への勤労権、労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権等を、また、公権力の不当な逮捕、監禁、拷問等をうけない自由としての人身の自由を中心に、憲法改正論争の争点となっている戦争放棄、戦力不保持と自衛隊の問題、国民主権の原理、人権論を支える平等主義の諸原則と矛盾する象徴天皇制の問題をも視野にいれて、進める予定。

評 価 方 法：定期試験で評価

テキスト名：『法学、憲法』森下他共著 敬文堂  
『新版憲法判例』池田、阿部編 有斐閣双書

|         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| 経 営 学 I | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|         |                       | 1 ~ 4 年 |
|         |                       | 前 期     |

### 人はなぜ働くのか

現代は企業社会であると言っていい。企業の目的は特定の財とサービスを社会に提供することによって利潤を獲得することにある。そこに貫徹する論理は経済合理性である。企業で働く従業員は生身の人間である。人間の働く動機は社会性や公正性にある。企業と従業員との間にある緊張関係を、いかに調整できるかが良い経営の条件である。人事労務管理の思想的変遷を学習し、今日の問題を考える分析視点を明らかにする。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：『人事労務管理の思想』津田真徹、有斐閣

注意事項：出席重視

|          |                       |         |
|----------|-----------------------|---------|
| 経 営 学 II | か とう じょう じ<br>加 藤 譲 治 | 2 単 位   |
|          |                       | 1 ~ 4 年 |
|          |                       | 後 期     |

### 「働き方」がかわる

わが国企業社会も、また勤労者の働き方も、今日大きな転換期を迎えている。そのことに焦点を合わせて授業をすすめたい。従来型の組織人モデルと新しい働き方であるプロフェッショナルモデルとを対比させて、その可能性と問題点を明らかにしたい。このことは「日本の経営」の評価と検討につながる問題でもある。これからの時代の「働き方」を学生諸君と一緒に考えてみたい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：教材はそのつど配布ないし指定する。

注意事項：受講条件とはしないが、「経営学Ⅰ」の受講を望む。

|             |                        |         |
|-------------|------------------------|---------|
| 統計学 I A ・ B | しば はら のぶ ゆき<br>芝 原 信 幸 | 2 単 位   |
|             |                        | 1 ~ 4 年 |
|             |                        | 前 期     |

本講義において、まず、現実の統計データの記述に関する基本事項から出発し、データ解析の基本と考えられる回帰分析までを講義したい。

講義に際しては、統計解析の背後にある、統計理論を学び取っていくことを主眼とするが、統計学は実践上の学問であり、統計理論に裏付けられた実践も、統計学に課せられた課題でもある。従って、実践演習を多く取り入れた授業内容となろう。また、必要上、パソコンを用いた授業となるが、パソコン初心者前提とした授業を心がけるつもりである。

評価方法：試験、レポート、平常の学習態度を総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。(定員40名程度)

|              |                        |         |
|--------------|------------------------|---------|
| 統計学 II A ・ B | しば はら のぶ ゆき<br>芝 原 信 幸 | 2 単 位   |
|              |                        | 1 ~ 4 年 |
|              |                        | 後 期     |

前期の統計学Iから、さらに、一歩進み、得られた統計情報から、対象となる事柄の推定、あるいは、検定、予測等の科学的判断のツールとしての統計手法に重点を置いた講座である。

本講座では、確率を根底に置き、統計的に判断をしていく手法を説明していくことにする。授業において、統計学の理論的側面をある程度満喫していくことになろう。また、その理論的側面を理論のみで終わらせないように、コンピュータを用いての実践演習を併用した授業となる。また、語学教育等へ応用として、分散分析も紹介してみたい。

評価方法：試験、レポート、平常の学習態度を総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：※講座の性質上、原則として、統計学IIの履修者は、統計学Iの履修者に限定する。  
※パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。(定員40名程度)

|           |         |         |
|-----------|---------|---------|
| 生 物 学 I A | 寺 田 美奈子 | 2 単 位   |
|           |         | 1 ~ 4 年 |
|           |         | 前 期     |

### 生物と環境とのかかわり

新聞やテレビのニュースの中には、環境問題に関するものが毎日のように報道されている。また、現在の国際問題の理解や解決には多くの環境問題に関する知識が不可欠とされるようになってきた。特に地球環境問題の多くは、人間活動によって環境と生物の関わり合い方のバランスにくるいが生じたことによっておこっている。この授業では、生物と環境とのかかわりについて、基本的、一般的な関係を理解してもらうことを目的としている。授業は、出来るだけ多くのビデオ教材やスライド使いながら講義を中心に進める。

|      |     |             |      |               |
|------|-----|-------------|------|---------------|
| 講義計画 | 1 回 | 生物と環境のかかわり① | 7 回  | 生物と水環境        |
|      | 2 回 | 生物と環境のかかわり② | 8 回  | 様々な水環境と生物の生活  |
|      | 3 回 | 生物と環境のかかわり③ | 9 回  | 生物と大気環境       |
|      | 4 回 | 生物と温度環境     | 10 回 | 生物と土壌環境       |
|      | 5 回 | 様々な温度環境と生物  | 11 回 | 気候と植生         |
|      | 6 回 | 生物と光環境      | 12 回 | いろいろな気候と生物の生活 |

評価方法：定期試験の点90% 平常点10%で評価する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

|            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 生 物 学 II A | 寺 田 美奈子 | 2 単 位   |
|            |         | 1 ~ 4 年 |
|            |         | 後 期     |

### 生態系と環境問題

新聞やテレビのニュースの中には、環境問題に関するものが毎日のように報道されている。また、現在の国際問題の理解や解決には多くの環境問題に関する知識が不可欠とされるようになってきた。地球環境問題の多くは、生物と環境のかかわりについての有効な概念である生態系のしくみと深くかかわっている。この授業では、先ず生態系の概念を確実に理解してもらい、さらに現在おこっているいくつかの環境問題について、生態系のしくみと関連づけながら、出来るだけ最新のビデオ教材やスライド使い講義を中心に進める。

|      |     |                |      |                 |
|------|-----|----------------|------|-----------------|
| 講義計画 | 1 回 | 環境問題と生態系       | 7 回  | 環境汚染と生物濃縮       |
|      | 2 回 | 生態系概念          | 8 回  | 生態系における生物群一分解者  |
|      | 3 回 | エネルギーと物質の流れ    | 9 回  | 海や湖沼の富栄養化       |
|      | 4 回 | 生態系における生物群一生産者 | 10 回 | 熱帯林の破壊と地球環境     |
|      | 5 回 | 植物生産と食糧問題      | 11 回 | 環境にかかわる国際機関・条約① |
|      | 6 回 | 生態系における生物群一消費者 | 12 回 | 環境にかかわる国際機関・条約② |

評価方法：定期試験の点90% 平常点10%で評価する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

注意事項：生物学I Aを履修していることが望ましい。

|           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 生 物 学 I B | てら だ み な こ | 2 単 位     |
|           | 寺 田 美 奈 子  | 1 ~ 4 年 期 |
|           |            | 前 期       |

### 生物と環境のかかわりくキャンパスの自然観察とビデオテープによる>

この授業では、生物と環境とのかかわりについて、主に観察や簡単な実習など実際に目や手の感覚を使って調べることによって理解してもらうことを目的としている。授業は、二つのテーマで進める。

①キャンパス周辺の生物を教材にして、身近な生物と環境の観察および測定を中心に授業を進める。②地球上のいくつかの特徴的な環境に生息する生物の生活について、ビデオテープやスライドを教材にして生物と環境の関わり合いについての理解を深める。

主な内容を以下にあげると

- ・キャンパス周辺の生えている植物の観察
- ・キャンパス周辺の野鳥の声とその観察
- ・植物の構造（葉・花・果実）と簡単な分類
- ・熱帯の環境と生物の生活
- ・乾燥地の環境と生物の生活
- ・寒帯、亜寒帯の環境と生物の生活
- ・日本列島の環境と生物
- ・葛西臨海水族園見学

などを予定している。

評価方法：観察や実習を中心とするので、出席点を重視する。毎回レポート等の提出物を要求する。

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

注意事項：観察や実習を行うための器具や準備の必要上受講者の人数を50名に限定する。人数調整は抽選による。

|            |                                    |         |
|------------|------------------------------------|---------|
| 生 物 学 II B | 寺 田 美奈子<br><small>てら だ みなこ</small> | 2 単 位   |
|            |                                    | 1 ~ 4 年 |
|            |                                    | 後 期     |

**生態系と環境問題<簡単な実習とビデオテープ学習による>**

この授業では、生態系と環境問題とのかかわりについて、主に観察や簡単な実習など実際に目や手の感覚を使って調べることによって理解してもらうことを目的としている。IIでは、環境問題の理解の基礎となる生態系のしくみについての理解を深めてもらった後、出来る限り観察および測定を中心に授業を進める。また、現在おこっている環境問題について生態系のしくみと関連づけながら、ビデオテープやスライドを教材にして授業をすすめてゆく。

主な内容を以下にあげると

- ・キャンパス周辺の植物生産量の測定
- ・キャンパス周辺の水の汚染度の測定
- ・落葉の分解過程の観察
- ・食物連鎖と生物濃縮（ビデオ）
- ・熱帯林の破壊と地球環境（ビデオ）
- ・キャンパスに酸性雨は降っているか
- ・野鳥観察実習

などを予定している。

**評 価 方 法：**観察や実習を中心とするので、出席点を重視する。毎回レポート等の提出物を要求する。

**テキスト名：**必要に応じてプリント資料を配布するので、特に使用しない。

**注 意 事 項：**観察や実習を行うための器具や準備の必要上受講者の人数を70名に限定する。人数調整は抽選による。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |         |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---------|
| 化 | 学 | I | お | ぐ | ら | ひ | さ | こ | 子 | 2 単 位   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 1 ~ 4 年 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 前 期     |

### 生活化学

「化学」と聞いただけでアレルギーをおこす人はいませんか。でも、私たちの生活はあらゆるところで化学の恩恵を受けているのです。化学Ⅰでは化学の苦手な人のために、身近な生活の中からテーマを取り上げて、その中から「化学」を取り出して説明します。

昨年度の結果を踏まえて、今年度は前期は講義（おはなし）、後期は実験を中心に行います。

テーマ例

- ・ものが燃えるということ
  - ・お酒のはなし
  - ・ミネラルと栄養
  - ・石鹸と洗剤
  - ・シルクとナイロン
  - ・ダイオキシン
  - ・原子の構造、周期表（最小限の理論）
- など

評価方法：筆記試験およびレポート

テキスト名：必要に応じてプリントを配るので、テキストは特に使用しない。

|   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |         |
|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---------|
| 化 | 学 | II | お | ぐ | ら | ひ | さ | こ | 子 | 2 単 位   |
|   |   |    |   |   |   |   |   |   |   | 1 ~ 4 年 |
|   |   |    |   |   |   |   |   |   |   | 後 期     |

### 実験 生活化学

化学Ⅱでは身近な化学を実感としてとらえて貰うために、簡単な実験を行いながら、化学的な視点を養うことを目的とします。

テーマ例

- ・ものが溶ける。
  - ・酸性、アルカリ性
  - ・生活排水と水質汚濁
  - ・洗剤の分析
  - ・食品添加物しらべ
- など

評価方法：レポートと筆記試験

テキスト名：必要に応じてプリントを配るので、テキストは特に使用しない。

注意事項：実験が主となるので、8割以上出席して、実験レポートを提出すること。

|          |            |          |       |
|----------|------------|----------|-------|
| 自然科学概論ⅠA | おざわ<br>小 沢 | まこと<br>誠 | 2 単 位 |
|          |            |          | 1～4 年 |
|          |            |          | 前 期   |

### 離散・組合せ幾何入門

離散幾何学とは点や図形の配置の（ある意味での）最適化問題、極値問題に関する幾何学です。離散幾何学の中でも有限個の点や図形の配置などを扱う場合は組合せ幾何と呼ばれます。

自然科学概論Ⅰでは可視性問題を扱います。次のような問題が可視性問題です。

「美術館の内部すべてを監視するために必要な防犯カメラの最小台数はいくつか？」（美術館問題）  
「すべての壁が鏡になっている部屋の勝手に選んだ1点で電灯を灯すと部屋全体に明かりが行き渡る。」（ミラー・ルーム予想）

他の可視性問題として要塞問題／刑務所問題／警備問題／照明問題などがあります。

これらの問題を学び、数学的直観性と論理性を身に付けることを目標とします。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席とレポートを考慮します。

テキスト名：秋山仁／R.L.Graham『離散数学入門』[改訂版] 朝倉書店

|          |            |          |       |
|----------|------------|----------|-------|
| 自然科学概論ⅡA | おざわ<br>小 沢 | まこと<br>誠 | 2 単 位 |
|          |            |          | 1～4 年 |
|          |            |          | 後 期   |

### 離散・組合せ幾何入門

離散幾何学とは点や図形の配置の（ある意味での）最適化問題、極値問題に関する幾何学です。離散幾何学の中でも有限個の点や図形の配置などを扱う場合は組合せ幾何と呼ばれます。

自然科学概論Ⅱでは最短ネットワーク問題と詰め込み問題を扱います。

次のような問題が最短ネットワーク問題です。

「 $n$ 個の都市に、どの2つの都市も往来可能となるように高速道路を設計しようと思う。ただし、道路の長さが1 km違っただけで工事にかかるコストには大きな差が生じるので、高速道路をどのように設計すればよいだろうか？」

詰め込み問題では次のような問題を考えます。

「 $2 \times 1000$ の長方形内に単位円を出来るだけ詰め込みたい。いくつまで詰め込むことが出来るか？」

これらの問題を学び、数学的直観性と論理性を身に付けることを目標とします。

評 価 方 法：筆記試験。出欠席とレポートを考慮します。

テキスト名；秋山仁／R.L.Graham『離散数学入門』[改訂版] 朝倉書店

人類は自然をどのように理解してきたか

人類はおよそ200万年の昔より、宇宙や地球の自然現象と闘いながら、これを理解し、利用するなかで、今日の科学技術文明を築きあげてきた。さまざまな発明発見は、人類の生活と自然観を変革した知的遺産である。科学技術の本質とは何か。とかく、遠ざけられがちな科学技術を人間、社会との相補的発展から、その本質にせまりたい。自然科学にたいする新しい視点となろう。

1. 自然科学について知る意義。自然の形成（地球46億年）
2. 人類と技術の誕生—サルとヒトとの違い、脳の発達、火、道具
3. 合理的自然観のはじまり—ピラミッド、アリストテレスの自然学
4. 科学革命—ローマ、アラビア錬金術、ダ・ヴィンチの解剖図、飛行機、天動説から地動説へ、錬金術から原子分子の発見 生命研究の新展開
5. 日本独自の自然観、科学技術と世界との比較

評価方法：レポート提出、筆記試験の総合評価

テキスト名：『科学史概論』渋谷一夫その他 ムイスリ出版  
随時プリントを配布する。

参考文献：『図説科学技術の歴史』平田寛 朝倉書店  
『科学の歴史』大沼正則 青木書店

注意事項：VTR映像の際メモをとること、配布の資料をよく読むこと。

### 現代における科学技術の発展と人間社会

21世紀を目前にした現在、科学技術はますますそのあり方を問われている。産業革命期以降の急速な科学技術の発展を分析するなかで、人類と自然との真の共存とは何かにたいする展望、突破口を見出したい。

1. 科学技術の現代的課題とはなにか。

- (1) 豊かな現代生活と戦争・平和、環境、生命めぐる現状と問題点
- (2) 最先端の科学技術の到達段階、現代の物質観・自然観、日本と世界
- (3) なぜ科学史を学ぶのか。科学者、企業、政治、大衆、国際競争

2. 産業革命から現代への科学技術の発展をどう見るか。

- (1) 紡績と機械に始まる大量生産、大量消費、火薬、染料、ナイロン、エレクトロニクス、コンピューター、石炭、石油、原子力開発
- (2) X線と放射能、キュリー夫妻、核兵器、毒ガス、ダイオキシン、遺伝子工学、脳死、臓器移植、クローン技術
- (3) 科学技術は現代の人間と社会にいかなる意義があるのか。

評価方法：レポート提出、筆記試験の総合評価

テキスト名：『科学史概論』渋谷一夫その他 ムイスリ出版  
随時プリントを配布する。

参考文献：『図説科学技術の歴史』平田寛 朝倉書店  
『病気の社会史』立川昭二 NHKブックス

注意事項：VTR映像の際メモをとること、配布の資料をよく読むこと。

|                  |         |         |         |         |      |
|------------------|---------|---------|---------|---------|------|
| コンピュータ・リテラシーⅠA・G | しば<br>芝 | はら<br>原 | のぶ<br>信 | ゆき<br>幸 | 2 単位 |
|                  |         |         |         |         | 1～4年 |
|                  |         |         |         |         | 前期   |

情報の「表形式に表現することの有効性」と適用事例を学習し、表計算ソフトウェアの基本的な仕組みと特徴を理解し、その特徴に基づいて、情報加工の技術を、情報機器を使って、実践していける能力を身につけることを目的とする講座である。

授業の内容としては、表計算ソフト（Excel）を使用しての授業となる。また、Excel等の、マクロを組むための基本となる Visual Basic（VB）の基礎知識の程度まで授業内容を展開してみたい。

本講座は表計算ソフトに関する初心者前提としているので、受講に際し、パソコン、表計算ソフトに関する予備知識は一切必要とはしない。

評価方法：数回のレポート、平常の学習態度、および、出席状況から総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限を行うことになろう。（定員40名程度）

|                  |         |         |         |         |      |
|------------------|---------|---------|---------|---------|------|
| コンピュータ・リテラシーⅡA・G | しば<br>芝 | はら<br>原 | のぶ<br>信 | ゆき<br>幸 | 2 単位 |
|                  |         |         |         |         | 1～4年 |
|                  |         |         |         |         | 後期   |

コンピュータ・リテラシーⅠの内容をさらに一歩進めた内容となり、表計算ソフトウェアを完全に活用する能力を培うことを目的とする講座である。

授業内容は、表計算ソフトのマクロ機能を用いた活用事例の学習を中心として、マクロ機能を活用していくために、visual basic（特に、VBA：Visual Basic for Applications）と、そのプログラミングも解説してみたい。

評価方法：数回のレポート、平常の学習態度、および、出席状況から総合的に評価する。

テキスト名：テキストは使用せず、レジュメ、データは必要に応じ、ファイルの形で配布する。従って、フロッピーは各自用意すること。

注意事項：※上記の授業内容から明らかなように、本講は、原則的には、表計算ソフト（Excel）の基本操作の修得者を前提としているため、コンピュータ・リテラシーⅠの履修者を主体とした講座である。

※パソコンの台数の都合上、受講希望者が多数の場合、履修人数制限（初回授業において、抽選等）を行うことになろう。（定員40名程度）

|                       |         |         |         |         |       |
|-----------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅠ B・C・F・L | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単 位 |
|                       |         |         |         |         | 1～4 年 |
|                       |         |         |         |         | 前 期   |

IT社会において、われわれの生活の中に情報機器を介したコミュニケーションが一層急速化している。本講義では、コンピュータの基本的な操作や基礎的な情報活用能力を身につけることを目的とする。講義形式で理論を説明し、それに基づいた演習問題を各自が実際に行い、自ら学ぶ力を養う。対象は、パソコン初心者の学生とする。講義内容予定は、以下の通りである。1. Windowsの構造とファイル操作 2. WordとExcel 3. 情報倫理と電子メール 4. インターネットと情報検索 5. ホームページ作成 6. プレゼンテーション (パワーポイント)

評 価 方 法：出席状況とレポートによる評価。  
実習形式なので、毎回必ず出席すること

テキスト名：教科書とオリジナルテキスト使用  
毒島雄二 「初心者のためのコンピュータリテラシー」 共立出版

|                       |         |         |         |         |       |
|-----------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅡ B・C・F・L | よし<br>吉 | なが<br>永 | こう<br>耕 | すけ<br>介 | 2 単 位 |
|                       |         |         |         |         | 1～4 年 |
|                       |         |         |         |         | 後 期   |

本講義では、コンピュータ・リテラシーⅠで学習した事項の理解をさらに深めると共に、応用ソフトを活用して、問題解析能力を習得することを目的とする。パソコンに関する知識が初級程度である学生を対象としているが、コンピュータ・リテラシーⅠを履修済みであることが望ましい。学習ソフトは、表計算ソフトExcel、統計分析ソフトSPSS、プログラミングソフトVisual Basicである。講義内容予定は、以下の通りである。1. データ分析・グラフ作成 2. 需要予測・回帰分析 3. 分散分析 4. データベース

評 価 方 法：出席状況とレポートによる評価  
実習形式なので、毎回必ず出席すること

テキスト名：オリジナルテキスト使用

|                  |   |    |    |   |       |
|------------------|---|----|----|---|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅠD・E | ひ | おき | さき | お | 2 単 位 |
|                  | 日 | 置  | 咲  | 夫 | 1～4 年 |
|                  |   |    |    |   | 前 期   |

「ワード」で文章を作成する基本的な事項を演習し、「ワード」の基本をマスターすることを学習の目標とします。

演習では、①日本語入力システムの切り替え②はがきの裏面作成③表の作成④イラスト入り文章の作成⑤縦書き、横書きの混在した文書の作成⑥家庭新聞の作成などを行います。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度及び学期末の実技試験により判断して判定します。

テキスト名：授業時にプリントを配布する。

|                  |   |    |    |   |       |
|------------------|---|----|----|---|-------|
| コンピュータ・リテラシーⅡD・E | ひ | おき | さき | お | 2 単 位 |
|                  | 日 | 置  | 咲  | 夫 | 1～4 年 |
|                  |   |    |    |   | 後 期   |

「エクセル」の貼り付け関数の使い方、表のグラフ化を例題演習で学習します。また、簡単な表計算処理をマクロ命令を組んで行う演習も行います。これらの演習により正確に貼り付け関数を使いこなせること、簡単なマクロ命令を組むことが出来ることを学習の目標とします。

評価方法：成績の評価は、平常の学習態度及び学期末の実技試験により判断して判定します。

テキスト名：「エクセル演習」、実教出版

|                            |    |    |    |    |       |
|----------------------------|----|----|----|----|-------|
| <b>コンピュータ・リテラシーⅠ H・I・J</b> | はし | もと | あき | ひろ | 2 単 位 |
|                            | 橋  | 本  | 明  | 浩  | 1～4 年 |
|                            |    |    |    |    | 前 期   |

情報処理は現代生活において必要不可欠のものになりつつある。特にパーソナルコンピュータの浸透とインターネットの普及は、経済活動上の大きな革命になると予想されている。本講義では最新のパーソナルコンピュータでインターネットを利用して以下を学び、到達目標とする。

- 1 コンピュータ操作とファイルシステムの概念の習得。
- 2 電子メールを教材として、メッセージ伝送の仕組みと操作方法だけでなく、ネチケットおよびネットワーク倫理についても研究する。
- 3 ワードプロセッサの仕組みと文書処理の科学
- 4 世界的な文書の規格 XML と実装としての HTML を学び、ホームページの作成を行う。

評 価 方 法：試験を実施する他にレポート及出席などを総合評価する。

テキスト名：WWW で配布する。

橋本・現代情報処理入門・朝倉書店

注 意 事 項：演習室のコンピュータの台数の制限のために人数を制限する。

受講人員は抽選（第1回目）で決定する。

|                            |    |    |    |    |       |
|----------------------------|----|----|----|----|-------|
| <b>コンピュータ・リテラシーⅡ H・I・J</b> | はし | もと | あき | ひろ | 2 単 位 |
|                            | 橋  | 本  | 明  | 浩  | 1～4 年 |
|                            |    |    |    |    | 後 期   |

情報処理は現代生活において必要不可欠のものになりつつある。特にパーソナルコンピュータで必要なネットワークの概念と文書処理ソフトウェア（WORD）を実例として文書処理の作法、技術の習得を目的とする。

1. ネットワークの基礎
2. 多言語処理の概念と実装
3. ワードプロセッサの仕組みと文書処理の科学文書を単純な文字部分（コンテキスト）と構造・書式と分解し、文書の種類ごとの特徴などを議論する。
4. 世界的な文書の規格 XML と実装としての HTML を学び、ホームページの作成を行う。

評 価 方 法：試験を実施する他にレポート及出席などを総合評価する。

テキスト名：WWW で配布する。

橋本・現代情報処理入門・朝倉書店

注 意 事 項：演習室のコンピュータの台数の制限のために人数を制限する。

受講人員は抽選（第1回目）で決定する。

# コンピュータ・リテラシー I K

なか やま みき お  
中 山 幹 夫

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 前 期     |

## 情報技術 (IT) を使いこなす

今ではコンピュータは科学技術系の道具という面より、むしろ情報技術をどう活用するのかがという文化系的な意味合いが強くなってきている。そのため、コンピュータとネットワークを積極的に活用し、情報の内容 (コンテンツ) を使いこなす力が必要である。リテラシー習得には単にマニュアル通りのことができるだけでは十分ではなく、各自が課題と目的意識を持って取り組むことが大切である。

本講義では使う立場でコンピュータとネットワークの機能を理解し、課題解決を通して社会や企業の実態に即した実践的な力の習得を目標とする。講義では、コンピュータを自分自身のコンテンツの表現に使い、情報の収集とその質の判断、コンピュータ独特の文書作成のコツや情報整理術を学ぶ。

1. コンピュータとネットワークの基礎とネットワークエチケット
2. 操作環境のカスタマイズ
3. テキスト文章作成
4. ドライブ/フォルダ/ファイル/拡張子
5. インターネットと検索
6. フリーウェア/シェアウェアと圧縮解凍
7. 電子メール
8. Word
9. Excel

評価方法: 出席状況および各テーマでの課題レポートにより総合的に評価する。

テキスト名: 毒島雄二「初心者のためのコンピュータリテラシー」共立出版、他適時プリント配布  
参考図書としては和田茂夫「メールのルール」オーエス出版  
島望「かんたん図解 Windows Me」技術評論社

注意事項: コンピュータ経験は必要ない。「コンピュータ入門」も受講することが望ましい。  
実習室使用の都合で受講希望者多数の場合は制限あり (初回授業にて抽選)。

**情報技術 (IT) による情報発信力の強化**

表現手段としてのITの活用により、人とコミュニケーションをより速く、より広く、より多彩にすることができる。それにはオリジナリティあるコンテンツと人の心に響く情報発信力が望まれる。

本講義ではコンピュータの理解を深め、特に情報発信力を高めることに主眼を置く。そのため幅広い応用ソフトに触れることで、ソフトの共通性の理解と適応力、ネットワークを利用した課題解決と情報発信、自分自身のコンテンツでのコンピュータ・プレゼンテーションする力を目標とする。

1. ネットワークセキュリティとインターネット関連法案 2. HTMLによるホームページ作成  
3. Power Point作成 4. Accessとデータベース管理 5. Visual Basic 6. ネットワークコンピューティングと情報共有化 7. マルティメディアとコンピュータプレゼンテーション

評 価 方 法：出席状況および各テーマでの課題レポートにより総合的に評価する。

テキスト名：随時プリントを配るので特に指定しない。参考図書は以下。他は授業で適宜紹介  
川名和子『はじめて作るホームページHTML編』技術評論社  
田中亘『できる Power Point 2000』インプレス  
町田奈美『かんたん図解 Access 2000 入門編』技術評論社  
笠原一浩『Visual Basic 6.0 入門 基礎編』ソフトバンクパブリッシング

注 意 事 項：「コンピュータ・リテラシーⅠ」の事前受講が望ましい（またはWord/Excelが使えること）。  
実習室使用の都合で受講希望者多数の場合は制限あり（初回授業にて抽選）。

|               |                         |         |
|---------------|-------------------------|---------|
| 身 体 運 動 文 化 論 | とみ まつ きょう いち<br>富 松 京 一 | 2 単 位   |
|               |                         | 1 ～ 4 年 |
|               |                         | 後 期     |

**身体性と文化**

身体は自然の一部としてヒトと文化を結ぶ座であるという認識から講義は進む。ヒトのもつ身体性(身体的特性)は文化を考える上において重要なことである。現代社会で指摘されている身体性の欠落は私たちの日常にどのような影響を与えているか考えてみる。その材料として身体部位のもつ格言、諺を手掛かりにする。あるいは振る舞い、作法、呼吸、姿勢などの身体所作や歩行、走、跳、投などの運動を手掛かりに文化との関係を考える。

評 価 方 法 : 出席重視。レポート提出多数有り

テキスト名 : ハンドアウトの用意有り。授業内指示

|                 |                       |           |
|-----------------|-----------------------|-----------|
| 健 康 科 学 論 A ・ B | かわ はら や よい<br>河 原 弥 生 | 2 単 位     |
|                 |                       | 1 ～ 4 年   |
|                 |                       | 前 期 ・ 後 期 |

**運動と生活習慣病**

近年、日常生活における身体活動の減少が生活習慣病(成人病)の罹患率を高めていると言われている。この運動不足と深く関わる生活習慣病を防ぐためには、日常生活における運動習慣が重要となる。

そこで本講では、生活習慣病について、また、運動が身体にもたらす効果について理解し、日常生活での運動の生かし方を学ぶことを目的としている。

講義内容

- 1、生活習慣病
- 2、運動が身体機能にもたらす効果
- 3、運動の生活習慣病に対する効果
- 4、運動不足の害

評 価 方 法 : 授業中に行う小テスト、学期末に提出するレポートを総合的に判断して評価する

テキスト名 : 授業中にプリントを配布する

|                             |         |         |         |         |       |
|-----------------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| <b>体育・スポーツ（バスケットボール）A・B</b> | たか<br>高 | はし<br>橋 | ただ<br>禎 | ひろ<br>宏 | 2 単位  |
|                             |         |         |         |         | 1～4年  |
|                             |         |         |         |         | 前期・後期 |

### スポーツ（バスケットボール）を楽しむ

バスケットボールというスポーツを通して、自らが積極的に取り組み、スポーツの楽しさを体感するとともに、友人とのコミュニケーション能力を高め、生涯にわたってスポーツに関われるように余暇享受能力を高める。授業はゲームを主体とし、ゲームの中で基礎技術を高める。

- ①バスケットボールの特性とルールを学び、バスケットボールの楽しさを知る。
- ②生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。
- ③友人とのコミュニケーション能力を高める。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況（3分の2以上）
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装で受講すること。  
又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

|                     |         |         |          |         |      |
|---------------------|---------|---------|----------|---------|------|
| <b>体育・スポーツ（卓球）A</b> | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単位 |
|                     |         |         |          |         | 1～4年 |
|                     |         |         |          |         | 前期   |

### 卓球を楽しむ

ヒトがスポーツを楽しむための最低条件として技術の獲得が上げられる。スポーツの技術とは身のこなしに他ならない。ここでは卓球を通して技術としての身のこなし方を学習し卓球を楽しくプレイすることを学ぶ。また、楽しくプレイするためには人間関係を始め多くの成立条件があることを実践の中で確認する。

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウトしたものを配布。

注意事項：運動できる服装で参加すること。

|              |                  |      |
|--------------|------------------|------|
| 体育・スポーツ（卓球）B | いちのせよしゆき<br>市瀬良行 | 2 単位 |
|              |                  | 1～4年 |
|              |                  | 後 期  |

### 生涯スポーツ、レクリエーションスポーツ、健康スポーツとしての卓球

卓球は幼児から高齢者に至るまで、また男女問わず、誰にでも自分の年齢や体力に合わせて楽しむことのできるスポーツである。その点から「生涯スポーツ・レクリエーションスポーツ・健康スポーツ」として、最も適したスポーツといえる。この授業では、卓球の基本的技術を習得し、さらに戦術、ゲーム運びのノウハウを体験、最終的にダブルスによる試合までこなせるようにする。卓球というスポーツ実践を通して、「スポーツをする楽しさ」「スポーツが身体にもたらす効果」等を学び、健康の維持・増進のためのスポーツを自らの生活に取り入れることのできる能力を身につける。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：必要に応じてプリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数を30名とし、希望者が多い場合は、抽選とする。

|                    |                  |       |
|--------------------|------------------|-------|
| 体育・スポーツ（フットボール）A・B | いちのせよしゆき<br>市瀬良行 | 2 単位  |
|                    |                  | 1～4年  |
|                    |                  | 前期・後期 |

### ミニサッカーの実践とフットボールの発展過程

サッカーとラグビーという2つの近代スポーツの原型は、イングランドで行われていた非常に野蛮で激しい古典的民族スポーツ、フットボール (Football) から生まれた。本講義名はそこからとったものであり、実技と講義の統合形態の授業からフットボール (Football) を検証しようとするものである。

- ① サッカーの競技実践（ミニサッカー等のゲーム）を中心に行い、ゲームの中からサッカーの楽しさと奥深さを学ぶ。
- ② ラグビーのゲーム構成とルールを学び、ラグビーの楽しさを学ぶ。
- ③ フットボールの発展過程と歴史的背景について学び、現代スポーツとの対比を試みる。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：雨天時における講義では、随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数制限があるので注意すること。

|                        |          |        |         |         |       |
|------------------------|----------|--------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ(フライングディスク) A・B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位  |
|                        |          |        |         |         | 1～4年  |
|                        |          |        |         |         | 前期・後期 |

### フライングディスクスポーツ入門

フライングディスクとはfrisbee（これは商品名であり本来はディスクという）を使ったスポーツの総称である。フライングディスクはその発展の過程でいろいろな種目が考案され、今日、国際組織において公認されている種目は10種目にもなる。

- ①様々なディスクの投げ方を学び、楽しみ方を知る。
- ②フライングディスクスポーツの競技実践（約6種目）を行う。
- ③雨天時においてはフライングディスクの発展過程及びディスクスポーツ（10種目）の競技理解のための講義を行う。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：雨天時における講義では、随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数制限があるので注意すること。

|                     |         |        |          |       |
|---------------------|---------|--------|----------|-------|
| 体育・スポーツ(ソフトボール) A・B | よし<br>吉 | だ<br>田 | あつし<br>敦 | 2 単位  |
|                     |         |        |          | 1～4年  |
|                     |         |        |          | 前期・後期 |

ソフトボールの起源は、19世紀のアメリカにあると言われています。1933年に第一回全米ソフトボール選手権が開催され、翌年にソフトボール規則合同委員会によってその標準規則が決められました。それ以後、ソフトボールは、競技性の高いスポーツとして、幅広い層の人達が楽しくプレーできるスポーツとして、発展してきました。この授業では、ソフトボールの技術（投げる、捕球する、打つ）を主体的に学習し「みんながうまくなること」を目指し、受講者の人数の多少に関係なく、その主体的学習を通して、スポーツの文化的本質の認識の獲得を到達目標としています。

評価方法：以下の各要素を総合して評価します。1. 出席状況（3分の2以上）、2. 授業での実践（わかる、できる、コミュニケーション）、3. 授業についての感想文（スポーツの文化的本質の認識・獲得）

テキスト名：ソフトボールの用具（バット、ボール、グローブ）は、大学で準備されています。雨天時には講義を行います。テキストは特にありません。

注意事項：スポーツのできる服装に必ず着替えてください。ジーンズ姿での受講は原則的に認めません。靴もスポーツシューズ及びスニーカー等を用意して下さい。

|                             |                        |       |
|-----------------------------|------------------------|-------|
| <b>体育・スポーツ (バドミントン) A・B</b> | たか はし ただ ひろ<br>高 橋 禎 宏 | 2 単位  |
|                             |                        | 1～4年  |
|                             |                        | 前期・後期 |

**スポーツ (バドミントン) を楽しむ**

バドミントンというスポーツを通して、仲間とともに友好的なコミュニケーションスキルを高め、スポーツに対する好意的な態度を養うことによって、生涯にわたってスポーツや運動に積極的に関わっていきけるような余暇享受能力を高める。そのために、ゲームを主体にして基礎技能を高める。

- ①バドミンントンの特性とルールを学び、バドミンントンの楽しさを知る。
- ②生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。
- ③仲間とともにスポーツを行う楽しさを知る。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

- 1. 出席状況 (3分の2以上)
- 2. 授業への積極的な取り組み
- 3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：バドミントンシューズ (室内シューズ) 及び運動にふさわしい服装で受講すること。  
又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

|                          |                      |       |
|--------------------------|----------------------|-------|
| <b>体育・スポーツ (テニス) A・B</b> | ど い ひろ のぶ<br>土 井 浩 信 | 2 単位  |
|                          |                      | 1～4年  |
|                          |                      | 前期・後期 |

スポーツを自ら積極的に楽しむとともに、スポーツの楽しさに自分がどれだけ寄与できるのかを、硬式テニスを通して実践的に学んでいく。授業は、基本的な技術の習得が必要な初心者優先的に展開する。中・上級者は、初心者への援助を率先し、助言能力を高め、他のために行う楽しさや喜ぶ感性を高めていきたい。しかし基本的な学習は雨天時の室内授業時を中心とし、コート使用可能時には、できるだけ早くダブルスのゲームができるようにする。

評価方法：成績の評価は、出席点を重視し、授業中の学習への取り組み方を見て評価する。なお、運動の服装についても、授業態度の一つとして評価される。運動技能や基礎体力などの良否は評価の対象にはならない。

テキスト名：なし

注意事項：運動にふさわしい服装で受講すること。テニスシューズを着用すること。

|              |         |         |          |         |         |
|--------------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 体育・スポーツ（カヌー） | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単 位   |
|              |         |         |          |         | 1～4 年 期 |
|              |         |         |          |         | 前 期     |

### カヌーを楽しむ

スポーツにおいて共生という概念に最も近づけるのがカヌーではないか。環境問題が叫ばれる今日、自然認識と現状把握は共生への出発点ではないか。カヌーを自由に操作する技術を習得し河川や海を体感する。

評価方法：出席重視、実技テスト、レポート。

テキスト名：プリントアウト：カヌーテキスト

注意事項：平時の授業と夏期間の集中合宿の授業形態です。また、実習にかかる費用は実費です。

|                  |         |         |          |         |         |
|------------------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 体育・スポーツ（登山・キャンプ） | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単 位   |
|                  |         |         |          |         | 1～4 年 期 |
|                  |         |         |          |         | 前 期     |

### 近郊の山々を歩く

歩くことは様々なことを私たちに提供してくれる。安全にひとつの山を踏破するにはその山がいかに低いものであってもそれなりの準備が必要である。装備、用具、歩行・登山技術、気象、医療、交通、費用等様々である。このような基本的な準備を学習した上で実践にはいる。

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：登山・キャンプテキスト

注意事項：平時の授業と夏期間の集中合宿の授業形態です。また、実習にかかる費用は実費です。

|                    |          |        |         |         |         |
|--------------------|----------|--------|---------|---------|---------|
| 体育・スポーツ(スクーバダイビング) | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単 位   |
|                    |          |        |         |         | 1 ~ 4 年 |
|                    |          |        |         |         | 前 期     |

### スクーバダイビング入門<Cカード取得講習>

本講義はスクーバダイビングを初めて体験する学生を対象に、そのスポーツ経験を通じて自分自身の身体とそれがおかれている環境について考えていこうとするものである。

- ①体育・スポーツ的プログラム (Cカード取得講習)  
「潜水技術」「潜水マナー」「潜水知識」「安全潜水の基本」等の実践学習。
- ②自然環境理解のためのプログラム  
スクーバダイビングを通じて自然の大切さ、素晴らしさを体感する。
- ③生活プログラム  
宿泊実習を通じて(分担・協力・コミュニケーション・自己責任)を学ぶ。

評 価 方 法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：実施要項、教材、プリントを配布する。

注 意 事 項：授業内容の充実と安全性を考え受講人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。  
また、夏期休暇を利用して宿泊形態をとるので別途費用が必要となる。  
本講義においてCカード(ダイビングライセンス)を申請することができる。

|                 |          |        |         |         |         |
|-----------------|----------|--------|---------|---------|---------|
| 体育・スポーツ(サイクリング) | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単 位   |
|                 |          |        |         |         | 1 ~ 4 年 |
|                 |          |        |         |         | 前 期     |

### 生涯スポーツとしてのサイクリング

本講義は自然の中でサイクリングというスポーツ活動の体験を通して、自分自身の身体とそれがおかれている環境について、考えていこうとするものである。

- ①体育・スポーツ的プログラム  
「走行技術」「走行マナー」「地図読み」「緊急時の対処」等の実践学習。
- ②自然環境理解のためのプログラム  
「東京湾から太平洋へ」海に囲まれた千葉県の自然環境を理解し、水域を考える。
- ③生活プログラム  
宿泊実習を通じて(分担・協力・コミュニケーション・自己責任)を学ぶ。

評 価 方 法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：実施要項及びプリントを配布する。

注 意 事 項：サイクリング自転車は大学で用意するが、乗車時には運動着・運動靴を着用すること。また、夏期休暇を利用して宿泊形態をとるので別途費用が必要となる。尚、授業内容の充実と安全性を考え受講人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。

|                      |          |        |         |         |       |
|----------------------|----------|--------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ (フィットネス) A・B | いちの<br>市 | せ<br>瀬 | よし<br>良 | ゆき<br>行 | 2 単位  |
|                      |          |        |         |         | 1～4年  |
|                      |          |        |         |         | 前期・後期 |

### 運動と健康

フィットネスでは、大学キャンパス内において可能な種目を取り上げ、それらのスポーツ実践を通して体力の評価、運動処方等を学び、健康の維持・増進のためのスポーツを自らの生活に取り入れることのできる能力を身につける。

#### ①体育・スポーツの実践

「トレーニング」「屋内種目」「屋外種目」等の実践学習。

#### ②体育・スポーツの理論 (からだ気づき)

「体力の評価」「身体運動がもたらす効果」「運動処方」等の理論学習

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：随時プリントを配布する。

注意事項：運動着と運動靴を着用すること。また、施設及び用具等の関係から人数を30名とし、希望者が多い場合は、抽選にて決定する。

|                     |         |         |          |         |      |
|---------------------|---------|---------|----------|---------|------|
| 体育・スポーツ (オリエンテーリング) | とみ<br>富 | まつ<br>松 | きょう<br>京 | いち<br>一 | 2 単位 |
|                     |         |         |          |         | 1～4年 |
|                     |         |         |          |         | 後 期  |

### 秋の野山を楽しく歩く

オリエンテーリングとは地図とコンパスのゲームである。未知なる自然を地図を頼りに地図上に示されたポイントを見つけながら目的地までの早さを競うゲームです。地図を読む技術、方向を決定する技術、冷静な判断力等が要求される現代的なゲームといえます。ここでは、これらの技術の習得と実践を試みます。

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：オリエンテーリング

注意事項：後期平常授業と祝祭日利用の授業です。

|                     |                                  |       |
|---------------------|----------------------------------|-------|
| <b>体育・スポーツ（スキー）</b> | とみ まつ きょう いち<br><b>富 松 京 一 他</b> | 2 単 位 |
|                     |                                  | 1～4 年 |
|                     |                                  | 後 期   |

**ブリティッシュヒルズで楽しむスキー**

冬の代表的スポーツであるスキーを安全に、楽しく学ぶ。参加者全員がそれぞれの技術に応じて山頂から下まで降ることを目指す。(滑降距離：2000 m)

それぞれの技術を教えることができるようにする。(教え合い、学び合い)

評価方法：出席重視、課題に対するレポート。

テキスト名：プリントアウト：スキーテキスト

注意事項：後期平常授業と春期の休みを利用した集中授業です。実習費は実費です。

技術レベル別練習では土井浩信、河原弥生、市瀬良行の諸先生方が小人数制で指導に当たります。

|                     |                               |       |
|---------------------|-------------------------------|-------|
| <b>体育・スポーツ（ゴルフ）</b> | いちの せ よし ゆき<br><b>市 瀬 良 行</b> | 2 単 位 |
|                     |                               | 1～4 年 |
|                     |                               | 前 期   |

**生涯スポーツとしてのゴルフ**

本講義は自然の中で行うゴルフというスポーツ実践を通して、そのスポーツの楽しみ方を学ぶと共に、自分自身の身体について考えていこうとするものである。

- ①体育・スポーツ的プログラム  
「基礎技術」「歴史と発展」「ルールとマナー」「自然との対話」等の実践及び理論学習。
- ②生活プログラム  
宿泊実習を通じて（分担・協力・コミュニケーション・自己責任）を学ぶ。

評価方法：授業への積極的な取り組みを重視し、出席状況、授業態度、レポートを総合し評価する。

テキスト名：実施要項及びプリントを配布する。

注意事項：平常授業時の練習とゴルフコースの実践授業を行う。従って、ゴルフコースのプレーフィーなど別途費用が必要となる。尚、授業内容の充実を考え、人数を15名以内とし、希望者が多い場合は抽選とする。詳細については初回授業時に説明する。

|                       |         |        |          |       |
|-----------------------|---------|--------|----------|-------|
| 体育・スポーツ (ウォーク&ラン) A・B | よし<br>吉 | だ<br>田 | あつし<br>敦 | 2 単位  |
|                       |         |        |          | 1～4年  |
|                       |         |        |          | 前期・後期 |

「走っている時、何を考えていますか?」。私が現役時代によく他の人から質問された言葉であり、一流のランナーにもよくインタビュアーが質問する言葉です。このさいははっきりと答えておきましょう。調子のいい時は「どこでスパートしようかな」であり、悪い時は「苦しい。でもゴールまではがんばれ」と考えていました。一流のランナーもあまりかわらないと思います。しかし、「人はなぜ走るのですか?」、この言葉に対する答えはいまだに見つかっていません。受講者皆さんと一緒に考えたいと思ってます。さて、「歩くこと」と「走ること」は人間の「自然的」行為だと思われがちですが、この二つの行為は「文化的」でもあるのです。この授業では、この二つの行為を実践するだけでなく、講義の中で生理的、歴史的(競技史的)、文化的に考察することを目的としています。

評価方法:以下の各要素を総合して評価します。1. 出席状況(3分の2以上)、2. 授業での実践(わかる、できる)、3. 授業についてのレポート

テキスト名:必要に応じてプリントを配布する。

注意事項:スポーツのできる服装に必ず着替えてください。ジーパン姿での受講は原則的に認めません。ジョギングシューズ及びウォーキングシューズ等、走ることのできるシューズを用意して下さい。

|                          |         |         |         |         |       |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 体育・スポーツ (筋力トレーニング基礎) A・B | たか<br>高 | はし<br>橋 | ただ<br>禎 | ひろ<br>宏 | 2 単位  |
|                          |         |         |         |         | 1～4年  |
|                          |         |         |         |         | 前期・後期 |

### 自分の身体を知る

トレーニングやダイエットの知識は、メディア等のあらゆる情報から得ることができる。しかし、現実には知識の認識不足や誤ったトレーニングにより、効果が得られないケースも見られる。

そこで本講義では、筋力トレーニングの基礎知識を学び、自分にあったトレーニングプログラムを作成し、実践による身体変化や自分の身体の見直しをはかることを目的とする。

評価方法:以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況(3分の2以上)
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名:必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項:室内シューズ及び運動にふさわしい服装で受講すること。

又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、受講人数を20名とし、希望者が多い場合は抽選とする。

|                    |    |    |    |    |       |
|--------------------|----|----|----|----|-------|
| 体育・スポーツ（バレーボール）A・B | たか | はし | ただ | ひろ | 2 単 位 |
|                    | 高  | 橋  | 禎  | 宏  | 1～4 年 |
|                    |    |    |    |    | 前期・後期 |

### スポーツ（バレーボール）を楽しむ

「スポーツを楽しむ」をキーワードに受講者がスポーツを楽しむことを前提に授業を展開する。そして、楽しむという過程の中で、自らが積極的に授業に取り組み、友人とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに関われるように余暇享受能力を高める。

授業はゲームを主体とし、基礎技術を高めると同時にバレーボールの特性とルールを学び、バレーボールの楽しさを知る。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。

1. 出席状況（3分の2以上）
2. 授業への積極的な取り組み
3. レポート

テキスト名：必要に応じ、プリントを配布する。

注意事項：バレーボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装で受講すること。

又、施設や用具及び授業内容を充実させるため、人数制限することもある。

### 3. 研究科目

#### 1) 地域研究科目

|            |                 |       |
|------------|-----------------|-------|
| 地域研究入門 A・B | 杉山晶子<br>伊藤藤友美 他 | 2 単位  |
|            |                 | 1～4 年 |
|            |                 | 前期・後期 |

#### アジア・ラテンアメリカの見方

グローバル化が進む時代において、政治、経済、社会、文化に関わる地球規模の課題を理解しようとする姿勢は重要である。しかし、それらの諸問題が特定の地域とどう関わりを持っているのかという問題を視野に入れなければ、グローバルな課題を具体的に理解したことにはならないであろう。

本講義は、アジア、ラテンアメリカの特定の地域（国家、国家内の地域、国家を超える地域）で生じている政治、経済、社会、文化的な諸現象を、統合的に把握する視点を与えること、グローバルな問題を地域レベルで考える手がかりを与えることを目的とする。

講義は、アジア、ラテンアメリカの各地域、各分野を専門とする教員がオムニバス形式で行う。具体的な講義スケジュール（テーマ、担当教員）は、第1回講義時に説明する。

評価方法：平常の学習態度とレポートなどを総合的に評価

テキスト名：必要に応じプリントを配布

|             |                   |       |
|-------------|-------------------|-------|
| 東南アジア研究入門 I | エーチャン<br>AYE CHAN | 2 単位  |
|             |                   | 1～4 年 |
|             |                   | 前期    |

#### 大陸部東南アジア

東南アジアは「アセアン」の名前で日本にも身近な存在となってきたが、民族、宗教、言語、文化的にじつに多様な地域である。またインド洋と太平洋の中間に位置するため、いつの時代にも外部からの影響にさらされ、各地との交易やさまざまな文化と宗教の出会いの場となってきた。こうしたことから文化的、宗教的、言語的に統一された存在とはならなかったものの、コメが主食であり、農業が現在も経済の主力となっているなど、社会構造には共通する面が多く、過去の歴史と現在の政治にも似通った点が多い。講義では、タイ、ミャンマー（ビルマ）、ベトナム、カンボジア、ラオスから成る大陸部東南アジアについて、地域の形成を歴史的に概説する。使用言語は日本語と英語。

テキスト名：石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史 I・大陸部』（山川出版社）

注意事項：東南アジア研究入門Ⅱとあわせて受講することがのぞましい。

|            |                   |      |
|------------|-------------------|------|
| 東南アジア研究入門Ⅱ | エーチャン<br>AYE CHAN | 2 単位 |
|            |                   | 1～4年 |
|            |                   | 後 期  |

島嶼部東南アジア

東南アジア研究入門Ⅰと同じテーマを、島嶼部のインドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイについて概説する。使用言語は日本語と英語。

テキスト名：池端雪浦編『東南アジア史Ⅱ・島嶼部』（山川出版社）

注 意 事 項：東南アジア研究Ⅰとあわせて受講することがのぞましい。

|         |                   |      |
|---------|-------------------|------|
| 東南アジア史Ⅰ | エーチャン<br>AYE CHAN | 2 単位 |
|         |                   | 1～4年 |
|         |                   | 前 期  |

東南アジアの近代：政治・社会経済史

近代ヨーロッパによる植民地支配は東南アジアに重大な経済的、社会的変化をもたらし、この地域はこれまで以上に外の世界の影響を受けるようになった。西欧の資本と技術、近代的な行政組織と司法制度、それに西欧的個人主義の導入などによって、中世世界は一掃され、伝統的権威や価値体系、家族と村落の結束力はゆらいだ。講義では、植民地時代の東南アジアにおける植民地支配者と植民地住民との間のアイデンティティの形成・発展、独立闘争、国家建設の諸問題について政治・社会経済的に比較検討する。使用言語は日本語と英語。

評 価 方 法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせる

テキスト名：D.R.SarDesai "Southeast Asia:Past and Present",

Colorado,West View Press,1997

D.J.Steinberg(ed) "In Search of Southeast Asia"

University of Hawaii Press,1987

注 意 事 項：東南アジア研究入門Ⅰ・Ⅱを受講したあとに、この講義に進むのがのぞましい。

|         |                   |      |
|---------|-------------------|------|
| 東南アジア史Ⅱ | エーチャン<br>AYE CHAN | 2 単位 |
|         |                   | 1～4年 |
|         |                   | 後 期  |

### 20 世紀の東南アジア：社会思想史

西欧の支配はこれに反発する革命運動を東南アジア各地によびおこし、これらの運動は第二次大戦後の国家独立へと発展していった。運動の先駆者として20世紀はじめに登場した知識階級は、西欧と自国双方の学問に関心を持ち、民族主義的な情熱にかられた知的運動を展開した。運動自体は文学的なものだったが、これらの知識人は社会変革の方向づけをするうえで重要な役割を果たしたというのが通説となっている。彼らは海外からの知識を求めただけでなく、自国の伝統の再生もめざした。そしてナショナリズム、自由主義、社会主義といった西欧の思想を広めた。のちの世代にこの地域の将来の新国家形成の青写真を用意した、東南アジア啓蒙運動の主要な流れを紹介するとともに、それらの理想が独立後、どのように変容していったかを見る。使用言語は日本語と英語。

評価方法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせる

テキスト名：プリント配布、必要に応じて書籍などを指示する

注意事項：東南アジア研究入門Ⅰ・Ⅱと東南アジア史Ⅰを受講したあとに、この講義に進むのがのぞましい。

|               |                        |      |
|---------------|------------------------|------|
| 東南アジアの宗教と文化ⅠA | みな かわ こう いち<br>皆 川 厚 一 | 2 単位 |
|               |                        | 1～4年 |
|               |                        | 前 期  |

### 文化における宗教と音楽・芸能の関係について

東南アジア諸民族の宗教の信仰形態とその音楽・芸能との関わりを考察する。例として、インドネシアの宗教（イスラム、キリスト、ヒンドゥ、仏教）と慣習（祖先崇拝、自然崇拝、精霊信仰）の相互共存関係を伝統音楽や芸能の社会的機能を座標軸として読み解いていく。現地収録のビデオ、CDなどを教材として使用し、更に本学所蔵のガムラン楽器を適宜使いながら、楽器や音楽形式の持つ宗教的意味、機能についても説明する。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：テキストは特に用いない。

参考書名：皆川厚一「ガムラン武者修行～音の宝島バリ暮らし」（パルコ出版）  
吉田禎吾監修「神々の島バリ～バリ＝ヒンドゥの礼儀と芸能」（春秋社）

|                       |                        |         |
|-----------------------|------------------------|---------|
| <b>東南アジアの宗教と文化Ⅱ A</b> | みな かわ こう いち<br>皆 川 厚 一 | 2 単 位   |
|                       |                        | 1 ~ 4 年 |
|                       |                        | 後 期     |

**文化における宗教と音楽・芸能の関係について**

東南アジア諸民族の宗教の信仰形態とその音楽・芸能との関わりを考察する。例として、インドネシアの宗教（イスラム、キリスト、ヒンドゥ、仏教）と慣習（祖先崇拝、自然崇拝、精霊信仰）の相互共存関係を伝統音楽や芸能の社会的機能を座標軸として読み解いていく。現地収録のビデオ、CDなどを教材として使用し、更に本学所蔵のガムラン楽器を適宜使いながら、楽器や音楽形式の持つ宗教的意味、機能についても説明する。

**評価方法：**筆記試験。出欠席を考慮する。

**テキスト名：**テキストは特に用いない。

**参考書名：**皆川厚一「ガムラン武者修行～音の宝島バリ暮らし」（パルコ出版）  
吉田禎吾監修「神々の島バリ～バリ＝ヒンドゥの礼儀と芸能」（春秋社）

|                       |                            |         |
|-----------------------|----------------------------|---------|
| <b>東南アジアの宗教と文化Ⅰ B</b> | エ ー チ ャ ン<br>A Y E C H A N | 2 単 位   |
|                       |                            | 1 ~ 4 年 |
|                       |                            | 前 期     |

**仏教と社会**

仏教は大陸部東南アジアに伝来以来、土着の伝統のみならず外来の諸文化とも相互に影響し合っ、人々の生活、社会、政治の形成に大きな役割を果たしてきた。今日、タイ、ミャンマー（ビルマ）、ラオス、カンボジアで9割近い人々が信じている上座部仏教は、宗教のかたちをとっているが内実は世俗的なヒューマニズムと等しいものだとする欧米の学者もいる。講義では、東南アジアにおける仏教の歴史的展開を、仏教が重要な役割を果たした政治闘争や社会変動に焦点を当てながら、学際的に考察していく。使用言語は日本語と英語。

**評価方法：**平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせて総合的に判断。

**テキスト名：**教科書は未定

**注意事項：**「東南アジアの宗教と文化Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。

## 東南アジアの宗教と文化ⅡB

エーチャン  
AYE CHAN

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 後 期     |

### イスラム教と社会

東南アジア島嶼部のイスラム化は概ね、ジハード（聖戦）ではなく平和的な手段によって敏速に行なわれた。インドネシア人とマレーシア人にとって、イスラム教は現代において最も強力な求心力となっていることは疑いない。東南アジアのイスラム教徒は中東の諸宗派の影響を強く受けながらも、ネオ近代主義と呼ばれる新しいイスラム宗派を発展させてきた。このように多くの社会慣習に関してイスラム教正統派とは異なる教義を展開してきたことが、東南アジアにおける現代イスラム国家の形成に重要な影響をおよぼした。講義では、今日のインドネシアとマレーシアに見られる人種、民族、ジェンダーをめぐる複雑な対応がどのようにして生まれてきたのかを探る。使用言語は日本語と英語。

評 価 方 法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせて総合的に評価する。

テキスト名：教科書未定

注 意 事 項：「東南アジアの宗教と文化Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。

## 東南アジア社会論Ⅰ

いわ い み さ き  
岩 井 美 佐 紀

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 前 期     |

### 東南アジア社会の全体像を求めて

東南アジアは、経済的にも日本と密接な関係を持ってきましたが、最近では舞踊、エスニック料理、雑貨、リゾートなど、文化・観光などの面でも脚光を浴びる機会が増えてきました。

この講義では、東南アジア社会の基本的な構造的特質について。まずは、生態的・歴史的条件から始め、多民族構成ゆえのエスニシティ、居住形態に見られる家族・親族システム、植民地支配を受けたことによる文化変容などに触れたいと思います。

講義の目標は、東南アジア社会を国境で区切らず、総体として把握し、理解を深めることです。どこの国・地域を対象にするにしてもそうですが、相手国・地域のバックグラウンドを理解することによって、自身を相対化することができ、相互理解の第一歩につながるのです。

評 価 方 法：平常の学習態度および期末の試験によって評価する。

テキスト名：桃木至朗 『歴史世界としての東南アジア』（世界史リブレット12）、山川出版社、1996年。

注 意 事 項：東南アジア社会論ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。

|           |        |        |                    |       |
|-----------|--------|--------|--------------------|-------|
| 東南アジア社会論Ⅱ | い<br>岩 | い<br>井 | み<br>さ<br>き<br>美佐紀 | 2 単 位 |
|           |        |        |                    | 1～4年  |
|           |        |        |                    | 後 期   |

### タイトな社会とルースな社会

一般的に、東南アジアの農村社会は、1平方キロメートル当たり数十人ほどの疎人口世界である。その一方で、1平方キロメートル当たり1000人近くの人口稠密な社会を形成している農村地域も存在する。

講義では、疎人口で移動性の高い「ルース」な農村社会と、人口稠密で凝集性の高い「タイト」な農村社会の社会構造の違いを、幾つかの指標に基づいて考察する。ケーススタディとして、大陸部ではベトナムの南部メコンデルタ農村と北部紅河デルタ農村を取り上げ、島嶼部ではマレー農村とジャワ農村を取り上げる。特にベトナムについては、教員がフィールドワーク調査によって得られた情報や知識を用い、ビデオやスライドなどを交えながら解説する。

さらに、このような2つの相対的な社会構造をもつ東南アジア農村社会について考察した幾つかの先行研究に触れ、これまでどのような議論がなされ、問題が提起されてきたのか、それによってどのような論争が展開されたのかについても検討する。

評価方法：平常の学習態度（出席・ビデオ鑑賞後のペーパー提出）および期末の試験によって評価する。

注意事項：東南アジア社会論ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。

|             |             |        |          |       |
|-------------|-------------|--------|----------|-------|
| 東南アジア政治経済論Ⅰ | な<br>が<br>永 | い<br>井 | ひろし<br>浩 | 2 単 位 |
|             |             |        |          | 1～4年  |
|             |             |        |          | 前 期   |

### 経済発展から通貨危機へ

1990年代前半まで世界から「奇跡」と注目されていた東南アジア諸国のめざましい経済成長は、97年の通貨危機で急ブレーキがかかった。これをきっかけに、インドネシアでは32年におよんだスハルト政権が崩壊した。その後、各国の経済は急速に回復してきているものの、通貨危機はそれまでの経済成長を支えてきた政治・経済体制に見直しをせまる転機となった。第二次大戦後の独立から冷戦体制下の国家建設、政治と経済発展の歩みと問題点を検証しながら、21世紀のこの地域を展望してみると同時に、それと不可分な日本とこの地域との関係も考え直してみる。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特になし。参考書は授業中に適宜紹介する。

注意事項：「東南アジア政治経済論Ⅰ」の次に「Ⅱ」を受講するのがのぞましい。

新聞、雑誌、テレビのニュースにせし、現実のうごきをフォローすることをこころがけてほしい。

|             |         |        |          |       |
|-------------|---------|--------|----------|-------|
| 東南アジア政治経済論Ⅱ | なが<br>永 | い<br>井 | ひろし<br>浩 | 2 単 位 |
|             |         |        |          | 1～4 年 |
|             |         |        |          | 後 期   |

**新しい発展モデルをもとめて**

通貨・経済危機を機に東南アジアは政治的にも大きな転機に立たされている。それは、これまでの経済開発至上主義のなかで二の次とされきた人権・民主化の尊重や環境保護への取り組みなしには、真の発展はありえないという認識がたかまってきたことを意味しており、国家と社会の関係を問い直すとする動きが各国で強まってきている。経済成長のなかで起きた社会変動をふまえながら、各国で展開されている新しい社会のあり方をめぐるさまざまな模索を概観し、あわせて日本と東南アジアとの今後のあるべき関係を考えてみる。

評 価 方 法：期末のレポートを中心にその他の要素も加味する。

テキスト名：テキストは特になし。参考書は授業中に適宜紹介する。

注 意 事 項：「東南アジア政治経済論Ⅰ」を受講してから「Ⅱ」に進むのがのぞましい。

|              |         |         |               |       |
|--------------|---------|---------|---------------|-------|
| ラテンアメリカ研究入門Ⅰ | やぎ<br>柳 | ぬま<br>沼 | こういちろう<br>孝一郎 | 2 単 位 |
|              |         |         |               | 2～4 年 |
|              |         |         |               | 前 期   |

**ラテンアメリカ地域総合研究**

ラテンアメリカとはアングロアメリカに対する文化的概念からの呼称で、33の独立国および11の非独立領土からなる地域をいう。先住民インディヘナとヨーロッパ系白人などの混血社会であり、多民族社会でもある。以下の内容にそって、多面的にアプローチをかけ、ビデオに解説を加えながら授業を進める。

- 1) ラテンアメリカ地域の多様性と共通性。
- 2) ラテンアメリカの社会—インドアメリカ（先住民社会）、メスティソアメリカ（混血社会）、アフロアメリカ、ユーロアメリカ、多民族社会、都市化と都市問題、インディヘニスモ運動。
- 3) ラテンアメリカの亜地域—メキシコ、カリブ海地域、中米地域、アンデス地域、ラプラタ地域。
- 4) ラテンアメリカの政治—カウディリョ主義、ポプリスモ、軍政。
- 5) ラテンアメリカの経済—一次産品輸出経済と近代化、中心国・周辺国の経済構造（従属論）、経済統合。

評 価 方 法：課題レポート提出(50%)、サブノート提出(20%)、出席状況など平常点(30%)を総合して成績評価する。

テキスト名：随時、プリントを配付する。参考図書文献は随時、紹介する。

|              |    |    |        |      |
|--------------|----|----|--------|------|
| ラテンアメリカ研究入門Ⅱ | やぎ | ぬま | こういちろう | 2 単位 |
|              | 柳  | 沼  | 孝一郎    | 2～4年 |
|              |    |    |        | 後 期  |

### 日本とラテンアメリカ諸国の関係

メキシコ、ペルー、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビアそしてブラジルには戦前、戦後を通じて多くの日本人が移住したが、日本政府のいかなる海外移住政策の下に、中南米諸国のいかなる政治・経済状況の下に中南米移住が実施され、中南米諸国の経済発展に日本人移住者がどのように関わり、いかにして日系社会が形成されたのかなど、日本と中南米諸国の総合的關係について学ぶ。授業はビデオを多用し、解説を加えながら以下の内容にそって進める。

- 1) 16・17世紀の日本・メキシコ・スペインの關係（南蛮時代）
- 2) 近代日本とメキシコ—メキシコ金星観測隊の来日、「日墨修好通商条約」の史的意義、榎本メキシコ植民団。
- 3) 中南米移住と日系社会の形成—ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン、ブラジル。
- 4) 日本とラテンアメリカの關係—政治外交關係、經濟關係、政府開發援助（ODA）、文化交流。

評価方法：課題レポート提出（50%）、サブノート提出（20%）、出席状況など平常点（30%）を総合して成績評価する。

テキスト名：随時、プリントを配付する。参考図書文献は随時、紹介する。

注意事項：「ラテンアメリカ研究入門Ⅰ」を履修済みが望ましい。

|             |    |    |        |      |
|-------------|----|----|--------|------|
| ラテンアメリカ史概論Ⅰ | やぎ | ぬま | こういちろう | 2 単位 |
|             | 柳  | 沼  | 孝一郎    | 1～4年 |
|             |    |    |        | 前 期  |

### ラテンアメリカの古代文明

ラテンアメリカの歴史は先コロンブス時代、スペイン植民地時代、独立国家時代に時代区分されるが、Ⅰは以下の内容で、とくにコロンブスが新大陸に到達する以前のアメリカ大陸古代文明を中心に、ビデオ鑑賞に解説を加えながら授業を進める。ラテンアメリカ地域の古代文明に関して総合的に理解を深めることを目標とする。

- 1) ラテンアメリカ地域の諸相—地勢と自然環境、共通性と多様性。
- 2) ラテンアメリカの歴史発展—先スペイン時代、植民地時代、独立国家時代、現代ラテンアメリカ。
- 3) アメリカ古代文明—①メソアメリカ文明（オルメカ文化、テオティワカン文化、トルテカ王国、アステカ王国、マヤ文明）。
- ②アンデス文明（プレ・インカ、インカ帝国）。

評価方法：課題レポート提出（50%）、サブノート提出（20%）、出席状況など平常点（30%）を総合して成績評価する。

テキスト名：増田義郎『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』（中公新書、1998）をテキストとして使用するが、随時、プリントを配付する。参考図書文献については随時紹介する。

# ラテンアメリカ史概論Ⅱ

やぎ ぬま こういちろう  
柳 沼 孝一郎

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 後 期     |

## ラテンアメリカの植民地時代と独立から現代

アメリカ大陸に構築された古代文明社会は、大航海時代の結果として生じた新旧両世界の衝突によって崩壊した。Ⅱでは「スペイン植民地時代」および「独立国家時代」の歴史を以下の内容でビデオ鑑賞しながら学ぶが、スペイン領アメリカの形成過程（植民地時代）および独立後から近現代のラテンアメリカ諸国の歴史変遷に理解を深めることを目標とする。

- 1) 征服の時代—大航海時代と新旧世界の衝突、征服過程。
- 2) 植民地時代—植民地統治機構、植民地経済と植民地社会。
- 3) 独立国家時代—スペイン絶対王政からの解放、独立運動の背景と過程（イダルゴ、ボリーバル、サン・マルティン）。
- 4) 独立後の時代—カウディーリョ、輸出経済、近代化と従属化。
- 5) 20世紀のラテンアメリカ—社会変革運動（メキシコ革命）、国民国家とナショナリズム、軍事政権、米国とラテンアメリカ。

評価方法：課題レポート提出（50%）、サブノート提出（20%）、出席状況など平常点（30%）を総合して成績評価する。

テキスト名：増田義郎『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』（中公新書、1998）をテキストとして使用するが、随時、プリントを配付する。参考図書文献については随時、紹介する。

注意事項：「ラテンアメリカ史概論Ⅰ」を履修済みが望ましい。

# ラテンアメリカ現代史 I

こばやし しんいちろう  
小林 晋一郎

2 単位

2～4年

前期

ラテンアメリカの現状を理解し、将来への展望を持てるよう現代史を勉強する。

- 1) ラテンアメリカの基礎知識と歴史区分、植民時代の歴史
- 2) ラテンアメリカ諸国の独立
- 3) 多難な国家形成の時代
- 4) 輸出入経済の時代
- 5) キューバの独立
- 6) パナマの独立と運河
- 7) メキシコ革命とPRI体制
- 8) 輸入代替工業化の時代
- 9) 米国とラテンアメリカの国際関係
- 10) 国家主導の経済開発と軍事政権の誕生
- 11) ラテンアメリカの軍事政権
- 12) 対外債務問題
- 13) 民政移行と民主主義の定着
- 14) ラテンアメリカと日本

評価方法：期末試験、出席状況

テキスト名：随時、プリントを配布する。

注意事項：「ラテンアメリカ現代史I・II」は段階履修である。

|             |                |           |
|-------------|----------------|-----------|
| ラテンアメリカ現代史Ⅱ | こばやし<br>小林 晋一郎 | 2 単 位     |
|             |                | 2 ~ 4 年 期 |
|             |                | 後         |

「ラテンアメリカ現代史Ⅰ」の続きを勉強する。

評 価 方 法：期末試験、出席状況

テキスト名：随時、プリントを配布する。

注 意 事 項：「ラテンアメリカ現代史Ⅰ・Ⅱ」は段階履修である。

# ラテンアメリカ経済論Ⅰ

こばやし しんいちろう  
小林 晋一郎

|   |       |
|---|-------|
| 2 | 単 位   |
| 3 | ～ 4 年 |
| 前 | 期     |

世界経済と金融・資本市場のグローバル化の中でダイナミックに変貌しているラテンアメリカ経済を勉強する。ラテンアメリカ経済の経験が東アジアに適用できないか考えながらグローバルな思考を養いたい。

- 1) 地域の基礎知識
- 2) ラテンアメリカの資源
- 3) ラテンアメリカの経済発展過程
- 4) 1970年代の国際資本移動の変貌とラテンアメリカ
- 5) 累積債務問題の発生
- 6) 対外債務問題の解決のプロセス
- 7) 新債務戦略による対外債務問題の解決
- 8) 90年代のラテンアメリカの改革
- 9) ラテンアメリカの雇用、貧困、教育
- 10) ラテンアメリカにおける国家と市場
- 11) メキシコ通貨危機
- 12) アルゼンチンとブラジルの経済安定化策
- 13) ブラジル通貨危機
- 14) 民営化と地域経済統合
- 15) ラテンアメリカ経済と日本

評価方法：期末試験、出席状況

テキスト名：随時、プリントを配布する。

注意事項：「ラテンアメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ」は段階履修である。

|             |                |       |
|-------------|----------------|-------|
| ラテンアメリカ経済論Ⅱ | こばやし<br>小林 晋一郎 | 2 単位  |
|             |                | 3～4 年 |
|             |                | 後 期   |

「ラテンアメリカ経済論Ⅰ」の継続。

評価方法：期末試験、出席状況

テキスト名：随時、プリントを配布する。

注意事項：「ラテンアメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ」は段階履修である。

|           |                 |       |
|-----------|-----------------|-------|
| 中南米政治経済論Ⅰ | こやすあきこ<br>子安 昭子 | 2 単位  |
|           |                 | 1～4 年 |
|           |                 | 前 期   |

#### ラテンアメリカの政治経済問題を考察する

ラテンアメリカは今日、経済的には市場主義（もしくはネオリベリズム）が定着し、貿易・経済の自由化、地域統合の推進など積極的かつはなやかな「外への国際化」を進めている。しかしながらその一方で、国内的には社会格差や貧困、失業といった諸問題を抱え、そのためによりやく達成した政治的民主化をも揺るがしかねない状況にある。本授業では、政治経済学的観点から19世紀後半以降今日までのラテンアメリカの開発過程および構造を論じる。講義の主な内容はオリガルキー、ポピュリズム、輸入代替工業化、軍事政権、債務危機、民主化、経済自由化、地域統合、社会民主主義、貧困と格差などである。

評価方法：出席（豆テストとリアクションペーパー）と学期末試験による総合的評価。

テキスト名：後日参考文献リストを配布する。

## 中南米政治経済論Ⅱ

こ やす あき こ  
子 安 昭 子

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 後 期     |

### 現代ラテンアメリカの国際関係を理解する

戦後ラテンアメリカの国際関係の流れと特徴を把握する。ラテンアメリカは地理的歴史的理由から米国との関係(inter-american relation)が最も重要であるが、とりわけ戦後以降外交関係の多角化を模索し、日本を含むアジア諸国、欧州、アフリカなどとの関係(global relation)が発展している。また忘れてならないのはラテンアメリカ域内諸国(intra-regional relation)の関係である。本授業では幅広くラテンアメリカの国際関係を論じる。主な内容としては、キューバ革命、キューバ危機、米国の人権外交、中米紛争、債務危機に加えて、日本との関係として出稼ぎ問題やODA問題なども含める予定である。

評価方法：出席（豆テストとリアクションペーパー）と学期末試験による総合的評価。

テキスト名：後日参考文献リストを配布する。

## インドネシア研究入門

みな かわ こう いち  
皆 川 厚 一

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 前 期     |

インドネシアの歴史、政治経済、文化芸術等についての一般的な知識を深め、他民族国家の言語生活の特色とその背景を知る。またインドネシアの大衆音楽（ポップスやダンス音楽）を教材として用い、その歌詞の中に見られる言語表現を、インドネシア人の心情的側面から理解する。

評価方法：筆記試験。出欠席を考慮する。

テキスト名：未定

|          |                                     |         |
|----------|-------------------------------------|---------|
| ベトナム研究入門 | いわ<br>岩井<br>い<br>み<br>さ<br>き<br>美佐紀 | 2 単 位   |
|          |                                     | 1 ~ 4 年 |
|          |                                     | 後 期     |

### ベトナムってどんな国？

本講義は、東南アジアの1国ベトナムの歴史、政治、経済、社会、文化について概観し、ベトナムについての基本的な知識を得るための入門である。

まずは、ドイモイと呼ばれる経済開放政策導入以降にみられる今日のベトナム社会の変化について概観し、その後、これまでベトナムが辿ってきた歴史の変遷を遡っていく。ホーチミン、ベトナム戦争、フランス植民地、ベトナム社会主義などなど、幾つかのトピックを盛り込みながら、ベトナムを総合的に理解することを目標とする。全員以下のテキストを購入すること。

評価方法：期末レポート。

テキスト名：桜井由躬雄編 『もっと知りたいベトナム』第2版 弘文堂、1995年。

|        |  |         |
|--------|--|---------|
| タイ研究入門 | い<br>伊<br>とう<br>藤<br>とも<br>友<br>み<br>美 | 2 単 位   |
|        |  | 1 ~ 4 年 |
|        |  | 後 期     |

タイ王国は東南アジアにおいて植民地とならなかった唯一の国であり、その独特な歴史的背景のもとに近代国家建設を進めてきました。この講義では、タイの歴史、社会、政治、経済、文化に関する基本的な知識を獲得することを目標とします。また、今後、それぞれの関心にしたがってタイ研究を進めていく上での基礎力をつけるため、文献の検索、情報収集、文献の読み方などについて指導します。

評価方法：平常の学習状況、レポートなどを総合評価

テキスト名：必要に応じてプリント資料を配布

# ブラジル研究入門

たか  
高  
ぎ  
木

こう  
耕

|           |
|-----------|
| 2 単 位     |
| 1 ~ 4 年 期 |
| 前 期       |

西暦2000年は、ブラジルが「発見」されて500年という節目の年であり、ブラジル国内にとどまらず、世界中で様々な記念式典が催された。ただし、この「発見」という言葉は、あくまでもヨーロッパ人から見た視点であって、先住民にとっては500年間の抵抗の歴史であったとも言える。また、ブラジルは、過去に奴隷制を経験しているほか、日本人を含むアジア系移民を受け入れてきた歴史もある。本講義では、このような多民族多文化社会が形成された歴史や、今日のブラジルの社会・経済・政治情勢に関する基礎知識を学ぶ一方で、ブラジルに関する資料の収集方法を学習していく。

評価方法：レポートのほか、期末試験を実施する。出席は重視される。

テキスト名：基本的にプリントを使用するが、参考書籍を最初の授業時に紹介するので、今後ブラジル研究を志す学生諸君は図書館にてひととおり手にとって内容を確認すること。

## 2) 国際研究科目

|           |        |        |        |        |   |         |
|-----------|--------|--------|--------|--------|---|---------|
| 地域・国際研究講座 | と<br>戸 | か<br>ど | か<br>ず | え<br>い | 他 | 2 単 位   |
|           |        |        |        |        |   | 1 ~ 4 年 |
|           |        |        |        |        |   | 前 期     |

地域・国際研究の入門講座：21世紀世界を直視するために

地球レベルの問題群という縦糸、各地域・国に固有の問題群という横糸、この二つの糸が織り成す国際社会のモザイク模様……。[外国語学部]が英語ではFaculty of Foreign LanguagesではなくInternational Studiesになっているように、外国語を学ぶことは、この二つの糸から出来上がっている国際社会を理解することと表裏一体なのです。

さまざまな国際問題・地域問題について、毎回、異なる講師が異なるテーマを「わかりやすく解説します」。受講生は「日替わり（週替わり）定食」のように、異なるテーマを消化していかなければなりません。教師も1回限りの講義で勝負しなければならないので、双方がかなり緊張します（このようなスタイルをオムニバス形式の授業と呼びます）。いい意味での緊張感が、この講座の「隠し味」です。

本年度は、政治学・経済学・社会学・歴史学などの社会科学領域の学問体系を中心とする学際的な総合科学による切り口を縦糸、主要地域の実証的分析を横糸とする講座を展開します。民族紛争、国際平和、地球環境問題、資源食糧問題、IT革命、地域統合、南北問題、農村と都市、家族と社会などをキーワードとして、21世紀社会の潮流を読みぬくために学問的にはどのようなアプローチが可能なのか、世界の各地域では実際にどのような問題に直面しているのか、どのような取り組みが行われているのかについて考えていきます。

具体的な「メニュー（講義スケジュール）」は第1回講義時に説明します。

評価方法：毎回授業終了時に、出席表を兼ねたミニレポート（当日の講義の感想など：B5サイズ1枚程度）を提出します。期末に筆記試験を行います（詳細は授業で説明しますが、試験の課題は授業で扱った内容から自由に選択することが可能です）。出席・ミニレポート・筆記試験を総合して評価します。

テキスト名：基本的に毎回レジメを配布し、それぞれのテーマに関する基本文献を提示します。

|         |         |        |         |        |      |
|---------|---------|--------|---------|--------|------|
| 国際関係史 I | さか<br>阪 | た<br>田 | やす<br>恭 | よ<br>代 | 2 単位 |
|         |         |        |         |        | 1～4年 |
|         |         |        |         |        | 前期   |

## 20世紀の国際政治史— 帝国主義と二つの世界大戦

本科目は国際関係を学ぶ学生のための現代史の講義である。21世紀に入った現在も、戦争と平和、核兵器、民主主義と人権、開発と貧困、環境問題、民族・宗教・地域紛争、ナショナリズム、IT革命とグローバル化への対応など、世界は様々な課題に直面している。世界とともに日本はどのように取り組んでいけばよいのか、それも大きな課題である。これらの問題には各々の歴史があり、現在は過去のうえに成り立っている。イギリスの外交官、そして著名な歴史家であり、国際政治学者でもあるE.H.カーは「歴史とは現在と過去の対話である」(『歴史とは何か』岩波新書)と述べたが、過去に対する認識なしに、現在そして未来について考えることはできない。本講義は、過去、とくに20世紀の国際関係に対する認識の一つの試みであり、その歴史の流れをつかみ、現在どのような状況にわれわれがおかれているのかについて考えるための一助となることを願う。

「国際関係史」では、現代国際政治の体系を成している西欧国際システムを軸に、戦争と平和をめぐる20世紀の歴史をみる。「国際関係史I」では、主権国家と西欧国際システム、19世紀末の帝国主義と植民地の世界、第一次世界大戦の発生と終結、戦間期、第二次世界大戦の発生と終結について講義する。詳細は初回授業にて説明する。

評価方法：(1) 期末試験(筆記試験)、(2) 課題、(3) 出席を考慮する。

テキスト名：石井修『国際政治史としての20世紀』有信堂。その他、随時紹介する。

注意事項：「国際関係史II」を続けて履修することを勧める。「国際関係史II」は、「国際関係史I」の履修を前提に講義を進めるので、事前に「国際関係史I」を履修していることが望ましい。

|              |                        |         |
|--------------|------------------------|---------|
| 国 際 関 係 史 II | さ かの た やす よ<br>阪 田 恭 代 | 2 単 位   |
|              |                        | 1 ~ 4 年 |
|              |                        | 後 期     |

### 20世紀の国際政治史—冷戦と冷戦後

「国際関係史I」に引き続き、「国際関係史II」では、第二次世界大戦後の国際政治史、とりわけ冷戦システムの発生、展開、終結、そして冷戦後の世界ならびに諸問題について講義する。詳細は初回授業にて説明する。

評価方法：(1) 期末試験(筆記試験)、(2) 課題、(3) 出席を考慮する。

テキスト名：石井修「国際政治史としての20世紀」有信堂。その他、随時紹介する。

注意事項：「国際関係史II」は、「国際関係史I」の履修を前提に講義を進めるので、事前に「国際関係史I」を履修していることが望ましい。

|               |                        |         |
|---------------|------------------------|---------|
| 国 際 関 係 論 I A | たか すぎ ただ あき<br>高 杉 忠 明 | 2 単 位   |
|               |                        | 1 ~ 4 年 |
|               |                        | 前 期     |

現在の国際関係はきわめて複雑で、かつめまぐるしく変化している。とくに冷戦終結後、伝統的な主権国家に加えて国連や多国籍企業、NGO(非政府組織)、民族・宗教グループなど多くのアクターが国際関係にさまざまな影響を与えるようになってきた。また国際関係の主要な研究対象領域には冷戦期のようなパワー・ポリティクスや軍事・安全保障に関するものだけでなく、経済・社会問題、人口、食糧、環境破壊、第三世界の貧困、民族・地域紛争など広範な問題が登場してきた。

この授業ではこのように多層化し、複雑化する国際関係を理解するため、歴史・理論・政策という3つの側面に焦点を合わせ講義を進める。講義内容は国際関係論を学ぶために必要な基礎的概念の説明を中心に行われる。国際関係論Iで取り上げるテーマは、第二次大戦後の国際関係の歴史的側面—とくに冷戦の発生・展開・集結のプロセスとアメリカ外交という視点—を中心に講義を進める。

評価の基準等の詳細については最初の授業で説明する。

評価方法：講義内容ならびに教科書を熟読してまとめたノートと筆記試験とレポートを基礎に成績評価をします。

テキスト名：長谷川雄一、高杉忠明編、「現代の国際政治」、ミネルヴァ書房、1998年  
小此木政夫、赤木完爾編、「冷戦期の国際政治」、慶應義塾大学出版会、1987年  
W・ラフィーバー、「アメリカの時代」、芦書房、1992年  
授業で適宜紹介する。

|                       |    |    |    |    |         |
|-----------------------|----|----|----|----|---------|
| <b>国 際 関 係 論 II A</b> | たか | すぎ | ただ | あき | 2 単 位   |
|                       | 高  | 杉  | 忠  | 明  | 1 ~ 4 年 |
|                       |    |    |    |    | 後 期     |

この授業は国際関係論Ⅰを履修し、単位を取得した学生のみが履修可能である。

国際関係論Ⅱでは国際関係研究の具体的なイシューと政策的側面に焦点を合わせて講義を進めてゆく。

具体的に取り扱うテーマは。国際関係の関するリアリストとリベラリスト的アプローチの相違、バランス・オブ・パワー、帝国主義、民族問題と国際関係、軍縮・軍備管理、南北問題、環境問題、人口問題、地域統合、世界各地の政治的イシューと日本外交の現状と問題点などである。

評価の基準やレポート等の詳細については最初の授業で説明する。

評価方法：講義内容ならびに教科書を熟読してまとめたノートと筆記試験とレポートを基礎に成績評価をします。

テキスト名：長谷川雄一、高杉忠明編、『現代の国際政治』、ミネルヴァ書房、1998年

小此木政夫、赤木完爾編、『冷戦期の国際政治』、慶應義塾大学出版会、1987年

その他、授業で適宜紹介する。

注意事項：前期に国際関係論Ⅰを履修し、単位を取得した者のみがこの科目を履修できる。

|                      |    |   |     |         |
|----------------------|----|---|-----|---------|
| <b>国 際 関 係 論 I B</b> | なが | い | ひろし | 2 単 位   |
|                      | 永  | 井 | 浩   | 1 ~ 4 年 |
|                      |    |   |     | 後 期     |

戦争のない世紀をめざして

20世紀は戦争と革命の時代だったといわれる。では、21世紀は平和の時代となるだろうか。二つの世界大戦のあとに長く続いた米ソ冷戦がやっと終わり、人々は超大国の核戦争の恐怖から解放されたと思ったら、今度は世界各地で地域紛争が激化しはじめた。前途はけっして平坦ではないものの、グローバル化した世界のなかで多様な担い手たちが平和を築くさまざまな試みを続けている。冷戦から内戦の時代への動きをたどりながら、新しい世紀の平和を展望し、われわれ一人ひとりに何ができるかを考えてみよう。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素を加味する。

テキスト名：テキストは特になし。参考書は授業中に適宜紹介する。

注意事項：「国際関係論Ⅰ」のあとに「Ⅱ」を受講するのがのぞましい。

新聞、雑誌、テレビの国際ニュースにせつするようこころがけてほしい。

|         |           |          |      |
|---------|-----------|----------|------|
| 国際関係論ⅡB | ながい<br>永井 | ひろし<br>浩 | 2 単位 |
|         |           |          | 1～4年 |
|         |           |          | 前期   |

### グローバル化する国際社会

21世紀の世界を読み解くキーワードはグローバリゼーションである。モノ・カネ・ヒト・情報が自由に国境を越えて移動する時代となった。それは国際社会に何をもたらそうとしているのだろうか。グローバル化の進展とともに、マネーの暴走、貧富の格差、地球環境の悪化、労働力の移動など地球規模の問題の解決が急がれる一方、こうした問題にかかわる担い手は、従来の国・政府だけでなく多国籍企業、国際組織、NGO（非政府組織）、自治体、市民へと多様化してきている。安全保障や平和の内容も変わってきている。わたしたち一人ひとりが国際社会の一員としてどう生きたらよいのかを考えよう。

評価方法：期末の試験・レポートを中心にその他の要素を加味する。

テキスト名：「国際関係論Ⅰ」とおなじ。

注意事項：「国際関係論Ⅰ」を受講したのちに「Ⅱ」に進んでほしい。そのほか「Ⅰ」とおなじ。

|        |           |         |      |
|--------|-----------|---------|------|
| 国際協力入門 | たかぎ<br>高木 | こう<br>耕 | 2 単位 |
|        |           |         | 1～4年 |
|        |           |         | 前期   |

国際協力を王道なし。技術移転は1日にして成らず。これまでに国際協力を経験した人も、そうでない人も、人類共存という課題についてどのような考えを持っているだろうか。本講義では、21世紀を迎えた国際情勢の中における発展途上国の立場を理解するとともに、それらの国が抱えている貧困問題や、環境問題、民族紛争問題に対して、国際社会がどのように対処しているのかを調べ、これからの課題を検討していく。そして、日本の援助はどのように貢献し、またその一方でどのような課題を抱えているのかを明らかにし、講義終了時には、学生諸君がそれぞれに独自の協力方法を導き出せることが望ましい。

評価方法：レポートのほか、授業中にリアクションペーパーの提出を求める。出席は重視される。

テキスト名：最初の授業時に紹介するが、複数を読んで異なる意見や考え方に触れること。

|           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| 環境科学Ⅰ A・B | 寺田美奈子 | 2 単位  |
|           |       | 1～4年  |
|           |       | 前期・後期 |

**地球環境の変遷と生物進化・絶滅<地球誕生からヒトの登場まで>**

現在の国際問題の理解には、地球環境問題に関する知識や常識はもはや避けて通れないことがらとなっている。この授業では、現在おこっている地球環境問題を理解するための極めて基礎的な内容について理解を深めてもらうことを目的としている。Ⅰでは、地球が誕生して約46億年経ていると考えられているが、ヒトが地球上に現れる以前の地球環境の変遷を生物と環境とのかかわりの観点から見ながら、ヒトの活動を検証してゆく。この授業では、下記に示す文献テキストとビデオ（NHK生命40億年）を教材にして授業を進めてゆく。Ⅰの内容は、現在の最大の環境問題として地球温暖化の理解、環境の概念、地球環境の変遷と生物の進化・絶滅、ヒトの出現まで（テキスト第1章～第5章）。

評価方法：定期試験成績90%、出席点10%（たまにとる）。

テキスト名：『ゆらぐ地球環境』。内嶋 善兵衛、合同出版、定価1600円

注意事項：上記の書籍は出来る限り購入してほしい。  
この授業では、テキストの内容を良く読み、理解していることを前提にして進めて行く。

|           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| 環境科学Ⅱ A・B | 寺田美奈子 | 2 単位  |
|           |       | 1～4年  |
|           |       | 後期・前期 |

**地球環境に影響をおよぼしている人間活動**

現在の国際問題の理解には、地球環境問題に関する知識や常識はもはや避けて通れないことがらとなっている。この授業では、現在おこっている地球環境問題を理解するための極めて基礎的な内容について理解を深めてもらうことを目的としている。Ⅱでは、Ⅰと同じテキストのヒトの活動が地球の環境システムを回復不可能になるほどに変えつつある環境問題の現状を、テキストの第6章からおよそ10章までを読み、それぞれの環境問題のメカニズム、問題点、解決の可能性などを共に検証して行く。出来る限り最新のビデオやデータ、報道を教材にして授業を進める。

評価方法：定期試験またはレポート成績90%、出席点10%（たまにとる）。

テキスト名：『ゆらぐ地球環境』。内嶋 善兵衛、合同出版、定価1600円

注意事項：Ⅱを履修する人は、必ずすでに環境科学Ⅰを履修していることを条件とする。  
上記の書籍は出来る限り購入してほしい。  
この授業では、テキストの内容を良く読み、理解していることを前提にして進めて行く。

|             |            |          |         |
|-------------|------------|----------|---------|
| 国 際 平 和 論 I | わ だ<br>和 田 | じゅん<br>純 | 2 単 位   |
|             |            |          | 1 ~ 4 年 |
|             |            |          | 前 期     |

冷戦の崩壊、グローバリゼーションの進展、IT（情報技術）の発達などとともに、「国際平和」とは一体何を意味し、どういう状態を指すのか、その定義も、その具体的なイメージの形成もますます難しくなっている。阻害要因は多様化し、直面している課題そのものの特定や、対応すべき優先順位の設定も困難さを増し、安定と繁栄の維持を目指すシステムもいっそう複雑化してきている。

本講義では、20世紀を対象に、こうした国際平和に対する破壊と希求の流れを歴史的に反芻した後、現在から未来に至る時間軸の中で、今後避けては通れない課題を概観し、その将来の展望と選択肢を具体的に考える。

取り上げるテーマは、グローバリゼーションによる統合と分散、文化・価値の共有と衝突、民族対立・宗教紛争、国際システムと国際機関、人間の安全保障、地球規模での環境問題、人口増大、持続的発展、巨大科学技術、IT革命と情報格差、国際的なシビル・ソサエティの形成などを予定。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価

テキスト名：講義に沿って随時プリント等を配布する。

注意事項：Iを履修しなければIIは履修できない。

|              |            |          |         |
|--------------|------------|----------|---------|
| 国 際 平 和 論 II | わ だ<br>和 田 | じゅん<br>純 | 2 単 位   |
|              |            |          | 1 ~ 4 年 |
|              |            |          | 後 期     |

国際平和論Iで概観した歴史・現状・将来の課題をベースに、本講義では、こうした課題の解決に向けて求められる努力を、国際的なガバナンス（協治）の視点から考える。

特に、国民国家の役割が相対的に低下しつつある流れを踏まえて、新たな担い手として登場しつつある民間非営利のシビル・ソサエティ（国際的NGO・財団・シンクタンクなど）の役割に注目し、国際的なガバナンス（協治）の改善に向けて、そうした新しいアクターと国民国家・国際機関・企業などのパートナーシップのあり方を具体的に考える。

一貫した関心は、「ハード・パワー（軍事力）」だけを基軸としない複合的な「ソフト・パワー」をどのようにイメージし、その幅広い担い手を生み出していくための「言力」「アントレプレナーシップ（起業精神）」などを、日本でどう形成していくかという戦略論である。

評価方法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価

テキスト名：授業の進展にあわせて、適宜、プリント等を配布する。

注意事項：Iを履修しなければIIは履修できない。

|         |                       |           |
|---------|-----------------------|-----------|
| 人 権 論 A | あお やま はる き<br>青 山 治 城 | 2 単 位     |
|         |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|         |                       | 前 期       |

**日本の社会から見た人権**

「人権」概念は、国際人権規約（1966）や人種差別撤廃条約（1965）、女子差別撤廃条約（1979）など各種の条約を経て、子どもの権利条約（1989）へと拡大されつつある。その先駆けとなった世界人権宣言（1948）は「世界の憲法」とさえ言われることがある。しかし、これを具体的な場面で考えると、一人権とは何であるか、つかみにくい概念でもある。例えば、最近のある論者は、人権を「それを失うとあなたがあなたでなくなるもの」と定義している。また、アジア諸国を始めとして、人権を第2次的に扱う傾向も否定できない。事実、近代人権宣言の発祥の地であるフランスとアメリカでは、その意味が微妙に異なる。本講では、まず日本社会における具体的な事例に目を向けることで、人権の何たるかを考えていきたい。

評価方法：レポートと筆記試験を予定

テキスト名：市川正人『ケースメソッド憲法』日本評論社

|         |                            |           |
|---------|----------------------------|-----------|
| 人 権 論 B | エ ー チ ャ ン<br>A Y E C H A N | 2 単 位     |
|         |                            | 1 ~ 4 年 期 |
|         |                            | 後 期       |

**人権とアジア的価値観**

ソ連・東欧における共産主義体制の崩壊後、「人民の権力」「プロレタリアート独裁」などの言葉が時代遅れとなるとともに、アジアの独裁的権力者たちは「アジア的価値観」という新たな政治用語を使いはじめた。彼らは独裁体制を正当化するために過去の文化遺産に助けを求めようとし、たとえばシンガポールの最高指導者リー・クワンユーは儒教の父親的温情主義がアジアの政府の最良のモデルだと主張している。いくつかの政府はアジアの政治的、文化的伝統をふりかざして、国内の市民権拡大運動を残酷に弾圧しており、ミャンマー（ビルマ）や中国のように人権侵害が制度化されている国もある。講義では、独裁体制による人権弾圧の実体とともに、その指導者たちの主張とは異なり、アジアの国々では一般民衆の人権運動を支える多様で力強い文化的伝統が息づいていることを明らかにする。使用言語は日本語と英語。

評価方法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせる。

テキスト名：教科書未定

|          |               |         |
|----------|---------------|---------|
| ジェンダー論 A | まつ<br>松 井 佳 子 | 2 単 位   |
|          |               | 1 ~ 4 年 |
|          |               | 前 期     |

生物的な性差と区別される社会的、政治的、歴史的、文化的な性差「ジェンダー」（この定義は1968年のRobert Stollerの『セックスとジェンダー』Sex and Gender に依拠する。）ということばはかなり一般的にも知られるようになってきた。1950年代にすでに登場し、1970年代以降特に頻繁に使われるようになり、昨今その重要性がますます指摘されるようになってきている「ジェンダー」とは一体何なのか。

この授業ではジェンダー概念の意味、射程、可能性、限界といったものについて考えてみたい。

その際を中心となる問題意識は、セックス（生物学的）と社会的現象としてのジェンダーとの関係をめぐるものである。「男の身体」「女の身体」と「男らしさ」「女らしさ」のあいだには果たしてどんな関係性が存在するのであろうか。

ジェンダー概念を検証するにあたって、ボーヴォワールの『第二の性』（1949年）イリイチの『ジェンダー —— 女と男の世界』そして最近世界の注目を集めているジェンダーの理論家ジュディス・バトラーを授業の三本柱として設定し、フーコーやラカンを初めとする他の関連文献にも触れながら、本質論と社会構築論の両方を視野にいれて考察を進めたい。

評価方法：レポートと学期末試験の総合評価とする。

テキスト名：シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』

1. イリイチ 玉野井芳郎訳『ジェンダー —— 女と男の世界』岩波書店  
 ジュディス・バトラー 竹村和子訳『ジェンダー・トラブル』青土社

|          |               |         |
|----------|---------------|---------|
| ジェンダー論 B | よし<br>吉 田 光 宏 | 2 単 位   |
|          |               | 1 ~ 4 年 |
|          |               | 後 期     |

文化人類学的視点によるジェンダーの研究：基本的アプローチ

文化人類学におけるジェンダーの基本的なパースペクティブ、概念、問題点等を検証する。現在の様々な社会におけるジェンダー、つまり、日常生活で構築されていく「男性」であること／「女性」であることの「文化的意味」を理解するために、どのような文化人類学的アプローチがあるかを扱う。女性／男性の役割、それぞれに期待されること、様々な社会における男性と女性との関係やそれぞれのアイデンティティ形成のありかたなどを理解するためにこれまで提唱されてきたジェンダーに関する理論やモデルを紹介し、それぞれの問題点を検証する。

評価方法：筆記試験／授業への参加

テキスト名：英文の論文からの抜粋が中心。随時配付する。

参考図書例：Rosaldo, Michelle, and Louise Lamphere, eds. 1974 Woman, Culture and Society.  
 Sacks, Karen 1982 Sisters and Wives : The Past and Future of Sexual Equality.  
 Schiebinger, Londa 1989 The Mind has No Sex : Women in the Origins of Moderns Science.

|             |                       |           |
|-------------|-----------------------|-----------|
| 南 北 問 題 研 究 | こ 子<br>やす あき<br>安 昭 子 | 2 単 位     |
|             |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|             |                       | 後 期       |

**南北問題の歴史と現状—南北問題から南南問題へ**

戦後の冷戦時代、米ソの「東西関係」に類比される言葉として「南北関係」が登場した。先進工業国の「北」と発展途上国の「南」の間に存在するさまざまな問題を前に、1959年、英国ロイズ銀行頭取のO. フランクスが「南北関係は東西関係とともに現代社会が当面する二大問題の1つである」と述べたことが最初といわれるが、それから40年近くを経て、南北問題は変容を遂げている。従来の南北間の経済的格差が残存する一方で、南の国同士の格差が広がり、新たに「南南問題」が生まれている。また単なる経済・所得格差に加え、近年ではIT格差（デジタルデバインド）の問題など、格差の“構成要因”も多様化している。本授業は、戦後の南北問題の歴史と現状を把握するとともに、われわれは今後発展途上国問題にどう取り組むべきか各自が考える機会となるようにしたい。

評価方法：出席（豆テストとリアクションペーパー）と学期末試験による総合的評価。

テキスト名：後日参考文献リストを配布する。

|           |                       |           |
|-----------|-----------------------|-----------|
| 国 際 開 発 論 | こ 子<br>やす あき<br>安 昭 子 | 2 単 位     |
|           |                       | 1 ~ 4 年 期 |
|           |                       | 前 期       |

**発展途上国の開発とは何かを考える**

ラテンアメリカをケーススタディとして、地域研究（エリア・スタディ）と開発経済学の視点から開発の問題について論じる。本授業を通して、学生諸君が発展途上国に関心をもち、「開発とは何か」、「開発は誰が、誰のために行うのか」などについて自分の意見がもてるようになることを最大の目的としたい。主な授業内容は、日本を中心とした先進国の政府開発援助（ODA）、国際機関（世界銀行や国際通貨基金など）の役割と構造調整、環境と開発、女性と開発、多国籍企業と開発、NGO活動などである。扱う地域はラテンアメリカが中心になるが、国際開発比較という視点からアジアやアフリカに関心がある学生諸君の受講も歓迎する。

評価方法：出席（豆テストとリアクションペーパー）と学期末試験による総合的評価。

テキスト名：後日参考文献リストを配布する。

|               |         |         |        |       |
|---------------|---------|---------|--------|-------|
| 民族・宗教問題研究 A・B | ベク<br>白 | ソン<br>盛 | ス<br>琇 | 2 単 位 |
|               |         |         |        | 1～4 年 |
|               |         |         |        | 後 期   |

### 日本におけるエスニックメディア

現在、日本で生活している外国人の現状を巡っての諸問題を取り上げる。日本においても進んでいる国際化の中で、日本人を含めたさまざまなエスニシティの人々が共存するための条件やその意味、社会像を議論する。

また日本で発行、送受信される多様なエスニックメディアの現状と機能、意味について考える。この授業はフィールドワーク調査とクラスでのディスカッションを中心に進められる。

評 価 方 法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：未定

|                 |         |        |         |       |
|-----------------|---------|--------|---------|-------|
| 国 際 ボ ラ ン テ ィ ア | たか<br>高 | ぎ<br>木 | こう<br>耕 | 2 単 位 |
|                 |         |        |         | 1～4 年 |
|                 |         |        |         | 後 期   |

「ボランティアには興味はあるが、どのようにしたらいいかわからない」という人は多いのではないだろうか。また、「ボランティアは自己犠牲の上に成り立つもの。報酬を受け取ってはならないもの」と考える人もいるだろう。実際のところは、どのような人々がどのような活動を展開しているのだろうか。本講義では、さまざまなNGO団体や個人の活動を知り、ボランティア活動の形態や実施方法などについて考えていく。また、ボランティア活動を受け入れている人々やコミュニティが、どのような立場に置かれているのかを、学生諸君のそれぞれが考えて意見をまとめていくことが望まれる。

評 価 方 法：レポートのほか、授業中にリアクションペーパーの提出を求める。出席は重視される。

テキスト名：最初の授業時に紹介するが、複数を読んで異なる意見や考え方に触れること。

|                 |             |             |        |       |
|-----------------|-------------|-------------|--------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅠA | ベ<br>ク<br>白 | ソ<br>ン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位 |
|                 |             |             |        | 2～4 年 |
|                 |             |             |        | 前 期   |

メディア映像における異文化のイメージ

映画、テレビなどの映像メディアに映り出される異文化へのイメージ、ステレオタイプ、またその使い方の意味を読み取り、分析、理解する。この授業ではアメリカ、ヨーロッパ、アジア、日本などのフィルムや、テレビ番組、CMを観ながら、みんなで議論を進めることにする。ここで扱う異文化の問題とは、異なるエスニシティにかかわるだけではなく、少数集団やジェンダーの問題などを含めた広い意味でとらえられる。私たちが意識的・無意識的に持っている異文化に対するイメージがどのように作られてきたか、またどのように人々に共有されているのかを見つめ直すことによって、異文化への新たな理解の第一歩を目指す。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：特定の教科書は用いない。参考文献のリストを配る。

注意事項：この授業は「異文化コミュニケーションⅡ」に連続的につながるものである。

|                 |             |             |        |       |
|-----------------|-------------|-------------|--------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅡA | ベ<br>ク<br>白 | ソ<br>ン<br>盛 | ス<br>瑠 | 2 単 位 |
|                 |             |             |        | 2～4 年 |
|                 |             |             |        | 後 期   |

メディア映像における異文化のイメージ

「異文化コミュニケーションⅠ」の授業に続くものとして、映画、テレビなどの映像メディアに映り出される異文化へのイメージ、ステレオタイプ、またその使い方の意味を読み取り、分析、理解する。この授業の目標としては、まず、重なる実践によって、映像メディアに対するリテラシー能力を高めること。

第2に、個人の課題を中心に問題意識の分析、意見のまとめ、発表、ディベートの能力を高める事とする。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：特定の教科書は用いない。

注意事項：原則として「異文化コミュニケーション論Ⅰ」の受講者に限る。

|                 |        |        |          |       |
|-----------------|--------|--------|----------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅠB | わ<br>和 | だ<br>田 | じゅん<br>純 | 2 単 位 |
|                 |        |        |          | 2～4 年 |
|                 |        |        |          | 前 期   |

異文化コミュニケーションの本質は、「自文化」「他文化」をいかに認識するかということに帰着する。言葉を換えれば、文化における「異質性」「同質性」を理解するための自分の回路を、自分の中にいかに築き上げるかが、異文化コミュニケーションの本質として問われなければならない。異文化と接触する際の摩擦をいかに克服するかといった対処法的なものだけでは不十分なのである。

その観点から、本講義では、「異質性」「同質性」を理解する自分自身の回路構築をめざし、その出発点として、

- (1) 世界を見る視点を変える（目から鱗を落とす）、
  - (2) 歴史や社会の文脈から日本・日本人を考え直す、
  - (3) グローバリゼーションの流れの中で、日本の国際的な位置と課題を考え直す、
- ことから始め、日本および日本人に関わる「自己認識」の形成をはかる。

評 価 方 法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価。

テキスト名：河合隼雄監修・「21世紀日本の構想」懇談会著『日本のフロンティアは日本のなかにある—自立と協治で築く新世紀』講談社、2000年

注 意 事 項：Ⅰを履修しなければⅡは履修できない。

|                 |        |        |          |       |
|-----------------|--------|--------|----------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅡB | わ<br>和 | だ<br>田 | じゅん<br>純 | 2 単 位 |
|                 |        |        |          | 2～4 年 |
|                 |        |        |          | 後 期   |

Ⅰにおいて、日本および日本人に関わる「自己認識」を深めた上で、本講義では、文化は接触を通じて相互に影響しあい、文化は絶えず変容していくものであることを、歴史を踏まえながら、グローバルな視点から考える。

「統合」と「分散」が世界的規模で同時進行するグローバリゼーション、メディアの個人化を急速に推し進めるIT(情報技術)革命—こうした、かつて人類の経験したことのない大きな流れの中で、文化接触、文化交流、異文化コミュニケーションなどの概念は再考を求められている。

本講義では、戦争・植民地支配といった歴史的な負の遺産から、今日的な国際交流や移民などまで、様々な具体的な事例を取り上げ、文化接触、文化変容というダイナミズムを考える。

評 価 方 法：授業への積極的な参加・授業中の小レポート・最終レポートで総合的に評価。

テキスト名：講義に沿って随時プリント等を配布する。

注 意 事 項：Ⅰを履修しなければⅡは履修できない。

|                 |                          |       |
|-----------------|--------------------------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅠC | サウクエンファン<br>SAU KUEN FAN | 2 単 位 |
|                 |                          | 2～4 年 |
|                 |                          | 前 期   |

**接触場面での日本人と外国人**

本講義は社会言語学の視点から日本人と外国人とのコミュニケーションについて概説する。はじめに、母語場面と接触場面の概念を導入し、例をもとにさまざまな言語現象を分析する。次に、接触場面研究で重要な社会文化問題、社会言語問題、言語問題を取り上げ、日本人と外国人とのコミュニケーションの特徴を考察する。

評価方法：グループ・プロジェクト、小テスト、出席・授業参加で評価する。

テキスト名：プリント教材

注意事項：受講希望者が20名を越える場合は、試験による人数調整を行う。講義は主に日本語で行うが、プリント教材は英語のものが中心になる。

|                 |                          |       |
|-----------------|--------------------------|-------|
| 異文化コミュニケーション論ⅡC | サウクエンファン<br>SAU KUEN FAN | 2 単 位 |
|                 |                          | 2～4 年 |
|                 |                          | 後 期   |

**接触場面での言語管理**

本講義では、日本人と外国人とのコミュニケーションにおいて、表面化した問題だけではなく、表面化していない問題を含め、「言語管理」という言語計画の理論を用いて考察することを目的とする。具体的には、日本人が外国人とコミュニケーションをする際、どのような接触の規範を持ち、自らの規範からどのように逸脱に気づき、気づかれた逸脱をどのように評価し、調整するかのプロセスを分析していく。

評価方法：グループ・プロジェクト、レポート、出席・授業参加で評価する。

テキスト名：プリント教材

注意事項：受講希望者が20名を越える場合は、試験による人数調整を行う。講義は主に日本語で行うが、プリント教材は英語のものが中心になる。

## innovative cross-cultural communication

The course aims at exploring the building blocks of intercultural communication by introducing its basic concepts touching upon

- aspects of cultural diversity,
- cross-cultural psychology,
- multicultural education,
- intercultural relations,
- international communication settings,
- intercultural encounters of different kinds.

It points out the critical issues one might face and expect at crosscultural interactions. At the same time the course also strives at giving guidance to avoiding miscommunication in intercultural settings by raising awareness of intercultural competence.

評価方法 : Attendance and class participation, interactive contribution, presentations.

テキスト名 : Milton J. Bennett (ed.): Basic Concepts of Intercultural Communication, Selected Readings, Intercultural Press, 1998 ISBN 1-877864-62-5

注意事項 : The course is run in English, but interaction including presentations is also welcome in Japanese. Written contributions are however to be submitted in English.

|                 |              |      |
|-----------------|--------------|------|
| 異文化コミュニケーション論ⅡD | ユディット ヒダシ    | 2 単位 |
|                 | JUDIT HIDASI | 2～4年 |
|                 |              | 後 期  |

### The art of crossing cultures

Cross-cultural adaptation based on psychological and communication theory is verified by the personal experience of the individual who takes the challenge to act in intercultural setting. Case-studies of this sort help to understand and analyze the mental process one undergoes in encountering another culture. The course aims to raise awareness of this process by demonstrating methods of learning how to anticipate differences and master alternative reactions rather than withdrawing. Examples of crosscultural experience and intercultural communication are taken from a wide variety of cultures.

評価方法：Attendance and class participation, presentations.

テキスト名：Craig Storti: The Art of Crossing Cultures, Intercultural Press, 1990, ISBN 0-933662-85-8  
Handouts

注意事項：The course is run in English, but interactions including presentations are also welcome in Japanese. Written contributions are however to be submitted in English.

|               |            |      |
|---------------|------------|------|
| 国 際 社 会 論 I A | か とう じょう じ | 2 単位 |
|               | 加 藤 譲 治    | 1～4年 |
|               |            | 前 期  |

### 国際社会とはいかなる社会か

人々の日常生活において国際社会のしめる度合いが強まっている。そこで国際社会とはいかなる社会のことであり、どんな問題性をはらんでいるかについて勉強しようと思う。こうした問題を考えるための多角的な分析枠組みを紹介、検討する。また国際社会の world / globe や inter-national / trans-national といった多面性についても理解をすすめてほしい。

評価方法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価する。

テキスト名：『新しい民族問題』梶田孝道、中央公論社

|         |                 |      |
|---------|-----------------|------|
| 国際社会論ⅡA | かとうじょうじ<br>加藤譲治 | 2単位  |
|         |                 | 1～4年 |
|         |                 | 後期   |

### 日本社会の国際化とは

日本社会の国際化をめぐる問題を考える。その具体的素材として日本の中の外国人労働者問題を、ここでは取り上げる。90年の入管法の改正以降、わが国ではかなりの外国人労働者が専門／単純の職業に合法／非合法の資格で働いている。これらの現状と問題点を国際比較の視点から多面的に考えていく。それらを「文化と文明」の切り口で再整理をすることで、日本社会の国際化の課題を明らかにしたい。

評価方法：授業中に課す小論文と試験の成績により評価する。

テキスト名：『外国人労働者と日本』梶田孝道、NHKブックス

注意事項：受講条件とはしないが、「国際社会論Ⅰ」の受講を望む。

|         |                 |      |
|---------|-----------------|------|
| 国際社会論ⅠB | いわいみさき<br>岩井美佐紀 | 2単位  |
|         |                 | 1～4年 |
|         |                 | 前期   |

### 農村開発—貧困解決のための社会開発のあり方（1）

途上国の貧困問題は、経済開発の進行と共に顕在化し、今日の最も緊急な課題の一つとして認識されている。途上国における貧困問題は、基本的に都市と農村の所得格差の拡大ともなっており生じてきた社会的矛盾と大きな関係がある。貧困とは何かを社会学的に考察する際、アマルティア・センが提起した人間の「潜在能力」を充足させる条件の欠如と捉えることができる。すなわち、初等教育を受ける機会の喪失（非識字）、乳幼児死亡率や妊婦死亡率に表れる保健・公衆衛生環境の欠如などである。

社会開発とは、このような条件を整え、「潜在能力」を充足させることによって福祉の向上を目指す開発のことであり、息の長い持続可能なアプローチが必要とされる。

本講義では、主に東南アジアと南アジアにおける様々な貧困の表れ方を取り上げ、社会開発、特に絶対的貧困層が滞留する農村における開発が必要とされてきた背景や歴史的経緯について解説するとともに、農村開発についての理解を補完するための情報を提供する。

評価方法：平常の学習態度および期末の試験によって評価する。

ビデオ鑑賞に対するリアクションペーパーも評価の対象とする。

テキスト名：ロバート・チェンバース著 『第三世界の農村開発：貧困の解決—私たちにできること』、明石書店、1998年。

アマルティア・セン著 『福祉の経済学』、岩波書店、1999年。

|         |                               |      |
|---------|-------------------------------|------|
| 国際社会論ⅡB | いわ<br>岩 い<br>井 み<br>さき<br>美佐紀 | 2 単位 |
|         |                               | 1～4年 |
|         |                               | 後 期  |

農村開発—貧困解決のための社会開発のあり方（2）

最近の社会開発プロジェクトの動向を見ると、従来インフラ整備や経済開発を中心に進められてきたODAなどの二国間援助や世界銀行など国際援助機関の開発援助も、近年は広範な領域に向けられ、社会開発プロジェクトにも力が注がれつつある。また一方で、多くのNGOも専門性を強めており、その活動は国際的にも大きな影響力をもち始めている。

この講義では、社会開発の中でもリプロダクティブヘルス（性および生殖に関する保健）、マイクロクレジットによる雇用創出などを取り上げ、貧困層の社会生活および福祉の向上を目指すプロジェクトの取り組みを検討する。社会開発のあり方を具体的に検討するために、主に東南アジアではベトナム、南アジアではバングラデシュにおけるプロジェクトの事例を取り上げる。

評価方法：平常の学習態度および期末の試験によって評価する。  
ビデオ鑑賞に対するリアクションペーパーも評価の対象とする。

テキスト名：ロバート・チェンバース著 『第三世界の農村開発：貧困の解決—私たちにできること』、明石書店、1998年。  
アマルティア・セン著 『福祉の経済学』、岩波書店、1999年。

注意事項：国際社会論Ⅰを履修していることが望ましい。

|        |                          |      |
|--------|--------------------------|------|
| 比較文明論Ⅰ | エー<br>チャン<br>AYE<br>CHAN | 2 単位 |
|        |                          | 1～4年 |
|        |                          | 前 期  |

西欧政治文化の東南アジアにおける展開

東南アジアにおける植民地支配体制がもたらした大きな影響のひとつは、世襲的な貴族階級の消滅と、西欧流教育の影響を受けた新しい政治文化の出現である。植民地時代に確立された政治的な諸制度が、第二次大戦後の東南アジアの新国家建設の骨格を形成していくが、政治文化の形態は各国の文化や宗教の違いを背景にさまざまな展開を見せた。それをインドネシアとビルマ（ミャンマー）を比較しながら考察する。使用言語は日本語と英語。

評価方法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせる。

テキスト名：授業中に参考文献を適宜紹介する。

|        |                   |      |
|--------|-------------------|------|
| 比較文明論Ⅱ | エーチャン<br>AYE CHAN | 2 単位 |
|        |                   | 1～4年 |
|        |                   | 後 期  |

### 西欧政治文化の東南アジアにおける展開

「比較文明論Ⅰ」につづき、現代タイとマレーシアにおける政治文化の展開を比較、検討する。

評価方法：平常の授業への参加、レポート、期末試験などを組み合わせる。

テキスト名：授業中に参考文献を適宜紹介する。

注意事項：原則として「比較文明論Ⅰ」を受講したのちⅡを学ぶのがのぞましい。

|         |           |          |      |
|---------|-----------|----------|------|
| 国際経済論ⅠA | なかの<br>仲野 | あきら<br>昭 | 2 単位 |
|         |           |          | 1～4年 |
|         |           |          | 前 期  |

### 国際経済の現状と国際経済・金融の基礎

グローバリゼーションが急進展する国際経済の現状と日本経済との関わりを入門レベルで講義する。また、グローバル市場における企業行動についても具体例を引用しつつ言及する。主要テーマは、①国際経済の現状と日本、②外国為替取引と為替レート、③国際収支と国際マクロ経済学、④南北問題、⑤経済統合、である。理論的知識の習得とともに、経済データの読み方に習熟することも重要な目標である。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配付するプリントと参考資料（和・英文文献）をもとに講義する。また、適宜参考テキストを指示する。

|                       |                   |                 |         |
|-----------------------|-------------------|-----------------|---------|
| <b>国 際 経 済 論 II A</b> | なかの<br><b>仲 野</b> | あきら<br><b>昭</b> | 2 単 位   |
|                       |                   |                 | 1 ~ 4 年 |
|                       |                   |                 | 後 期     |

**国際貿易の基本構造と貿易体制**

ミクロ経済学の応用としての貿易の基礎理論とWTO（世界貿易機関）を柱とする国際貿易体制について講義する。また、国際貿易と密接な関係をもつ直接投資についても言及する。主要テーマは、①日本経済と貿易、②貿易の基礎理論、③産業内貿易の理論、④WTOと国際貿易体制、⑤直接投資、である。演習問題や課題の設定を通して受講者参加型の講義としたい。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配付するプリントと参考資料（和・英文文献）をもとに講義する。受講生は国際経済のテキストとともに、ミクロ経済学の基礎理論を自習することが望ましい。参考テキストは適宜指示する。

|                      |                         |         |
|----------------------|-------------------------|---------|
| <b>国 際 経 済 論 I B</b> | こすげのひ<br><b>小 菅 伸 彦</b> | 2 単 位   |
|                      |                         | 1 ~ 4 年 |
|                      |                         | 前 期     |

**世界経済の動きとそのメカニズム**

第2次世界大戦後の世界経済は第一次、二次石油ショック後、1980年代の停滞はあったものの、自由な貿易と資金の移動を推進するIMF、GATT体制のもとで国際貿易の拡大を軸に総じて順調な成長を続けてきた。東西冷戦の終焉や貿易と資金移動を通じた相互依存関係の強まりにより近年、世界経済の一体化、グローバル化が急速に進行している。他方、最近のアジア通貨危機に見られるように金融と情報通信技術の発展による世界規模の資金移動が各国経済を翻弄するなど世界経済システムの脆弱性も目立ち始めている。発展途上国の2極分解など貧困問題解決への道は遠く、GATTを発展的に継承したWTOでも各国間の利害対立などきしみが目立ち始めている。さらに、今後の世界経済の成長に対し地球環境問題など深刻な制約も存在する。

本講義では戦後の世界経済のあゆみ、地域別の経済動向と課題等を紹介するとともに、これらの基礎にある貿易、投資、国際金融、為替レート等のメカニズムを学ぶ。さらに、21世紀に向けていっそう大きな課題となる地球環境問題、食糧・資源問題等について理解を深める。

評価方法：筆記試験(小論文、講義への感想文等)

テキスト名：宮崎勇、田谷禎三 “世界経済図説”、岩波新書、2000、適宜補足資料を配布

|                |   |         |
|----------------|---|---------|
| 国 際 経 済 論 II B | こ<br>小<br>すげ<br>菅<br>のぶ<br>伸<br>ひこ<br>彦 | 2 単 位   |
|                |   | 1 ~ 4 年 |
|                |   | 後 期     |

**発展途上国理解のために(貧困の解消と持続的成長)**

近年、発展途上国とわが国のかかわりは貿易、投資などを通じて急速に深まり、特に東アジア、東南アジア地域と日本経済とのかかわりは北米地域との関係と肩を並べ、あるいはそれを上回るに至り、輸入品等を通じて発展途上国経済は私たちに日常、身近なものになっている。しかし、発展途上国経済は近代的市場経済と伝統的経済が混在、並存する経済であり、その経済発展は社会的、文化的、政治的要因にも強く依存し、先進工業国の経済的通念から一面的に見ようとすると理解を誤ることがある。

本講義では開発経済学の理論を織り交ぜながら、できる限り実例、データに即して発展途上国の停滞と成長、経済的離陸のための条件、経済外的制約と経済発展、天然資源と人口成長、所得格差と貧困、教育と経済成長、ジェンターと開発政策、開発と環境、援助政策や、アジアの発展途上国の特性、発展途上国とわが国のかかわりなどについて学ぶ。

評 価 方 法：出席率、筆記試験(小論文、講義への感想等)

テキスト名：宮崎勇、田谷禎三 “世界経済図説”、岩波新書、2000、適宜補足資料を配布

注 意 事 項：国際経済論Iを受講してから受講することが望ましい。

|               |                               |         |
|---------------|-------------------------------|---------|
| 国 際 経 済 論 I C | なか<br>仲<br>の<br>野<br>あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|               |                               | 1 ~ 4 年 |
|               |                               | 前 期     |

**国際金融の原理と応用**

国際研究はもとより、国際ビジネスの実践のためにも不可欠な国際金融の原理と応用を学ぶ。主要テーマは、①国際決済と外国為替、②国際収支と国際貸借、③為替政策、④為替リスクとその対策、である。理論的な理解とともに、IMF (国際通貨基金) 等が公表する国際金融統計の読み方に習熟することも目標のひとつとする。

評 価 方 法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：予備知識として、『図説 国際金融』(財経商詳報社、1998年)を用意することを期待するが、講義は配布するプリントと参考資料(和・英文文献)を中心に進める。

|                       |            |          |         |
|-----------------------|------------|----------|---------|
| <b>国 際 経 済 論 II C</b> | なかの<br>仲 野 | あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|                       |            |          | 1 ~ 4 年 |
|                       |            |          | 後 期     |

**国際金融市場と国際金融取引**

国際研究はもとより、国際ビジネスの実践のためにも不可欠な国際金融取引の原理と実際を学ぶ。主要テーマは、①国際金融市場の歴史と現状、②国際金融取引の諸形態、③国際投資（直接投資と証券投資）、である。②ではプロジェクト・ファイナンス、リース、デリバティブ（金融派生商品）などのテーマも扱う。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストは指定しない。予備知識として、原信著『国際金融概論[新版]』（有斐閣、1997年）を用意することを期待するが、講義は配布するプリントと参考資料（和・英文文献）を中心に進める。

|                    |            |          |         |
|--------------------|------------|----------|---------|
| <b>多 国 籍 企 業 論</b> | なかの<br>仲 野 | あきら<br>昭 | 2 単 位   |
|                    |            |          | 1 ~ 4 年 |
|                    |            |          | 後 期     |

**多国籍企業の行動と基礎理論**

多国籍企業論を企業経営の国際化という視点から、その歴史的展開、国際経営論的考察、経済理論的考察の3点から講義する。主要テーマは、①多国籍企業の概念と歴史、②多国籍企業の理論的アプローチ、③多国籍企業の経営管理、④多国籍企業を取り巻く国際環境の変化、である。とくに③について、世界の有力企業を題材に企業研究的なアプローチも加味する。また、一方通行の講義ではなく、受講者の参加による双方向型の講義とするため、種々の課題設定を行う予定である。

評価方法：筆記試験、レポート提出

テキスト名：テキストは使用せず、授業時に配布するプリントと参考資料（主に英文文献）をもとに講義する。また、適宜参考テキストを指示する。

|             |                       |                  |         |
|-------------|-----------------------|------------------|---------|
| 国 際 機 構 論 I | な<br>か<br>の<br>仲<br>野 | あ<br>き<br>ら<br>昭 | 2 単 位   |
|             |                       |                  | 1 ~ 4 年 |
|             |                       |                  | 前 期     |

#### 現在の国際社会と国際機構の位置および役割

国際社会のひとつの象徴的側面として国際機構の数と機能の増大という流れが観察される。これら国際機構が、国際社会においてどのような理念と機能を担い、国際社会の秩序形成と発展にいかなる貢献をしているのかを、国際連合のケースを中心に学ぶ。主要テーマは①国際社会の組織化と国際機構、②国際連合の成立と組織、③国際連合の機能と課題、④国連 NGO の役割と活動、である。国際連合の活動を通して、国際社会が直面する重要課題（国際的な貧富の格差拡大等）にも言及することとしたい。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストはとくに指定せず、配布するプリントと参考文献（主として英文文献）を中心に進める。参考文献は講義中に適宜紹介する。

|              |                       |                  |         |
|--------------|-----------------------|------------------|---------|
| 国 際 機 構 論 II | な<br>か<br>の<br>仲<br>野 | あ<br>き<br>ら<br>昭 | 2 単 位   |
|              |                       |                  | 1 ~ 4 年 |
|              |                       |                  | 後 期     |

#### 国際専門機関の理念と役割

国際機構論 I の続編として国際専門機関の理念と役割を学ぶ。主要テーマは、①経済的専門機関 (IMF、IBRD、WTO 等)、②社会的文化的専門機関 (ISO、ILO、UNESCO 等)、③地域協力の国際機構、である。これらのテーマを通して、国際機構の活動と企業行動との関わり（例えば ISO によるグローバル・スタンダードの形成や知的所有権保護問題と企業の対応）といった課題にも言及する。

評価方法：筆記試験とレポート提出

テキスト名：テキストは指定せず、配布するプリントと参考文献（和・英文文献）を中心に進める。

|                |                        |       |
|----------------|------------------------|-------|
| <b>国 際 法 I</b> | たかむら<br><b>高 村 ゆかり</b> | 2 単 位 |
|                |                        | 1～4年  |
|                |                        | 集中講義  |

近年の国際関係の緊密化、日常生活や労働の国際化は、国際法の知識をますます必要なものとして  
いる。本講義では、国家、個人、国際機構、NGOなどのアクターの国際社会における行為を規律して  
いる国際法の基本的性格と基本原則について理解を深め、国際社会で起こる様々な出来事について法  
律的観点から理解し、検討する力をつけることを目的とする。

国際法の歴史、国際法の基本的性格(国内法と対比した国際法の特殊性)、国際法の最も主要なアク  
ターである国家に関する諸規則、国際法の定立・適用・執行に関する規則などについて講義を行う。国  
際法が関連するその時々時事問題に関する検討も随時講義のなかで行う予定である。

評 価 方 法：成績は、①学期末の筆記試験により評価する。ただし、②(筆記試験を補完するもの  
として)1ないし2回の小レポートによる評価を筆記試験に加点する(レポートの提出は自  
由)。

テキスト名：横田洋三編『国際法入門』有斐閣  
参考文献については、講義中に紹介する。

注 意 事 項：「国際法I」と「国際法II」は、段階履修ではないが、「国際法II」は、「国際法I」の履修  
を前提に講義を進めるので、「国際法II」の受講を希望する人は、あらかじめ「国際法I」  
を履修するのが望ましい。

|                 |                        |       |
|-----------------|------------------------|-------|
| <b>国 際 法 II</b> | たかむら<br><b>高 村 ゆかり</b> | 2 単 位 |
|                 |                        | 1～4年  |
|                 |                        | 後 期   |

近年の国際関係の緊密化、日常生活や労働の国際化は、国際法の知識をますます必要なものとして  
いる。本講義では、「国際法I」の履修で得られた国際法の基本原則に関する理解を前提に、様々な分  
野で現在用いられている法規則について学び、国際社会で起こる様々な出来事について法律的観点か  
ら理解し、検討する力をつけることを目的とする。特に

- ①海、空、宇宙空間、南極などの空間に関する国際法の規則と制度
- ②安全保障、軍縮、人権の国際的保障、環境保護、開発援助といった、最近国際協力が求められて  
いる分野に適用される国際法の規則と制度

について講義を行う。国際法が関連するその時々時事問題に関する検討も随時講義のなかで行う予  
定である。

評 価 方 法：成績は、①学期末の筆記試験により評価する。ただし、②(筆記試験を補完するもの  
として)1ないし2回の小レポートによる評価を筆記試験に加点する(レポートの提出は自  
由)。

テキスト名：横田洋三編『国際法入門』有斐閣  
参考文献については、講義中に紹介する。

注 意 事 項：「国際法I」と「国際法II」は、段階履修ではないが、「国際法II」は、「国際法I」の履修  
を前提に講義を進めるので、「国際法II」の受講を希望する人は、あらかじめ「国際法I」  
を履修するのが望ましい。

# ビジネス・インターンシップ

てら だ み な こ  
寺 田 美 奈 子

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 2 ~ 3 年 |
| 通 年     |

近年、企業の国際化、産業構造の変化、あるいは社会経済の急激な変化に伴い、企業の雇用環境が急速に変わりつつあり、同時に求められる人材についても大きく変化してきている。こうした状況の中で、産学連携による人材育成の一環として「学生の職業観・職業意識」を促進するためのインターンシップ制度が重要視されている。

通年科目である本講義は以下の内容で構成されている。

- ①事前学習（前期）－ビジネスマナー講座（社会人の基本的心得について、職場でのマナーについて）、パソコン講座、実習先業界・企業研究（実習先の業界・企業に関する研究、社会実習目標シートの作成）。
- ②社会実習（夏期休暇中）－各実習先でのプログラムの実施、実習ノートの作成。
- ③事後学習（後期）－実習レポートの作成・提出、一般学生を対象とした「社会実習報告発表会」を実施し、各業界・企業での実習を通して学んだこと、会得したこと等について情報交換を行う。

評 価 方 法：事前学習における取り組み姿勢・態度、社会実習先での実習ノート、事後学習での実習レポートの内容などを加味し、総合的に評価する。

テキスト名：随時、プリントを配付する。

注 意 事 項：実習先が市役所等の公共機関、および製造・商社・旅行・ホテル・運輸・サービス等の民間企業となるため、実習生は基本的知識の習得はもちろんのこと、本学の代表であるという自己意識を持ち、受け入れ先企業の負担を増やさぬよう自己責任の意識を持つこと等、特に留意すること。

### 3) 日本研究科目

|               |        |        |                  |           |
|---------------|--------|--------|------------------|-----------|
| 日 本 語 学 概 論 A | い<br>井 | う<br>上 | ま<br>さ<br>る<br>優 | 4 単 位     |
|               |        |        |                  | 1 ~ 4 年 期 |
|               |        |        |                  | 前 期       |

「日本語学」とは、「日本語」という個別言語を対象とした言語学研究である。本講義では、言語学の基本的な概念について解説しながら、「現代日本語とはどのような言語か」ということを、音声・文法・意味・語彙などの観点から概観する。また、ひとつの言語について理解するためには、他言語との比較対照が不可欠であるという観点から、方言や古典語、外国語との比較対照を随時おこなう。受講者は、常に自分の専攻言語、あるいは自分の母方言（母語）と比較しながら、「現代日本語とはどのような言語か」について、客観的な視点から考えてもらいたい。

評価方法：出席ならびに試験

テキスト名：伊坂淳一「ここからはじまる日本語学」（ひつじ書房，1996年）

注意事項：出席者が100人をこえた場合は、第1回の授業で抽選をおこなう。

|               |        |        |        |           |
|---------------|--------|--------|--------|-----------|
| 日 本 語 学 概 論 B | い<br>庵 | お<br>功 | お<br>雄 | 4 単 位     |
|               |        |        |        | 1 ~ 4 年 期 |
|               |        |        |        | 後 期       |

#### 日本語のしくみを考える

日本語の全体像を、音声・音韻、形態、統語、運用、方言など様々な角度から概観し、普段何気なく使っている日本語を客観的にとらえる力を養うことを目的とします。また、日本語学習者に対する日本語教育という観点から問題になりやすい部分についても適宜触れていく予定です。

評価方法：筆記試験、出席を総合して評価します。

テキスト名：(テキスト) 庵 功雄「新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—」スリーエーネットワーク

注意事項：それ以前の授業を前提として授業を進めるので、できるだけ毎回出席してください。

|             |                      |         |
|-------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 I A | た ば とし ゆき<br>田 端 敏 幸 | 4 単 位   |
|             |                      | 1 ~ 4 年 |
|             |                      | 前 期     |

**日英対照音韻論**

日本語のデータを中心に音韻論の基本的な考え方を学ぶ

音韻論は言語の音声現象を理論的に考える分野である。理論研究は個別言語を単独で考えるよりも他言語と比較・対照させた方がより有意義な一般化が得られることが多い。音節のモーラ、アクセント等の現象から話を始めてどのような理論化ができるかを検討していきたい。英語音声学など、音声学の知識がある学生の受講が望ましい。簡単な音声学の解説はするが、原則的に、音声学を履修していない学生はその知識の欠落部分を自分で補わなければならない。テキストは日英対照という視点から書かれているので英語音韻論の知識があると理解がもっと深まる。

評 価 方 法：成績の評価は提出物・定期試験を総合的に判断して判定する。

テキスト名：窪菌晴夫著：「音声学・音韻論」くろしお出版

|             |                      |         |
|-------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 I B | き がわ ゆき お<br>木 川 行 央 | 4 単 位   |
|             |                      | 1 ~ 4 年 |
|             |                      | 後 期     |

音声はどのように形作られるのか、また、どのような音を私達は用いているのか、そしてその音が言語の中でどのように位置づけられるのかについての概説をする。扱う内容は、発音の原理、日本語の音声と音韻、日本語における音と文字、日本語のアクセント、日本語における音の変遷等。

評 価 方 法：出席などの平常点及び筆記試験で評価する。

テキスト名：教科書は用いないが、適宜プリントを配布する。

|              |                     |           |
|--------------|---------------------|-----------|
| 日 本 語 学 II A | いわもとえのくの<br>岩 本 遠 億 | 4 単 位     |
|              |                     | 1 ~ 4 年 期 |
|              |                     | 前 期       |

日本語文法の基礎的項目について、初級日本語を教える際に知っておかなければならないことを押さえながら、主に教科書に沿って概説する。ただし、基本構文同士がどのように関連づけられているかを、教科書を離れ、生成文法の成果を取り入れながら講ずることも予定している。

評価方法：ほぼ毎週の小テスト、期末テスト

テキスト名：『基礎日本語文法（改定版）』益岡隆志・田窪行則著  
くろしお出版（予定、変更の可能性あり）

|              |                  |           |
|--------------|------------------|-----------|
| 日 本 語 学 II B | いのうえまさる<br>井 上 優 | 4 単 位     |
|              |                  | 1 ~ 4 年 期 |
|              |                  | 後 期       |

本講義では、現代日本語の文法的特徴について考える。とりあげる主なトピックは、「文の基本構造」「活用」「ヴォイス」「テンス・アスペクト」「モダリティ」「指示詞」などである。方言や古典語、外国語との比較対照も随時おこないながら、現代日本語の特徴を相対的な観点から考えたい。受講者には、「定説」にとらわれることなく、常に自分の専攻言語、あるいは自分の母方言（母語）と比較しながら、現代日本語の特徴について考えることを求める。

評価方法：出席ならびに試験

テキスト名：講義の際に指示する。

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 日 本 語 表 現 法 I | い だ の けん じ<br>出 野 憲 司 | 2 単 位   |
|               |                       | 1 ~ 4 年 |
|               |                       | 前 期     |

誰が読んでもわかり、誤解を生じることのない文章を「よい文章」とし、論文・レポートを書くための基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。事実と意見を明確に区別し、順序よく、明解・簡潔に記述することを繰り返し練習する。

評価方法：授業時のレポート及び定期試験により評価する。

テキスト名：教科書は特に使用しない。

参考図書は、随時指示をする。

注意事項：原則として、隔週の開講となる。詳細については、第1回目に指示する。人数が多い場合には、調整することもある。

|                |                       |         |
|----------------|-----------------------|---------|
| 日 本 語 表 現 法 II | い だ の けん じ<br>出 野 憲 司 | 2 単 位   |
|                |                       | 1 ~ 4 年 |
|                |                       | 後 期     |

1. 論文・レポートを作成する際の基本的知識を学ぶ。

- ・基本構成
- ・参考文献の収集方法
- ・注記の方法
- ・その他

2. 実用的文書の作成方法を学ぶ

- ・ビジネス文書の形式
- ・手紙文の書き方と作法
- ・その他

3. 自由作文

評価方法：授業時のレポート及び定期試験により評価する。

テキスト名：教科書は特に使用しない。

参考図書は、随時指示をする。

注意事項：原則として、隔週の開講となる。詳細については、第1回目に指示する。人数が多い場合には、調整することもある。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 語 学 特 論 A | き がわ ゆき お<br>木 川 行 央 | 4 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

千葉県・東京都を中心とした地域の方言について考察する。方言の研究にはさまざまな方法があり、この地域の方言もいろいろな角度から研究されている。例えば、記述的な研究（音声・アクセント、文法、語彙）、言語地理学的研究、社会言語学的研究などである。この授業では、まず日本語の中でこの地域の言葉がどのような位置にあるのかを見た上で、いくつかのトピックをとりあげ、実際にどのようなものであるかを確認していく。さらに、方言の研究方法についても考えていく。

評価方法：自分で調査等を行なった結果をレポートとして提出してもらおう。また出席など平常点も考慮する。

テキスト名：テキストは用いない。参考書は適宜指示する。

注意事項：「日本語学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 日 本 語 学 特 論 B | いわ もと え のく<br>岩 本 遠 億 | 4 単 位   |
|               |                       | 1 ~ 4 年 |
|               |                       | 後 期     |

日本語動詞の「行く」「来る」「走る」「入る」など空間的な動きを表す動詞は、それらに対応する英語の go, come, run, enter と同じ意味を持っているのであろうか。また文法的にもこれらの動詞は同じような振る舞いをするのであろうか。このコースでは空間移動や位置の概念の言語的表現が日本語と英語でどのように違うのかということから始め、概念的意味と文法の関係について日本語と英語を対照して概説する。

評価方法：テスト

テキスト名：ハンドアウト

|                 |              |         |
|-----------------|--------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I A | あおき<br>青木ひろみ | 4 単 位   |
|                 |              | 2 ~ 3 年 |
|                 |              | 前 期     |

日本語を外国語として教える際に必要な基礎知識を総合的に得ることを目標とする。日本語の教科書から初級段階の学習項目、主に文法を取り上げて整理したうえで、日本語学習者への提示の仕方を意味、語用の立場からも考えて行く。また教科書分析を行い、その構成について学ぶ。

評 価 方 法：出席、授業への参加態度、課題、定期試験

テキスト名：未定（初回の授業で提示）

注 意 事 項：履修条件に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|                 |                  |         |
|-----------------|------------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I B | よしかわまさのり<br>吉川正則 | 4 単 位   |
|                 |                  | 2 ~ 3 年 |
|                 |                  | 前 期     |

#### 初級学習項目の分析

初級段階の主な学習項目（文法）を取り上げ、分析し整理する。そして、それらがどのように学習者に提示されているかを、日本語教科書から学ぶ。さらに、これらの作業をとおして教科書分析を行い、日本語教科書の構成を知る。

評 価 方 法：定期試験・レポート・出席状況を総合し、評価する。

欠席・遅刻の多い受講生は評価の対象としない。

テキスト名：未定

参 考 文 献：『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』文化外国語専門学校 凡人社

『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク

この他の参考文献は授業中に紹介する。

注 意 事 項：この講座の目的は、日本語教育の専門家を養成することである。毎回かなりの量の専門的知識を学ぶ。概論ではない。自分にとって必要な講座かどうかよく考えて履修すること。履修条件に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照すること。

|                 |        |        |             |        |         |
|-----------------|--------|--------|-------------|--------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 I C | す<br>須 | が<br>賀 | あ<br>き<br>章 | お<br>夫 | 4 単 位   |
|                 |        |        |             |        | 2 ~ 3 年 |
|                 |        |        |             |        | 前 期     |

### 日本語教育における「初級文法」

日本語を第二言語として教える際に必要な知識を学ぶ。

「日本語教授法Ⅰ」では、日本語教育における、いわゆる「初級文法」を中心に文法事項を取り上げ、整理し、また、それらが日本語クラスでどのように取り扱われるのかを見ていく。

授業形態は、半講義形式（一方的に聞くのではなく、学生が自分の意見も述べる）及びグループ・ワークが中心となるが、後半には発表形式も取り入れる。

また、本科目は必ずしも「日本語教育実習」を履修することを条件にしていらないが、授業内容は「日本語教育実習」履修予定者を対象としたものとなる。

評価方法：評価は、試験、課題、平常点（授業参加等）を総合して判定する。

詳細は講義初日の「授業ガイダンス」で説明する。

テキスト名：教科書は特に指定せず、その都度適当な参考文献を指示する。

コース全般に関する参考文献は以下の通り。

富田隆行著「文法の基礎知識とその教え方」凡人社

富田隆行著「基本表現50とその教え方」凡人社

各種日本語教科書

注意事項：1. 「日本語学概論」、「日本語学Ⅰ」、「日本語学Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。

特に、上記3科目の内、1科目も履修していない場合は、原則として本科目の履修は認められない。履修の詳細に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

2. グループ・ワーク、発表等に必要な資料を作成するため、履修者はコピーカードを購入しておくこと。

|                 |                |         |
|-----------------|----------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 Ⅱ A | あおき<br>青 木 ひろみ | 4 単 位   |
|                 |                | 2 ~ 4 年 |
|                 |                | 後 期     |

「日本語教育実習」を履修する予定でいる学生を対象とする。コースデザイン、シラバス、教授法、教案作成、教室活動などについて学ぶ。グループごとにマイクロティーチング(microteaching)を行う予定。教育実習につながる指導を行うので、全授業に出席できる学生の参加を望む。

評 価 方 法: 出席、授業への参加態度、課題、マイクロティーチング、レポート

テキスト名: 未定 (初回の授業で提示)

注 意 事 項: 履修条件に関しては、「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|                 |                        |         |
|-----------------|------------------------|---------|
| 日 本 語 教 授 法 Ⅱ B | よし かわ まさ のり<br>吉 川 正 則 | 4 単 位   |
|                 |                        | 2 ~ 4 年 |
|                 |                        | 後 期     |

### 教育計画の作成とその実践

日本語教育の教育計画立案・実施にあたって必要となる実践的な知識を身につけることを目標とする。コース・デザインの過程をたどりながら、日本語学習者・シラバス・教授法・学習活動・教材・教案などについて学んでいく。さらに、初級の学習項目のいくつかを取り上げ、それをどのように教えるかを考える。

評 価 方 法: レポート・出席状況により評価する。

欠席・遅刻の多い受講生は評価の対象としない。

テキスト名: 『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』 田中望大修館書店

参 考 文 献: 『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』文化外国語専門学校 凡人社  
その他の参考書については授業中に紹介する。

注 意 事 項: この講座の内容は、コースデザインの方法と初級学習項目の指導に分かれる。初級学習項目の指導については、「日本語教授法Ⅰ」で学んだ知識が必要になる。受講を希望する者は、「日本語教授法Ⅰ」を復習しておくこと。履修条件に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照すること。

## コースデザインと外国語教授法

日本語を第二言語として教える際に必要な実践的知識を学ぶ。

「日本語教授法Ⅱ」では、これまでに提唱された主な外国語教授法とその歴史的展開を理解した上で、日本語教育への応用を図ることを目標とする。

講義内容は、1. コース・デザインに関する基礎知識、2. 日本語教育におけるシラバスの基礎知識、3. 主要な外国語教授法の紹介、の3点が中心になる。

授業形態は、講義形式、半講義形式（一方的に聞くのではなく、学生が自分の意見も述べる）及び、受講者数によってはグループ・ワークを織りまぜていく。

また、本科目は必ずしも「日本語教育実習」を履修することを条件にしていないが、授業内容は「日本語教育実習」履修予定者を対象としたものとなる。

評価方法：成績の評価は、授業中に行われる小テスト、課題、平常点（授業参加等）を総合して判定する。

テキスト名：教科書は特にないが、教材分析の際には以下の中から1点を授業中に指定する。

- ・ 山田あき子著『FUNDAMENTAL JAPANESE FOR EXPRESSION IDEAS』凡人社
- ・ 海外技術者研修協会編『日本語の基礎Ⅰ』スリーエーネットワーク
- ・ 国際交流基金日本語センター編『日本語初歩』凡人社
- ・ 水谷修・信子著『An Introduction to Modern Japanese』The Japan Times

また、コース全般に関する参考文献は以下の通り。

- ◎ 田中望著『日本語教育の法—コース・デザインの実際—』大修館書店
  - ◎ 名柄迪他著『外国語教授法の史的展開と日本語教育』アルク
  - ◎ 高見澤猛著『新しい外国語教授法と日本語教育』
- （「◎」は特に講義内容全般に関係する）

注意事項：「日本語学概論」、「日本語学Ⅰ」、「日本語学Ⅱ」、「日本語教授法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。特に、上記4科目の内、2科目以上履修していない場合は、原則として、本科目の履修は認められない。履修の詳細に関しては「日本語教員養成プログラム」の履修方法を参照のこと。

|             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 日本語教育実習 A・B | あお<br>青<br>よし<br>吉<br>ま<br>木<br>かわ<br>川<br>ひろみ<br>まさ<br>正<br>のり<br>則 | 1 単 位 |
|             |  | 3～4 年 |
|             |  | 通 年   |

日本語の授業運営について実践的に学ぶ。授業は週1コマであるが、毎週グループで教案を作成し、マイクロティーチング (microteaching) を行うので、課題の準備に十分な時間を必要とする。実習形態は、実習希望者数および外国人学習者の参加状況によって異なる。履修希望者が多い場合は4年生を優先する。授業の初めに、日本語および日本語教育に関する基礎知識を問う試験、面接を行う。

評価方法：出席、授業への参加態度、試験、課題、レポート

テキスト名：未定（初回の授業で提示）

注意事項：「日本語教員養成プログラム」に関する必修科目は、全て履修済みであること。

|         |  |       |
|---------|--|-------|
| 近代日本文学論 | まつ<br>松<br>い<br>井<br>けい<br>佳<br>こ<br>子 | 2 単 位 |
|         |  | 1～4 年 |
|         |  | 前 期   |

日本近代文学における「近代」と「反近代」のモメント

「西洋」との最初の出会い以来、日本人は世界認識をどのように変容させてきたのであろうか。日本社会の基層に本質的な変化が果たして起こったのであろうか。日本の「近代」の内実は、「近代」にとっての「他者性」をも視野に入れてつつ重層的に捉えられるべきものであろう。「近代」と「反近代」を二項対立図式としてではなく、切断されつつ重なりあうような相互関係・対話関係として捉え、近代的構制そのものの相対化を試みたい。明治時代、日本は啓蒙的理性主義（合理主義）、科学主義および進歩主義を唱道する西洋近代に目標を定め「近代化」を急いだが、「日本的伝統」へのノスタルジアを残存させながらの苦難の道であった。この授業で取り上げる以下の近代日本の小説家や歌人たちは各々の作品のなかで「近代」と「反近代」（「近代」にとっての他者的存在）を切断面そして連続面としてあわせもっている。これをナイーブな「西洋」対「日本」という二元論に回収させることなく、日本近代（反近代を内包する）の時空の内実を多角的視点から考察したい。

評価方法：レポートと学期末試験の総合評価とする。

テキスト名：授業で扱う作家は森鷗外、夏目漱石、永井荷風、幸田露伴、樋口一葉、与謝野晶子を予定しており、リーディング・リストは授業第一日目に配布する。

## 「戦争と文学：20世紀の記憶」

振り返ると20世紀は世界が戦争に満ち、そしてそれを自覚的に記憶／表象して次世代に伝えようとした時代であったと言えよう。戦争の記憶は決して戦争当事者だけの問題ではなく、戦争を知らない「わたしたち」がいま直面しているグローバル化やIT革命あるいは憲法改正問題といった社会問題にいかに対応すべきかを考える際にも、決して忘れてはならない歴史認識である。実際第二次世界大戦には何億の人々がこれに関わり、世界中の多くの人々がこの歴史的現象を観察したのである。

この授業では第二次世界大戦の集団的記憶が日本の文学作品のなかでどのように表象されているかを検証するとともに、これらの戦争文学が最近取り上げられている戦争論や戦争責任論について考察する際にどのような論点を提供してくれるかを考えてみたい。

歴史的背景を理解するためにドキュメンタリーやビデオを随時導入する予定である。

評価方法：レポートと学期末試験の総合評価とする。

テキスト名：井伏鱒二 「黒い雨」

大岡昇平 「野火」「レイテ戦記」

野間宏 「真空地帯」

高橋哲哉 「戦後責任論」

加藤典洋 「敗戦後論」「戦後的思考」

安彦一恵、魚住洋一、中岡成文編 「戦争責任と「われわれ」」

多木浩二 「戦争論」

西谷修 「戦争論」

|             |                        |         |
|-------------|------------------------|---------|
| 日 本 近 代 史 A | やま りょう けん じ<br>山 領 健 二 | 2 単 位   |
|             |                        | 1 ~ 4 年 |
|             |                        | 前 期     |

## 20世紀日本の社会と文化

今日の日本と日本人はどこから来てどこへ行こうとしているのかを考えるために、100年前の日本に立ち戻って、時代の転変を示すさまざまな事実を想起こす作業に受講者を誘って見ようというのが、教師の側のねらいである。受講する学生諸君はテキストからの刺激を受けながら近代日本の歴史についての基礎的な知識を身につけ、自分たち自身の未来への展望を開く手掛かりを発見してもらいたい。

評価方法：レポートによる。

テキスト名：松山巖『世紀末の一年・一九〇〇年ジャパン』（朝日選書 635）朝日新聞社、1999年

|             |                    |         |
|-------------|--------------------|---------|
| 日 本 近 代 史 B | エー チャン<br>AYE CHAN | 2 単 位   |
|             |                    | 1 ~ 4 年 |
|             |                    | 前 期     |

## 日本と東アジアの関係

日本の近代化は近隣のアジア諸国の人々のナショナリズム意識に大きな影響をあたえるとともに、各国の主権にとって脅威となった。中国と朝鮮半島の利権をめぐる帝国主義諸国が衝突と結託がくりかえすなかで、日本は19世紀末以来、この地域で独自の重要な役割を果たしてきた。講義では参考書と映像をまじえながら、日本と東アジアの政治関係の背景と異文化間の相互作用を重点的に見ていく。使用言語は英語と日本語。

評価方法：授業への参加、レポート提出、期末試験などで総合的に判断する。

テキスト名：授業中に適宜紹介する。

|           |         |          |         |        |         |
|-----------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 日 本 現 代 史 | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単 位   |
|           |         |          |         |        | 1 ~ 4 年 |
|           |         |          |         |        | 後 期     |

**敗戦と日本人**

20世紀日本の再出発の起点は、20世紀の半ば近く、2度目の世界戦争とその徹底的敗北による終結であった。その出発点における経験を新しい世紀に受け継ぐことを考えながら、政治、社会、思想、文化などさまざまな側面から照らし出し、確かめて行きたい。

聴講者一人一人が現代日本について一定の基礎知識と批判力とを身につけることを、授業の到達目標とする。

評価方法：レポートによる。

テキスト名：テキストは未定。授業の中で指示する。

注意事項：前期に講義する「日本近代史」の授業を聴講しておくことが望ましい。

|                     |         |         |        |         |
|---------------------|---------|---------|--------|---------|
| 日 本 大 衆 文 化 論 A ・ B | べっ<br>白 | ソン<br>盛 | ス<br>琇 | 2 単 位   |
|                     |         |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                     |         |         |        | 前 期     |

私たちは日常的に接している日本のテレビ、映画、雑誌、マンガ、新聞などのメディアを取り上げ、その歴史、社会的な仕組みと機能などを検討する。それらのメディアの意味を読み解き、それらの現状を把握した上で、私たちの生活や活動に役立つ新たな可能性を考えてみたい。学生たちはクラスでの講義やディスカッションを基盤にして、それぞれ自分が興味を持つテーマを決め、問題設定、分析、他分野との関連性の調査などを行なった上で、学期末にはレポートでまとめ、提出しなければならない。

評価方法：授業の出欠席、クラス討論への参加度、課題の評価

テキスト名：未定

|          |         |          |         |        |      |
|----------|---------|----------|---------|--------|------|
| 日本近代思想史Ⅰ | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単位 |
|          |         |          |         |        | 1～4年 |
|          |         |          |         |        | 前期   |

### 近代日本の思想集団

近代日本の思想について一応の理解を得るために必要な基本的史実を学ぶ。その方法として、今年度は幕末から敗戦に至る約一世紀間の歴史に重要な足跡を残した幾つかの思想集団を選び、それぞれについて近代日本の歴史的な文脈の中で講義する。概説の講義であるが、多様な思想家たちの思想と行動を集団の形成やコミュニケーションの過程、集団の歴史的役割等の観点から照射することにより、聴講者の歴史と思想に対する関心を触発したい。Ⅰの授業では幕末から明治末年を講義する予定である。

評価方法：授業中の小レポートと学期末のレポートとで評価する。

テキスト名：鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫別冊14）岩波書店。  
他に随時資料を配布する。

注意事項：後期の「日本近代思想史Ⅱ」を続けて履修することを勧める。

|          |         |          |         |        |      |
|----------|---------|----------|---------|--------|------|
| 日本近代思想史Ⅱ | やま<br>山 | りょう<br>領 | けん<br>健 | じ<br>二 | 2 単位 |
|          |         |          |         |        | 1～4年 |
|          |         |          |         |        | 後期   |

### 近代日本の思想集団

近代日本の思想について一応の理解を得るために必要な基本的史実を学ぶ。その方法として、今年度は幕末から敗戦に至る約一世紀間の歴史に重要な足跡を残した幾つかの思想集団を選び、それぞれについて近代日本の歴史的な文脈の中で講義する。概説の講義であるが、多様な思想家たちの思想と行動を集団の形成やコミュニケーションの過程、集団の歴史的役割等の観点から照射することにより、聴講者の歴史と思想に対する関心を触発したい。Ⅱの授業では大正から昭和期に当たる1910年代以降を講義する予定である。

評価方法：授業中の小レポートと学期末のレポートとで評価する。

テキスト名：鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫別冊14）岩波書店。  
他に随時資料を配布する。

注意事項：前期の「日本近代思想史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史ⅠA | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|           |                       | 1～4 年 期 |
|           |                       | 前 期     |

中世の倫理思想を学ぶ

平安時代末期から中世まで、日本人が生きることをどのように考えてきたかを学ぶ。時代順に重要な著述、思想家を取り上げ、日本の思想の基本的な用語、思想が成立していく過程を理解する。具体的には、仏教、神道、歴史思想などを取り扱う予定。ただし、従来の思想史の教科書によくあるような、仏教、神道といった領域別の学説史ではなく、時代の思想の特質、変化を考えていきたい。日本史にかんする知識は必須ではないが、基礎的な事項は知っている方が理解しやすい。

教科書は「日本倫理思想史ⅡA」と共通。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：『日本思想史入門』相良 亨 ペリかん社

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史ⅡA | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|           |                       | 1～4 年 期 |
|           |                       | 後 期     |

近世の倫理思想を学ぶ

近世全般、すなわち江戸幕府の成立から、幕末までの日本の倫理思想を学ぶ。この時期は、新しい思想的な用語を生み出すというよりも、従来の思想的な用語に新しい意味を見出し、それによって自らの思想を表現する傾向がある。したがって、思想家のもちいる表現の表面的な意味だけではなく、その思想家の体系の中での意味を理解し、思想の比較を行う場合には、用語の比較ではなく、その体系を比較することが重要である。そのような態度によって、時代の特徴、そこに生きる人々の思想を学ぶ。具体的には儒学、武士の思想、国学、町民の思想、幕末の思想などを扱う予定。

本年度前期の「日本倫理思想史ⅠA」の履修は、この「ⅡA」履修の必要な条件ではないが、内容的には継続。教科書も「日本倫理思想史ⅠA」と共通。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：『日本思想史入門』相良 亨 ペリかん社

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史 I B | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 後 期     |

テーマは恋愛である。恋愛は個人と個人の私的な結び付き（ようするに、わたしはあの人が好きだということ）に過ぎないようにも思える。しかし、恋愛は二人の人間を結び付けることで、社会の基本的な単位を作るのだから、社会にとってきわめて重要な問題である。恋愛は個人的であると同時に社会的な事柄であるという矛盾した性格を持っている。だから、どの社会においても恋愛をどのように実現するかは、その社会のあり方を決定する基本的な要素なのである。このような恋愛の在り方は社会や時代によって変化することになる。この授業では、日本の社会が恋愛をどのように捉えてきたかをまなび、現代日本における恋愛の特徴を理解できるようにしたい。

基本的には昨年までの授業と同一。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|              |                       |         |
|--------------|-----------------------|---------|
| 日本倫理思想史 II B | くぼ た こう めい<br>窪 田 高 明 | 2 単 位   |
|              |                       | 1 ~ 4 年 |
|              |                       | 後 期     |

テーマは武士である。日本人にとって武士が支配者であるということは、それほど不思議ではない。武士が鎌倉時代以降19世紀まで、日本の権力をにぎっていたからである。しかし、武士の基本的な性格は戦う者であって、政治を行う者ではない。とすれば、戦闘者である武士が政治の当事者であるのは奇妙なことではないだろうか。じつは、日本を取り囲む東アジアの他の地域では、政治を行う者は基本的に官僚で、戦闘者ではなかった。武士の行政のもとにあった日本の社会が、確実に発展していったことも考えてみれば皮肉な現象だといわねばならない。武士の文化は、日本人の行為、判断の基準としても機能していたし、武士が存在しなくなった近代においても強い影響力をもっていた。この授業では、江戸時代以降を中心に、日本における武士の思想の果たした意味について学ぶ。

基本的には昨年度と同一内容。

評価方法：学期末に試験を行う。資料、ノートの持ち込みは認めない。

テキスト名：特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

注意事項：授業の形態は講義。

ホームページを参照すること。http://www.kuis.ac.jp/~kubota/

|               |         |         |         |        |           |
|---------------|---------|---------|---------|--------|-----------|
| 日本倫理思想史 I C・D | うお<br>魚 | ずみ<br>住 | たか<br>孝 | し<br>至 | 2 単 位     |
|               |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 期 |
|               |         |         |         |        | 前 期       |

道の修行

日本の芸道・武道では、一つの道を極めれば、その技芸を越えて万事に通ずる境に達するとする思想がある。この思想を典型的に示していると思われる宮本武蔵の『五輪書』、自らの弓道体験を基にして比較文化論的考察をしているヘリゲルの『弓と禅』、そして芸道・武道にも大きな影響を及ぼした禅の修行論を見ながら、身心の変容の中でどのような境が開かれてくるのか、修行の具体的なあり様に即して考えてみたい。

評価方法：講義後の感想、中間の小レポート、期末試験による。

テキスト名：宮本武蔵著『五輪書』（岩波文庫）、オイゲン・ヘリゲル述『日本の弓術』（岩波文庫）

|              |         |         |         |        |           |
|--------------|---------|---------|---------|--------|-----------|
| 日本倫理思想史 II C | うお<br>魚 | ずみ<br>住 | たか<br>孝 | し<br>至 | 2 単 位     |
|              |         |         |         |        | 1 ~ 4 年 期 |
|              |         |         |         |        | 後 期       |

無常と美意識

常なるものはない。人生も無常である。この無常を自覚しながら、中世の隠者たちは、その中にかえってしみじみとした情趣と美を見出し、そこに一種の救いも見ていたようである。無常の自覚と独特の美を言い出した『徒然草』を考えた後、西行などの中世の隠者を慕い、庵と旅の生活の中で俳諧を深めて、その果てに「造化にしたがひて造化にかへれ」「高く悟りて俗へ帰れ」と言った松尾芭蕉の思想を論じたい。

評価方法：講義後の感想、中間の小レポート、期末試験

テキスト名：『徒然草』（旺文社文庫）  
『芭蕉紀行文集』（岩波文庫）  
『新訂おくのほそ道』（角川文庫）

|               |         |        |         |        |         |
|---------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I A | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|               |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|               |         |        |         |        | 前 期     |

### 日本の民俗宗教

日本には多くの宗教的慣習や行事が存在しているにもかかわらず、それらを「宗教」と意識することがなく、無宗教・無信仰者として自己をとらえている人が多い。これは、多くの日本人にとっての宗教が、自覚された信仰のレベルよりも習俗のおよび感覚的なレベルで機能していることを示している。

本講座では、仏教や神道といった宗教・宗派の枠を超えて成立している「生活態としての宗教」に注目し、その把握に努める。具体的には、冠婚葬祭、年中行事など日常生活に密着した宗教行事の資料やビデオを通じて、日本人の世界観や人生観への理解を深めることを目標とする。

評 価 方 法：平常の授業への出席・試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本の民俗宗教』宮家準、講談社学術文庫

|                |         |        |         |        |         |
|----------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II A | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|                |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                |         |        |         |        | 後 期     |

### 日本の民俗宗教

日本の宗教 I の継続として、「生活態としての宗教」の具体的な現象を通じて、日本人の世界観や人生観への理解を深めることを目標とする。まじない、神話や昔話、巡礼などに焦点をあてる。ビデオも多用する。

評 価 方 法：平常の授業への出席・試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本の民俗宗教』宮家準、講談社学術文庫

|               |         |        |         |        |         |
|---------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I B | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|               |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|               |         |        |         |        | 前 期     |

日本宗教史<中世まで>

宗教は日本文化を構成しているきわめて重要な領域であり、日本文化をその最深部において性格づけているといっても過言ではない。しかしその全体像を客観的にとらえて通観することはたやすいことではない。日本の宗教の立体的な全体像にすこしでも近づくために、本講では、日本の主要な宗教、宗教史上の重要な事件と運動、代表的な信仰および宗教観念を通じて、宗教がどのような機能を果たしてきたのか考察することを目的とする。日本宗教の基本的な諸問題を取り扱うが、とくに日本宗教が歴史的に培ってきた国際的なつながりを重視する。時代的には古代から始まり、仏教の伝来、神仏習合、中世までを通観する。

評価方法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本仏教史』末木文美士、新潮文庫

|                |         |        |         |        |         |
|----------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II B | うす<br>薄 | い<br>井 | あつ<br>篤 | こ<br>子 | 2 単 位   |
|                |         |        |         |        | 1 ~ 4 年 |
|                |         |        |         |        | 後 期     |

日本の宗教史<近世から近代へ>

I Bの継続として、近世から近代までの宗教運動を通観する。特に国家と宗教、民衆的宗教運動の展開を中心に考察する。

評価方法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『日本仏教史』末木文美士、新潮文庫

注意事項：Iを履修しておくほうが望ましい。

|               |                      |         |
|---------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 I C | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|               |                      | 1 ~ 4 年 |
|               |                      | 前 期     |

### 現代日本と宗教

本講座では、近代から現代日本の宗教運動や事件を通観し、日本の近代化にともなっておこった社会変動と宗教がどのように連動したかを検討する。そしてそれを踏まえて現代日本において宗教とはどのように機能しているのか考察する。

特に近代日本の宗教においては避けられない国家と宗教運動の関係に焦点をあてる。

評 価 方 法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『現代日本の宗教社会学』井上順孝編、世界思想社

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 日 本 の 宗 教 II C | うす い あつ こ<br>薄 井 篤 子 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

### 現代日本と宗教

本講座ではICの継続として、日本社会における宗教の現在を検証してゆく。宗教をとらえることはいま非常に難しくなっており、現代人一般は日常生活で「信仰」の姿にふれること自体が少ない。しかし現代でも宗教はさまざまな形で突出している。むしろ拡散し多元化しているとも言われている。我々の社会のさまざまな問題とどのように宗教現象が連関しているか、考察してゆく。生命倫理、葬儀、死後の世界、性倫理、政治との関係などが焦点となる。

評 価 方 法：成績の評価は、出席及び試験またはレポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：『現代日本の宗教社会学』井上順孝編、世界思想社

注 意 事 項：Iを履修しておくほうが望ましい。

|           |                       |         |
|-----------|-----------------------|---------|
| 日 本 芸 道 史 | うお ずみ たか し<br>魚 住 孝 至 | 2 単 位   |
|           |                       | 1 ~ 4 年 |
|           |                       | 後 期     |

芸道思想の成立

日本の芸道の展開について、簡単に見た上で、本格的な芸道論を展開した世阿弥の能芸論を問題にする。次いで、水墨画や枯山水の庭等の禅文化を見た上で、茶の湯の成立と展開を見てみたい。随時ビデオ・図録を利用する。

評価方法：講義後の感想、中間のレポート、期末試験

テキスト名：世阿弥『風姿花伝』（岩波文庫）

|                   |                       |         |
|-------------------|-----------------------|---------|
| 日 本 芸 能 史 I A ・ B | いけ だ こう いち<br>池 田 弘 一 | 2 単 位   |
|                   |                       | 1 ~ 4 年 |
|                   |                       | 前 期     |

日本の伝統芸能の流れを近世を中心にとどり、浄瑠璃・歌舞伎の特質を理解する。

- 1 「仮名手本忠臣蔵」の前半を教材の中心に置いて浄瑠璃を読み解く。
- 2 ビデオ・テープなどによって忠臣蔵の舞台を鑑賞する。
- 3 テキスト本文の書写と観劇報告の提出を求める。
- 4 伝統芸能における基礎的な知識と鑑賞力を身につける。

※ 聞いていれば済むという講座ではなく、指定した芸能の見学などが義務づけられる。欠席・遅刻についても厳しく、欠席5回を数えたもの、課題作品の提出のないものは不可とする。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。1. 出席状況。2. 書写ノート。3. 期末に提出の観劇報告。

テキスト名：『校註 仮名手本忠臣蔵』土田 衛ほか、笠間書院  
随時プリントを配布する。

|           |                       |       |
|-----------|-----------------------|-------|
| 日本芸能史ⅡA・B | いけ だ こう いち<br>池 田 弘 一 | 2 単 位 |
|           |                       | 1～4 年 |
|           |                       | 後 期   |

「仮名手本忠臣蔵」後半を主たる教材として、浄瑠璃・歌舞伎の特質をとらえ、それが説明できるようにする。

- 1 テキスト本文を書写する。
  - 2 実際の舞台・演奏を見聞するという体験を求める。
  - 3 ビデオ・テープによって忠臣蔵の各場面を鑑賞し、それぞれでとらえた特質について話し合う。
  - 4 「仮名手本忠臣蔵」研究の結果を作品としてまとめ、提出する。
- ※ 欠席・遅刻についても厳しく、欠席が5回を数えたもの、課題作品の提出のないものは不可とする。

評価方法：以下の各要素を総合して評価する。1. 出席状況。2. 書写ノート。3. 期末に提出の「忠臣蔵」研究論文。

テキスト名：「校註 仮名手本忠臣蔵」土田 衛ほか、笠間書院  
随時プリントを配布する。

注意事項：「日本芸能史Ⅰ」を履修し、単位を得ていることを、履修の基本条件とする。

|         |                       |       |
|---------|-----------------------|-------|
| 日本文化論ⅠA | よし だ みつ ひろ<br>吉 田 光 宏 | 2 単 位 |
|         |                       | 1～4 年 |
|         |                       | 前 期   |

#### 日本人のセルフ：文化人類学的検証

日本人のアイデンティティ形成を文化人類学的視点から検証する。これまでの日本人のアイデンティティの研究は、ベネディクトのもの以降、変遷してきている。どのような研究がなされてきたかを概観し、それらを批判的に考察を加えていく。以下のようなパースペクティブを紹介する。

- 1) 通文化的比較；2) オリエンタリズムの視点による日本人像；3) 文化相対主義的アプローチ；
- 4) 普遍主義的アプローチ；5) 心理学的アプローチ；6) 社会構造の分析；7) 解釈主義的アプローチ

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はしない。英文による論文からの抜粋が中心。随時配布する。

参考図書例：Hendry, Joy. 1995. *Understanding Japanese Society*.

Lebra, Takie Sugiyama. 1976. *Japaneses Patterns of Behavior*.

Rosenberger, R. Nancy. Ed. 1992. *Japanese Sense of Self*.

## 日本人のセルフとグローバリゼーション

地球規模で広がる欧米化や近代化を、日本人はどのように吸収し、どのような文化を形成あるいは創造しているかを探る。近年の具体的な文化人類学的研究から、グローバル化と日本人のアイデンティティ形成の関係を探る。いかに個々の日本人がこれまでの文化を「操作」し、新しい要素を混交させ、それぞれのアイデンティティを創造しているかを論ずる。

評価方法：筆記試験

テキスト名：テキストの指定はしない。英文による論文からの抜粋が中心。随時配付する。

参考図書例：Kondo, Dorinne. 1997. *About Face : Performing Race in Fashion and Theater.*

Tobin, J. Joseph. ed. 1992. *Re-Made in Japan : Everyday Life and Consumer Taste in a Changing Society.*

Ogasawara, Yuko. 1998. *Office Ladies and Salaried Men : Power, Gender and Work in Japanese Companies.*

Moeran, Brian and Lise Skov. eds. 1995. *Women, Media and Consumption in Japan.*

注意事項：クラスでは英語を中心として使用。留学生も加わるのでディスカッション形式のものにしていく。場合によっては人数制限を行う。

|             |         |         |         |        |       |
|-------------|---------|---------|---------|--------|-------|
| 日本文化論 I B・C | ふく<br>福 | はら<br>原 | とし<br>敏 | お<br>男 | 2 単位  |
|             |         |         |         |        | 1～4 年 |
|             |         |         |         |        | 前 期   |

### 民間信仰

日本の伝統的な庶民生活文化（民俗文化）に焦点をすえて考え、日本文化についての理解を深める講義である。

日本文化の特色を理解することは、外国語を学ぶ者にとって、また国際社会において活躍しようとする者にとって必要不可欠な教養である。日本で生れ育ったことの共通点・最大公約数が、言語と食文化に関わる知識だけということではあまりに寂しい。

民俗文化とは、伝承・習俗・慣習・慣わしなど、学校教育という近代の教育システムの中で教えられるものではなく、先人から学び受け継いできた、日本人としての生活知識全般をいう。その内容は、通過儀礼（七五三や婚礼など）・年中行事（正月や七夕など）・昔話・民家・郷土食など広範囲にわたる。

日本の民俗文化の一端を知ることは、自らの身体に蓄積した歴史をふりかえることにもなる。

この講義では祭・祭礼文化を学ぶことによって日本の民俗文化を理解する。

評価方法：筆記試験。出欠席を特に重視する。

テキスト名：多岐にわたるので各講義時に指示する。

宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫 1000円）

注意事項：第1回目にそれぞれ受講者を50人に絞る。

|              |         |         |         |        |       |
|--------------|---------|---------|---------|--------|-------|
| 日本文化論 II B・C | ふく<br>福 | はら<br>原 | とし<br>敏 | お<br>男 | 2 単位  |
|              |         |         |         |        | 1～4 年 |
|              |         |         |         |        | 後 期   |

### 民間信仰

日本の伝統的な庶民生活文化（民俗文化）に焦点をすえて考え、日本文化についての理解を深める講義である。

日本文化の特色を理解することは、外国語を学ぶ者にとって、また国際社会において活躍しようとする者にとって必要不可欠な教養である。日本で生れ育ったことの共通点・最大公約数が、言語と食文化に関わる知識だけということではあまりに寂しい。

民俗文化とは、伝承・習俗・慣習・慣わしなど、学校教育という近代の教育システムの中で教えられるものではなく、先人から学び受け継いできた、日本人としての生活知識全般をいう。その内容は、通過儀礼（七五三や婚礼など）・年中行事（正月や七夕など）・昔話・民家・郷土食など広範囲にわたる。

日本の民俗文化の一端を知ることは、自らの身体に蓄積した歴史をふりかえることにもなる。

評価方法：レポート。出欠席を特に重視する。

テキスト名：宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫 1000円）

注意事項：第1回目にそれぞれ受講者を50人に絞る

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 美 術 史 I | よし むら とし こ<br>吉 村 稔 子 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 浄土教の絵画

浄土信仰にもとづく絵画について概説します。日本の古代、中世の浄土図、来迎図、六道絵の代表的作例をとりあげ、思想的背景および同主題の中国絵画に言及しつつ、その思想や図様の伝播と変遷の様相について理解を深めることを目標とします。スライド、ビデオによる作品鑑賞をまじえつつ講義をすすめます。

評 価 方 法：レポート（400字詰原稿用紙10枚程度）。出欠席を考慮します。

テキスト名：宮 次男『日本の美術 271 六道絵』至文堂  
 河原由雄『日本の美術 272 浄土図』至文堂  
 浜田 隆『日本の美術 273 来迎図』至文堂

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 政 治 論 I | あき もと とみ お<br>秋 本 富 雄 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 日本の政治権力構造

20世紀から21世紀の変わり目のなかで、国内外の政治は様々な変動を経験しつつあります。しかし、私達の眼には、そのダイナミクスが見えにくいことも確かです。この講義では、政治学の基礎的知識および政治学的視座の習得を視野に入れながら、現代日本の民主政治の仕組みとその現実を、他の先進民主諸国との比較の視座から考察していきます。とりあげるテーマは、首相、内閣、議会（国会）、政党、選挙、世論とマス・メディアなどです。

評 価 方 法：原則として定期試験による評価。授業への貢献度についても積極的に評価します。

テキスト名：開講時に指示します。

注 意 事 項：折に触れ、時事的トピックについても、取り上げていく予定なので、授業の項目・進度に若干変更の出る可能性もあります。

|             |                       |       |
|-------------|-----------------------|-------|
| 日 本 政 治 論 Ⅱ | あき もと とみ お<br>秋 本 富 雄 | 2 単 位 |
|             |                       | 1～4 年 |
|             |                       | 後 期   |

## 21 世紀日本のガバナンス

グローバル化、少子高齢化、地球温暖化など、私たちが今日直面している様々な政治課題は、従来の政治制度、あるいは政策決定や政策執行のシステムを越えた、多様な政治枠組みによる取り組みを求めています。なかでも、「統治と自治の統合の上に成り立つ概念」(緒方貞子氏)である「ガバナンス」という考え方は、福祉、環境、ジェンダー、教育などの政策分野において、不可欠のものとされています。この講義では、まず、日本の政策形成過程の現状を、諸外国との比較の視座から考察したのち、個々の政策分野における意思決定の現状と問題点を明らかにすることによって、21世紀日本のガバナンス像を、展望していきます。

評価方法：原則として定期試験による評価。授業への貢献度についても積極的に評価します。

テキスト名：開講時に指示します。

注意事項：本クラスは、「日本政治論Ⅰ」から継続した内容となるので、前期から続けて履修することを期待します。

|               |                      |       |
|---------------|----------------------|-------|
| 日 本 経 済 論 I A | うち だ しげ お<br>内 田 茂 男 | 2 単 位 |
|               |                      | 1～4 年 |
|               |                      | 前 期   |

日本経済は戦後、急速な発展を遂げた。敗戦後の混乱は乏しい資源を重点分野に投入するいわゆる傾斜生産方式で復興への基礎固めを行った。その後、農村部から大都市への大規模な人口移動が起こり、これを背景に高度成長が実現した。70年代初めにはアメリカに次ぐ世界第二の経済大国になった。しかし、そのころから、成長率が落ち始めた。80年代後半には、バブルを伴ったブームがあったが、現在はその後遺症に悩んでいる。以上、戦後日本経済が歩んだ足跡をたどりながら、経済構造の変化を、簡単な経済理論を利用して理解できるようにする。

評価方法：成績の評価は、原則として期末テストで行う。

テキスト名：教科書は、「ゼミナール日本経済入門2001年度版」(日本経済新聞社)

|                |                      |         |
|----------------|----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 II A | うち だ しげ お<br>内 田 茂 男 | 2 単 位   |
|                |                      | 1 ~ 4 年 |
|                |                      | 後 期     |

今世紀最後の十年間の日本経済の成績は、あまりに悪い。半分以上の期間がゼロ成長ないしマイナス成長である。もちろん主要先進国では最悪である。今後についても楽観論は少ない。一体、日本経済に何が起こっているのか。どう対応すればよいのか。財政、税制、社会補償制度、経済運営システムのありかたなどにふれながら日本経済の成長力を考える。日本経済の現状と見方についての理解力をつけることを目標とする。新聞記事を多用したい。

評価方法：成績は期末テストで評価する。

テキスト名：教科書は「ゼミナール日本経済入門2001年度版」(日本経済新聞社)

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 I B | こ すげ のぶ ひこ<br>小 菅 伸 彦 | 2 単 位   |
|               |                       | 1 ~ 4 年 |
|               |                       | 前 期     |

戦後の日本経済のあゆみ

戦後の復興から「日本の奇跡」と言われた高度成長を経て米国と並ぶ経済大国となった日本は、現在、21世紀を目前にして多くの困難に直面している。これらの問題の中にはバブル崩壊後の金融不安、低成長と就職難、高齢化の急速な進行と年金問題など私たちの現在、将来の生活に直接かかわるものも多い。

本講義では、戦後の成長と景気循環を時代を追いながら概観し、日本経済の現状と課題を長期的、国際的な視野で位置付けるとともに、景気循環や中長期的な経済の動きについての基本的な見方を学ぶ。

戦後復興と経済民主化/成長への助走/重化学工業化と高度成長/経済成長のひずみ/経済の国際化と黒字不均衡/石油ショックとインフレーション/省資源・省エネルギー化とエレクトロニクス化/円高とバブル/バブル崩壊と金融・財政の破綻/経済のグローバル化と情報化/21世紀への課題

評価方法：筆記試験(小論文、講義への感想文等)

テキスト名：高橋乗宣編「経済白書で読む軌跡の50年」日本実業出版社 1995年

注意事項：日本経済論IIとは独立した講義なので単独受講でも良いし、I、IIの順で受講して、II、Iの順で受講しても良い。

|                |                       |         |
|----------------|-----------------------|---------|
| 日 本 経 済 論 II B | こ すげ のぶ ひこ<br>小 菅 伸 彦 | 2 単 位   |
|                |                       | 1 ~ 4 年 |
|                |                       | 後 期     |

### 現代の日本経済(各論)

日本経済論Ⅰでは総体としてみた日本経済の変遷を時代を追って学び、日本経済の現状と21世紀に向けての課題を整理するが、本講義では財政、金融、物価、貿易、国際収支と為替レート、産業構造と国土開発、公害と環境、就業構造、高齢化と年金・福祉、情報化、経済協力などの分野毎に掘り下げ、理解を深める。

また、新聞の経済記事や白書類等を適宜紹介、解説し、現実の経済問題への理解を深める。

評価方法：出席率、筆記試験（小論文、講義に対する感想等）

テキスト名：使用しない、適宜資料を配布。

注意事項：日本経済論Ⅰとは独立した講義なので単独受講でも良いし、Ⅰ、Ⅱの順で受講しても良いし、Ⅱ、Ⅰの順で受講しても良い。

|             |                       |         |
|-------------|-----------------------|---------|
| 日 本 外 交 史 I | つる た かめ よし<br>鶴 田 亀 良 | 2 単 位   |
|             |                       | 1 ~ 4 年 |
|             |                       | 前 期     |

### 明治開国から第二次世界大戦に至る間の日本外交

明治維新に至るまでの日本の対外関係史を概観した後、明治以降の日本の外交、とくに昭和期の第二次世界大戦に至る間の日本外交を中心に取上げる。各時期における日本の政府首脳や外交当局者の考え方、対応、さらに軍部の動向、世論など国内的な背景、一方、当時の欧米諸国の日本への対応、アジアへの進出状況など日本を取巻く外的な要因を含め、複雑にからみ合う内外事情を総合的にとらえて分析、考察する。

現在の外交にも結びつくような外交史における具体的なテーマを取上げ、討議等を含めて「考える力」「ものを見る目」を養い、国際的な分野での活躍も目指す学生にも役立つような活気ある授業にしたい。

評価方法：定期試験、途中一回の短いレポート提出、出席状況で評価。

テキスト名：未定（授業開始時に指示）

参考文献：「日本外交の軌跡」細谷千博著、NHKにブックス、日本放送協会刊  
「三訂『日本外交史概説』」池井優著、慶応通信刊

注意事項：日本外交史Ⅰから始め、その後Ⅱを履修するのが望ましい。

|             |                             |       |
|-------------|-----------------------------|-------|
| 日 本 外 交 史 Ⅱ | つる 鶴<br>た 田<br>かめ 亀<br>よし 良 | 2 単 位 |
|             |                             | 1～4年  |
|             |                             | 後 期   |

### 戦後復興から現在に至る間の日本外交

第二次世界大戦後、日本はサンフランシスコ講和条約調印を経て、新憲法の下で「平和外交」を推進してきている。まず、アジア周辺諸国との「戦後処理」、ソ連（ロシア）、韓国、中国等との関係正常化、その間に新日米安保条約調印も行なわれた。さらに、日本の経済的発展に伴い主要先進国サミット等を通じてのグローバルな課題、国連改革の具体化、またASEAN、APECなどアジア太平洋地域協力への貢献等も求められている。

とくに、21世紀を迎えて、「アジア太平洋地域の安定と繁栄の確保」「平和と繁栄の世紀の構築」への寄与など日本は数多くの外交課題をかかえている。学生と共に日本外交のあり方をさぐり考察する。

評 価 方 法：定期試験、途中一回の短いレポート提出、出席状況で評価。

テキスト名：「戦後日本外交史」五百旗頭真編、有斐閣刊

参 考 文 献：「日本外交の軌跡」細谷千博著、NHK ブックス、日本放送協会刊

注 意 事 項：日本外交史Ⅰから始め、その後Ⅱを履修するのが望ましい。

|             |                             |       |
|-------------|-----------------------------|-------|
| 日 本 社 会 論 Ⅰ | か 加<br>とう 藤<br>じょう 譲<br>じ 治 | 2 単 位 |
|             |                             | 1～4年  |
|             |                             | 前 期   |

### 日本社会の近代化はいかにすすめられたか

今日の日本社会が前近代、近代、ポスト近代の三重構造から成り立っているとの認識をもとに、ここでは日本の近代化が「後発国」ゆえの問題性をはらみつつも経済的成功をもたらした経過を、「近代化＝社会変動」論の観点から講義を行なう。また最近のアジア諸国の目覚ましい発展にもふれながら「開発独裁」論の検討もしてみたい。日本社会の明治維新から戦前期までを扱う。

評 価 方 法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：「日本の近代化と社会変動」富永健一、講談社学術文庫

注 意 事 項：「日本社会論Ⅱ」の受講を望む。

# 日 本 社 会 論 II

かとうじょうじ  
加藤譲治

|         |
|---------|
| 2 単 位   |
| 1 ~ 4 年 |
| 後 期     |

## これからの日本を考える

戦後日本の半世紀を顧みつつ、21世紀日本社会の展望を試みたい。現代の日本は、経済大国として国際社会において高い評価をえているのだが、一方で深刻な不況に直面して社会に閉塞状況も出てきている。今日までの日本は戦後の国際環境に適合的な行動がとれていたといえるが、現在はシステム疲労をきたしているとみることができる。学生諸君が21世紀日本のビジョンを描くための材料を提供したい。

評 価 方 法：授業中に課す小論文および試験の成績で評価を行なう。

テキスト名：「日本の近代化と社会変動」富永健一、講談社学術文庫

注 意 事 項：受講条件とはしないが、「日本社会論 I」の受講を望む。

平成 13 年度休講科目

| 授業科目の区分                    | 授 業 科 目 名   | 備 考 |
|----------------------------|---|-----|
| 国際コミュニケーション学科<br>英 語 科 目   | Business English I<br>Business English II<br>Language Lab |     |
| 研 究 科 目<br>( 日 本 研 究 科 目 ) | 日本美術史 II  |     |

平成 13 年度集中講義科目

|                                     | 授業科目名                   | 担当教員  | 集中講義期間                                 |
|-------------------------------------|-------------------------|-------|--|
| 研究科目<br>(ヒューマン・<br>コミュニケーション<br>科目) | メディア・コミュニケーション論<br>II D | 御堂岡 潔 | 9/11 (火) ~13 (木) の 1 ~ 8 限<br>(合計12コマ) |
| 研究科目<br>(国際研究<br>科目)                | 国際法 I                   | 高村ゆかり | 9/11 (火) ~14 (金) の 3 ~ 8 限<br>(合計12コマ) |

平成13年度 講義概要

平成13年 4 月 1 日発行

編集・発行 神田外語大学 教務課

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

電話番号 043-273-1320



**神田外語大学**  
千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1